

『健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携
推進事業（地域における障害者のスポーツ・レクリエーション
活動に関する調査研究）』

報 告 書

平成 26 年 3 月

笹川スポーツ財団

目次

I. 調査概要	1
1 事業の目的	1
2 調査の内容	1
3 事業の実施体制	2
(1) 実施体制	2
(2) 調査検討会議の開催	3
4 要旨	4
II. 調査報告	7
(1) <u>障害児・者のスポーツライフに関する調査</u>	9
主な調査結果	11
1) 調査概要	12
2) 調査結果	14
(2) <u>特別支援学校のスポーツ環境に関する調査</u>	43
主な調査結果	45
1) 調査概要	46
2) 調査結果（質問紙調査）	48
3) 調査結果（事例調査）	78
(3) <u>障害者入所施設のスポーツ環境に関する調査</u>	91
主な調査結果	93
1) 調査概要	94
2) 調査結果（質問紙調査）	96
3) 調査結果（事例調査）	114
(4) <u>スポーツ推進委員による障害者のスポーツ参加支援に関する調査</u>	127
1) 調査概要	129
2) 調査結果（質問紙調査）	131
3) 調査結果（事例調査）	136
(5) <u>障害者スポーツ指導者組織に関する調査</u>	139
1) 調査概要	141
2) 調査結果	142
(6) <u>民間スポーツクラブにおける障害者の参加状況に関する調査</u>	155
1) 調査概要	157
2) 調査結果	158
III. まとめと考察	163
IV. 参考文献・付録	171

注)「しょうがい」の用語は、「障がい」「障碍」などがあるが、本報告書では、法律上の「障害」を使用した。

Ⅰ. 調査概要

1. 事業の目的

スポーツ基本法(2011年8月施行)において、「スポーツは、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない」と障害者スポーツに関する基本理念が掲げられた。本事業では、地域における障害者のスポーツ・レクリエーション環境の実態について把握し、健常者と障害者が一体となったスポーツ・レクリエーション活動を地域住民がさらに享受するための方策や目標設定の検討に活用することを目的とする。

2. 調査の内容

(1) 障害児・者のスポーツライフに関する調査

全国の障害者および障害者を家族にもつ方々を対象に、障害の状況に関する基本情報、スポーツ・レクリエーション活動に実施状況、実施種目、頻度、指導者の有無、主な目的、取り組みについての考え、実施する相手、実施に障壁となっているもの、今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション活動などの実態を調査

(2) 特別支援学校のスポーツ環境に関する調査

全国1,211の特別支援学校を対象に、学校に関する基本情報、体育の授業以外でのスポーツ活動、運動部活動やクラブ活動の状況、スポーツ施設や指導者などの実態を調査

(3) 障害者入所施設のスポーツ環境に関する調査

全国2,454の障害者入所施設を対象に、入所施設に関する基本情報、スポーツ・レクリエーション活動の提供状況、外部の大会等への参加状況、実施種目、活動場所、指導者、運営上の工夫や課題など、障害者入所施設におけるスポーツ・レクリエーション活動に関する実態を調査

(4) スポーツ推進委員による障害者のスポーツ参加支援に関する調査

47の都道府県、20の政令指定都市のスポーツ推進委員協議会の代表者を対象に、地域のスポーツ現場で、障害者を受け入れるための取り組みや課題などの実態を調査

(5) 障害者スポーツ指導者組織に関する調査

都道府県障害者スポーツ指導者協議会を対象に、組織概要、指導者の状況、大会・教室等の開催および指導者派遣、人的資源、スポーツ組織との連携、障害者団体との連携などについて、先進的な取り組みを把握

(6) 民間スポーツクラブにおける障害者の参加状況に関する調査

民間スポーツクラブの統括組織、および民間スポーツクラブを対象に、障害者の受入状況、受入に関するこれまでの取り組み、障害者向けプログラムの実施状況などについて、先進的な取り組みを把握

3. 事業の実施体制

障害者スポーツに関わる関係団体や有識者等で構成される調査検討会議委員会を設置。全4回の調査検討会議を開催した。

(1) 実施体制

1) 委員リスト

委員長	藤田 紀昭	同志社大学大学院 スポーツ健康科学研究科 教授
委員	内田 若希	九州大学大学院 人間環境学研究院 講師
	大日方 邦子	電通パブリックリレーションズ シニア・コンサルタント
	加藤木 紳克	神奈川県教育委員会 教育局生涯学習部スポーツ課 競技スポーツグループ グループリーダー
	小久保 信幸	日本レクリエーション協会レクリエーション支援者育成チーム マネージャー
	澤江 幸則	筑波大学 体育系 准教授
	高山 浩久	東京都障害者スポーツ協会 地域スポーツ振興室 室長
	中島 秀夫	滋賀県立障害者自立支援協議会 事務局長
	水原 由明	日本障害者スポーツ協会 スポーツ推進部長
	渡邊 一利	笹川スポーツ財団 専務理事

2) 事務局

澁谷 茂樹	笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所	主任研究員
工藤 保子	〃	副主任研究員
小淵 和也	〃	研究員
山田 大輔	〃	研究員
松井 くるみ	〃	研究員

(2) 調査検討会議の開催

1) 第1回調査検討会議

委員:8名

期日:2013年8月7日(水)17:00~18:45

会場:笹川スポーツ財団会議室

2) 第2回調査検討会議

委員:5名

期日:2013年10月2日(水)16:00~18:00

会場:笹川スポーツ財団会議室

3) 第3回調査検討会議

委員:8名

期日:2013年12月26日(木)16:00~18:05

会場:笹川スポーツ財団会議室

4) 第4回調査検討会議

委員:7名

期日:2014年3月12日(水)10:00~11:30

会場:笹川スポーツ財団会議室

4. 要旨

(1) 障害児・者のスポーツライフに関する調査

障害児・者の44.4%が過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施

7歳以上の障害児・者の44.4%が、過去1年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを実施していた。障害種別では、聴覚障害、知的障害、発達障害では、50%以上が年1回以上スポーツ・レクリエーションを実施しているのに対し、肢体不自由では30%程度であった。【図表 1-16、1-17】

過去1年間に実施したスポーツ・レクリエーションの上位種目は、7～19歳が散歩、体操、水泳、成人が散歩、ウォーキング、体操

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人が行った種目は、障害種別、障害の程度に関係なく、7～19歳では「散歩(ぶらぶら歩き)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「水泳」、成人では「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」が多い。特徴的な結果として、7～19歳では「水泳」の実施率が高かった。【図表 1-23、1-24】

スポーツ・レクリエーションの実施における障壁は体力、金銭的な余裕、時間

スポーツ・レクリエーションの実施において障壁になっているものは、「体力がない」「金銭的な余裕がない」「時間がない」であった。また、現在のスポーツ・レクリエーションの取り組みに対して、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」との回答が48.7%を占めており、障害児・者本人の興味・関心を高めることが大きな課題である。一方で、交通手段の問題、どこで、どんなスポーツ・レクリエーションができるのかといった情報の問題も挙げられた。【図表 1-36、1-39】

(2) 特別支援学校のスポーツ環境に関する調査

運動部活動・クラブ活動の実施は6割で、聴覚障害、視覚障害で特に盛ん

運動部活動やクラブ活動などの通年の活動を実施している学校は全体の6割だった。障害種別にみると、聴覚障害の単置校では9割、視覚障害の単置校では8割の学校で運動部活動・クラブ活動が行われていた。【図表 2-10、2-11】

視覚障害はフロアバレー、グランドソフト、STT、肢体不自由はボッチャ、ハンドサッカーを実施

小学部から高等部を通じて、全体的に実施率が高かった運動部活動・クラブ活動の実施種目は、「陸上競技」と「サッカー(ブラインドサッカーを含む)」であった。視覚障害では、「フロアバレーボール」「グランドソフトボール」「サウンドテーブルテニス(STT)」、肢体不自由では、「ボッチャ」「ハンドサッカー」の実施率が高く、障害種別による違いがみられた。また、運動部活動・クラブ活動の指導者、サポートスタッフについては、すべての学校で教職員が務めていたほか、外部指導者がいる学校もあった【図表 2-19、2-20、2-23、2-29】

体育館、グラウンドは5割以上が一般に開放し、卒業生中心の障害者スポーツ団体も利用

特別支援学校の体育施設の保有率は、「体育館」「グラウンド」が8割以上、「プール(屋内、屋外)」が約7割であった。体育施設の開放率は、「体育館」「グラウンド」が5割以上、「プール(屋外)」が3割以上となっている。学校開放施設を利用したスポーツ活動は、「地域の健常者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が5割で最も多いほか、「卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」も3割の学校で行われていた。【図表 2-43、2-44、2-45】

(3) 障害者入所施設のスポーツ環境に関する調査

入所施設の 8 割がスポーツ・レクリエーション大会に参加

外部のスポーツ・レクリエーション大会に参加している施設は 8 割であった。参加している主な大会は、「全国障害者スポーツ大会やその都道府県予選などの障害者スポーツ競技大会」や「市区町村等が主催する障害のある方のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会」である。知的障害者の施設は、身体障害者の施設よりもスポーツ・レクリエーション大会に参加する割合が高かった。また、7 割の施設において、スポーツ・レクリエーションに関する行事を実施していた。【図表 3-10、3-12、3-13】

活動場所は施設内の多目的室・ホールや施設周辺の歩道や公園など

スポーツ・レクリエーションの活動場所は、施設内の「多目的室・ホール等(屋内)」や「施設周辺の歩道や公園等」が多い。身体障害者の施設では、「多目的室・ホール」「訓練室・作業室」など、施設内での活動が中心だが、知的障害者の施設では、「施設周辺の歩道や公園等」、施設内の「庭や空き地等(屋外)」など、屋外や施設の外での活動も多くなっている。【図表 3-21、3-22】

スポーツ担当者の半数が専門の資格をもち、障害者スポーツ協会公認指導員は 1 割強

スポーツ・レクリエーション活動の担当者の半数は、スポーツの指導等に関する何らかの専門の資格をもっていた。スポーツに関する資格で最も取得者が多かったのは、日本障害者スポーツ協会公認指導員(13.8%)で、日本体育協会公認スポーツ指導者は 1%で少なかった。【図表 3-24】

(4) スポーツ推進委員による障害者のスポーツ参加支援に関する調査

受け入れの課題は、障害者スポーツに関する知識、技術、交流経験の不足

障害者を受け入れるための研修会を開催しているスポーツ推進委員協議会は、都道府県、政令市ともに 4 分の 1 であった。スポーツ推進委員が活動する現場に障害者を受け入れていくための課題としては、「障害者・障害者スポーツに関する知識・技術がない」が都道府県、政令市ともに 3 分の 1、「障害者スポーツに関わる機会・交流経験がない」が政令市の 4 割にのぼった。【図表 4-1、4-4】

(5) 障害者スポーツ指導者組織に関する調査

障害者スポーツ指導者の活動の充実に取り組む指導者協議会

日本障害者スポーツ協会公認指導者が登録する都道府県や政令指定都市の障害者スポーツ指導者協議会では、指導者の確保、有効活用、資質の向上などに取り組んでいる。福島県の指導者協議会では、競技別の活動を支援するための競技部と、広い県域を効果的にカバーするための地域支部を設置するなどして、指導者の活動の充実を図っている。

(6) 民間スポーツクラブにおける障害者の参加状況に関する調査

日本スイミングクラブ協会加盟クラブの 2 割弱で、障害者向けプログラムを提供

個々の民間スポーツクラブにおける障害者の受け入れ状況は、障害の程度や障害種別の多様性などから、フィットネスクラブ、スイミングクラブ、テニスクラブそれぞれの統轄団体でも充分には把握できていない。障害者の受け入れが進んでいるスイミングでは、日本スイミングクラブ協会加盟クラブの約 2 割で障害者向けのプログラムを提供している。

II. 調查報告

(1) 障害児・者のスポーツライフに関する調査

主な調査結果

障害児・者の44.4%が過去1年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを実施

7歳以上の障害児・者の44.4%が、過去1年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを実施していた。障害種別では、聴覚障害、知的障害、発達障害では、50%以上が年1回以上スポーツ・レクリエーションを実施しているのに対し、肢体不自由では30%程度であった。【図表 1-16、1-17】

過去1年間に実施したスポーツ・レクリエーションの上位種目は、7～19歳が散歩、体操、水泳、成人が散歩、ウォーキング、体操

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人が行った種目は、障害種別、障害の程度に関係なく、7～19歳では「散歩(ぶらぶら歩き)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「水泳」、成人では「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」が多い。特徴的な結果として、7～19歳では「水泳」の実施率が高かった。【図表 1-23、1-24】

スポーツ・レクリエーションを行う主な目的は、健康の維持・増進のため

スポーツ・レクリエーションは、主に「健康の維持・増進のため」「気分転換・ストレス解消のため」「楽しむため」を目的に実施されている。肢体不自由では「リハビリテーションの一環として」実施している人が多く、障害種別に起因する特徴的な結果といえる。【図表 1-29、1-30】

半数の障害者が障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施

指導者や介助者をのぞく障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施していた人は51.5%であった。障害種別にみると、聴覚障害、視覚障害、発達障害では障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施している割合が高く、肢体不自由(車椅子必要)、知的障害では、実施している割合が低く、4割以下であった。障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施している人の多くは、友人、スポーツクラブやサークルなどの仲間、家族と実施している傾向がみられる。【図表 1-33、1-34、1-35】

スポーツ・レクリエーションの実施における障壁は体力、金銭的な余裕、時間

スポーツ・レクリエーションの実施において障壁になっているものは、「体力がない」「金銭的な余裕がない」「時間がない」であった。また、現在のスポーツ・レクリエーションの取り組みに対して、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」との回答が48.7%を占めており、障害児・者本人の興味・関心を高めることが大きな課題である。一方で、交通手段の問題、どこでどんなスポーツ・レクリエーションができるのかといった情報の問題も挙げられた。【図表 1-36、1-39】

今後行いたいスポーツ・レクリエーション種目は、ウォーキング、散歩、筋力トレーニング

現在のスポーツ・レクリエーションの取り組み状況に対して満足している障害児・者は14.6%に留まり、スポーツ・レクリエーションをもっと行いたい、行ってみたいとの意識を持つ人は36.7%であった。今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(現在行っている種目を含む)は、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」であり、軽い運動の実施に対するニーズが高い。【図表 1-36、1-42】

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、全国の障害児・者のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況やニーズを把握し、今後の障害児・者へのスポーツ環境の提供に関する基礎情報を得ることを目的とする。

1. 2 調査方法および回収結果

(1) 調査方法

無記名式のインターネット調査

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・障害児・者の基本情報(障害の種類、障害者手帳の保有状況など)
- ・障害福祉サービスの利用状況
- ・外出を伴う余暇活動の有無
- ・スポーツ・レクリエーションの実施状況(実施種目、頻度、目的など)
- ・スポーツ・レクリエーションの実施における障壁
- ・今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション

(3) 調査対象および回収結果

インターネット調査会社が保有するリサーチモニターのうち、以下に該当する者を調査対象とした。

- ・障害児・者本人あるいは同居する家族で障害児・者がいる
- ・障害児がいる場合、7歳以上である

該当する回答者は4,268人であった。その属性は以下のとおりである(図表1-1、図表1-2、図表1-3)。兄弟、姉妹、第2子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ、回答を依頼した。その結果、回答者本人および同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の標本の総数は5,381人であった。

図表 1-1 回答者の居住地

(N=4,268)

	%
北海道地方	6.1
東北地方	5.8
関東地方	33.9
中部地方	19.4
近畿地方	19.0
中国地方	5.6
四国地方	2.6
九州・沖縄地方	7.6

図表 1-2 回答者の年齢

(N=4,268)

年齢	%
19 歳以下	0.4
20～29 歳	6.7
30～39 歳	18.7
40～49 歳	32.9
50～64 歳	35.1
65～74 歳	5.2
75 歳以上	1.0

図表 1-3 回答者の性別

(N=4,268)

性別	%
男性	57.2
女性	42.8

(4) 調査期間

2013 年 11 月 1 日～2013 年 11 月 15 日

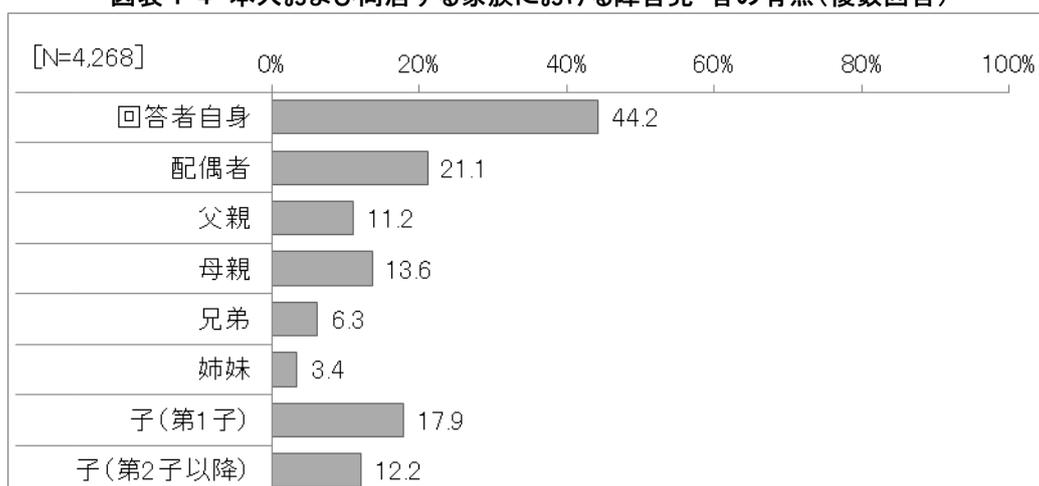
2. 調査結果

2.1 障害児・者の属性

(1) 本人および同居する家族における障害児・者の有無

回答者本人および同居する家族に障害児・者がいるかどうかについて、「回答者自身」(44.2%)が最も多く、次いで「配偶者」(21.1%)、「子(第1子)」(17.9%)であった(図表 1-4)。

図表 1-4 本人および同居する家族における障害児・者の有無(複数回答)

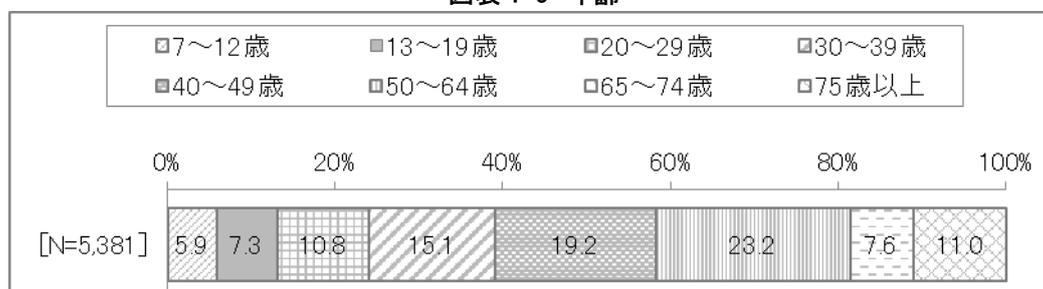


以後の報告では、障害児・者本人および同居する障害児・者 5,381 人に関する回答結果を示す。

(2) 年齢

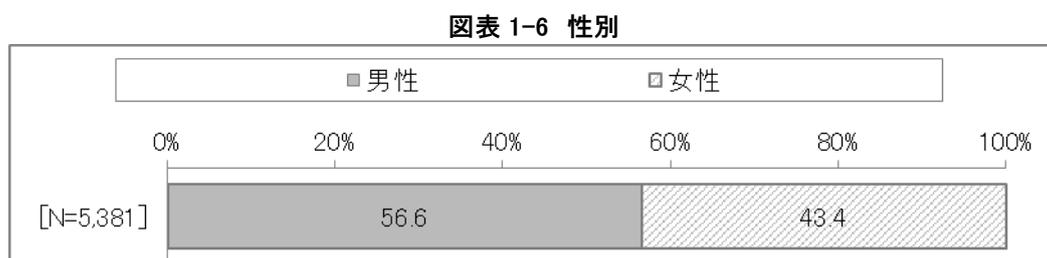
年齢は、7～19歳が13.2%、20～64歳が68.3%、65歳以上が18.6%であった(図表 1-5)。総務省の人口統計(2012年10月1日)では、7～19歳が11.9%、20～64歳が58.1%、65歳以上が24.1%であった。本調査の障害児・者の年齢分布は、国民全体と比べると生産年齢の割合がやや高いことがわかる。

図表 1-5 年齢



(3) 性別

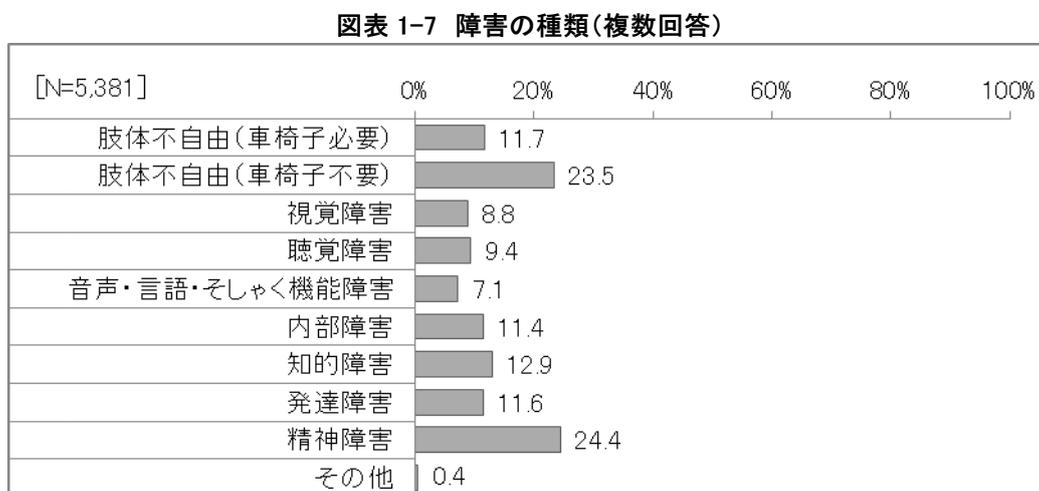
性別は、男性が 56.6%、女性が 43.4%であり、男性の方が多い結果であった(図表 1-6)。



(4) 障害の種類

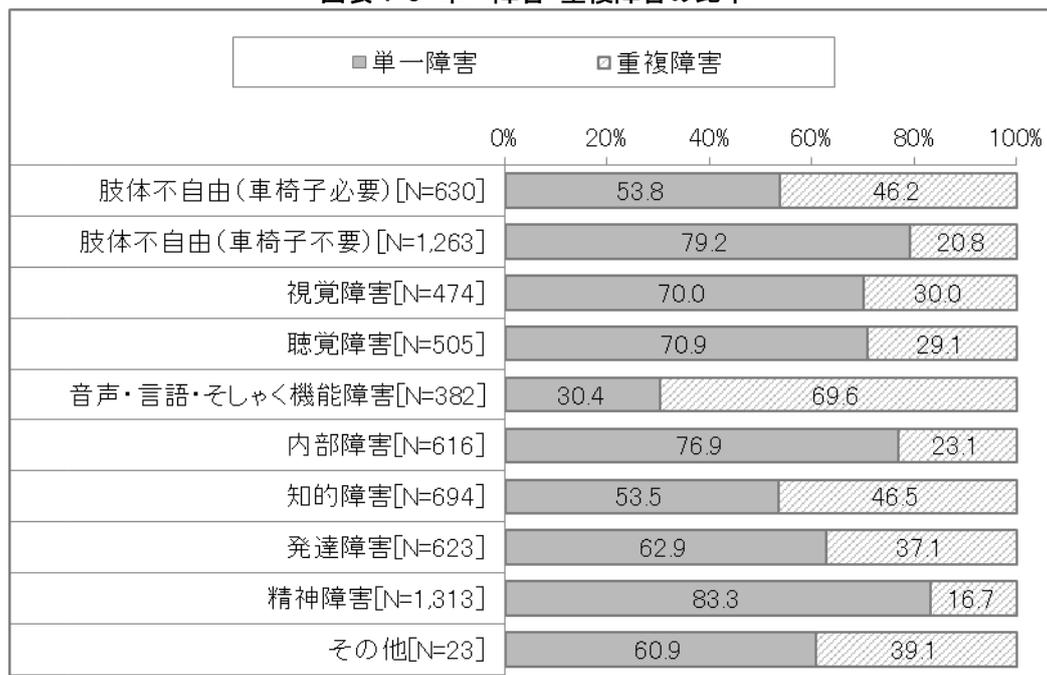
障害の種類は、「肢体不自由」が最も多く、日常生活で車椅子を必要とする人(11.7%)と必要としない人(23.5%)を合わせると、回答者の 3 分の 1 を占めた。以下、「精神障害」(24.4%)、「知的障害」(12.9%)、「発達障害」(11.6%)の順となっている(図表 1-7)。内閣府「障害者白書」(2013)によると、わが国の身体障害児・者は約 366 万 3,000 人(総人口の 2.9%)、知的障害児・者は約 54 万 7,000 人(総人口の 0.4%)、精神障害児・者は約 320 万 1,000 人(総人口の 2.5%)となっている。本調査では、身体障害、知的障害の出現率が高くなっている。

重複障害の割合を障害種別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」が 69.6%と最も高く、「知的障害」「肢体不自由(車椅子必要)」でも、他の障害種に比べて重複障害の割合が高い傾向がみられた(図表 1-8)。



注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

図表 1-8 単一障害・重複障害の比率



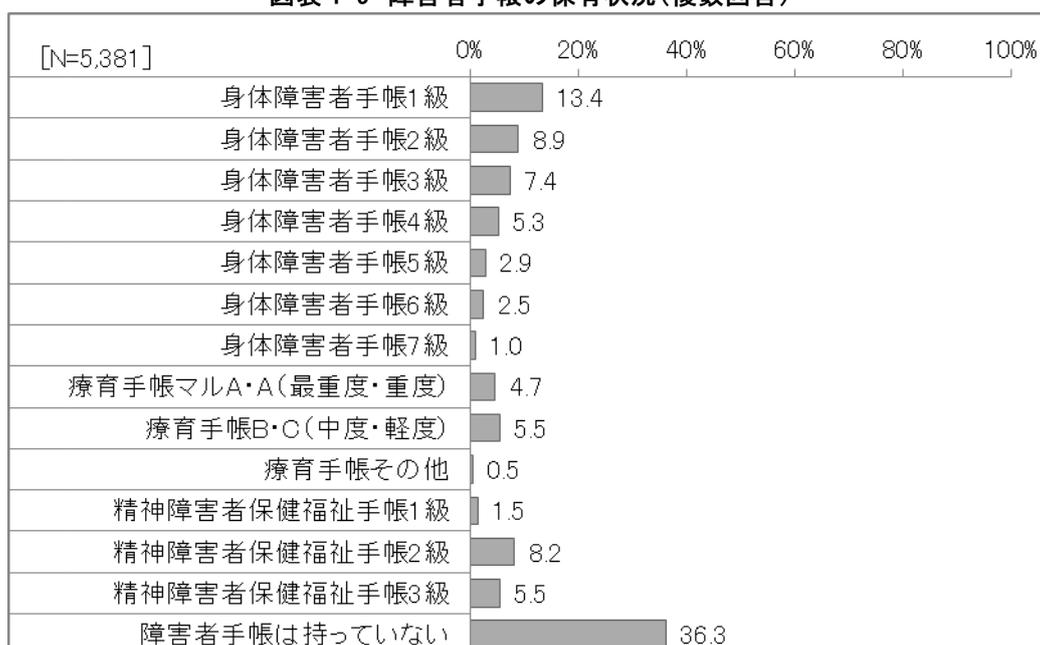
注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

(5) 障害者手帳の保有状況について

障害者手帳の保有状況について、「障害者手帳は持っていない」が36.3%であった。障害者手帳を持っている人の中では、「身体障害者手帳1級」(13.4%)が最も多く、次いで、「身体障害者手帳2級」(8.9%)、「精神障害者保健福祉手帳2級」(8.2%)であった(図表 1-9)。身体障害者手帳では、等級が高いほど保有率が高い傾向がみられた。

障害種別の障害者手帳の保有状況からは、重複して手帳を保持していることが分かる(図表 1-10)。これは、図表 1-8 の重複障害の多さを裏付ける結果でもある。

図表 1-9 障害者手帳の保有状況(複数回答)



図表 1-10 障害者手帳の保有状況(障害種別)

(%)

	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=630	N=1,263	N=474	N=505	N=694	N=623	N=1,313	N=992
身体障害者手帳 1 級	41.1	8.6	17.1	10.5	13.8	3.7	2.7	38.8
身体障害者手帳 2 級	18.3	13.3	14.6	15.0	6.1	2.4	3.5	9.1
身体障害者手帳 3 級	7.0	13.3	7.8	8.1	2.9	2.6	3.1	12.1
身体障害者手帳 4 級	5.7	10.8	4.9	5.1	2.2	0.5	1.0	8.6
身体障害者手帳 5 級	3.7	7.0	5.3	3.8	1.0	0.8	0.6	2.1
身体障害者手帳 6 級	0.8	3.7	2.7	10.5	1.2	0.5	1.2	1.2
身体障害者手帳 7 級	0.8	1.4	1.7	3.8	0.6	0.6	0.7	0.5
療育手帳 マル A・A(最重度・重度)	7.3	2.1	2.5	2.2	31.4	10.6	1.2	3.6
療育手帳 B・C(中度・軽度)	0.8	1.1	0.8	2.4	30.7	20.2	2.1	2.2
療育手帳 その他	0.2	0.1	1.1	0.2	1.3	1.3	0.5	0.2
精神障害者保健福祉手帳 1 級	1.9	0.7	0.4	1.0	3.0	0.6	4.3	0.4
精神障害者保健福祉手帳 2 級	1.3	0.7	1.1	1.6	2.9	7.2	30.2	1.4
精神障害者保健福祉手帳 3 級	0.8	0.8	0.8	1.0	1.3	6.3	19.0	0.8
障害者手帳は持っていない	20.2	40.1	44.7	40.2	15.0	47.4	34.1	24.7

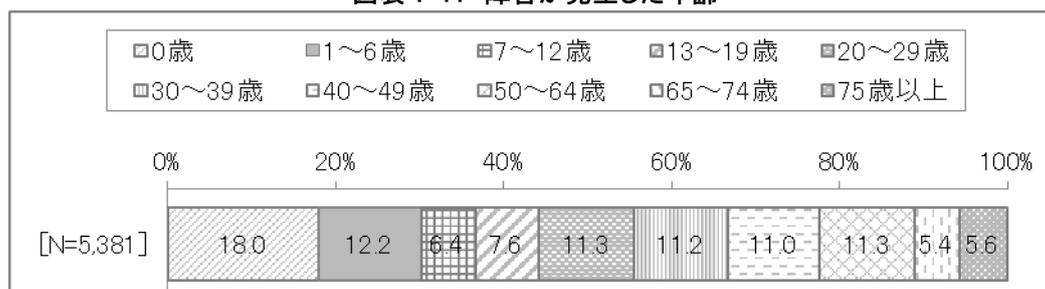
注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) 重複障害の場合は、該当の障害種全てに標本として含む。

(6) 障害が発生した年齢

障害が発生した年齢は、「0 歳」が 18.0%、「1～6 歳」が 12.2%で、出生前・出生時や小学校就学前が全体の 3 割を占めている(図表 1-11)。また、40 歳以降に障害が発生した人も 3 割を超えており、障害が発生した年齢は多様であることがわかる。

図表 1-11 障害が発生した年齢



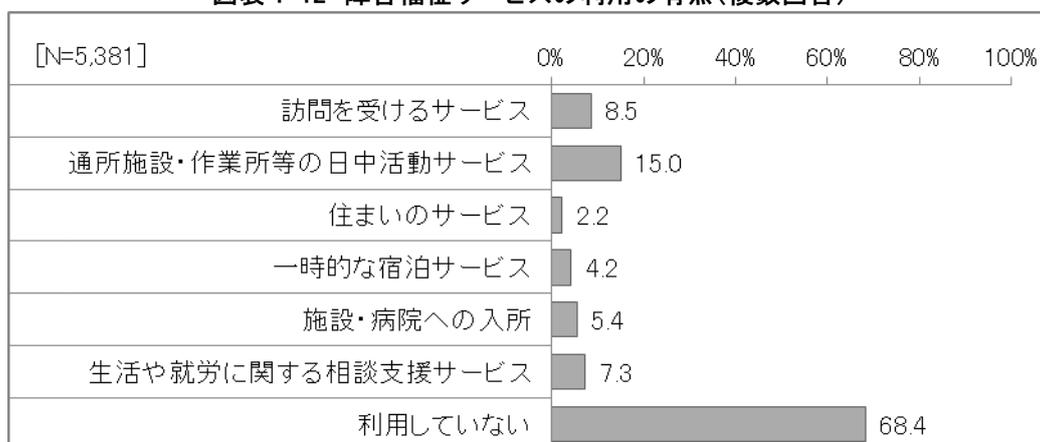
注) 複数の障害がある場合は、最初に障害が発生した年齢を回答。

(7) 障害福祉サービスの利用の有無

障害福祉サービスの利用について、「利用していない」が 68.4%であり、利用している人の中では、「通所施設・作業所等の日中活動サービス」(15.0%)が最も多く、次いで「訪問を受けるサービス」(8.5%)、「生活や就労に関する相談支援サービス」(7.3%)であった(図表 1-12)。厚生労働省「障害福祉サービス等の利用状況について」(2013)によると、2013年11月の1ヵ月間で約69万人が障害福祉サービスを利用しており、なかでも生活介護、居宅介護、就労継続支援の利用者が多く、本調査の結果と同様の傾向を示している。

障害福祉サービスの利用状況を障害種別に見ると、「肢体不自由(車椅子必要)」と「知的障害」で利用者が多く、およそ7割の障害児・者が何らかの福祉サービスを利用している(図表 1-13)。

図表 1-12 障害福祉サービスの利用の有無(複数回答)



図表 1-13 障害福祉サービスの利用の有無(障害種別)

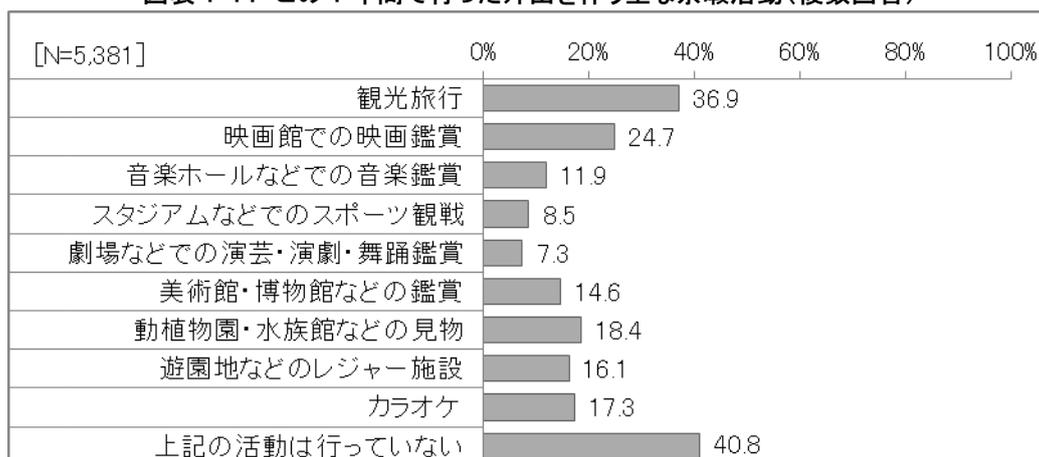
	(%)							
	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=630	N=1,263	N=474	N=505	N=694	N=623	N=1,313	N=992
訪問を受けるサービス	31.7	6.9	13.9	6.1	14.7	6.3	5.9	10.8
通所施設・作業所等の日中活動サービス	31.7	11.6	11.6	9.7	43.5	22.8	11.7	15.3
住まいのサービス	3.2	2.7	2.7	3.2	3.0	1.0	1.7	2.2
一時的な宿泊サービス	14.9	2.2	3.6	3.6	14.7	4.5	3.0	5.4
施設・病院への入所	21.0	2.1	5.3	5.3	11.5	4.7	5.9	7.5
生活や就労に関する相談支援サービス	5.1	4.4	5.1	4.6	15.3	15.7	10.8	4.9
利用していない	27.3	77.0	69.6	75.4	30.7	60.5	70.7	67.2

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

(8) この1年間の外出を伴う余暇活動の実施の有無

障害児・者がこの1年間に行った外出を伴う余暇活動の状況を、「観光旅行」「スタジアムなどでのスポーツ観戦」「美術館・博物館などの鑑賞」などの9項目について尋ねたところ、およそ6割の障害児・者が何らかの余暇活動を実施していた。実施者が最も多かったのは「観光旅行」(36.9%)で、次いで「映画館での映画鑑賞」(24.7%)、「動植物園・水族館などの見物」(18.4%)であった(図表 1-14)。障害種別では、知的障害、発達障害、聴覚障害は、他の障害種と比較して、外出を伴う余暇活動を実施している割合が高い傾向にあった(図表 1-15)。

図表 1-14 この1年間で行った外出を伴う主な余暇活動(複数回答)



図表 1-15 この1年間で行った外出を伴う余暇活動(障害種別)

	(%)							
	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=630	N=1,263	N=474	N=505	N=694	N=623	N=1,313	N=992
観光旅行	22.4	35.3	31.4	43.6	44.7	50.9	31.0	37.9
映画館での映画鑑賞	12.1	23.7	18.1	25.5	22.8	34.7	25.7	24.5
音楽ホールなどでの音楽鑑賞	7.0	13.7	11.0	10.9	12.0	14.4	11.7	11.1
スタジアムなどでのスポーツ観戦	4.9	8.6	7.2	9.5	9.8	12.2	6.9	8.0
劇場などでの演芸・演劇・舞踊鑑賞	4.0	8.2	4.9	7.7	7.8	9.8	6.3	7.7
美術館・博物館などの鑑賞	7.9	13.8	11.4	17.8	12.7	18.8	13.4	17.1
動植物園・水族館などの見物	12.7	13.3	9.9	22.0	36.5	33.2	14.5	19.5
遊園地などのレジャー施設	8.9	11.2	10.5	20.2	31.7	33.5	10.4	14.4
カラオケ	9.5	15.4	12.9	11.9	25.2	25.2	20.3	13.5
上記の活動は行っていない	57.5	45.1	49.8	35.2	30.5	24.9	42.4	42.4

注) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

2. 2 スポーツ・レクリエーションの実施

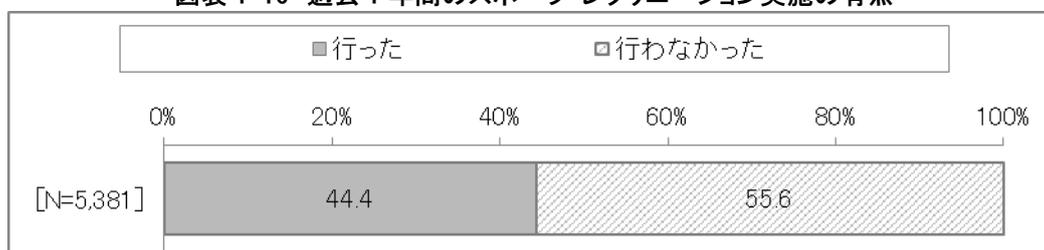
(1) 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無

過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施状況について尋ねたところ、「行った」が44.4%であった(図表 1-16)。笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)によると、成人の年1回以上の運動・スポーツ実施者の割合は74.4%となっており、障害児・者のスポーツ実施率は一般に比べて低いことがわかる。

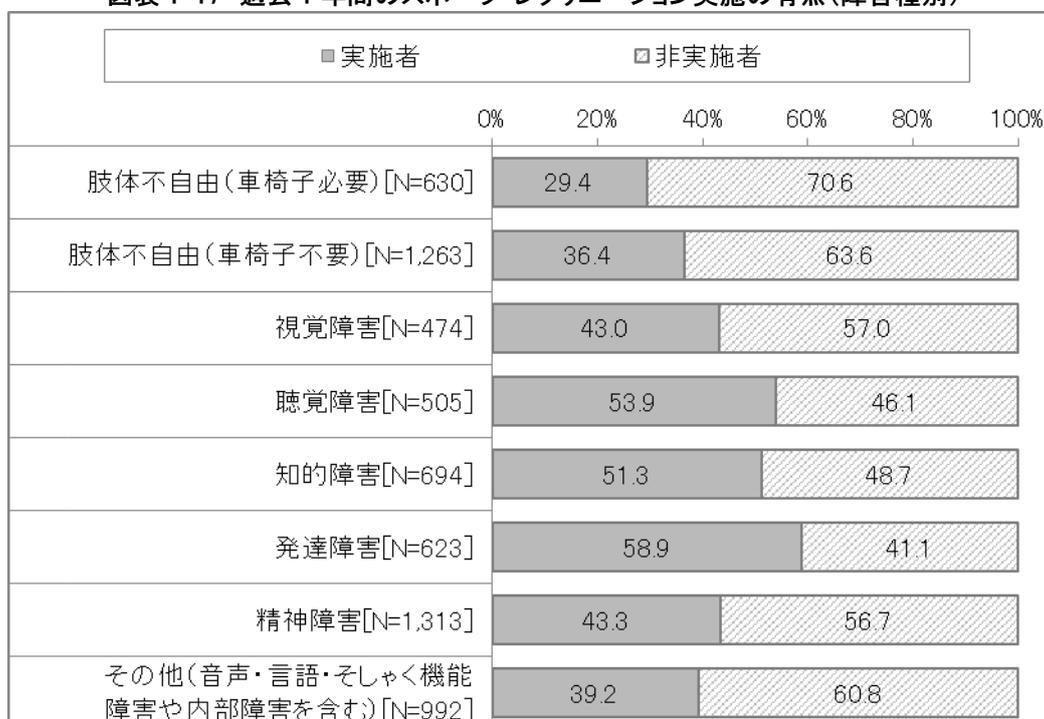
障害種別にみると、「肢体不自由(車椅子必要)」(29.4%)、「肢体不自由(車椅子不要)」(36.4%)の実施率が低い一方で、「発達障害」(58.9%)、「聴覚障害」(53.9%)、「知的障害」(51.3%)の実施率が高かった(図表 1-17)。

障害の程度別にみると、軽度の障害児・者では、スポーツ・レクリエーションの実施者が非実施者を上回るが、重度障害児・者や手帳を持っていない障害児・者では非実施者の割合が高かった(図表 1-18)。

図表 1-16 過去1年間のスポーツ・レクリエーション実施の有無

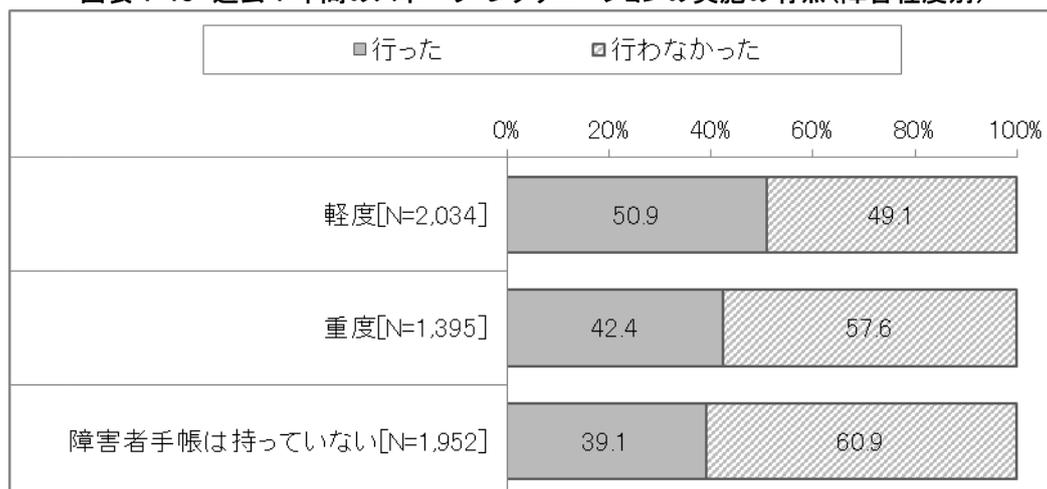


図表 1-17 過去1年間のスポーツ・レクリエーション実施の有無(障害種別)



注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

図表 1-18 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害程度別)

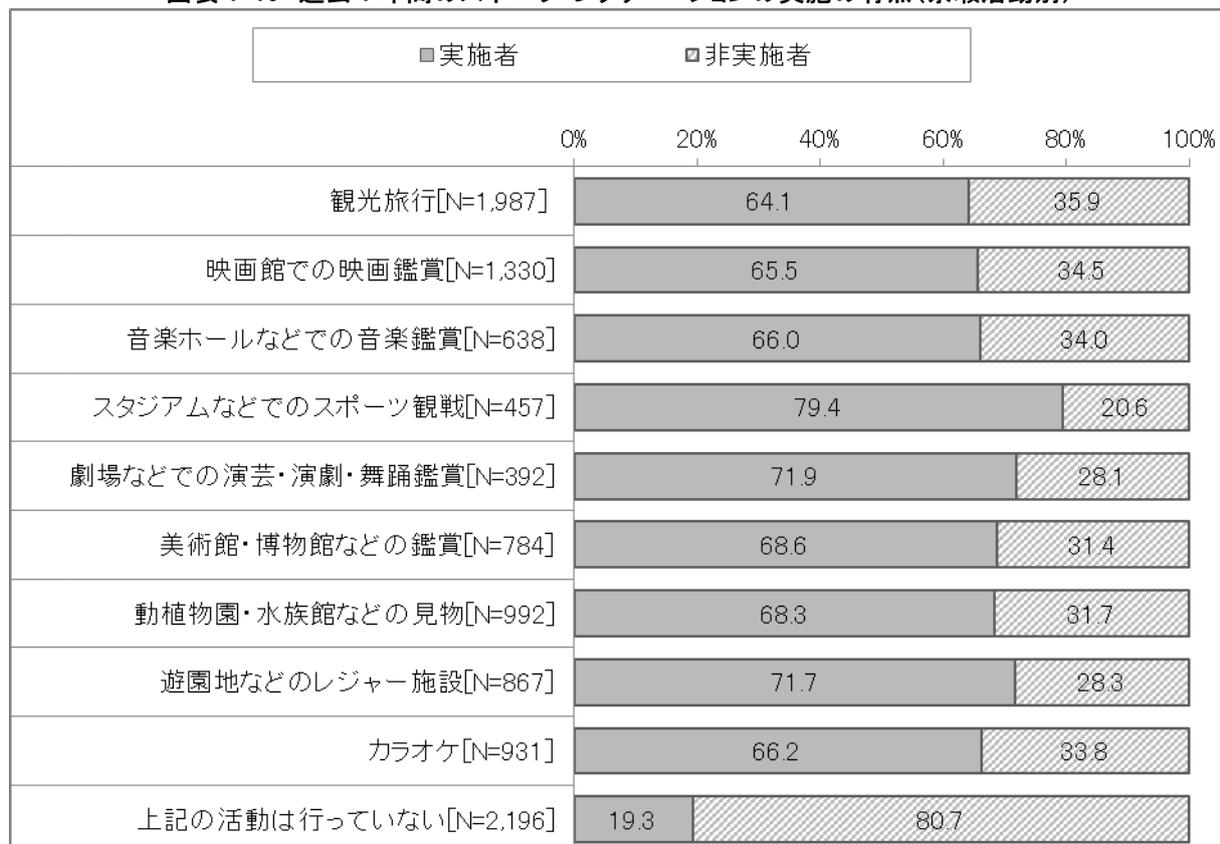


注) 重度/軽度の分類は以下のとおりである。

- ・重度: 身体障害者手帳 1 級もしくは 2 級、あるいは療育手帳マル A・A の保持者
- ・軽度: 上記以外の障害者手帳保持者

余暇活動別にスポーツ・レクリエーションの実施状況を見ると、余暇活動を実施している人は、スポーツ・レクリエーションも実施している割合が高いことがわかる(図表 1-19)。

図表 1-19 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(余暇活動別)

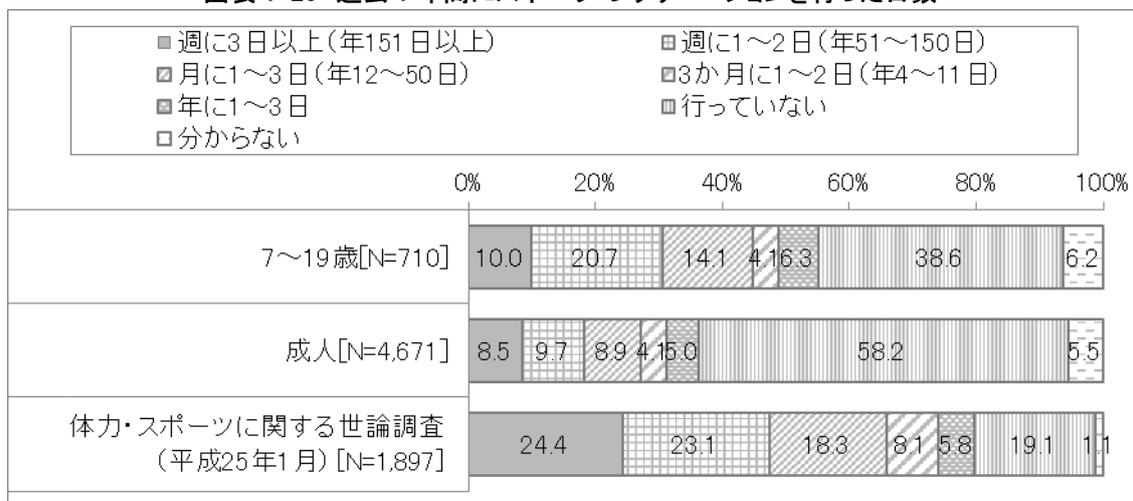


(2) 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数について19歳以下と成人に分けて集計した。7～19歳では、「週に3日以上」が10.0%、「週に1～2日」が20.7%と、週1日以上の実施者が3割いる一方で、「行っていない」も38.6%と多かった。成人では、「週に3日以上」と「週に1～2日」を合わせた週1日以上の実施者が2割に満たず、「行っていない」がおよそ6割を占めた(図表1-20)。文部科学省が全国の成人を対象に実施している「体力・スポーツに関する世論調査」(平成25年1月)では、週1日以上の実施者は47.5%とほぼ半数となっており、障害者の方が、スポーツ実施頻度が低いことがわかる。

障害種別にみると、7～19歳では、「聴覚障害」「知的障害」「発達障害」で実施日数が多くなっている(図表1-21)。

図表1-20 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数



注)文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成25年1月):全国20歳以上の日本国籍を有する者が対象。

図表 1-21 過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(障害種別/7~19 歳・成人別)

(%)

		週に 3 日以上 (年 151 日以上)	週に 1 ~ 2 日 (年 51 ~ 150 日)	月に 1 ~ 3 日 (年 12 ~ 50 日)	3 か月に 1 ~ 2 日 (年 4 ~ 11 日)	年に 1 ~ 3 日	行っていない	分からない
		全体	7~19 歳 [N=710]	10.0	20.7	14.1	4.1	6.3
	成人 [N=4,671]	8.5	9.7	8.9	4.1	5.0	58.2	5.5
肢体不自由(車椅子必要)	7~19 歳 [N=58]	3.4	8.6	19.0	1.7	5.2	55.2	6.9
	成人 [N=572]	6.1	5.9	4.9	3.7	3.8	72.2	3.3
肢体不自由(車椅子不要)	7~19 歳 [N=78]	3.8	15.4	7.7	1.3	0.0	64.1	7.7
	成人 [N=1185]	7.0	9.4	7.3	3.1	4.3	63.5	5.4
視覚障害	7~19 歳 [N=38]	7.9	13.2	15.8	2.6	5.3	39.5	15.8
	成人 [N=436]	8.5	10.3	7.6	5.3	5.7	58.5	4.1
聴覚障害	7~19 歳 [N=60]	15.0	18.3	21.7	5.0	3.3	31.7	5.0
	成人 [N=445]	9.0	13.5	11.0	6.5	5.6	48.1	6.3
知的障害	7~19 歳 [N=224]	9.4	25.4	14.3	5.4	6.3	34.4	4.9
	成人 [N=470]	5.7	8.7	12.8	2.1	8.1	55.5	7.0
発達障害	7~19 歳 [N=335]	11.3	25.7	13.7	5.1	9.3	31.0	3.9
	成人 [N=288]	9.0	10.1	10.4	4.5	5.6	52.8	7.6
精神障害	7~19 歳 [N=76]	7.9	9.2	7.9	7.9	5.3	53.9	7.9
	成人 [N=1237]	9.8	9.3	9.6	3.8	4.4	56.8	6.2
その他 (音声・言語・そしゃく機能障害 や内部障害を含む)	7~19 歳 [N=80]	5.0	17.5	17.5	3.8	6.3	42.5	7.5
	成人 [N=912]	8.8	9.3	8.1	3.2	4.4	62.4	3.8
体力・スポーツに関する世論調査(平成 25 年 1 月) [N=1,897]		24.4	23.1	18.3	8.1	5.8	19.1	1.1

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

以下の(7)までの項目は、過去 1 年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを行った 2,390 人を対象に調査を実施。

(3) 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション

過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・レクリエーションを行ったかについて、障害種別に上位種目と一人あたりの平均実施種目数をまとめた。全体と成人では、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」といった軽いスポーツ・レクリエーションを実施している人が多い(図表 1-22、図表 1-24)。7~19 歳では、上記の種目に加えて「水泳」の実施率が高く、「肢体不自由(車椅子不要)」「聴覚障害」「知的障害」「発達障害」では最も実施率の高い種目となっている(図表 1-23)。一人あたりの平均実施種目数については、障害種による違いがみられる。全体では「発達障害」が 3.1 種目と最も多く、「肢体不自由(車椅子必要)」は 1.5 種目と、「発達障害」の半分以下となっている(図表 1-22)。

図表 1-22 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・全体・N=2,390)(複数回答)

	(車椅子必要)		(車椅子不要)		視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害		障害(音声その他を意味する内部)
	N=185	N=460	N=204	N=272					N=356	N=367	
1位	散歩(ぶらぶら歩き)	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	散歩(ぶらぶら歩き)	ウォーキング	散歩(ぶらぶら歩き)	水泳	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング
2位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)
3位	アイススケート	水泳	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)
4位	ウォーキング	9.2	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	10.3	ウォーキング	12.5	ウォーキング	21.1	ウォーキング	18.5	水泳
5位	筋力トレーニング	11.7	筋力トレーニング	9.8	筋力トレーニング	11.4	筋力トレーニング	16.0	海水浴	16.9	筋力トレーニング
6位	海水浴	8.1	釣り	8.3	釣り	7.7	海水浴	12.9	ポウリング	13.9	釣り
7位	水泳	8.1	ゴルフ(コース)	6.3	水泳	6.9	ポウリング	9.6	なわとび	7.2	ポウリング
8位	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	5.9	ゴルフ(練習場)	5.7	ジョギング・ランニング	5.9	海水浴	6.7	ハイキング	9.5	ポウリング
9位	釣り	5.4	ポウリング	5.4	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	5.4	バドミントン	5.3	ジョギング・ランニング	8.7	釣り
10位	ふうせんハレー	4.9	海水浴	5.0	キャッチボール	4.9	バスケットボール	5.9	ダンス(社交ダンス、フオーダンス、フラダンスなど)	8.4	サイクリング
11位	ボッチャ	4.9	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	4.6	ポウリング	4.6	ポウリング	5.1	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	8.2	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)
12位	重いすテニス	4.3	ジョギング・ランニング	4.3	野球	4.4	サイクリング	5.1	釣り	7.9	ハイキング
13位	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	3.8	登山	3.7	キャッチボール	3.9	キャッチボール	4.5	登山	5.1	登山
14位	ヨーガ	3.2	テニス(硬式テニス)	2.8	ヨーガ	2.8	ヨーガ	7.4	ヨーガ	7.4	ヨーガ
15位	車椅子バスケットボール	2.7	ヨーガ	2.8	アイススケート	3.4	キャッチボール	4.2	キャッチボール	7.1	ダンス(社交ダンス、フオーダンス、フラダンスなど)
	バドミントン						ふうせんハレー				
	ポウリング										
平均実施種目数	1.5	1.9	1.9	2.4	2.5	3.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2

(注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

図表 1-23 過去 1 年間にいったスポーツ・レクリエーション(障害種別・7~19 歳・N=436) (複数回答) (%)

順位	(車 肢 椅 体 子 不 必 自 要 由)		(車 肢 椅 体 子 不 自 由 要 由)		視 覚 障 害	聴 覚 障 害	知 的 障 害	發 達 障 害	精 神 障 害	障 害 を 含 め る 内 部	ツラ少年 2 1 年 (参 考) 0 フ の 1 . ス 2 2 字 ポ ー ー								
	N=26	N=28	N=41	N=47								N=231	N=35	N=46	N=199				
1位	散歩(ふらふら歩き)	30.8	水泳	35.7	散歩(ふらふら歩き)	26.1	水泳	31.7	水泳	43.5	水泳	41.6	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	25.7	散歩(ふらふら歩き)	41.3	サッカー	26.9	
2位	海水浴	26.9	散歩(ふらふら歩き)	28.6	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	21.7	散歩(ふらふら歩き)	26.8	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	37.4	散歩(ふらふら歩き)	27.3	水泳	25.7	水泳	28.3	バスケットボール	23.8	
3位	水泳	23.1	なわとび	25.0	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	17.4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	22.0	散歩(ふらふら歩き)	24.5	散歩(ふらふら歩き)	25.5	水泳	22.9	海水浴	20.1	ジョギング・ランニング	23.5	
4位	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	15.4	海水浴	21.4	ウォーキング	17.4	海水浴	17.1	海水浴	22.4	海水浴	22.1	ウォーキング	17.1	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	19.6	自転車	22.8	
5位	乗馬		体操(軽い体操、ラジオ体操など)	17.9	ウォーキング	17.4	体操(軽い体操、ラジオ体操など)		ウォーキング	15.0	なわとび	21.2	ボウリング	17.1	ボウリング	15.2	水泳(スイミング)	22.7	
6位	釣り	11.5	なわとび	10.7	なわとび	13.0	ウォーキング	14.6	ウォーキング	14.3	海水浴	15.2	海水浴	14.3	ウォーキング	10.9	バドミントン	19.2	
7位	ドッジボール		ボウリング	10.7	アイススケート	13.0	なわとび	14.6	ドッジボール	12.9	ドッジボール	13	釣り	14.3	キャンプ	10.9	なわとび	19.1	
8位	ボッチャ		ボウリング		アイススケート	13.0	ジョギング・ランニング	10.2	サッカー	10.2	サッカー	12.1	なわとび	14.3	アイススケート		筋力トレーニング	18.9	
9位	アイススケート		なわとび		アイススケート	13.0	サッカー	12.2	ハイキング	8.8	ハイキング	10.4	バドミントン	11.4	なわとび	8.7	ドッジボール	18.8	
10位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	7.7	ドッジボール	8.7	ドッジボール	8.7	ハイキング	12.2	ハイキング	8.8	ウォーキング	10.0	釣り	8.6	ハイキング	8.7	野球	17.5	
	ふうせんハレー		柔道		柔道		釣り		釣り		釣り		釣り		バスケットボール				
			水泳		水泳														
			野球		野球														
平均実施 種目数	20	27	25	35	32	35	35	2.8	2.9										

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) 笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ」(2012): 10~19 歳を対象とした全国調査。

図表 1-24 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・成人: N=1,954) (複数回答)

順位	重症 精神 障害 者 必 要 者 (要 田)		重症 肢体 不 自 由 者 (要 田)		視 覚 障 害 者		聴 覚 障 害 者		知 能 障 害 者		発 達 障 害 者		精 神 障 害 者		障 害 (聴 覚 障 害 を 含 む 他 の 障 害 も 含 む)		ス ポ ー ツ 種 別		参 加 者 の 数 (年 間)	
	N=159	N=432	N=181	N=231	N=209	N=136	N=54	N=343	N=2000	N=1897										
1位	128 体操(軽い体操、ラジオ体操など)	285 ウォーキング	282 ウォーキング	320 ウォーキング	316 ウォーキング	33.1 ウォーキング	34.1 ウォーキング	36.7 散歩(ふらふら歩き)	34.9 散歩(ふらふら歩き)	50.8										
2位	107 散歩(ふらふら歩き)	269 散歩(ふらふら歩き)	188 散歩(ふらふら歩き)	19.5 散歩(ふらふら歩き)	27.3 散歩(ふらふら歩き)	32.4 散歩(ふらふら歩き)	31.6 散歩(ふらふら歩き)	29.7 ウォーキング	25.0 体操(ラジオ体操、エアロビクス、縄跳びを含む)	30.8										
3位	アイススケート	16.4 体操(軽い体操、ラジオ体操など)	15.5 体操(軽い体操、ラジオ体操など)	17.3 ウォーキング	25.8 体操(軽い体操、ラジオ体操など)	19.1 体操(軽い体操、ラジオ体操など)	18.4 体操(軽い体操、ラジオ体操など)	19.0 体操(軽い体操、ラジオ体操など)	20.5 ボウリング	12.7										
4位	ウォーキング	16.2 水泳	10.5 防カトレーニング	10.4 水泳	17.2 水泳	15.4 水泳	12.0 水泳	12.2 ボウリング	13.0 ランニング(ジョギング)	9.4										
5位	防カトレーニング	12.0 海水浴	8.3 水泳	9.1 ボウリング	16.7 水泳	11.8 水泳	11.6 釣り	11.1 防カトレーニング	12.2 水泳	9.4										
6位	水泳	7.9 釣り	7.2 ボウリング	7.8 ハイキング	10.0 ハイキング	10.3 ジョギング・ランニング	8.6 防カトレーニング	10.8 ジョギング・ランニング	9.7 ゴルフ	9.3										
7位	海水浴	5.0 ゴルフ(コース)	6.7 水泳	6.5 海水浴	6.2 海水浴	8.8 海水浴	6.6 ゴルフ(練習場)	6.7 ゴルフ(コース)	8.3 テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(車いすテニスを含む)	8.8										
8位	アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	6.0 ジョギング・ランニング	6.1 海水浴	6.1 海水浴	4.9 卓球(社会ダンス、フオーダンス、フラダンスなど)	8.1 ハイキング	6.2 ボウリング	6.4 ゴルフ(練習場)	8.0 卓球(車いすテニスを含む)	8.0										
9位	車いすテニス	5.1 ボウリング	5.5 ハイキング	5.6 ハイキング	6.1 登山	8.1 海水浴	6.0 ゴルフ(コース)	6.1 キャッチボール	7.5	8.0										
10位	釣り	4.9 アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	4.4 アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	4.4 アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	3.8 卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	3.8 登山	5.8 サイクリニング	5.5 釣り	7.4 サイクリニング、モーターボート(サイクル)スボート	6.5										
11位	ふうせんハレー	4.4 ジョギング・ランニング	4.4 キャッチボール	5.2 ハドミントン	3.9 ハドミントン	3.3 卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	5.4 海水浴	4.7 サイクリニング	7.4 サイクリニング、モーターボート(サイクル)スボート	6.4										
12位	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	3.9 ヨーガ	3.9 ヨーガ	5.2 卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	5.2 防カトレーニング	2.9 サイクリニング	5.1 ジョギング・ランニング	4.4 海水浴	7.2 スキー、スノーボード	5.9										
13位	ポッチャ	3.5 野球	3.5 野球	4.8 サイクリニング	4.8 サイクリニング	2.9 キャッチボール	5.1 アカアエクササイズ(水中歩行、運動など)	4.1 水泳	7.1 ハイクリニング、フンダー、アサヒ、オリエン	5.4										
14位	車椅子バスケットボール	3.0 キャンプ	3.0 キャンプ	4.3 キャンプ	4.3 キャンプ	2.9 釣り	4.9 登山	3.8 サッカー	5.6 野球、ソフトボール	5.3										
15位	バドミントン	3.1 サイクリニング	3.1 サイクリニング	4.3 ダンス(社交ダンス、フオーダンス、フラダンスなど)	4.3 ダンス(社交ダンス、フオーダンス、フラダンスなど)	2.8 ポッチャ	3.7 エアロビクス	3.8 ハドミントン	5.0 ハドミントン	5.2										
16位	ヨーガ	2.8 テニス(硬球テニス)	2.8 スノーボード	2.8 ダンス(社交ダンス、フオーダンス、フラダンスなど)	2.8 ダンス(社交ダンス、フオーダンス、フラダンスなど)	2.8	3.7	3.8	5.0	5.2										
平均実施 種目数	1.4	1.9	1.9	2.2	2.0	2.3	2.2	2.1	3.5	-										

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012): 成人を対象とした全国調査。

注 3) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

(4) スポーツ・レクリエーションの実施回数と指導者がいる割合

過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション種目について、実施回数と指導者の有無を尋ねた(図表 1-25)。全体として、「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」は実施率も高く、年平均実施回数も多い。指導者については、「水泳」「ダンス」など専門的な技術を必要とする種目は、指導者がいる割合が高い。一方、「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」などのスポーツ・レクリエーションにおいても指導者がいるとの回答があった。これを、障害種別にみると、「肢体不自由(車椅子必要)」「知的障害」「発達障害」では、「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」などの種目でも、指導者がいる割合が高く、リハビリテーションや学校・障害者福祉施設の活動の一貫として、介助者や教員が指導者の役割を担っていることが考えられる(図表 1-26、図表 1-27、図表 1-28)。

図表 1-25 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位 30 種目)の年平均実施回数・指導者がいる割合

種目名	年平均実施回数	指導者がいる割合(%)
ウォーキング[N=618]	118.4	11.7
散歩(ぶらぶら歩き)[N=598]	96.7	17.6
体操(軽い体操、ラジオ体操など)[N=430]	113.6	41.6
水泳[N=365]	36.3	44.1
筋カトレニング[N=210]	112.2	31.9
ボウリング[N=166]	7.9	21.1
海水浴[N=162]	5.9	17.3
釣り[N=151]	12.8	27.8
ジョギング・ランニング[N=130]	92.7	17.7
サイクリング[N=93]	66.9	7.5
登山[N=92]	6.2	37.0
ハイキング[N=92]	7.5	44.6
卓球(サウンドテーブルテニスを含む)[N=91]	31.9	27.5
ゴルフ(練習場)[N=78]	24.7	17.9
なわとび[N=76]	38.6	26.3
ゴルフ(コース)[N=71]	10.3	15.5
キャッチボール[N=70]	47.6	35.7
ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)[N=69]	45.8	79.7
アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)[N=65]	53.5	44.6
ヨーガ[N=65]	70.2	63.1
キャンプ[N=62]	2.9	37.1
サッカー[N=62]	50.2	50.0
アイススケート[N=60]	8.9	55.0
バドミントン[N=56]	31.7	26.8
スキー[N=54]	9.0	27.8
テニス(硬式テニス)[N=53]	36.9	49.1
野球[N=49]	39.4	40.8
エアロビックダンス[N=48]	35.7	72.9
ドッジボール[N=48]	41.5	39.6
パレーボール[N=48]	36.2	68.4

図表 1-26 スポーツ・レクリエーション種目（実施率上位種目）の年平均実施回数・指導者がいる割合（障害種別・全体：N=2,390）

		(車椅子不自由)	(肢体不自由)	(車椅子不自由)	(肢体不自由)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	(音声その他を含める) 内部障害
	項目	N=185	N=460	N=204	N=272	N=356	N=367	N=569	N=389		
1位	種目名	散歩(ふらふら歩き)	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	散歩(ふらふら歩き)	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング
	年平均実施回数	75.3	125.3	104.4	113.7	99.1	29.5	138.3	115.2	115.2	115.2
	指導者がいる割合(%)	52.0	9.7	9.6	9.2	42.6	64.6	7.7	6.3	6.3	6.3
2位	種目名	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)
	年平均実施回数	110.9	112.4	130.2	106.5	30.7	73.9	94.8	113.3	113.3	113.3
	指導者がいる割合(%)	71.4	9.7	15.0	4.2	69.4	30.5	14.9	10.2	10.2	10.2
3位	種目名	アイススケート	水泳	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)
	年平均実施回数	13.7	35.7	167.1	129.7	99.0	76.0	110.0	129.5	129.5	129.5
	指導者がいる割合(%)	72.2	27.8	27.3	36.7	73.9	57.1	32.4	25.4	25.4	25.4
4位	種目名	ウォーキング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	水泳	ウォーキング	ウォーキング	水泳	ウォーキング	水泳	水泳
	年平均実施回数	85.4	132.1	133.1	46.3	102.3	93.9	41.8	38.8	38.8	38.8
	指導者がいる割合(%)	37.5	38.7	38.1	31.0	38.9	22.6	23.1	32.7	32.7	32.7
5位	種目名	筋力トレーニング	筋力トレーニング	海水浴	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング
	年平均実施回数	113.7	110.1	18.5	89.0	4.6	3.0	122.8	113.3	113.3	113.3
	指導者がいる割合(%)	64.7	32.1	17.6	37.9	46.0	0.1	16.1	35.1	35.1	35.1
6位	種目名	海水浴	釣り	釣り	釣り	海水浴	釣り	ジョギング・ランニング	釣り	釣り	釣り
	年平均実施回数	11.1	14.5	21.0	10.0	1.6	6.3	77.6	15.6	15.6	15.6
	指導者がいる割合(%)	21.4	16.7	28.6	28.6	21.1	28.2	8.9	19.4	19.4	19.4
7位	種目名	水泳	ゴルフ(コース)	水泳	ボウリング	ハイキング	なわとび	海水浴	ボウリング	ボウリング	ボウリング
	年平均実施回数	29.3	6.5	42.1	26.7	6.2	41.6	3.8	15.0	15.0	15.0
	指導者がいる割合(%)	57.1	16.0	42.9	6.7	78.6	34.1	11.8	12.5	12.5	12.5
8位	種目名	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	ゴルフ(練習場)	ジョギング・ランニング	海水浴	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	ジョギング・ランニング	海水浴
	年平均実施回数	16.0	24.1	64.3	3.4	104.9	5.8	7.4	10.4	10.4	10.4
	指導者がいる割合(%)	63.6	16.7	0.0	35.7	52.2	79.2	11.8	9.1	9.1	9.1
9位	種目名	釣り	ボウリング	アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	バドミントン	なわとび	ジョギング・ランニング	釣り	釣り	釣り	ゴルフ(練習場)
	年平均実施回数	13.6	3.0	43.3	36.9	61.3	92.5	10.9	28.2	28.2	28.2
	指導者がいる割合(%)	50.0	0.0	55.6	28.6	25.0	31.0	38.2	8.3	8.3	8.3
10位	種目名	ふうせんバレー	海水浴	キャッチボール	卓球(サウンドテーブル(ニスを含む))	バスケットボール	ドッジボール	サイクリング	サイクリング	サイクリング	ゴルフ(コース)
	年平均実施回数	16.8	6.2	39.2	33.8	38.4	52.7	82.6	14.7	14.7	14.7
	指導者がいる割合(%)	55.6	20.0	50.0	18.8	85.7	51.9	0.0	10.0	10.0	10.0
11位	種目名	ボッチャ	ボウリング	ボウリング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング	ハイキング
	年平均実施回数	42.1	15.2	15.2	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8
	指導者がいる割合(%)	87.5	20.0	20.0	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/不要としないこと。

図表 1-27 スポーツ・レクリエーション種目（実施率上位種目）の年平均実施回数・指導者がいる割合（障害種別・7～19歳：N=436）

項目	（車椅子不自由） （車椅子不自由）	（車椅子不自由） （車椅子不自由）	（車椅子不自由） （車椅子不自由）	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	障害（音声その他） （音声その他）	青少年（参考） （青少年（参考））
1位	散歩（ぶらぶら歩き）	水泳	散歩（ぶらぶら歩き）	水泳	水泳	水泳	水泳	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	サッカー
年平均実施回数	82.5	19.1	38.0	46.9	29.2	29.1	29.2	59.7	75.8	131.3
指導者がいる割合(%)	62.5	90.0	33.3	40.0	68.8	71.0	68.8	66.7	42.1	40.9
2位	海水浴	散歩（ぶらぶら歩き）	海水浴	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	水泳	バスケットボール
年平均実施回数	2.3	139.5	1.5	112.8	56.9	68.8	56.9	57.9	44.6	133.9
指導者がいる割合(%)	0.0	12.5	0.0	80.0	66.1	33.3	66.1	44.4	69.2	44.8
3位	水泳	なわとび	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	散歩（ぶらぶら歩き）	散歩（ぶらぶら歩き）	水泳	海水浴	ジョギング・ランニング
年平均実施回数	16.7	37.7	144.0	60.0	55.7	86.5	55.7	45.4	1.7	109.1
指導者がいる割合(%)	83.3	42.9	60.0	25.0	31.5	62.9	31.5	57.1	11.1	16.9
4位	アクアエクスサイズ（水中歩行、運動など）	海水浴	ウォーキング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	海水浴	海水浴	海水浴	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	水泳（スイミング）
年平均実施回数	27.8	5.3	42.0	85.7	3.4	1.8	3.4	3.3	92.8	69.7
指導者がいる割合(%)	75.0	16.7	25.0	71.4	13.2	19.2	13.2	50.0	37.5	56.3
5位	乗馬	体操（軽い体操、ラジオ体操など）	釣り	キャンプ	キャンプ	ボウリング	なわとび	ウォーキング	ボウリング	野球
年平均実施回数	3.0	76.8	5.0	2.4	2.4	3.9	38.7	24.0	1.8	143.2
指導者がいる割合(%)	50.0	80.0	66.7	20.0	20.0	37.5	33.3	60.0	25.0	52.0
6位	釣り	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬	乗馬
年平均実施回数	4.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
指導者がいる割合(%)	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
7位	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール	ドッジボール
年平均実施回数	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3	12.3
指導者がいる割合(%)	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
8位	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ	ボッチャ
年平均実施回数	13.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
指導者がいる割合(%)	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7

注1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注2) 笹川スポーツ財団「青少年のスポーツライフ・データ」(2012)：10～19歳を対象とした全国調査。

図表 1-28 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位種目)の年平均実施回数・指導者がいる割合(障害種別・成人:N=1,954)

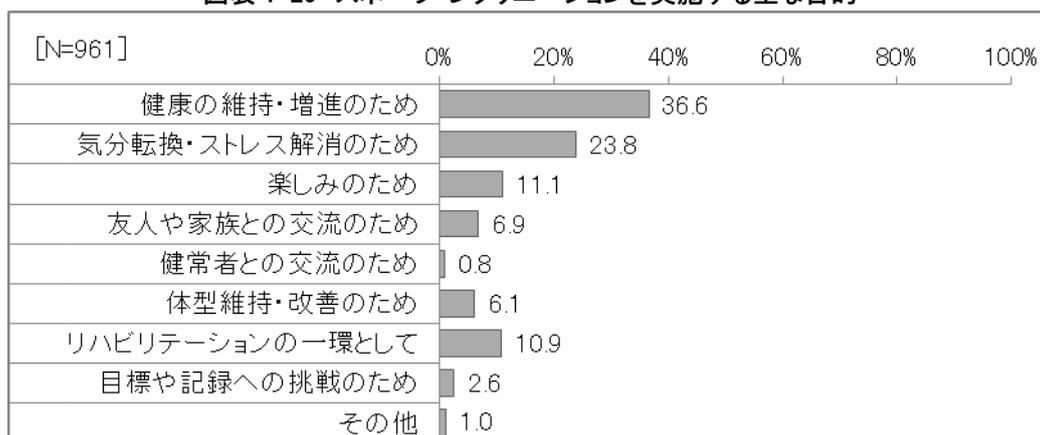
項目	車椅子不自由者(%)	車椅子不自由者(%)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	障害(音声を含む他の内)	スポーツ参加者(%)
1位	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング	ウオーキング
年平均実施回数	109.2	109.6	109.6	118.4	123.2	115.0	141.5	115.0	126.6
指導者がいる割合(%)	70.0	8.3	8.3	9.6	50.0	16.3	6.2	6.5	-
2位	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	散歩(ふらふら歩き)	ウオーキング
年平均実施回数	71.9	146.4	146.4	110.7	106.7	97.8	96.8	120.5	142
指導者がいる割合(%)	47.1	11.8	11.8	2.3	80.7	29.3	13.3	4.0	-
3位	アイススケート	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	ウオーキング	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	体操(軽い体操、ラジオ体操など)
年平均実施回数	12.4	171.2	171.2	134.0	110.2	121.1	114.7	134.5	147
指導者がいる割合(%)	81.3	21.4	21.4	25.6	40.7	36.0	29.2	23.7	-
4位	ウオーキング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	筋力トレーニング	水泳	水泳	筋力トレーニング	水泳	筋力トレーニング
年平均実施回数	85.4	137.1	137.1	90.0	33.4	31.3	124.5	37.0	118.9
指導者がいる割合(%)	37.5	36.8	36.8	27.3	66.7	45.0	16.7	21.4	-
5位	筋力トレーニング	海水浴	海水浴	水泳	ボウリング	ボウリング	水泳	釣り	ボウリング
年平均実施回数	111.8	23.7	23.7	45.9	4.9	6.0	41.3	15.6	6.1
指導者がいる割合(%)	62.5	23.1	23.1	26.3	50.0	33.3	19.0	19.4	-

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。
 注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012): 成人を対象とした全国調査。

(5) スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的

スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」(36.6%)が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」(23.8%)、「楽しみのため」(11.1%)であった(図表 1-29)。文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月)では、「健康・体力つくりのため」「楽しみ、気晴らしとして」との回答が多く、本調査と同様の傾向を示した。障害種別では、肢体不自由において「リハビリテーションの一環として」との回答が多く、障害種による特徴がみられる(図表 1-30)。

図表 1-29 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 1-30 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的(障害種別)

	(%)							
	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=61	N=273	N=92	N=110	N=13	N=46	N=322	N=186
健康の維持・増進のため	26.2	36.7	38.0	36.4	30.8	45.7	34.2	39.2
気分転換・ストレス解消のため	13.1	16.5	23.9	29.1	15.4	26.1	30.7	21.0
楽しみのため	18.0	11.0	10.9	15.5	15.4	4.3	8.1	11.8
友人や家族との交流のため	8.2	6.8	8.7	7.3	0.0	6.5	5.6	6.5
健常者との交流のため	3.3	0.4	0.0	0.0	7.7	0.0	1.2	1.1
体型維持・改善のため	4.9	3.0	6.5	6.4	7.7	4.3	9.0	3.8
リハビリテーションの一環として	21.3	22.8	7.6	1.8	7.7	8.7	8.4	14.0
目標や記録への挑戦のため	4.9	2.1	3.3	3.6	15.4	4.3	1.6	1.1
その他	0.0	0.8	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2	1.6

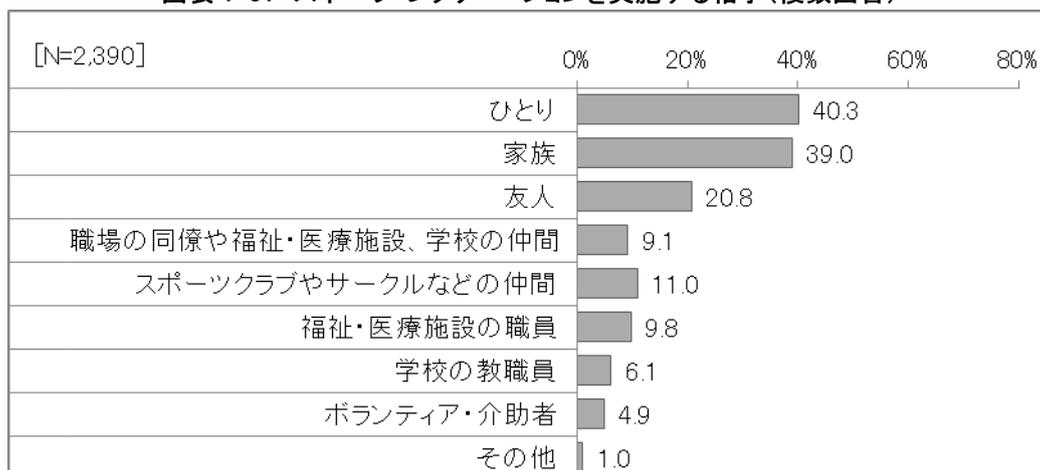
注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

(6) スポーツ・レクリエーションを実施する相手

スポーツ・レクリエーションを実施する相手については、「ひとり」(40.3%)が最も多く、次いで「家族」(39.0%)、「友人」(20.8%)であった(図表 1-31)。障害種別では、「知的障害」と「発達障害」は、他の障害種と比較して、「家族」「学校の教職員」と一緒にスポーツ・レクリエーションをする割合が高い一方、「ひとり」で実施する割合は低くなっている。また、「肢体不自由(車椅子必要)」と「知的障害」では、「福祉・医療施設の職員」と実施する割合が高い(図表 1-32)。

図表 1-31 スポーツ・レクリエーションを実施する相手(複数回答)



図表 1-32 スポーツ・レクリエーションを実施する相手(障害種別)

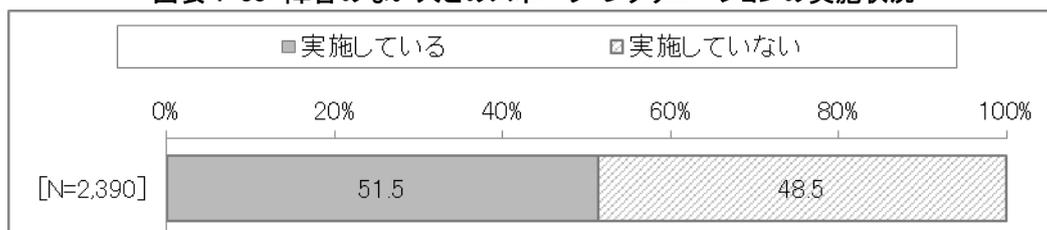
	(%)							
	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=185	N=460	N=204	N=272	N=356	N=367	N=569	N=389
ひとり	20.0	50.0	43.1	36.4	14.6	24.3	56.1	44.5
家族	37.8	35.2	34.8	39.0	50.6	49.0	34.8	40.6
友人	14.6	22.2	24.0	29.0	15.2	20.4	14.2	23.9
職場の同僚や福祉・医療施設、学校の仲間	11.4	5.9	9.3	7.7	19.1	11.4	8.1	7.5
スポーツクラブやサークルなどの仲間	14.6	8.5	10.8	15.1	10.7	15.3	8.1	12.6
福祉・医療施設の職員	25.4	7.2	10.3	6.6	28.7	12.0	7.9	7.5
学校の教職員	6.5	2.8	3.9	6.3	14.6	20.2	2.8	4.1
ボランティア・介助者	9.7	3.5	4.4	3.7	14.3	7.6	2.8	3.1
その他	1.1	1.1	1.0	0.7	0.8	1.1	1.1	1.3

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

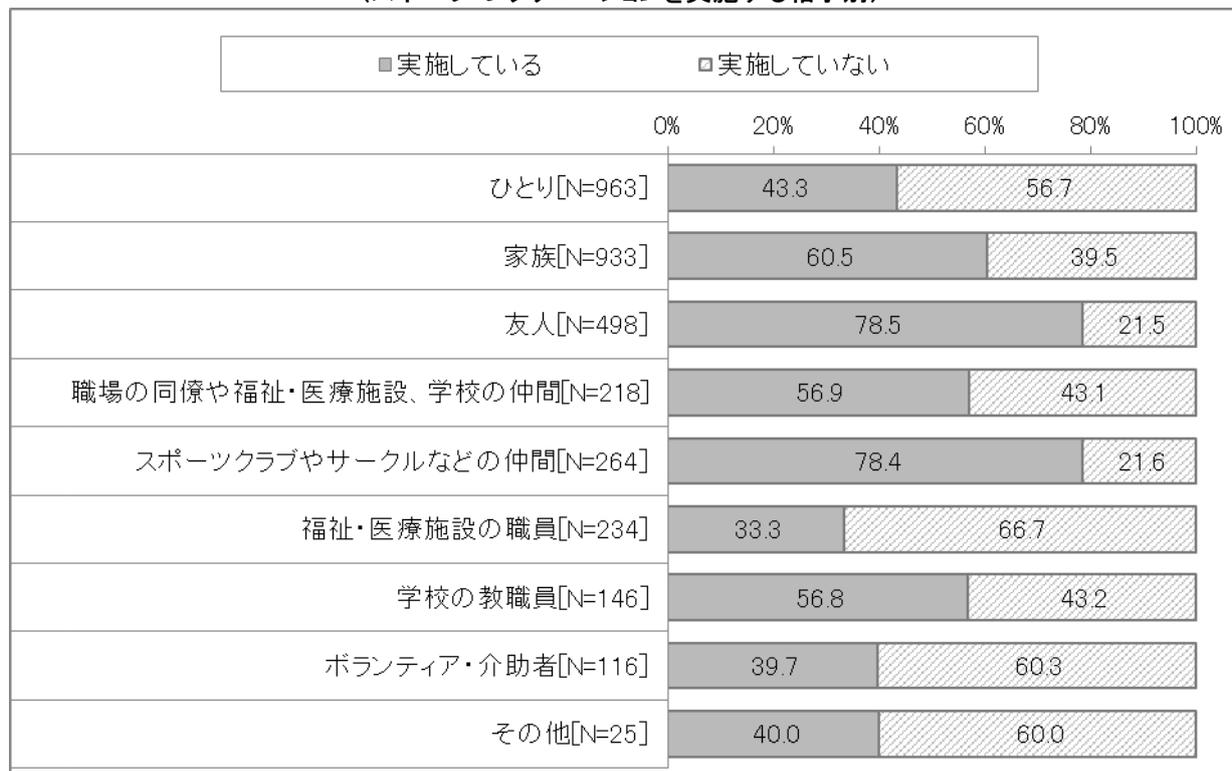
(7) 障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況

指導者や介助者を除いた障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況について尋ねたところ、51.5%と半数の障害児・者が障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを行っていた(図表1-33)。スポーツ・レクリエーションを実施する主な相手別にみると、「友人」「スポーツクラブやサークルなどの仲間」と実施している障害児・者では、障害のない人と一緒にスポーツをする割合が高い(図表1-34)。

図表 1-33 障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況

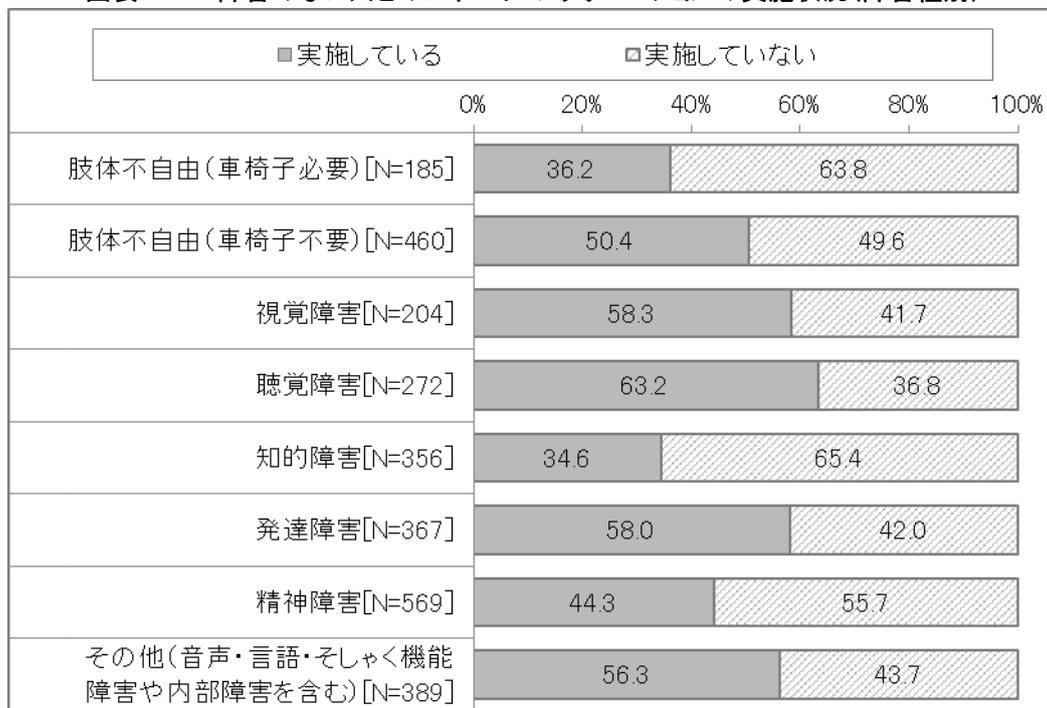


図表 1-34 障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況
(スポーツ・レクリエーションを実施する相手別)



障害種別にみると、「聴覚障害」「視覚障害」「発達障害」では障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを実施している割合が高い一方、「肢体不自由（車椅子必要）」「知的障害」ではその割合は低かった（図表 1-35）。

図表 1-35 障害のない人とのスポーツ・レクリエーションの実施状況（障害種別）

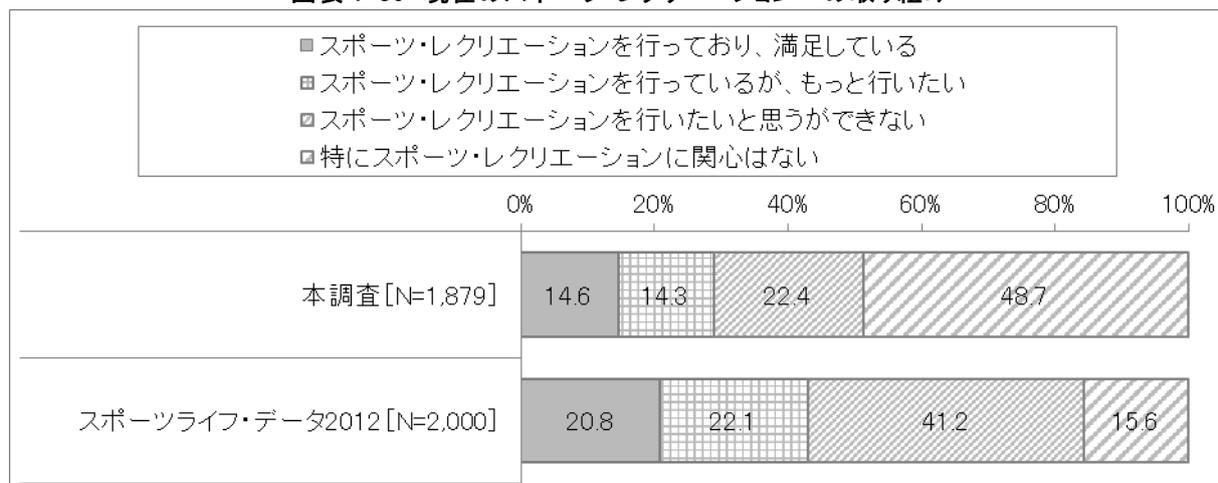


注) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

(8) 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み

現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組みについて、スポーツ・レクリエーションを実施しているか否かに関わらず尋ねたところ、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」(48.7%)が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」(22.4%)であった(図表 1-36)。笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)と比較すると、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」との無関心層が多い。この無関心層は、非実施者が多いものの、過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人にも含まれている(図表 1-37)。一方で、「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」と回答した非実施者が 26.0%であり、スポーツ・レクリエーションに対して潜在的なニーズがあることも分かる。

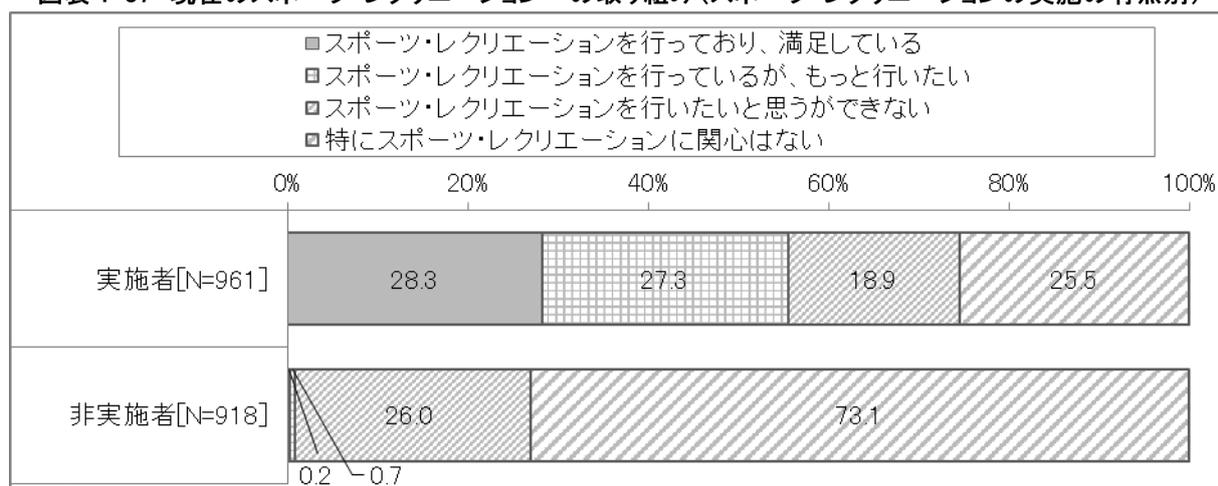
図表 1-36 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み



注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)：成人を対象とした全国調査。

図表 1-37 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み(スポーツ・レクリエーションの実施の有無別)

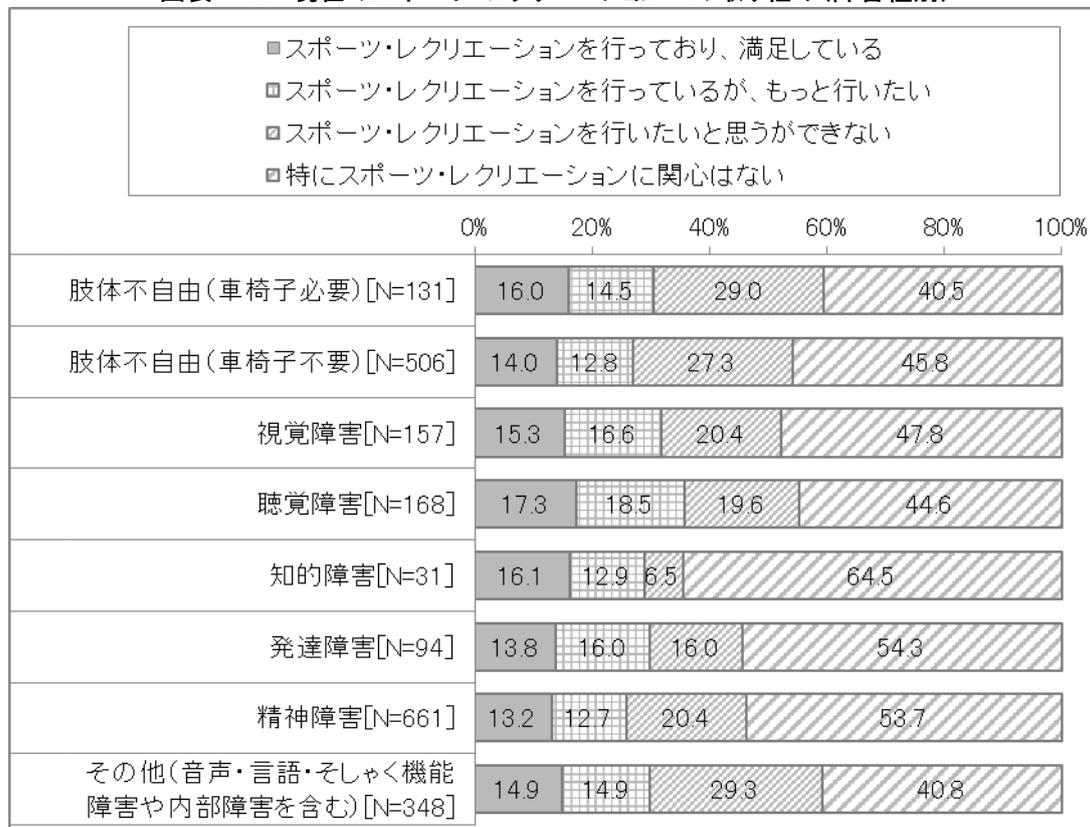


注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 非実施者の中に、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」「スポーツを行っているが、もっと行いたい」と回答した人がある。矛盾した回答であるが、図表 1-36 との比較の参考として、そのまま掲載した。

障害種別にみると、「知的障害」では、他の障害種に比べて「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」の割合が低く、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」の割合が高かった(図表 1-38)。

図表 1-38 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み(障害種別)



注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

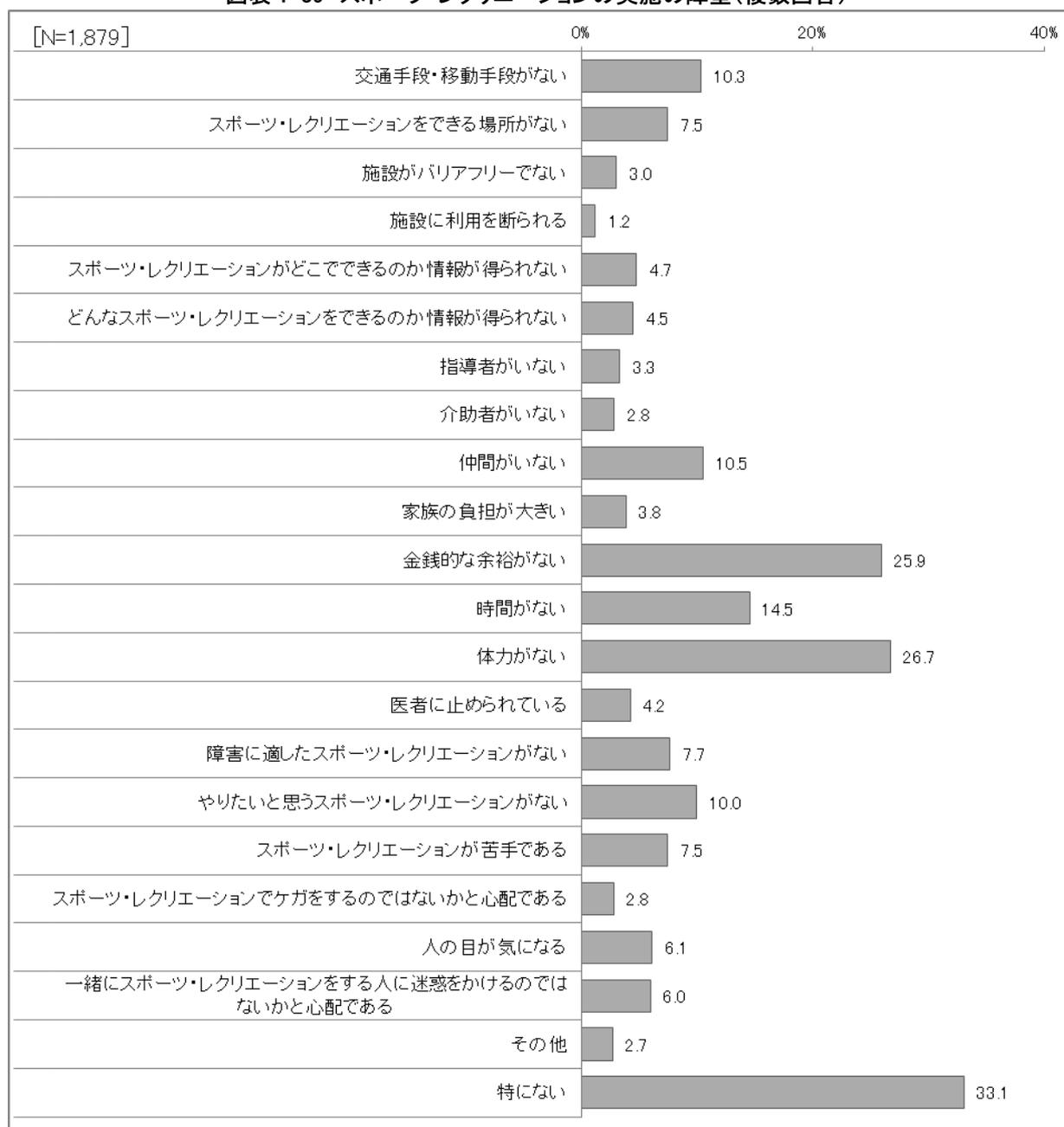
注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

(9) スポーツ・レクリエーションの実施において障壁となっているもの

スポーツ・レクリエーションの実施の障壁について、「特にない」と回答した割合が33.1%であった。障壁があると回答した中では、「体力がない」(26.7%)が最も多く、次いで「金銭的な余裕がない」(25.9%)、「時間がない」(14.5%)であった(図表 1-39)。

障害種別にみると、「肢体不自由(車椅子必要)」では、「交通手段・移動手段がない」「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」「家族の負担が大きい」と回答した割合が他の障害種に比べて高かった(図表 1-40)。また、「知的障害」では、「スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない」「どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない」と回答した割合が他の障害種に比べて高かった。

図表 1-39 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(複数回答)



注)スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-40 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(障害種別)

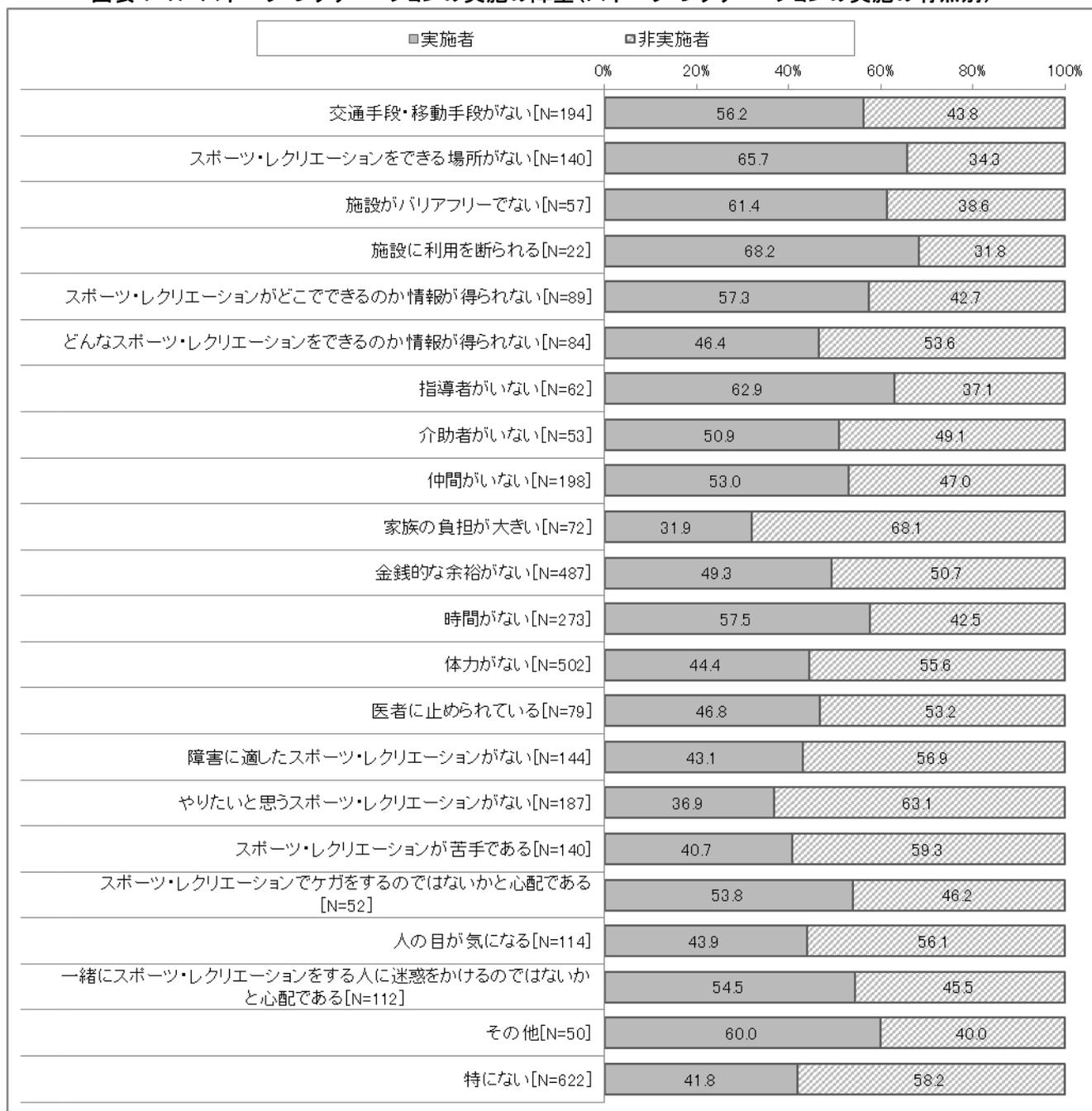
	〔N=131〕		〔N=157〕		〔N=168〕		〔N=31〕		〔N=94〕		〔N=661〕		〔N=348〕			
	(車椅子不自由)	(車椅子不自由)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	障害(音声を含める)	その他	部						
1位	体力がない	237	体力がない	255	金銭的な余裕がない	197	金銭的な余裕がない	179	金銭的な余裕がない	258	金銭的な余裕がない	404	金銭的な余裕がない	362	体力がない	35.3
2位	金銭的な余裕がない	206	金銭的な余裕がない	239	体力がない	191	時間がない	155	交通手段・移動手段がない	16.1	体力がない	287	体力がない	33.4	金銭的な余裕がない	21.6
3位	交通手段・移動手段がない	198	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	150	時間がない	146	体力がない	11.3	仲間がいない		時間がない	223	仲間がいない	16.8	時間がない	16.4
4位	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	153	時間がない	138	交通手段・移動手段がない	140	仲間がいない	71	スポーツ・レクリエーションかどこでできるのか情報が得られない	129	仲間がいない	170	時間がない	14.7	医者に止められている	10.3
5位	家族の負担が大きい		交通手段・移動手段がない	109	仲間がいない	102	交通手段・移動手段がない	65	どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない		人の目が気になる	117	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	13.9	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	10.1
	特になし	298	特になし	330	特になし	338	特になし	39.3	特になし	45.2	特になし	25.5	特になし	30.7	特になし	28.4

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無で回答を分析した(図表1-41)。この場合、スポーツ・レクリエーションの実施の障壁は、実施者にとっては、スポーツ・レクリエーションを実施するうえでの課題、非実施者にとってはスポーツ・レクリエーションを実施しない要因として考えることができるが、共に「金銭的な余裕がない」「体力がない」「時間がない」が上位に挙げられている。この他の項目を、実施者、非実施者で比較すると、実施者は「交通手段・移動手段がない」「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」などのハード面に課題を感じている傾向がある。一方、非実施者は、「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」「障害に適したスポーツ・レクリエーションがない」などのソフト面や、「スポーツ・レクリエーションが苦手である」といった意識面に障壁があることがわかる。

図表1-41 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(スポーツ・レクリエーションの実施の有無別)



注1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。
 注2) 参考資料に同内容の図表を掲載する。

2. 3 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション

今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(現在行っているスポーツ・レクリエーションを含む)については、どの障害種においても「特にない」との回答が多かった。行いたいと思うスポーツ・レクリエーションの中では、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」との回答が多く(図表 1-42)、この傾向は、過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(図表 1-22、図表 1-23、図表 1-24)と同様の結果である。また、笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012)においても、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」の実施希望が高く、本調査も同じ傾向を示した。

図表 1-42 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(障害種別・成人: N=1,872)(複数回答)

	N=586 (車椅子 不自由 要由)		N=156 (視覚 障害)		N=165 (聴覚 障害)		N=90 (知的 障害)		N=93 (発達 障害)		N=347 (障害 を有する 他の 内)		N=2,000 (20歳 以上 11歳 未満)		N=1,897 (11歳 未満 5歳 未満)	
	順位	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
1位	ウォーキング	176	ウォーキング	167	ウォーキング	200	ウォーキング	204	ウォーキング	194	ウォーキング	254	ウォーキング(歩け歩け運動、散歩などを含む)	254	ウォーキング(歩け歩け運動、散歩などを含む)	539
2位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	164	筋力トレーニング	147	散歩(ぶらぶら歩き)	170	アクアエクササイズ(水中歩行、運動など)	183	散歩(ぶらぶら歩き)	167	散歩(ぶらぶら歩き)	196	ウォーキング	231	体操(ラジオ体操、体操、エアロビクス、縄跳びを含む)	304
3位	筋力トレーニング	138	散歩(ぶらぶら歩き)	135	筋力トレーニング	133	キャンプ	129	ジョギング/ランニング	112	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	144	筋力トレーニング	150	水泳	206
4位	アイススケート	130	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	109	サイクリング	115	バスケットボール	67	水泳	111	筋力トレーニング	115	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	137	ランニング(ジョギング)	150
5位	アクアエクササイズ(水中歩行、運動など)	105	釣り	83	水泳	109	ボウリング	118	筋力トレーニング	106	ボウリング	110	ヨーガ	127	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球(卓いす子ニスを含む)	143
6位	ボウリング	95	水泳	77	登山	77	散歩(ぶらぶら歩き)	108	ヨーガ	91	水泳	107	水泳	125	ゴルフ	123
7位	ウォーキング	69	ハイキング	69	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	97	ハイキング	97	ハイキング	82	釣り	95	ゴルフ(コース)	119	室内運動器具を用いた運動	114
8位	エアロビクスダンス	65	ボウリング	71	ジョギング・ランニング	85	ボウリング	86	釣り	79	登山	86	釣り	114	登山(クライミングを含む)	109
9位	卓いすテニス	59	登山	59	ボウリング	64	ハイキング	64	キャンプ	74	アクアエクササイズ(水中歩行、運動など)	75	登山	108	スキー、スノーボード	103
10位	水泳	51	キャンプ	51	キャンプ	64	ハイキング	64	登山	65	登山	72	ボウリング	104	ボウリング	102
11位			ヨーガ						ボウリング							
	特になし	43.5	特になし	42.1	特になし	29.1	特になし	50.0	特になし	41.9	特になし	36.9	特になし	18.0	-	-

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害者本人が障害者である場合に限定した。

注 3) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012): 成人を対象とした全国調査。

注 4) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

(2) 特別支援学校のスポーツ環境に関する調査

主な調査結果

特別支援学校の6割が知的障害、8割に重度・重複障害者が在籍

全国の特別支援学校の障害種別の内訳は、知的障害の単置校が5割と最も多く、次いで肢体不自由の単置校、知的障害と肢体不自由の併置校がそれぞれ1割となっていた。重度・重複障害者が在籍している学校は、全体の8割で、併置校では、ほとんどの学校に在籍している。【図表 2-2、2-9】

運動部活動・クラブ活動の実施は6割で、聴覚障害、視覚障害で特に盛ん

運動部活動やクラブ活動などを通年で実施している学校は全体の6割だった。障害種別にみると、聴覚障害の単置校では9割、視覚障害の単置校では8割の学校で運動部活動・クラブ活動が行われていた。【図表 2-10、2-11】

視覚障害はフロアバレー、グランドソフト、STT、肢体不自由はボッチャ、ハンドサッカーを実施

小学部から高等部を通じて、全体的に実施率が高かった運動部活動・クラブ活動の実施種目は、「陸上競技」と「サッカー(ブラインドサッカーを含む)」であった。視覚障害では、「フロアバレーボール」「グランドソフトボール」「サウンドテーブルテニス(STT)」、肢体不自由では、「ボッチャ」「ハンドサッカー」の実施率が高く、障害種別による違いがみられた。また、運動部活動・クラブ活動の指導者、サポートスタッフについては、すべての学校で教職員が務めていたほか、外部指導者がいる学校もあった。【図表 2-19、2-20、2-23、2-29】

体育館、グラウンドは5割以上が一般に開放し、卒業生中心の障害者スポーツ団体も利用

特別支援学校の体育施設の保有率は、「体育館」「グラウンド」が8割以上、「プール(屋内、屋外)」が約7割であった。体育施設の開放率は、「体育館」「グラウンド」が5割以上、「プール(屋外)」が3割以上となっている。学校開放施設を利用したスポーツ活動は、「地域の健常者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が5割で最も多いほか、「卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」も3割の学校で行われていた。【図表 2-43、2-44、2-45】

運動部活動・クラブ活動が卒業生のスポーツの場としても

運動部活動・クラブ活動の3割で卒業生が練習に参加しており、部活動・クラブ活動が在校生のみならず、卒業生にとっても運動・スポーツの場となっていることがわかる。障害種別にみると、聴覚障害において特に卒業生が参加する活動の割合が高かった。【図表 2-32】

運動部活動の指導を通じて、社会性の向上、卒業後のスポーツ活動機会の充実に期待

事例調査から、学校が運動部活動・クラブ活動を行う目的として、卒業後のスポーツ活動機会の充実に意識した指導が行われていることが明らかとなった。校外でのスポーツ活動を積極的に行うことで、他の特別支援学校や一般校の児童生徒との交流が図られるとともに、公共交通機関を利用して大会会場までひとりで移動するなどの経験が、児童生徒の社会性の向上につながると期待している。

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、全国の 1,211 の特別支援学校を対象に悉皆調査を行い、学校に関する基本情報、体育の授業以外でのスポーツ・レクリエーション活動、運動部活動やクラブ活動の状況、スポーツ施設や指導者の情報等、幼児児童生徒の学校でのスポーツ・レクリエーション活動に関する情報を整理、把握することで、今後の方策検討における基礎情報とすることを目的とする。

1. 2 調査対象

平成 24 年度全国特別支援学校一覧(2012 年 5 月 1 日現在)をもとに、全国の特別支援学校(1,211 校。分校、分教室を含む)を対象とした。

1. 3 調査協力

全国特別支援学校長会

1. 4 調査方法および回収結果

【調査 1】質問紙調査

(1) 調査方法

記名式の質問紙調査

回答は、郵送、電子メール、FAX で受け付けた。

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・学校の基本情報(幼児児童生徒数、重度・重複障害者の在籍の有無など)
- ・通常の体育の授業以外の活動(校内、学校が関わる校外の活動、地域での活動)
- ・部活動やクラブ活動の状況(運動部・クラブの有無、実施種目、対外試合への参加、活動時間、卒業生の参加など)
- ・体育の授業や部活動・クラブ活動以外のスポーツ活動
- ・教職員、幼児児童生徒と障害者スポーツの関わり
- ・スポーツ施設の状況(施設の種類、開放状況など)
- ・児童生徒の自主的なスポーツ活動につなげるための配慮
- ・今後、重要だと考える取り組み

(3) 回収結果

回収数は 909 校(回収率 75.1%)であった。

(4) 調査期間

2013年9月12日～2013年11月20日

【調査2】事例調査(ヒアリング調査)

(1) 調査方法

地域の特別支援学校における部活動・クラブ活動の状況や学校体育施設の利用状況、学校体育施設を拠点とした障害者のスポーツ活動状況などを明らかにするために、担当者に対して聞き取り調査を実施し、3件の特別支援学校の事例をまとめた。

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・部活動・クラブ活動(サークル活動含む)の活動状況
- ・教職員の障害者スポーツとの関わり
- ・学校体育施設の開放状況
- ・学校開放施設で行われている活動や利用団体
- ・障害者のスポーツ活動を進めるうえでの取り組み

(3) 調査期間

2013年10月～2014年1月

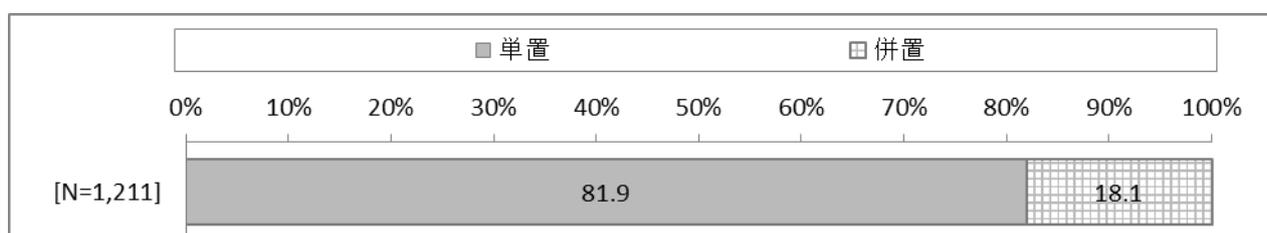
2. 調査結果(質問紙調査)

2. 1 学校属性

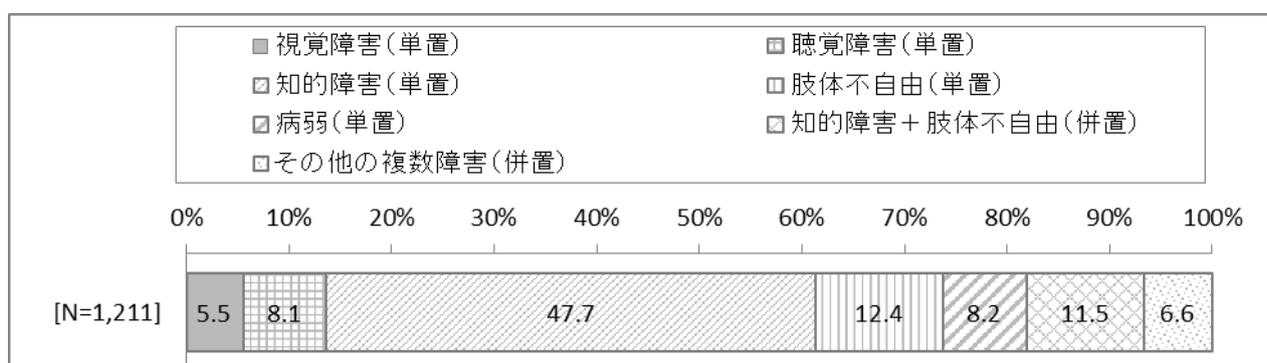
(1) 調査対象の属性

調査対象(母集団)の内訳は、単一障害に対応している学校(以下、単置校)が 81.9%、複数障害に対応している学校(以下、併置校)が 18.1%であった(図表 2-1)。障害種別では、「知的障害(単置)」が 47.7%で最も多く、約半数を占めていた。次いで「肢体不自由(単置)」(12.4%)、「知的障害+肢体不自由(併置)」(11.5%)であった(図表 2-2)。学校形態別では、本校が約 8 割を占め、「分校」(9.2%)、「分教室」(11.5%)がそれぞれ約 1 割であった(図表 2-3)。

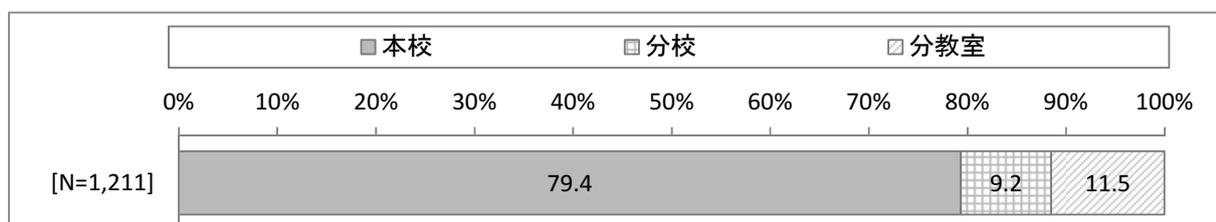
図表 2-1 対象学校の属性(単置・併置別内訳)



図表 2-2 対象学校の属性(障害種別内訳)



図表 2-3 対象学校の属性(本校・分校・分教室別内訳)



また、学部タイプ別にみると、「小学部・中学部・高等部」がある学校が 55.8%と最も多く、次いで「高等部のみ」(13.5%)、「小学部・中学部」(11.7%)、「幼稚部・小学部・中学部・高等部」(11.5%)であった(図表 2-4)。

図表 2-4 対象学校の学部タイプ

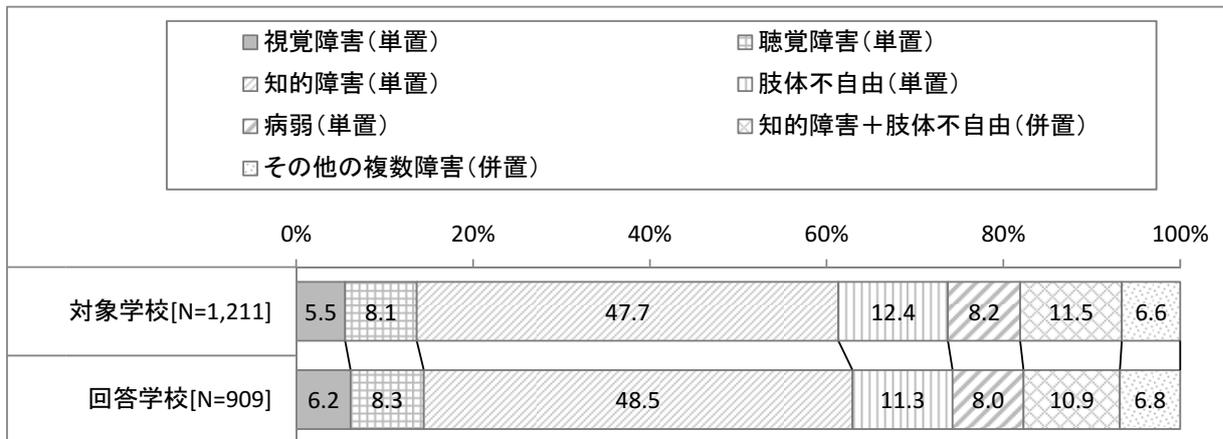
(N=1,211)

学部タイプ	割合 (%)
小学部・中学部・高等部	55.8
高等部のみ	13.5
小学部・中学部	11.7
幼稚部・小学部・中学部・高等部	11.5
幼稚部・小学部・中学部	2.7
小学部のみ	1.7
幼稚部・小学部	1.1
中学部・高等部	1.0
幼稚部のみ	0.4
中学部のみ	0.4
小学部・高等部	0.1

(2) 回答した学校の属性

回答した学校の属性は、「知的障害(単置)」が最も多く 48.5%で、次いで「肢体不自由(単置)」が 11.3%であった。併置校は「知的障害+肢体不自由(併置)」が 10.9%となり、調査対象の母集団と同様の構成であった(図表 2-5)。

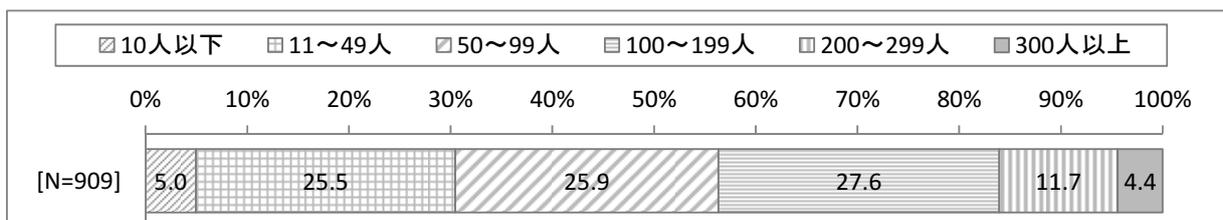
図表 2-5 学校の属性(1人以上在籍する障害種別内訳)



(3) 幼児児童生徒数

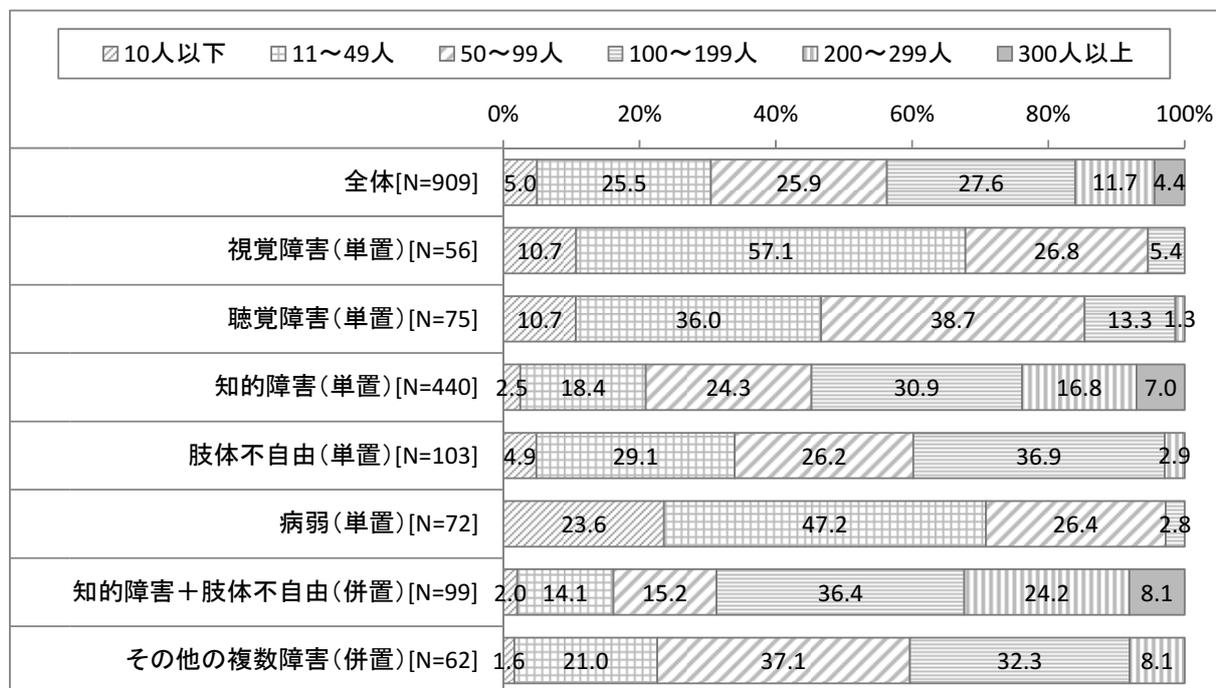
2013年5月1日現在の幼児児童生徒総数は、「100~199人」が27.6%で最も多く、次いで「50~99人」(25.9%)、「11~49人」(25.5%)であり、100人未満の学校が過半数を占めた(図表 2-6)。

図表 2-6 幼児児童生徒数



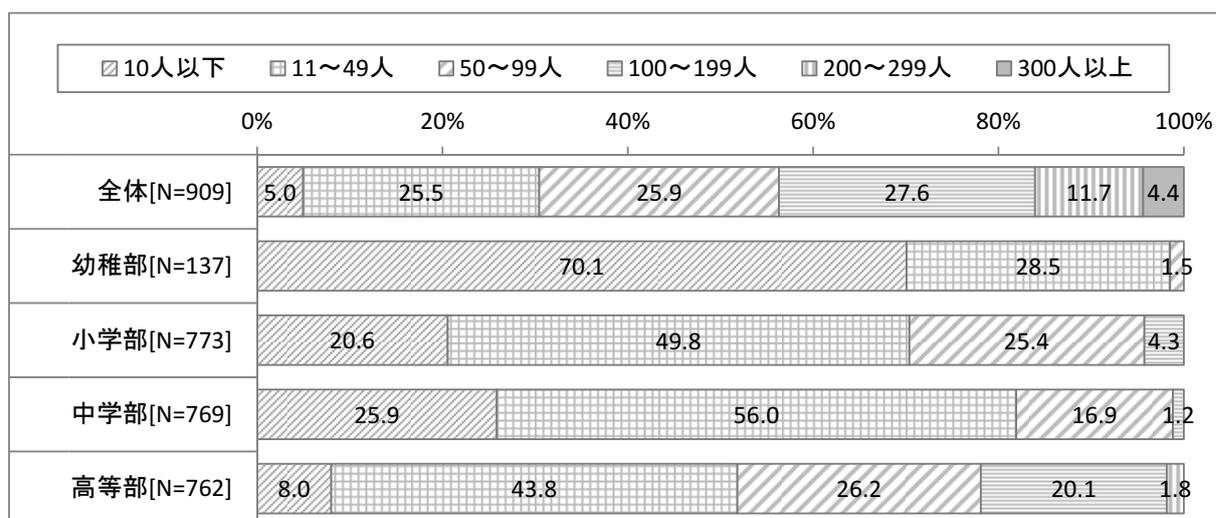
障害種別では、幼児児童生徒数が 100 人未満の学校の割合が最も高かったのは、「病弱(単置)」(97.2%)で、次いで「視覚障害(単置)」(94.6%)であった。200 人以上の学校の割合が最も高かったのは、「知的障害+肢体不自由(併置)」(32.3%)で、次いで「知的障害(単置)」(23.8%)であった(図表 2-7)。

図表 2-7 幼児児童生徒数 (障害種別内訳)



部別では、「幼稚部」の約 7 割が幼児数「10 人以下」で、小規模校が多いことがわかった。「小学部」の約 7 割、「中学部」では約 8 割が児童生徒数 50 人未満であった。対して、「高等部」では、約 2 割が生徒数 100 人以上であった(図表 2-8)。

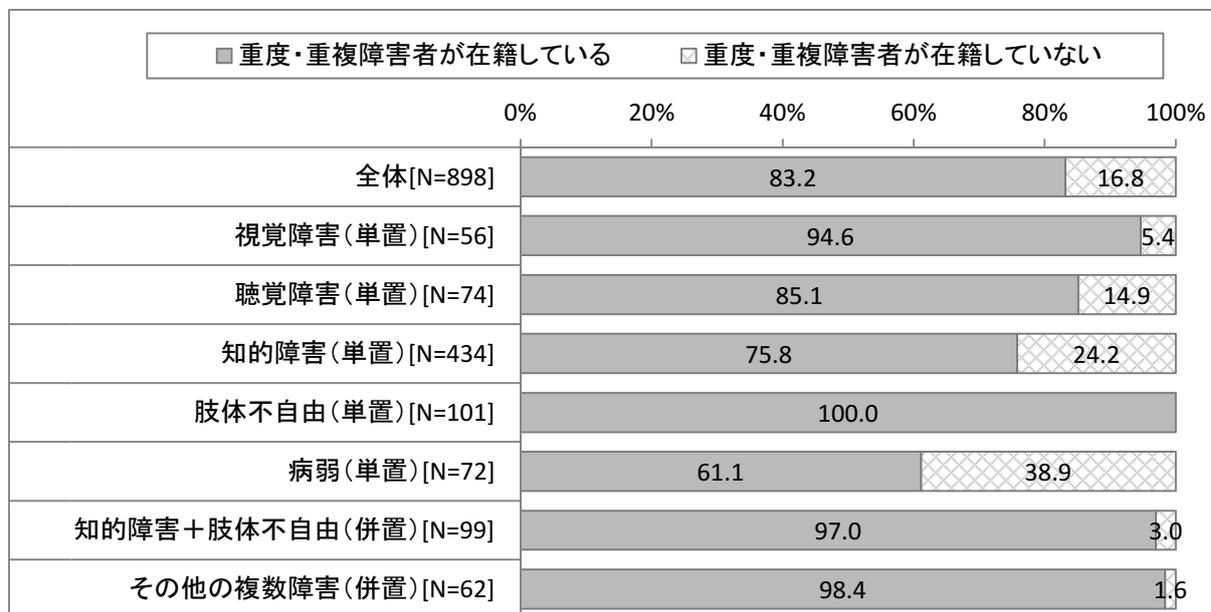
図表 2-8 幼児児童生徒数 (部別内訳)



(4) 重度・重複障害者の在籍

重度・重複障害者が在籍している学校は、全体の83.2%であった。肢体不自由の単置校ではすべての学校に、併置校でもほとんどの学校に重度・重複障害者がいることがわかった(図表 2-9)。

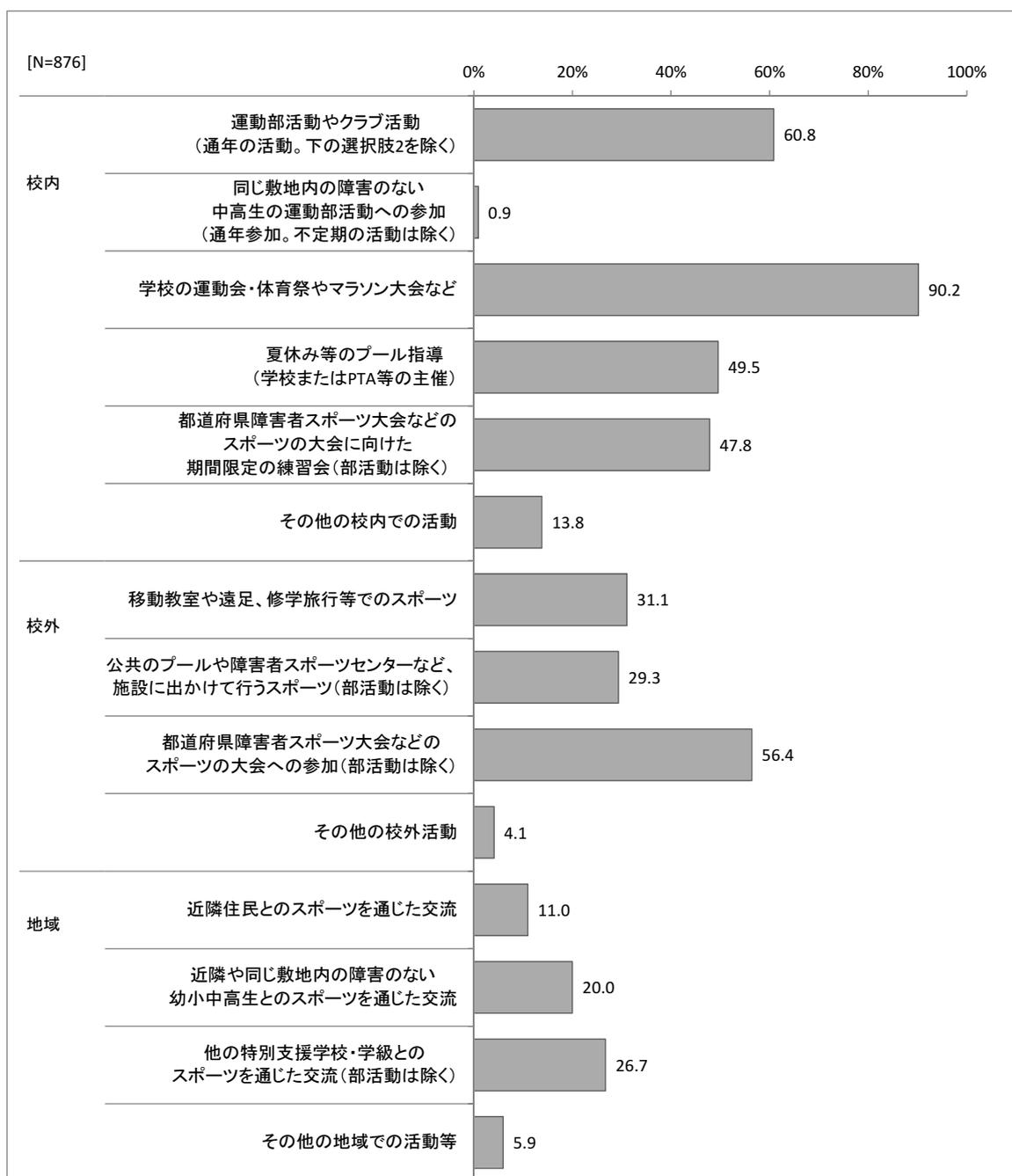
図表 2-9 重度・重複障害者の在籍



2. 2 体育の授業以外におけるスポーツの機会について

通常の体育の授業以外の活動(教育課程外を含む)については、幼児児童生徒がスポーツをする機会として、「学校の運動会・体育祭やマラソン大会など」が90.2%と最も多く、次いで「運動部活動やクラブ活動(通年の活動)」(60.8%)、「都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会への参加(部活動は除く)」(56.4%)であった(図表 2-10)。「その他の校内での活動」(13.8%)は、朝活動、放課後活動、自立活動・総合活動などで、「その他の校外活動」(4.1%)は、ほとんどが種目別スポーツ大会、「その他の地域での活動等」(5.9%)は、地域のスポーツクラブでの活動、近隣スポーツ施設主催のスポーツ大会への参加などであった。校内の活動やスポーツ大会への参加に比べて、地域でのスポーツを通じた交流は少ない。

図表 2-10 体育の授業以外におけるスポーツの機会(複数回答)



障害種別に、通常の体育の授業以外の活動(教育課程外を含む)における幼児児童生徒がスポーツをする機会についてみると、「学校の運動会・体育祭やマラソン大会など」では、「肢体不自由(単置)」、「病弱(単置)」を除く全ての障害種で9割以上が実施していた(図表2-11)。また、「運動部活動やクラブ活動(通年の活動)」においても、「肢体不自由(単置)」、「病弱(単置)」を除く全ての障害種で6割以上が実施しており、特に、「聴覚障害(単置)」(90.5%)と「視覚障害(単置)」(80.4%)では8割を超えていた。

図表 2-11 体育の授業以外におけるスポーツの機会(障害種別)

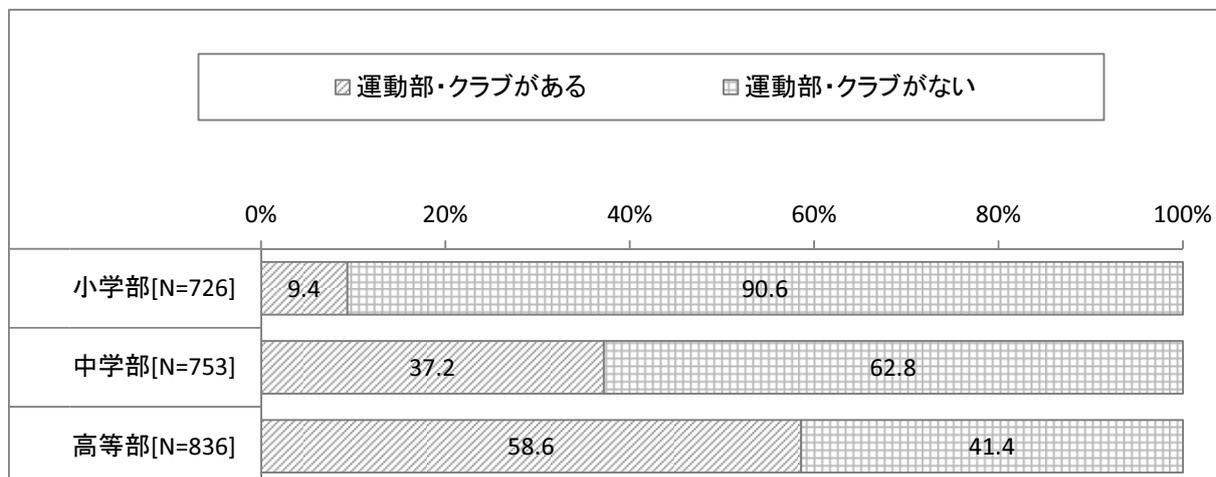
		視覚障害 (単置)	聴覚障害 (単置)	知的障害 (単置)	肢体不自由 (単置)	病弱 (単置)	知的障害＋肢体不自由 (併置)	その他の複数障害 (併置)
		N=56	N=74	N=439	N=95	N=54	N=98	N=60
校内	運動部活動やクラブ活動 (通年の活動。下の選択肢2を除く)	80.4	90.5	61.0	29.5	29.6	70.4	66.7
	同じ敷地内の障害のない 中高生の運動部活動への参加 (通年参加。不定期の活動は除く)	1.8	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.7
	学校の運動会・体育祭やマラソン大会など	96.4	95.9	93.2	77.9	66.7	91.8	93.3
	夏休み等のプール指導 (学校またはPTA等の主催)	37.5	39.2	56.3	51.6	18.5	53.1	43.3
	都道府県障害者スポーツ大会などの スポーツの大会に向けた 期間限定の練習会(部活動は除く)	67.9	29.7	48.1	43.2	14.8	68.4	53.3
	その他の校内での活動	7.1	6.8	14.4	14.7	37.0	11.2	6.7
校外	移動教室や遠足、修学旅行等でのスポーツ	39.3	45.9	31.7	20.0	14.8	29.6	35.0
	公共のプールや障害者スポーツセンターなど、 施設に出かけて行うスポーツ(部活動は除く)	33.9	24.3	28.9	26.3	27.8	33.7	33.3
	都道府県障害者スポーツ大会などの スポーツの大会への参加(部活動は除く)	71.4	50.0	57.2	50.5	18.5	72.4	61.7
	その他の校外活動	3.6	10.8	3.2	2.1	5.6	2.0	8.3
地域	近隣住民とのスポーツを通じた交流	7.1	17.6	12.5	4.2	9.3	10.2	8.3
	近隣や同じ敷地内の障害のない 幼小中高生とのスポーツを通じた交流	14.3	44.6	18.0	17.9	14.8	18.4	20.0
	他の特別支援学校・学級との スポーツを通じた交流(部活動は除く)	26.8	18.9	28.2	18.9	9.3	38.8	33.3
	その他の地域での活動等	8.9	6.8	5.7	8.4	3.7	5.1	3.3

2. 3 運動部活動・クラブ活動

(1) 運動部・クラブの有無

運動部やクラブがある学校は、「小学部」では 9.4%、「中学部」で 37.2%、「高等部」58.6%であった(図表 2-12)。

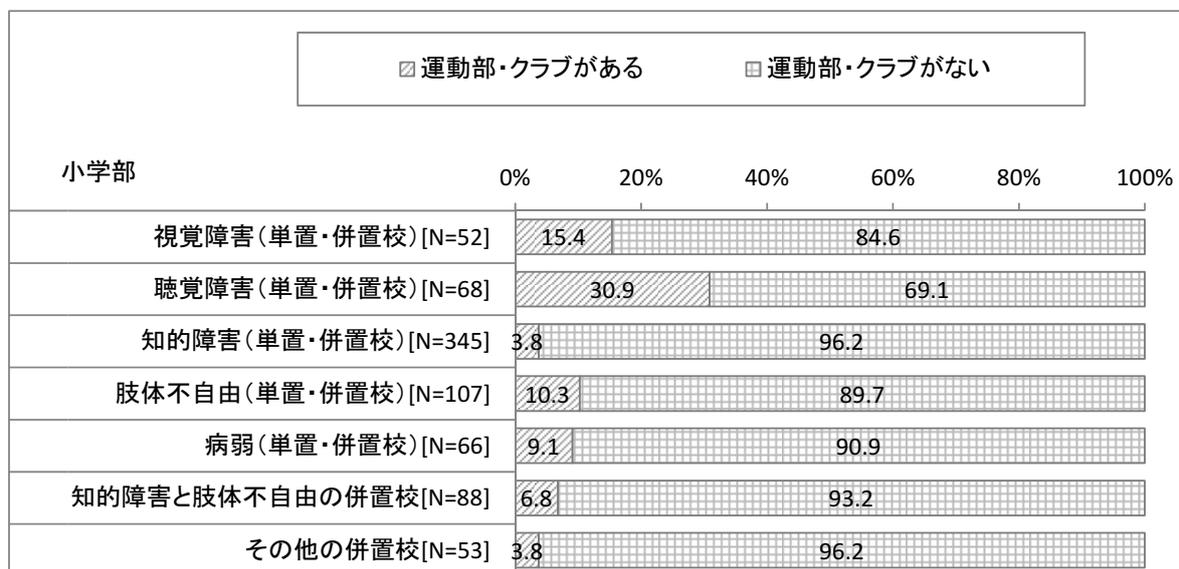
図表 2-12 運動部・クラブの有無



注)有効回答数 876 のうち、学部ごとに運動部・クラブの質問に回答した学校を対象に集計。

部別にみると、「小学部」では、「聴覚障害のみ」が約 3 割で、他に比べて割合が高かった(図表 2-13)。「中学部」では、「視覚障害のみ」「聴覚障害のみ」が 7 割以上の学校にあり、「高等部」では、「肢体不自由のみ」「病弱のみ」以外の障害種で半数を超えていた(図表 2-14、図表 2-15)。

図表 2-13 運動部・クラブの有無(小学部・障害種別)

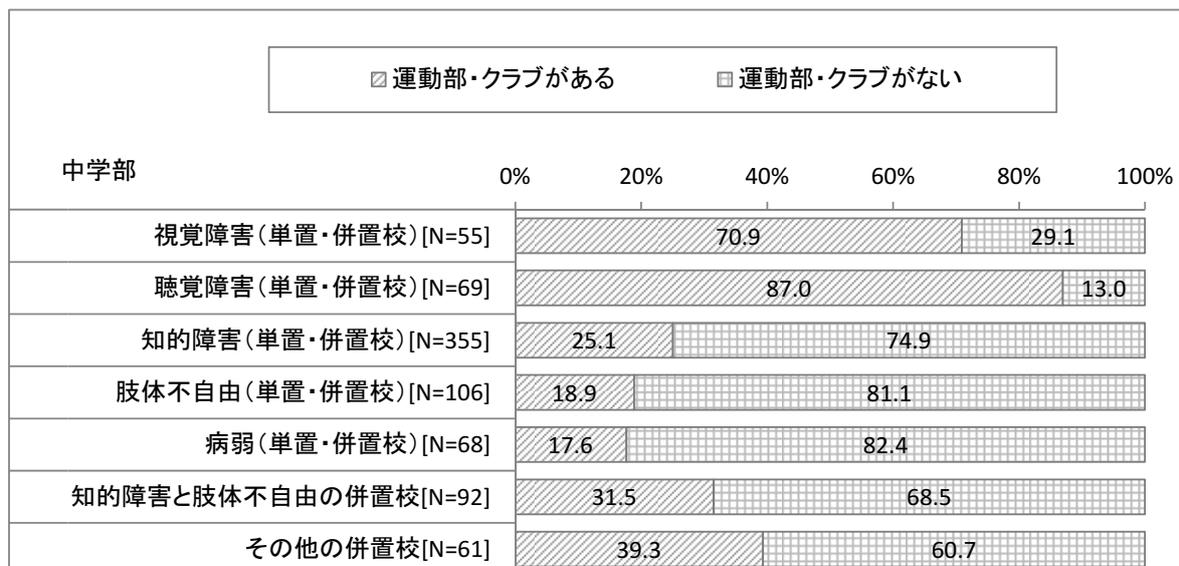


注 1)有効回答数 876 のうち、学部ごとに運動部・クラブの質問に回答した学校を対象に集計。

注 2)視覚障害(単置・併置校):単置校と併置校を合わせた、視覚障害の学校種における運動部・クラブの有無。他の障害種についても同様。

注 3)知的障害と肢体不自由の併置校:知的障害と肢体不自由合同の活動、障害種別に分かれての活動、およびいずれかひとつの障害種での活動の有無。その他の併置校についても同様。

図表 2-14 運動部・クラブの有無(中学部・障害種別)

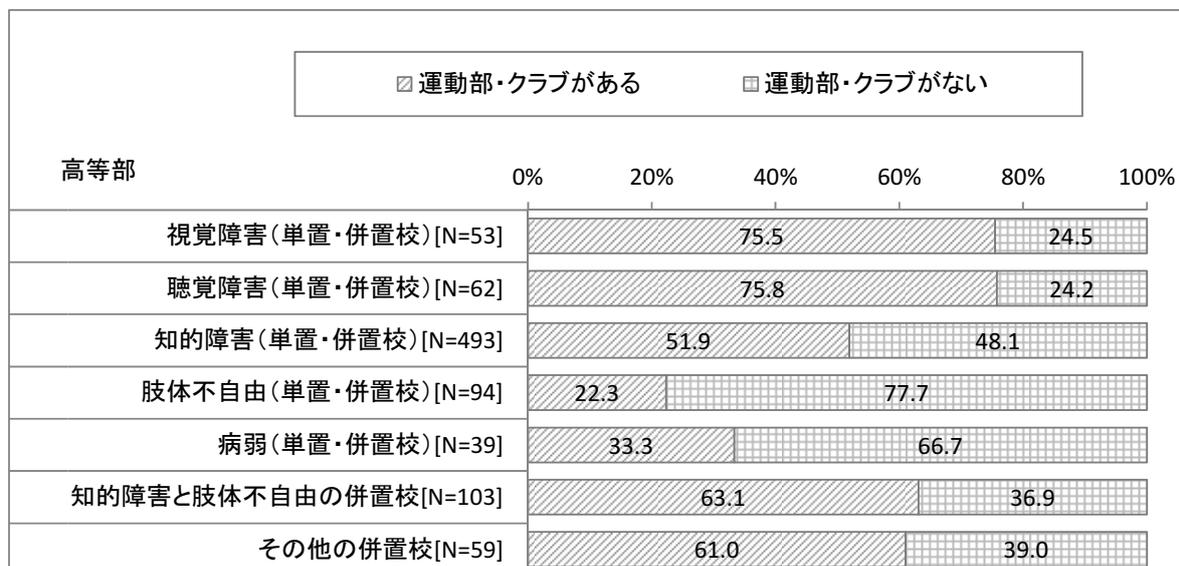


注 1) 有効回答数 876 のうち、学部ごとに運動部・クラブの質問に回答した学校を対象に集計。

注 2) 視覚障害(単置・併置校): 単置校と併置校を合わせた、視覚障害の学校種における運動部・クラブの有無。他の障害種についても同様。

注 3) 知的障害と肢体不自由の併置校: 知的障害と肢体不自由合同の活動、障害種別に分かれての活動、およびいずれかひとつの障害種での活動の有無。その他の併置校についても同様。

図表 2-15 運動部・クラブの有無(高等部・障害種別)



注 1) 有効回答数 876 のうち、学部ごとに運動部・クラブの質問に回答した学校を対象に集計。

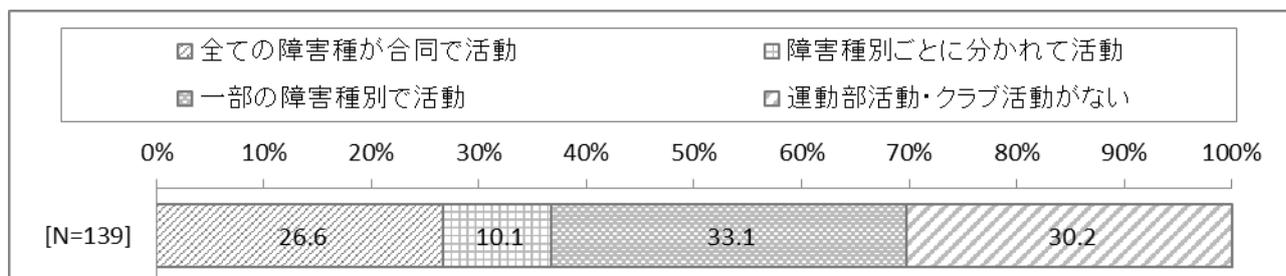
注 2) 視覚障害(単置・併置校): 単置校と併置校を合わせた、視覚障害の学校種における運動部・クラブの有無。他の障害種についても同様。

注 3) 知的障害と肢体不自由の併置校: 知的障害と肢体不自由合同の活動、障害種別に分かれての活動、およびいずれかひとつの障害種での活動の有無。その他の併置校についても同様。

(2) 併置校における運動部活動・クラブ活動の実態

複数の障害種別の幼児児童生徒がいる併置校の運動部活動・クラブ活動についてみると、すべての障害種が合同で活動している学校が 26.6%、障害種別で分かれて活動している学校が 10.1%、一部の障害種別に活動が限定されている学校が 33.1%となっており、併置校で多様な形で運動部活動・クラブ活動が行われていることがわかった(図表 2-16)。

図表 2-16 併置校の運動部活動・クラブ活動の実施状況

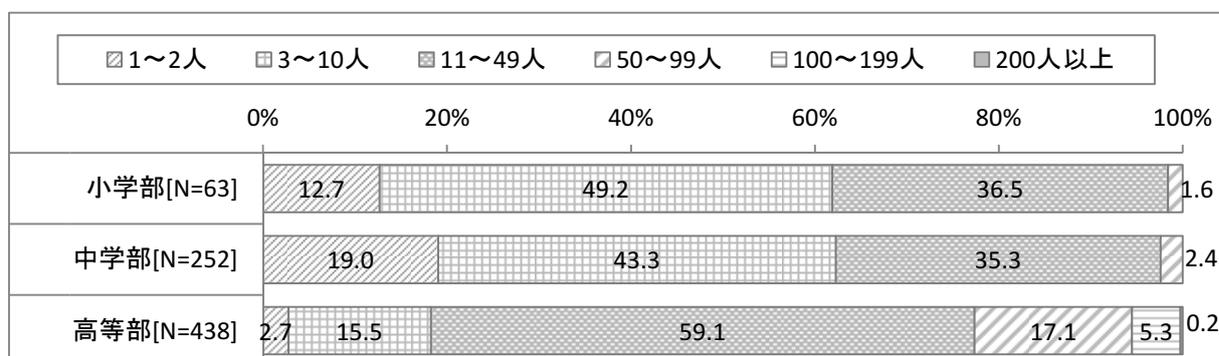


注)有効回答数 161 のうち、部活動・クラブ活動の質問に回答した 139 校による集計。

(3) 運動部活動・クラブ活動の人数

運動部・クラブの人数(延べ人数)は、「小学部」「中学部」では、10 人以下が 6 割を超え、「高等部」では「11～49 人」が約 6 割、50 人以上が約 4 分の 1 であった(図表 2-17)。

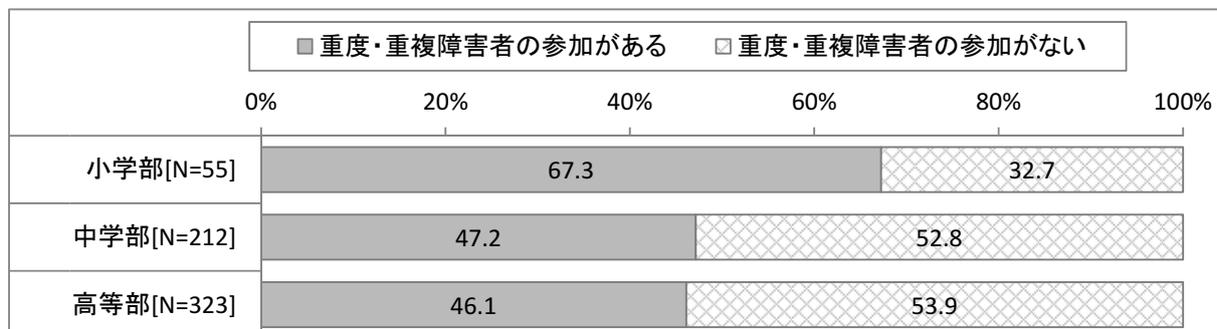
図表 2-17 運動部・クラブの人数(延べ人数)



(4) 運動部活動・クラブ活動への重度・重複障害者の参加

重度・重複障害者の運動部活動・クラブ活動への参加は、「小学部」が 67.3%であったのに対して、「中学部」「高等部」では 5 割以下であった(図表 2-18)。

図表 2-18 重度・重複障害者の参加(重度・重複障害者在籍校のみ)



注) 重度・重複障害者が在籍している学校のうち、部活動・クラブ活動を実施している学校を対象に集計。

(5) 実施種目

運動部活動・クラブ活動の実施種目は、小学部から高等部を通じて、「陸上競技」と「サッカー(ブラインドサッカーを含む)」が多く実施されていた(図表 2-19)。実施種目の上位をみると、「小学部」では、「陸上競技」(23.9%)、「サッカー(ブラインドサッカーを含む)」(22.4%)、「ドッジボール」(19.4%)であった。「中学部」では、「陸上競技」(52.4%)が過半数を占め、次いで「卓球」(30.4%)、「サッカー(ブラインドサッカーを含む)」(25.6%)であった。「高等部」では、「陸上競技」(60.7%)が 6 割を超え、「サッカー(ブラインドサッカーを含む)」(42.9%)、「バスケットボール」(39.5%)も約 4 割で実施していた。

障害種別にみると、「視覚障害のみ」では、「フロアバレーボール」「グランドソフトボール」「サウンドテーブルテニス」など、視覚障害者用の種目が上位を占めた(図表 2-20)。同様に、「肢体不自由のみ」では、「ボッチャ」「ハンドサッカー」が上位種目となった(図表 2-23)。

一般校における実施種目の上位をみると、中学校における種目別の学校数・加盟校数(公益財団法人日本中学校体育連盟・2013 年度加盟校調査集計)では、男子は 1 位「軟式野球」、2 位「バスケットボール」、3 位「サッカー」、4 位「卓球」、5 位「陸上競技」、女子は 1 位「バレーボール」、2 位「バスケットボール」、3 位「ソフトテニス」、4 位「陸上競技」、5 位「卓球」であった。高校における種目別の学校数・加盟校数(公益財団法人全国高等学校体育連盟・2013 年度加盟登録状況/公益財団法人日本高等学校野球連盟・2013 年度加盟校数)では、男子は 1 位「バスケットボール」、2 位「陸上競技」、3 位「卓球」、4 位「サッカー」、5 位「硬式野球」、女子は 1 位「バレーボール」、2 位「バスケットボール」、3 位「陸上競技」、4 位「バドミントン」、5 位「卓球」であった。中学、高校で実施される上位種目には、一般校との差はほとんどみられなかった。

図表 2-19 運動部活動・クラブ活動の実施種目(複数回答)

(%)

順位	小学部[N=67]		中学部[N=273]		高等部[N=478]	
1位	陸上競技	23.9	陸上競技	52.4	陸上競技	60.7
2位	サッカー (ブラインドサッカーを含む)	22.4	卓球	30.4	サッカー (ブラインドサッカーを含む)	42.9
3位	ドッジボール	19.4	サッカー (ブラインドサッカーを含む)	25.6	バスケットボール	39.5
4位	バドミントン	13.4	バスケットボール	17.6	卓球	33.9
5位	野球 (ティーボールを含む)		フライングディスク	16.1	フライングディスク	19.9
6位	卓球	11.9	野球 (ティーボールを含む)	11.7	バドミントン	17.8
7位	フライングディスク	10.4	バドミントン	11.4	ソフトボール	14.4
8位	ポッチャ	9.0	フロアバレーボール	10.3	野球 (ティーボールを含む)	11.7
9位	サウンドテーブルテニス	7.5	水泳	8.8	バレーボール (ソフトバレーを含む)	11.1
10位	バレーボール (ソフトバレーを含む)		バレーボール (ソフトバレーを含む)	8.1	水泳	9.6
11位	フットベースボール		グラウンドソフトボール	7.7	フットベースボール	9.2
12位	トランポリン		サウンドテーブルテニス	7.3	フロアバレーボール	6.7
13位	ハンドサッカー	6.0	フットベースボール	6.6	ポッチャ	6.1
14位	グラウンドソフトボール	4.5	ソフトボール	5.1	グラウンドソフトボール	5.9
15位	バスケットボール		ポッチャ	5.1	サウンドテーブルテニス	5.0

注) 運動部・クラブがある学校のうち、実施種目の質問に回答した学校を対象に集計。

図表 2-20 運動部活動・クラブ活動の実施種目(視覚障害のみ・複数回答)

(%)

	小学部[N=8]	中学部[N=41]	高等部[N=41]
フロアバレーボール	12.5	63.4	73.2
グランドソフトボール	37.5	48.8	68.3
サウンドテーブルテニス	62.5	48.8	56.1
陸上競技	62.5	39.0	48.8
柔道	12.5	7.3	22.0
水泳	0.0	19.5	19.5
ゴールボール	12.5	17.1	17.1
卓球	0.0	9.8	17.1
野球(ティーボールを含む)	0.0	0.0	2.4
サッカー(ブラインドサッカーを含む)	25.0	4.9	0.0
フライングディスク	0.0	2.4	0.0

図表 2-21 運動部活動・クラブ活動の実施種目(聴覚障害のみ・複数回答)

(%)

	小学部[N=21]	中学部[N=63]	高等部[N=49]
陸上競技	19.0	65.1	89.8
卓球	23.8	71.4	83.7
バレーボール(ソフトバレーを含む)	9.5	25.4	34.7
野球(ティーボールを含む)	4.8	15.9	24.5
バドミントン	33.3	17.5	20.4
サッカー(ブラインドサッカーを含む)	28.6	7.9	8.2
バスケットボール	4.8	3.2	8.2
テニス	0.0	3.2	8.2
水泳	9.5	3.2	4.1
フライングディスク	0.0	3.2	4.1
ドッジボール	33.3	0.0	0.0
ソフトボール	9.5	0.0	0.0
フットベースボール	9.5	0.0	0.0

図表 2-22 運動部活動・クラブ活動の実施種目(知的障害のみ・複数回答)

(%)

	小学部[N=16]	中学部[N=106]	高等部[N=294]
陸上競技	25.0	52.8	61.9
サッカー(ブラインドサッカーを含む)	25.0	47.2	59.5
バスケットボール	0.0	31.1	56.1
卓球	0.0	18.9	31.0
フライングディスク	31.3	25.5	23.5
バドミントン	0.0	11.3	19.7
ソフトボール	0.0	8.5	19.4
フットベースボール	6.3	13.2	12.6
バレーボール(ソフトバレーを含む)	0.0	1.9	10.2
野球(ティーボールを含む)	18.8	9.4	9.5
水泳	0.0	11.3	9.2
ドッジボール	6.3	7.5	4.8
ポッチャ	0.0	1.9	4.1
グラウンド・ゴルフ	6.3	6.6	3.7
テニス	0.0	0.9	3.7
剣道	0.0	0.9	1.0
卓球/バレー	0.0	0.0	1.0
ハンドサッカー	0.0	0.9	0.7
柔道	0.0	0.0	0.3
グランドソフトボール	0.0	0.9	0.0

図表 2-23 運動部活動・クラブ活動の実施種目(肢体不自由のみ・複数回答)

(%)

	小学部[N=11]	中学部[N=21]	高等部[N=26]
陸上競技	18.2	66.7	65.4
ポッチャ	45.5	52.4	53.8
ハンドサッカー	36.4	52.4	50.0
フライングディスク	9.1	28.6	30.8
野球(ティーボールを含む)	27.3	23.8	15.4
卓球バレー	9.1	9.5	11.5
水泳	0.0	4.8	11.5
バレーボール(ソフトバレーを含む)	18.2	9.5	3.8
アーチェリー	9.1	4.8	3.8
サッカー(ブラインドサッカーを含む)	9.1	4.8	3.8
卓球	9.1	4.8	3.8
バスケットボール	9.1	4.8	3.8
グラウンド・ゴルフ	0.0	4.8	3.8
車椅子バスケットボール	0.0	4.8	3.8
フットベースボール	0.0	4.8	3.8
フロアバレーボール	0.0	4.8	3.8
バドミントン	0.0	0.0	3.8
ドッジボール	9.1	0.0	0.0

図表 2-24 運動部活動・クラブ活動の実施種目(病弱のみ・複数回答)

(%)

	小学部[N=6]	中学部[N=12]	高等部[N=14]
バドミントン	33.3	41.7	50.0
バスケットボール	16.7	41.7	42.9
フライングディスク	16.7	33.3	28.6
サッカー(ブラインドサッカーを含む)	33.3	16.7	28.6
卓球	33.3	33.3	21.4
野球(ティーボールを含む)	33.3	16.7	21.4
バレーボール(ソフトバレーを含む)	0.0	16.7	21.4
陸上競技	0.0	25.0	7.1
ドッジボール	50.0	8.3	7.1
フロアバレーボール	0.0	8.3	7.1
フットベースボール	0.0	0.0	7.1
ポッチャ	0.0	0.0	7.1

図表 2-25 運動部活動・クラブ活動の実施種目(知的障害と肢体不自由が合同・複数回答)

(%)

	小学部[N=5]	中学部[N=24]	高等部[N=48]
陸上競技	20.0	37.5	37.5
サッカー(ブラインドサッカーを含む)	0.0	20.8	29.2
卓球	0.0	12.5	22.9
フライングディスク	0.0	8.3	18.8
ソフトボール	0.0	4.2	14.6
野球(ティーボールを含む)	0.0	12.5	12.5
卓球バレー	0.0	8.3	12.5
バスケットボール	0.0	8.3	12.5
フットベースボール	20.0	8.3	8.3
水泳	0.0	4.2	8.3
バドミントン	0.0	0.0	6.3
グラウンド・ゴルフ	0.0	8.3	4.2
ドッジボール	20.0	4.2	2.1
剣道	0.0	4.2	2.1
ポッチャ	0.0	4.2	2.1
バレーボール(ソフトバレーを含む)	20.0	0.0	2.1
テニス	0.0	0.0	2.1

図表 2-26 運動部活動・クラブ活動の実施種目(その他複数の障害種が合同・複数回答)

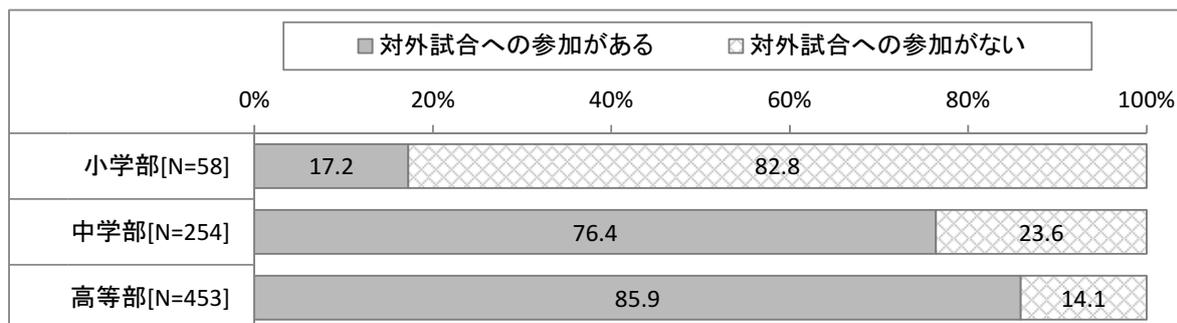
(%)

	小学部[N=1]	中学部[N=13]	高等部[N=18]
卓球	0.0	46.2	44.4
陸上競技	0.0	30.8	44.4
サッカー(ブラインドサッカーを含む)	0.0	38.5	38.9
バスケットボール	0.0	38.5	38.9
バドミントン	0.0	23.1	33.3
ソフトボール	0.0	30.8	27.8
フライングディスク	0.0	15.4	16.7
車椅子バスケットボール	0.0	15.4	11.1
野球(ティーボールを含む)	0.0	15.4	11.1
卓球バレー	0.0	7.7	11.1
水泳	0.0	0.0	11.1
フットベースボール	100.0	7.7	5.6
テニス	0.0	7.7	5.6
ポッチャ	100.0	0.0	5.6
サウンドテーブルテニス	0.0	0.0	5.6
バレーボール(ソフトバレーを含む)	0.0	0.0	5.6

(6) 対外試合への参加

運動部活動・クラブ活動の対外試合への参加率は、「小学部」が 17.2%、「中学部」が 76.4%、「高等部」が 85.9%と、年代が上がるにつれて高くなっている(図表 2-27)。障害種別にみると、「視覚障害のみ」「聴覚障害のみ」では、「中学部」から対外試合への参加が 9 割を超えており、「知的障害のみ」も、「高等部」で 9 割を超えていた(図表 2-28)。

図表 2-27 運動部活動・クラブ活動の対外試合への参加状況



注)運動部・クラブがある学校のうち、対外試合への参加状況の質問に回答した学校を対象に集計。

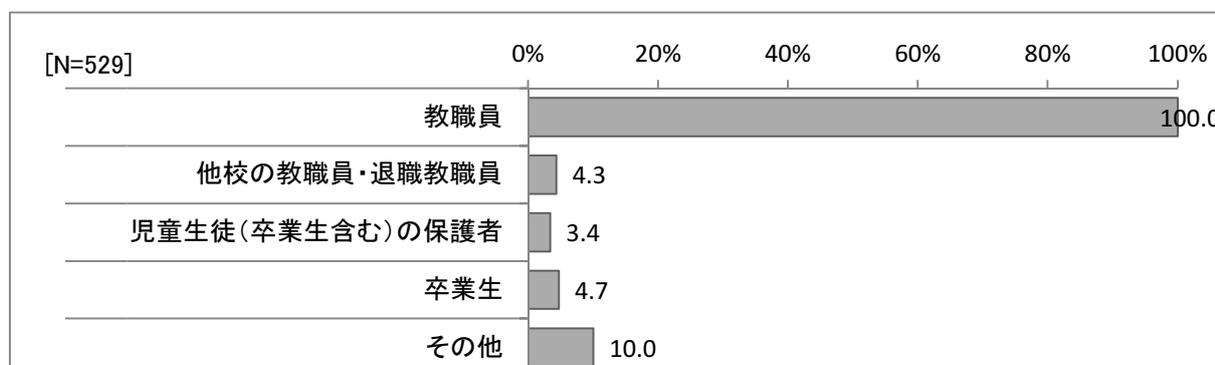
図表 2-28 運動部活動・クラブ活動の対外試合への参加(障害種別)

障害種別	小学部		中学部		高等部	
	N	参加率(%)	N	参加率(%)	N	参加率(%)
視覚障害のみ	8	50.0	33	93.9	35	94.3
聴覚障害のみ	14	21.4	59	96.6	46	97.8
知的障害のみ	12	8.3	78	70.5	235	91.5
肢体不自由のみ	10	10.0	20	65.0	21	81.0
病弱のみ	5	0.0	12	33.3	12	41.7
知的障害と肢体不自由が合同	7	14.3	30	63.3	70	72.9
その他複数の障害種が合同	2	0.0	22	68.2	34	67.6

(7) 指導者、サポートスタッフ

運動部活動・クラブ活動の指導者、サポートスタッフとして、すべての学校が「教職員」と回答した。「その他」(10.0%)の大部分は、外部指導者であった(図表 2-29)。

図表 2-29 運動部活動・クラブ活動の指導者、サポートスタッフ(複数回答)

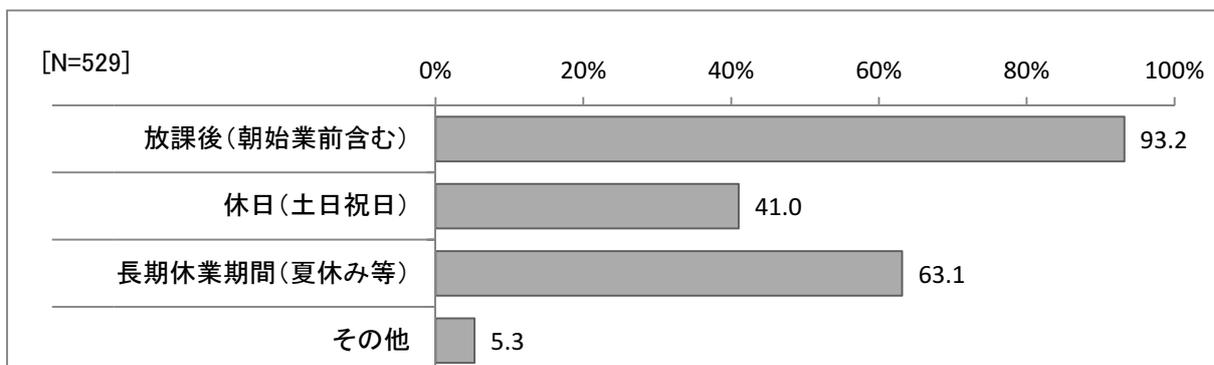


注)運動部・クラブがある学校のうち、指導者、サポートスタッフの質問に回答した 529 校を対象に集計。

(8) 活動時間

運動部活動・クラブ活動の活動時間は、「放課後(朝始業前含む)」が 93.2%、「長期休業期間(夏休み等)」が 63.1%、「休日(土日祝日)」が 41.0%であった(図表 2-30)。障害種別にみると、「肢体不自由(単置)」を除く全ての障害種で、「放課後(朝始業前含む)」が約 9 割であった(図表 2-31)。また、「聴覚障害(単置)」では、どの活動時間においても、他と比べて実施の割合が高かった。

図表 2-30 運動部活動・クラブ活動の活動時間(複数回答)



注)運動部・クラブがある学校のうち、活動時間の質問に回答した 529 校を対象に集計。

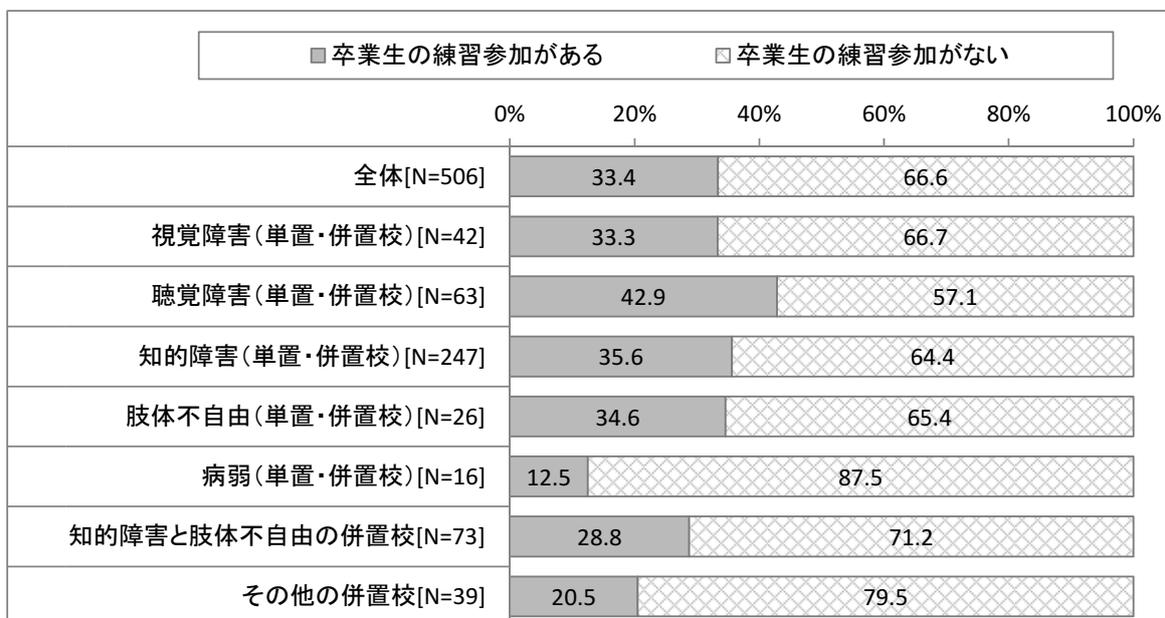
図表 2-31 運動部活動・クラブ活動の活動時間(障害種別・複数回答)

	(%)						
	視覚障害 (単置)	聴覚障害 (単置)	知的障害 (単置)	肢体不自由 (単置)	病弱 (単置)	知的障害 + 肢体不自由 (併置)	その他の複数障害 (併置)
	N=44	N=66	N=258	N=27	N=16	N=77	N=39
放課後(朝始業前含む)	97.7	97.0	94.6	59.3	100.0	92.2	100.0
休日(土日祝日)	29.5	72.7	41.9	48.1	0.0	31.2	28.2
長期休業期間(夏休み等)	43.2	86.4	71.7	25.9	25.0	48.1	64.1
その他	4.5	6.1	4.3	22.2	0.0	3.9	5.1

(9) 卒業生の練習参加

運動部活動・クラブ活動の卒業生の練習参加は、全体が約3割であった(図表2-32)。障害種別にみると、「聴覚障害のみ」が4割を超えていた。特別支援学校の運動部活動・クラブ活動が、卒業生の運動・スポーツ活動の場にもなっていることがわかった。

図表 2-32 運動部活動・クラブ活動における卒業生の練習参加状況



注 1)有効回答数 876 のうち、学部ごとに運動部・クラブの質問に回答した学校を対象に集計。

注 2)視覚障害(単置・併置校):単置校と併置校を合わせた、視覚障害の学校種における運動部・クラブの有無。他の障害種についても同様。

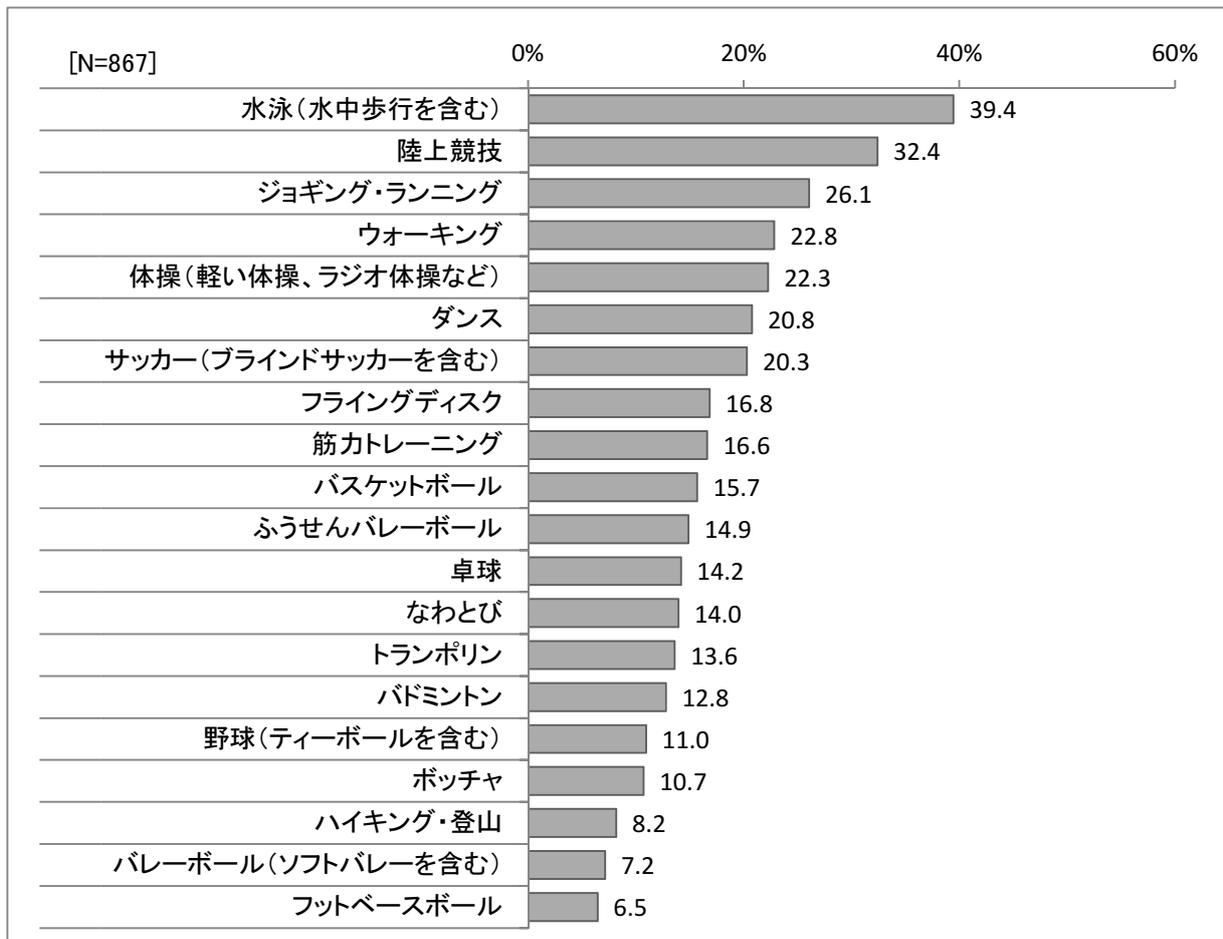
注 3)知的障害と肢体不自由の併置校:知的障害と肢体不自由合同の活動、障害種別に分かれての活動、およびいずれかひとつの障害種での活動の有無。その他の併置校についても同様。

2. 4 体育の授業、運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ

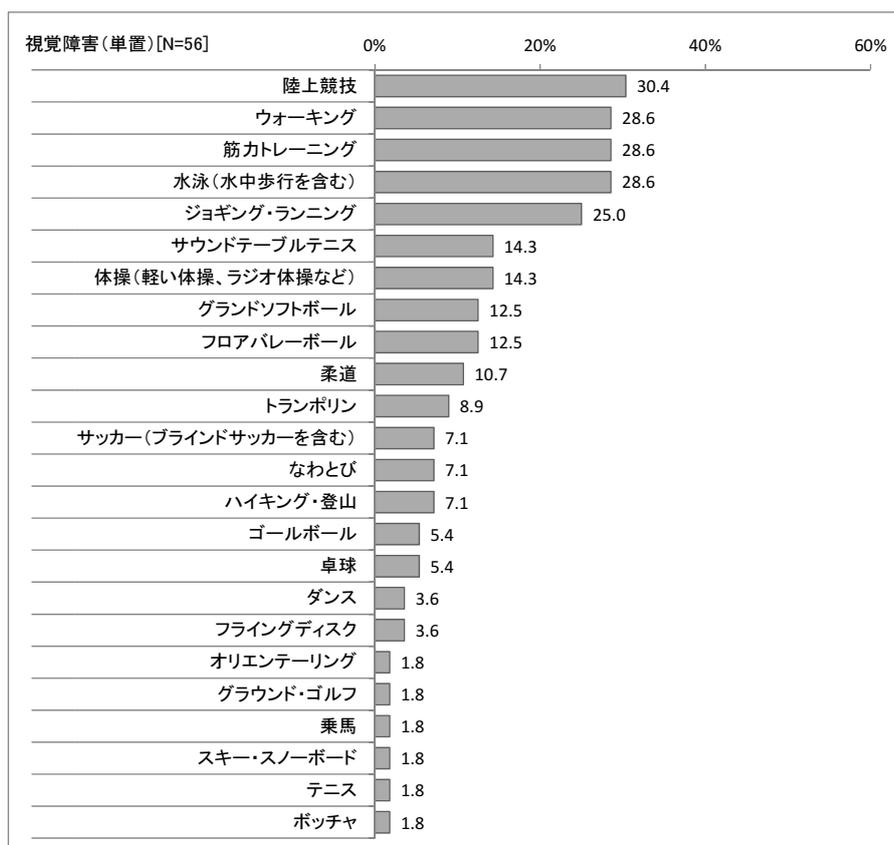
体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外で幼児児童生徒が行っている運動・スポーツは、「水泳(水中歩行を含む)」(39.4%)が最も多く、次いで「陸上競技」(32.4%)、「ジョギング・ランニング」(26.1%)、「ウォーキング」(22.8%)、「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」(22.3%)であった(図表 2-33)。

障害種別にみると、「視覚障害(単置)」では、「サウンドテーブルテニス」(14.3%)、「グランドソフトボール」(12.5%)、「フロアバレーボール」(12.5%)など、視覚障害者用の種目が上位に挙げられた(図表 2-34)。同様に、「肢体不自由(単置)」では、「ふうせんバレーボール」(29.1%)、「ボッチャ」(25.2%)が、「病弱(単置)」では、「バドミントン」(21.9%)が上位種目となった(図表 2-37、図表 2-38)。

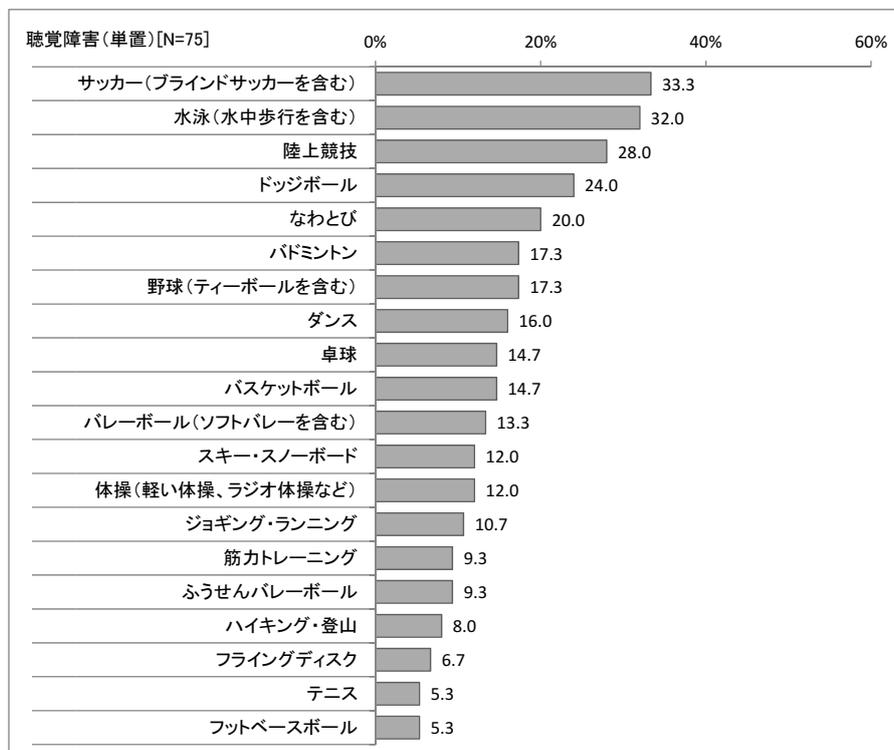
図表 2-33 体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ(複数回答・上位 20 種目)



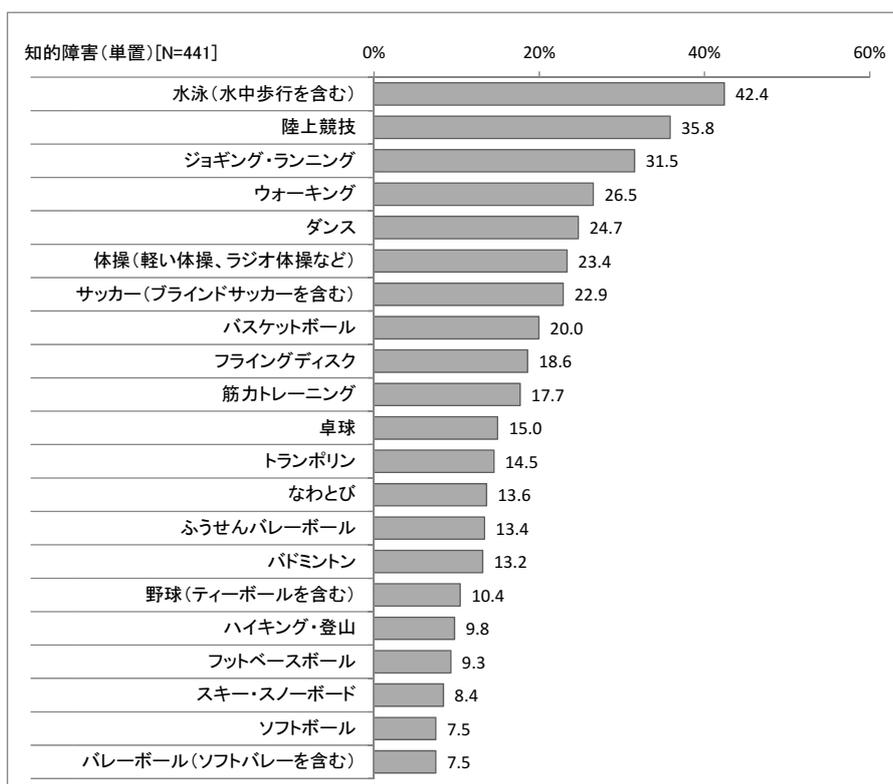
図表 2-34 体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ
(視覚障害(単置)・上位 20 種目)



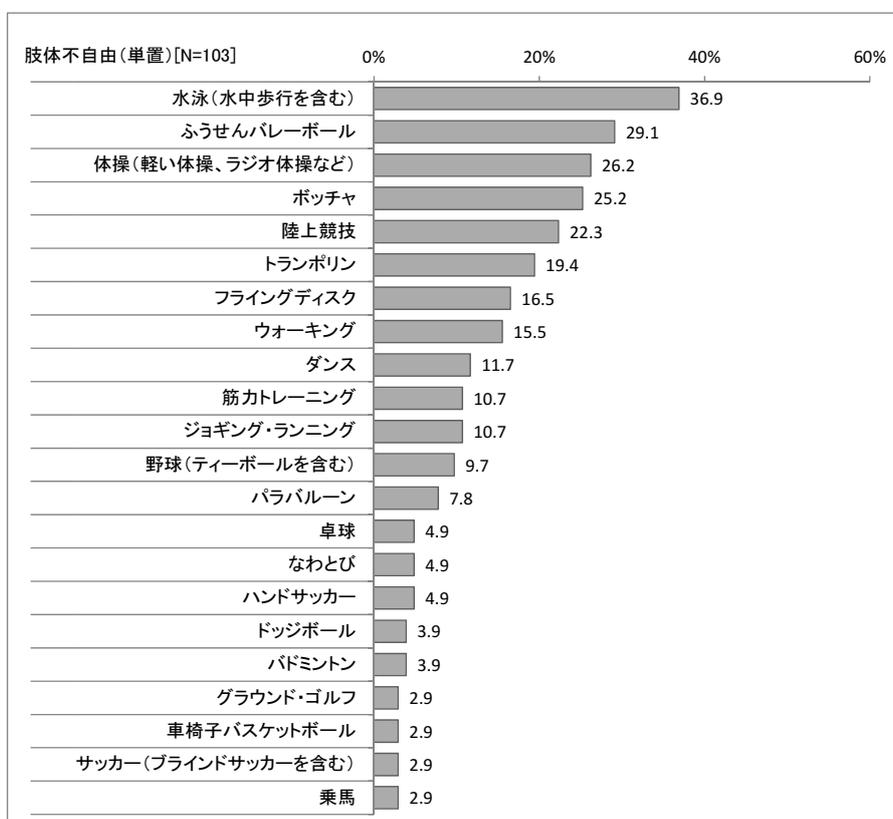
図表 2-35 体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ
(聴覚障害(単置)・上位 20 種目)



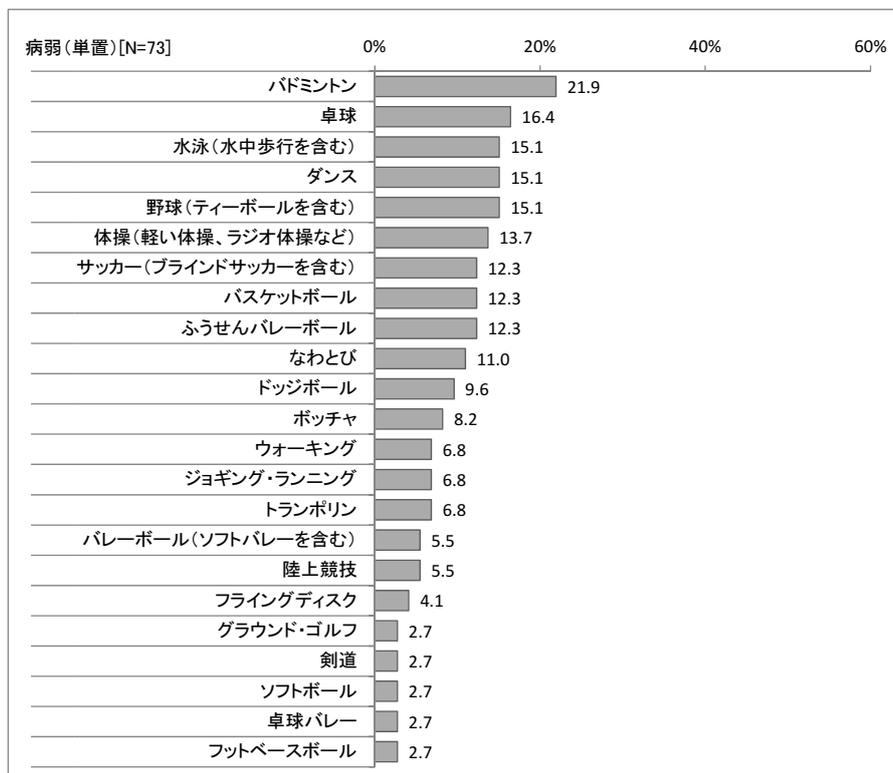
図表 2-36 体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ
(知的障害(単置)・上位 20 種目)



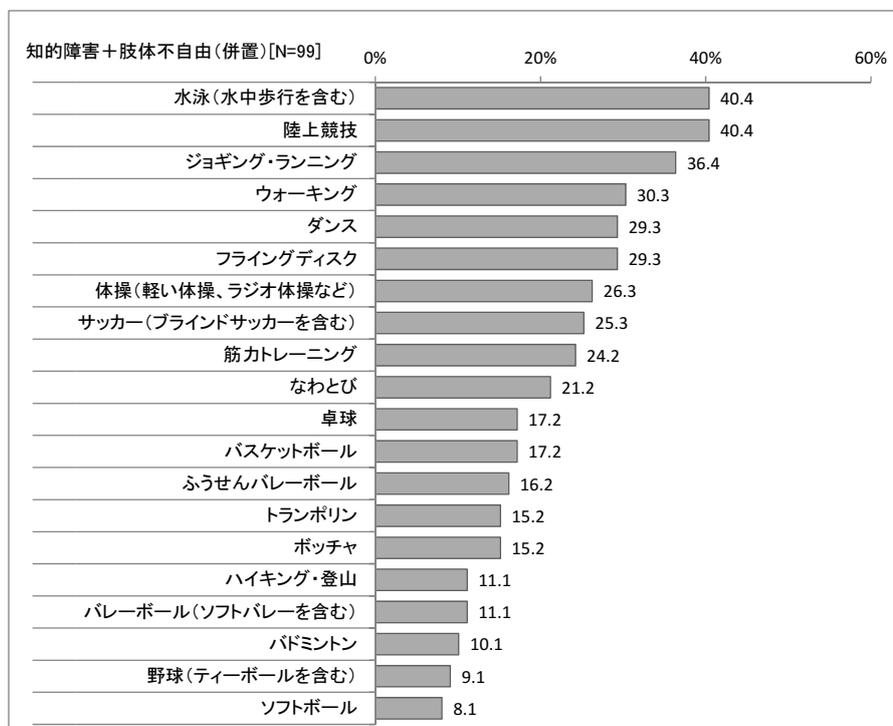
図表 2-37 体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ
(肢体不自由(単置)・上位 20 種目)



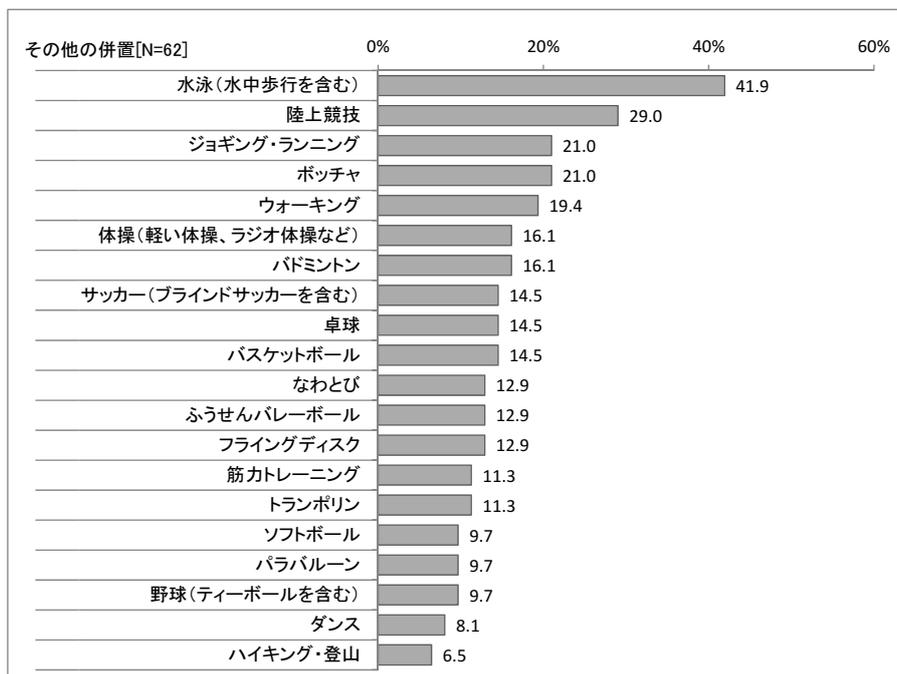
図表 2-38 体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ
(病弱(単置)・上位 20 種目)



図表 2-39 体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ
(知的障害+肢体不自由(併置)・上位 20 種目)



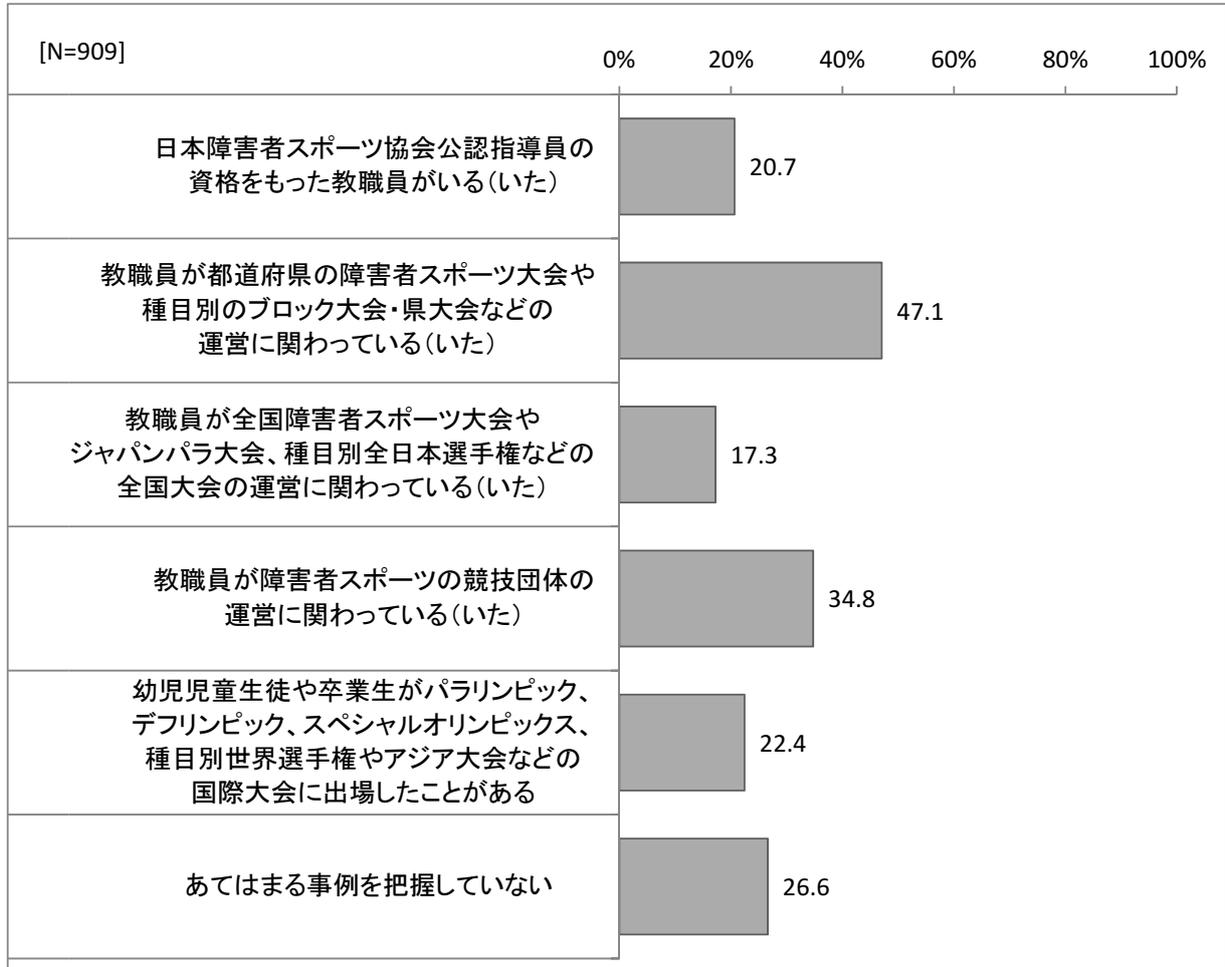
図表 2-40 体育の授業や運動部活動・クラブ活動以外に行っているスポーツ
(その他の複数障害(併置)・上位 20 種目)



2. 5 教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わり

教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わりについてみると、「教職員が都道府県の障害者スポーツ大会や種目別のブロック大会・県大会などの運営に関わっている(いた)」が約 5 割、「教職員が障害者スポーツの競技団体の運営に関わっている(いた)」が約 3 割であった(図表 2-41)。

図表 2-41 教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わり(複数回答)



障害種別にみると、「視覚障害(単置)」「聴覚障害(単置)」において、教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わりについて、「幼児児童生徒や卒業生がパラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックス、種目別世界選手権やアジア大会などの国際大会に出場したことがある」が半数を超えていた(図表 2-42)。

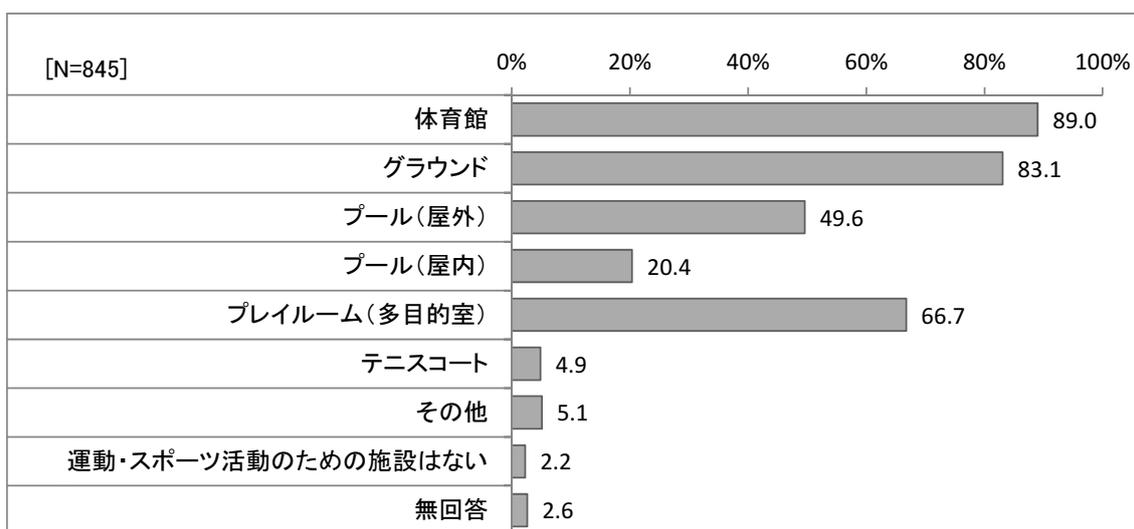
図表 2-42 教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わり(障害種別・複数回答)

	(%)						
	視覚障害 (単置)	聴覚障害 (単置)	知的障害 (単置)	肢体不自由 (単置)	病弱 (単置)	知的障害＋肢体不自由 (併置)	その他の複数障害 (併置)
	N=56	N=75	N=441	N=103	N=73	N=99	N=62
日本障害者スポーツ協会公認指導員の資格をもった教職員がいる(いた)	26.8	13.3	20.0	24.3	9.6	31.3	19.4
教職員が都道府県の障害者スポーツ大会や種目別のブロック大会・県大会などの運営に関わっている(いた)	51.8	42.7	52.6	38.8	23.3	54.5	38.7
教職員が全国障害者スポーツ大会やジャパンパラ大会、種目別全日本選手権などの全国大会の運営に関わっている(いた)	23.2	25.3	16.8	16.5	6.8	16.2	21.0
教職員が障害者スポーツの競技団体の運営に関わっている(いた)	41.1	37.3	38.8	26.2	13.7	39.4	29.0
幼児児童生徒や卒業生がパラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックス、種目別世界選手権やアジア大会などの国際大会に出場したことがある	53.6	58.7	21.1	6.8	1.4	16.2	21.0
あてはまる事例を把握していない	14.3	18.7	24.5	39.8	41.1	23.2	29.0

2. 6 運動・スポーツ活動のための施設

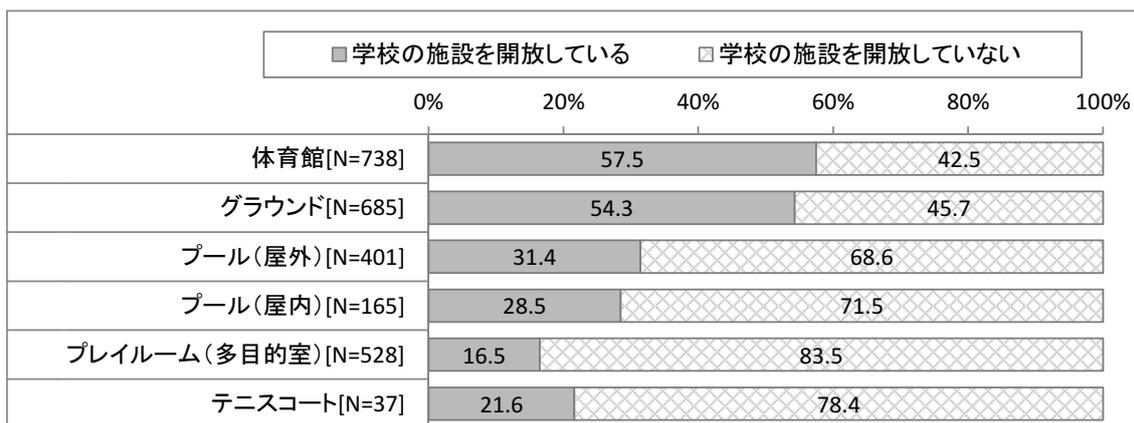
運動・スポーツ活動のための施設は、「体育館」(89.0%)が最も多く、次いで「グラウンド」(83.1%)、「プレイルーム(多目的室)」(66.7%)であった(図表 2-43)。「その他」(5.1%)はトレーニングルーム、柔剣道場(柔道場、剣道場を含む)などであった。

図表 2-43 学校にある運動・スポーツ活動のための施設(複数回答)



保有している学校体育施設の開放状況を見ると、「体育館」が 57.5%で最も高く、次いで「グラウンド」(54.3%)、「プール(屋外)」(31.4%)であった(図表 2-44)。

図表 2-44 学校体育施設の自校の幼児児童生徒以外への開放状況

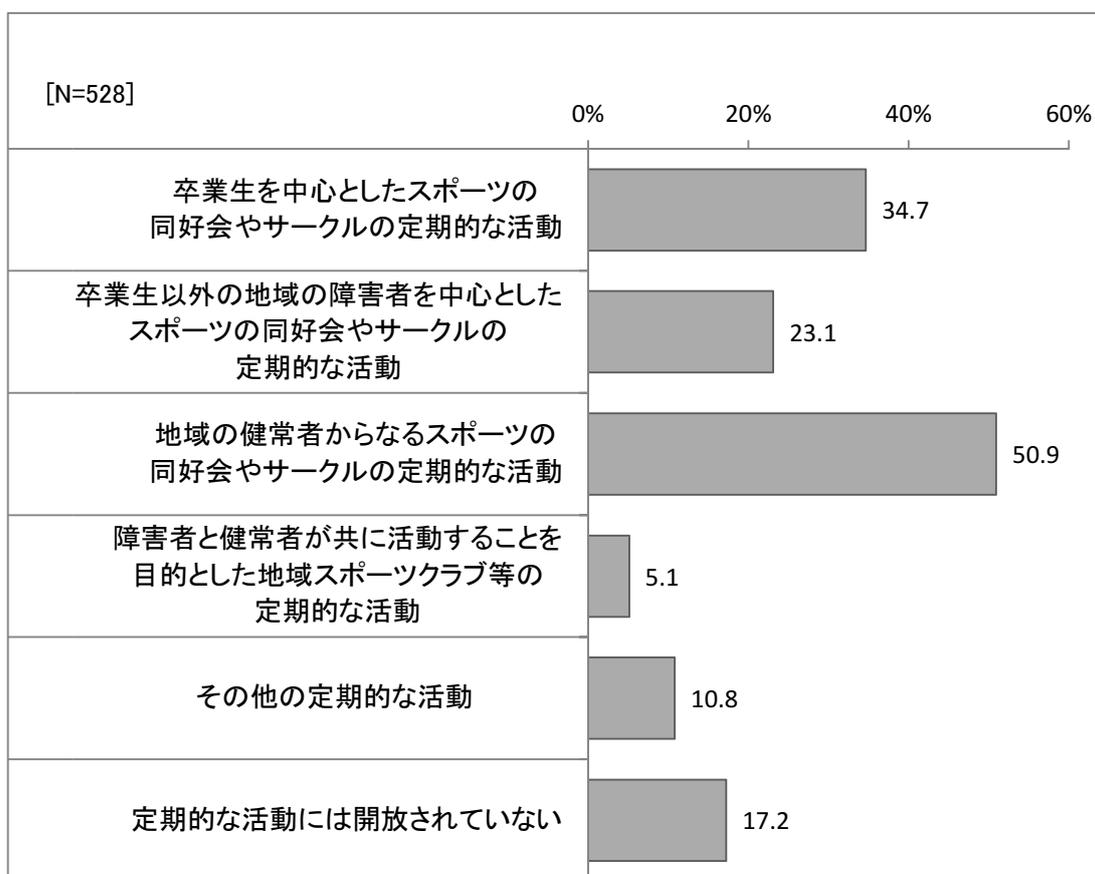


2. 7 学校開放施設で行われている活動

学校開放施設で行われている活動は、「地域の健常者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が約 5 割、「卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が約 3 割、「卒業生以外の地域の障害者を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が約 2 割であった(図表 2-45)。また、「その他の定期的な活動」(10.8%)は、PTA 主催のスポーツ活動や隣接する病院や福祉施設の運動・スポーツ活動であった。

なお、『定期的な活動』の中には、生活学習、趣味、スポーツ活動を通じて、生活の充実を図ることを目的とした『青年学級』など、年数回程度の活動も含まれていると推察される。

図表 2-45 学校開放施設で行われている活動(複数回答)



障害種別に学校開放施設で行われている活動についてみると、「視覚障害(単置)」の「卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が約6割と積極的に行われていることがわかった(図表2-46)。

図表 2-46 学校開放施設で行われている活動(障害種別)(複数回答)

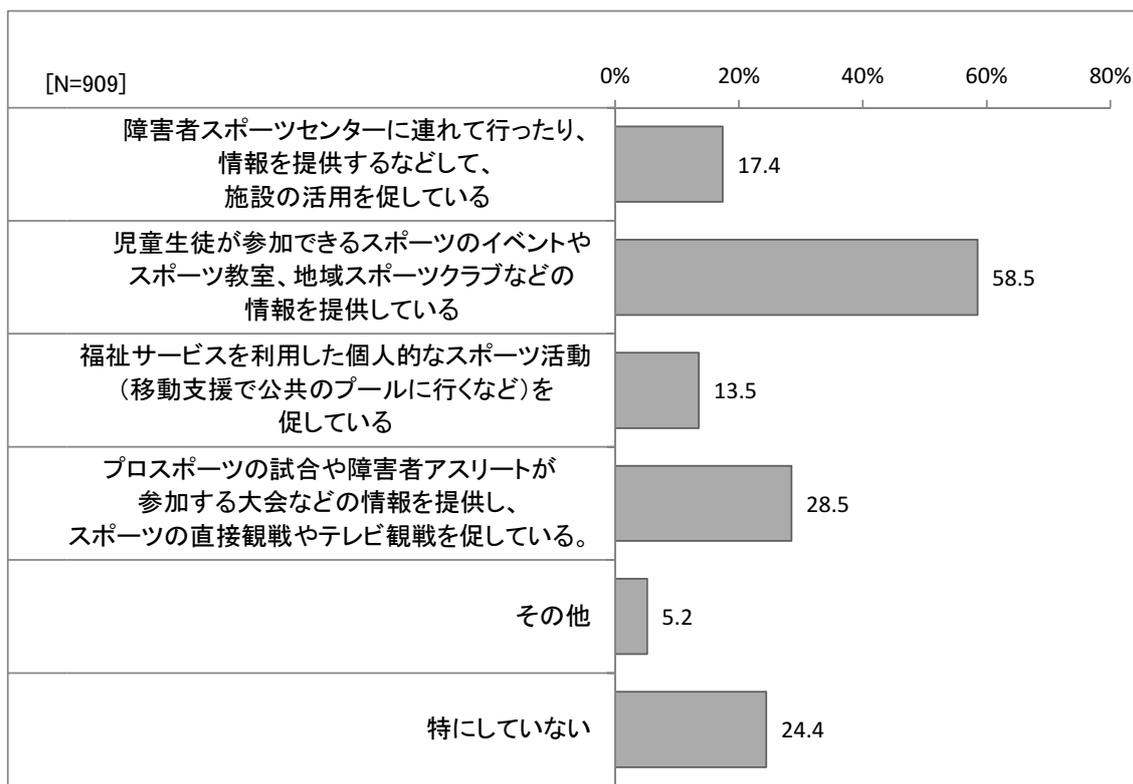
(%)

	視覚障害 (単置)	聴覚障害 (単置)	知的障害 (単置)	肢体不自由 (単置)	病弱 (単置)	知的障害＋肢体不自由 (併置)	その他の複数障害 (併置)
	N=42	N=48	N=264	N=55	N=18	N=61	N=40
卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動	57.1	33.3	34.1	27.3	11.1	41.0	27.5
卒業生以外の地域の障害者を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動	23.8	25.0	23.9	29.1	11.1	23.0	12.5
地域の健全者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動	64.3	66.7	47.7	40.0	61.1	44.3	60.0
障害者と健全者が共に活動することを目的とした地域スポーツクラブ等の定期的な活動	2.4	4.2	5.7	5.5	0.0	9.8	0.0
その他の定期的な活動	0.0	6.3	12.1	12.7	11.1	9.8	17.5
定期的な活動には開放されていない	9.5	14.6	18.6	21.8	11.1	14.8	20.0

2. 8 児童生徒の学外および卒業後の自主的なスポーツ活動の充実につながる配慮

児童生徒の学外および卒業後の自主的なスポーツ活動の充実につながる配慮についてみると、「児童生徒が参加できるスポーツのイベントやスポーツ教室、地域スポーツクラブなどの情報を提供している」が 58.5%で最も多く、「プロスポーツの試合や障害者アスリートが参加する大会などの情報を提供し、スポーツの直接観戦やテレビ観戦を促している」が 28.5%であった(図表 2-47)。「その他」(5.2%)は、プロアスリートとの交流、卒業後を見越したスポーツ活動の充実などであった。また、「特にしていない」も約 4 分の 1 あった。

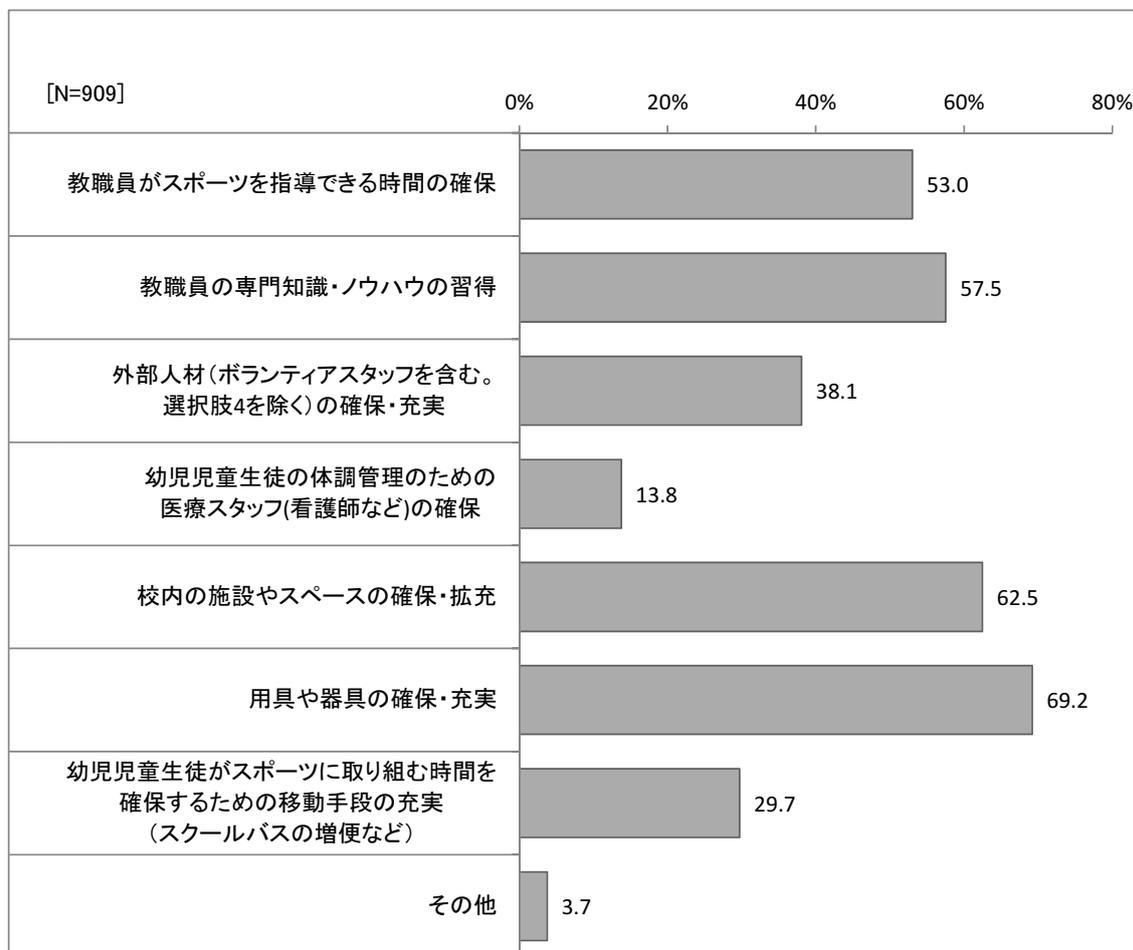
図表 2-47 児童生徒の学外および卒業後の自主的なスポーツ活動の充実につながる配慮
(複数回答)



2.9 スポーツ活動を充実させるための重要な取り組み

幼児児童生徒のスポーツ活動を充実させるための重要な取り組みとしては、「用具や器具の確保・充実」が69.2%と最も多く、次いで「校内の施設やスペースの確保・拡充」(62.5%)、「教職員の専門知識・ノウハウの習得」(57.5%)、「教職員がスポーツを指導できる時間の確保」(53.0%)であった(図表 2-48)。

図表 2-48 スポーツ活動を充実させるための重要な取り組み(複数回答)



障害種別に幼児児童生徒のスポーツ活動を充実させるために重要な取り組みについてみると、「視覚障害(単置)」「聴覚障害(単置)」では、「教職員の専門知識・ノウハウの習得」「用具や器具の確保・充実」が7割以上であった(図表 2-49)。また、「肢体不自由(単置)」では、「幼児児童生徒がスポーツに取り組む時間を確保するための移動手段の充実(スクールバスの増便など)」が約4割、「幼児児童生徒の体調管理のための医療スタッフ(看護師など)の確保」が約3割と、他と比べて割合が高かった。

図表 2-49 スポーツ活動を充実させるために重要な取り組み(複数回答)

	(%)						
	視覚障害 (単置)	聴覚障害 (単置)	知的障害 (単置)	肢体不自由 (単置)	病弱 (単置)	知的障害＋肢体不自由 (併置)	その他の複数障害 (併置)
	N=56	N=75	N=441	N=103	N=73	N=99	N=62
教職員がスポーツを指導できる時間の確保	64.3	70.7	54.4	36.9	28.8	63.6	50.0
教職員の専門知識・ノウハウの習得	75.0	73.3	54.2	58.3	52.1	54.5	56.5
外部人材(ボランティアスタッフを含む。選択肢4を除く)の確保・充実	32.1	42.7	41.0	34.0	20.5	43.4	35.5
幼児児童生徒の体調管理のための医療スタッフ(看護師など)の確保	5.4	5.3	9.8	32.0	21.9	15.2	17.7
校内の施設やスペースの確保・拡充	48.2	53.3	68.9	54.4	56.2	63.6	59.7
用具や器具の確保・充実	71.4	76.0	71.2	66.0	53.4	68.7	69.4
幼児児童生徒がスポーツに取り組む時間を確保するための移動手段の充実(スクールバスの増便など)	25.0	28.0	27.0	39.8	19.2	35.4	41.9
その他	5.4	4.0	2.7	5.8	4.1	6.1	1.6

3. 調査結果(事例調査)

全国の特別支援学校における部活動・クラブ活動の状況や学校体育施設の状況、学校体育施設を拠点とした障害者のスポーツ活動状況などを明らかにするために、特徴的な学校に事例ヒアリング調査を行った。

図表 2-50 事例調査で対象とした特別支援学校

自治体名	学校名	学校種区分	学級実態	特徴
東京都	東京都立 清瀬特別支援学校	知的障害 (単置校)	小学部 中学部 高等部	運動部活動に参加できない重度・重複障害の生徒にもスポーツの機会を提供 生徒と卒業生と一緒に活動するサークルで大会に参加 夏季休業中のプールに加えて、体育館やグラウンドも地域に開放
石川県	石川県立 いしかわ特別支援学校	知的障害 肢体不自由 (併置校)	小学部 中学部 高等部	知的障害、肢体不自由の生徒が、合同で運動部活動・サークル活動を実施 卒業後の生涯スポーツにつながる指導で生徒の自立心を育成 隣接する医療センターの子供たちに体育施設を開放
滋賀県	滋賀県立 甲南高等養護学校	知的障害 (単置校)	高等部	同じ敷地内の一般校と合同部活動を実施 一般校と養護学校の顧問教員の綿密な連携体制 合同部活動が健常者の障害理解と障害者の社会性の向上の場に

東京都立清瀬特別支援学校

運動部活動に参加できない重度・重複障害の生徒にもスポーツの機会を提供

児童生徒と卒業生と一緒に活動するサークルで大会にも参加

夏季休業中のプールに加えて、体育館やグラウンドも地域に開放

1. プロフィール

(1) 設立経緯

知的障害のある児童生徒のための学校として1979年に開校した。小学部・中学部・高等部の三学部を設置し、豊かな地域生活を見通した指導と移行支援を実現する学校づくりを目指し、「自己選択・自己決定」「社会参加・自立」をキーワードに教育活動を展開している。

(2) 児童生徒数

小学部 90 人、中学部 84 人、高等部 158 人で児童生徒総数は 332 人である。

2. 運動部活動の現状

(1) 目的

運動部活動は、生活指導をはじめ、チームワークを培い、チーム内における自己の役割を認識するうえで効果的である。部活動を通して、集団における規範意識の向上、他者との関わり方等、社会性を身に付けることを目的としている。

(2) 実施種目・部員数

高等部の生徒を対象にしている。男子は、種目別では人数不足で活動が継続できないため、「男子運動部」として複数の種目を実施している。女子は、生徒数が少ないため、定期的に大会参加が可能なバスケットボールに特化した「女子バスケットボール部」を設置している。部活動への参加条件として、自力通学、帰着連絡、緊急時の対応ができる生徒を対象としている。

(3) 運営体制

バスケットボールとサッカーの指導体制は、有資格者の教員を含め、複数の担当教員で対応している。バスケットボールの指導は全国障害者スポーツ大会のバスケットボールの審判を務める教員を中心に行っている。人事異動にも対応できるように、若手教員を中心に資格の取得を推奨している。毎年行われる「男子運動部」の夏合宿には、指導担当者の高等部の教員に加えて、小学部、中学部の教員が有志で参加サポートをしている。大会前には、近隣の特別支援学校との合同練習や練習試合を通して、交流を図っている。



図表 2-51 清瀬特別支援学校の部活動の詳細

部名	男子運動部		
種目	サッカー	ソフトボール ティーボール	バスケットボール
実施時期	2月～7月	7月～10月	10月～2月
参加人数	30人(高等部)		
担当教員数	4人		
活動日	月、金曜日の15:30～18:00、水曜日の14:30～15:30		
活動場所	グラウンド	グラウンド	体育館
出場大会	東京都障害者スポーツ大会 サッカー王選手権大会	特体連ソフトボール大会 特体連ティーボール大会	東京ゆうあいバスケットボール大会 特体連バスケットボール大会

部名	女子バスケットボール部		
種目	バスケットボール		
実施時期	通年		
参加人数	15人(高等部)		
担当教員数	3人		
活動日	月、金曜日の15:30～18:00、水曜日の14:30～15:30		
活動場所	体育館		
出場大会	東京都障害者スポーツ大会 東京ゆうあいバスケットボール大会 特体連バスケットボール大会		

注)特体連は、全国特別支援学校体育連盟の略称。

(4) その他

運動部活動への参加が難しい重度・重複障害の生徒については、体育の授業でルールや体の動きを習得して、「東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校総合体育大会」のワンベースキックの部とキックベースの部に10年以上参加している。

3. 余暇活動としてのスポーツの実態

(1) 余暇活動団体について

部活動に参加できる生徒は、卒業後も地域のスポーツ施設等を利用することができるが、部活動に参加できない生徒は卒業後もスポーツをする機会が限られてしまう。また、ルールが理解できず、部活動に参加できない生徒も少なくない。こうした状況をうけて、余暇活動団体として、生徒と卒業生と一緒に活動できるサークルを立ち上げた。継続して活動するために、道具不要、費用がかからない、重度障害の生徒でも参加しやすい、気軽に体を動かせる、を条件にランニングとダンスを選択した。

図表 2-52 清瀬特別支援学校を拠点とした余暇活動団体(スポーツ関連)

クラブ名	くぬぎランナーズ	ハッピーダンス・ピピ!
参加対象	小学部、中学部、高等部 卒業生とその保護者	高等部 卒業生
参加人数	約70人	約45人
種目	ランニング	ストレッチ、エアロビクス、ダンス
活動日	第2日曜日(10:00~12:00)	年5~6回 (第2または第3土曜日)
活動場所	学校およびその周辺	体育館
活動実績	「清瀬市民マラソン大会」参加 「所沢シティマラソン大会」参加 「昭和記念公園リレーマラソン大会」参加	「清瀬特別支援学校 夏まつり」出演 「にぎやかカーニバル(東久留米市後援)」出演
年会費	1,000円(保険代)	300円

□くぬぎランナーズ

2004年にマラソン大会に出場を予定していた教員が、生徒と一緒にランニングできるサークルとして立ち上げた。一般のマラソン大会に参加するなかで、社会参加も同時に行うことを目的としている。現在は、保護者が運営の中心を担っており、生徒の父親同士の交流の場にもなっている。

□ハッピーダンス・ピピ!

2003年にダンス好きの教員が生徒と一緒にサークルを立ち上げた。卒業後も続けたいとの要望を受け、卒業生も活動に参加している。夏まつりへの出演などにより地域との交流を図っている。

(2) 課題

余暇活動は教員が主体となって運営してきたため、人事異動に伴い、引き継ぐ教員がいなくなってしまう恐れがある。さらに、部活動ではないため、新規配属の教員が支援に入りにくい事情もある。障害者のスポーツ活動の場として継続的な活動をしていくためには、保護者等に運営を委ねていくなど、地域を含めた活動基盤を築いていく必要がある。

4. 学校開放施設

(1) 学校開放施設について

体育館、グラウンド、屋内プール、プレイルームについては、自校の児童生徒以外にも開放している。屋内プールは温水ではないがガラス張りのため、天候に左右されず、一定の室温が保たれる。一方で、設立当初は重度障害の児童生徒が多かったため、プールの水深が浅く、20m規格であった。そのため、現在の児童生徒や一般への学校開放においては、使いにくいとの声も上がっている。

(2) 学校開放施設を使った活動

1) 障害者のためのプール開放事業

都立学校開放事業実施要項に基づき、都内在住または在勤の障害のある人々で構成された団体、グループを対象に、障害者のためのスポーツ活動の充実、健康の保持増進を目的に、プール開放事業を実施している。

2013年度は全10回の開催で、地域の障害者163人、学校の児童生徒52人の合計215人が参加した。団体としては、児童生徒が放課後に利用する支援団体や卒業生が通っている作業所・工房など6団

体が利用した。利用に際しては、団体の代表者が集まる調整委員会を開催している。議題は、第1回が施設説明および緊急時の対応確認、第2回が利用日程の調整、第3回が事業終了後の反省会である。周囲に気をつかうことなく、ゆったりと楽しめる機会であると、参加団体から次年度以降の継続希望も多い。

2) 地域との連携

地域の放課後・余暇支援団体を対象に、公開講座「障害のある子へのコミュニケーション支援者育成講座」を開催し、カード作成や教材の紹介、手順表を使った調理等を実施している(都立学校公開講座ボランティア養成講座)。講座を通して、児童生徒とコミュニケーション方法等を中心に共有することができている。また、「ハッピーダンス・ピピ！」にも参加してもらい、余暇活動の選択肢の一つとして交流の場を設けている。また、移動支援団体へ毎週火、木曜日に自校体育館を貸し出し、児童生徒と遊びの会などの余暇活動を開催している。



3) 健常者のスポーツ団体の利用

月2～3回、学校行事のない日曜日に地域の女子サッカーチームが利用している。また、地域のリトルリーグがグラウンドの芝生育成期間中の代替練習場として利用している。

東京都立清瀬特別支援学校

- 所在地：東京都清瀬市松山3-1-97
- 開校年：1979年
- 学校種区分：知的障害
- 学級実態：小学部、中学部、高等部

石川県立いしかわ特別支援学校

知的障害、肢体不自由の生徒が合同で運動部活動・サークル活動を実施
卒業後の生涯スポーツにつながる指導で生徒の自立心を育成
隣接する医療センターの子供たちに体育施設を開放

1. プロフィール

(1) 設立経緯

2006年に県内で初めての総合養護学校として、石川県立総合養護学校（肢体不自由教育部門）が開校し、2年後に知的障害教育部門が設立された。2010年に「いしかわ特別支援学校」に学校名を変更し、知的障害教育部門高等部産業技術コースを設置した。

(2) 児童生徒数

肢体不自由の児童生徒の約8割が知的障害を併せ持つ重度・重複障害者であり、知的障害の児童生徒の約7割が自閉症である。210人の収容想定人数を大きく超えており、来年度は、特別教室を普通教室に転用して児童生徒を受け入れる予定である。

図表 2-53 いしかわ特別支援学校の生徒数内訳

(人)

	小学部	中学部	高等部	合計
知的障害	65	56	84	205
肢体不自由	51	42	44	137
合計	116	98	128	342

2. 運動部活動・サークル活動の現状

(1) 目的

- ・スポーツを通して、心身の健康と豊かな心を育む
- ・思いやりや支えあう言葉を育て、楽しみながら教養を高める
- ・技能の習得、記録の向上を目指し、体力の維持向上を図る

(2) 実施種目・部員数（運動部活動）

中学部、高等部が合同で運動部活動・サークル活動を実施しており、知的障害と肢体不自由の生徒が一緒に活動している。活動期間は、5月から3月までの毎週火、木曜日の15:30～16:30で、部活動の参加条件として、自主下校ができる者で健康上支障がない者としている。入部当初は、障害の状態が把握できない場合などがあるために、保護者参観で活動を始める生徒もいる。



図表 2-54 いしかわ特別支援学校の運動部活動

(人)

部活動	活動場所	肢体部門		知的部門	
		生徒数	顧問数	生徒数	顧問数
陸上部	グラウンド	3	4	12	6
水泳部	プール	0	2	10	6
フライングディスク部	テニスコート	1	2	8	4
ソフトボール部	グラウンド	1	1	5	4

□陸上部

卒業後の生涯スポーツにつながる指導を重視している。市民マラソン大会に参加する際には、申込から会場への移動、当日のエントリーにいたるまで、自立に向け、毎年、顧問が手伝う範囲を狭めている。その結果、卒業後に自らの意志で準備をして、マラソン大会に参加する者が出てきた。

□水泳部

プール練習は、6月～10月中旬で、冬季は室内トレーニングを行っている。ハロウィック水泳療法協会の研修を受講した教員が指導にあっている。入部当初は、顔を水につけられない生徒が3年かけて泳げるようになるなどの姿がみられている。具体的な身体的イメージを持つのが難しい生徒が多く、フォームの改善などの指導は非常に難しい。一方、自己の技能を磨き、全国高等学校体育連盟(以下、高体連)主催の大会に出場する生徒もいる。

□フライングディスク部

肢体不自由、知的障害の生徒と一緒に出場できる大会や、社会人もエントリーできる大会があるため、生涯スポーツにつながりやすい。石川県の「スペシャルコーチ招聘事業」で年間20回、県フライングディスク協会の理事長の指導を受けている。

□ソフトボール部

参加を希望した卒業生も受け入れて活動している。歩行器を使用している生徒が、片手で歩行器を使うように筋力トレーニングを重ねて、一緒にティーバッティングが行えるようになった。

(3) 実施種目・部員数(サークル活動)

週2回の運動部活動には参加できないが、スポーツを楽しみたい生徒のために、週1回のサークル活動もある。体温調整の難しい生徒への配慮から、活動期間は、冬季期間を除いた5月から11月までの毎週火曜日の15:30～16:30である。参加条件は、自主下校ができる者、または原則として保護者が16:30に迎えに来られる者としている。



図表 2-55 いしかわ特別支援学校のサークル活動

(人)

サークル	活動場所	肢体部門		知的部門	
		生徒数	顧問数	生徒数	顧問数
ボウリング	小体育館	10	9	12	8
電動車椅子サッカー	大体育館	5	5	0	0
卓球・レクリエーション	エントランス	15	14	9	5

(4) 運営体制

協力員を含めた複数名の顧問と、生徒の状態を把握している担任が指導にあっている。課・学部・学年の分掌業務の軽減を考慮したうえで配置している。

(5) 課題

部活動では安全確保の観点から、限られた教職員の中で、すべての希望者を受け入れるのは難しく、自立できる生徒に限られている。

3. 学校開放施設

(1) 学校開放施設について

大体育館、小体育館、グラウンド、屋内プールについては、自校の児童生徒以外にも開放している。設計上、大体育館には、一般開放を想定した出入口、トイレが設けられているが、グラウンドには、一般利用者のためのトイレは設置されていない。

(2) 学校開放施設を利用した活動

1) 夏季休業中などの活動

夏季休業中、石川県の事業である学校開放講座の一つとして、ハロウィック水泳講習会を4回行っており、卒業生も参加している。また、夏季休業中以外でも、近隣の石川県立医王特別支援学校がプールなどを授業に利用している。

2) イベント活動

隣接する「金沢こども医療福祉センター」の運動会および夏祭りなどの行事、地域のお祭りや民謡大会、グランドゴルフ大会などに大体育館やグラウンドが使用されている。8月には、学校を会場として、日本障害者スポーツ協会公認初級指導員養成講習会を開催している。

3) 定期的な活動

「金沢こども医療福祉センター」に入所している子供たちが、毎週木曜日に小体育館で車椅子バスケットボールを行っている。年数回、テニスコートを利用した車いすテニスも実施している。

4. その他

知的障害教育部門の中学部、高等部では、毎朝 20 分間、「朝の体力づくり」の時間を設けて、主に体を動かすことを目的に、ランニング、ダンス、柔軟体操、ラジオ体操などを行っている。また、有志のグループの県高等学校合同ダンス発表会への参加も続けている。

スポーツフェスタ(運動会)では、開会式、閉会式、および合同種目は肢体不自由、知的障害の生徒が

合同で参加するが、それ以外の種目は、体温調整などで長時間、外にいることが難しい生徒もいるため、肢体不自由、知的障害ごとに別々の時間帯で実施している。

石川県立いしかわ特別支援学校

- 所在地：石川県立金沢市南森本町リ 1-1
- 開校年：2006 年
- 学校種区分：知的障害・肢体不自由
- 学級実態：小学部、中学部、高等部

滋賀県立甲南高等養護学校

同じ敷地内の一般校と合同部活動を実施

一般校と養護学校の顧問教員の綿密な連携体制

合同部活動が健常者の障害理解と障害者の社会性の向上の場に

1. プロフィール

(1) 設立経緯

甲南高等養護学校(以下、甲南養護学校)は、2007年に滋賀県立甲南高等学校(以下、甲南高校)の敷地内に併設する形で開校した。両校ともに「独立自尊 誠実勤勉 協同友愛」を校訓として、教職員、生徒が一体となって教育活動を推進している。施設や設備等についても共有しており、校訓以外にも、校章、校旗、校歌、制服が同じで、学校行事も共同で開催している。

(2) 生徒数

軽度の知的障害者(多くが発達障害との重複障害)で、滋賀県内に住み、自力で日常生活が送れる者を対象としている。高等部のみで、合計71人(1年生24人、2年生23人、3年生24人)で、全員が自転車、および電車・バスなどの公共機関を利用して通学している。2年次より、「農業ものづくり」「福祉くらし」の2コースに分かれる。

2. 運動部活動の現状

甲南養護学校では、原則、文化部を含めて部活動には全員加入で、約4割の生徒が甲南高校との合同部活動、約6割が甲南養護学校のみでの部活動に参加している。現在、合同部活動を実施している運動部は、陸上部、卓球部、柔道部、弓道部である。

活動時間は、平日(月～金曜日)が15:50～18:10、土曜日が8:30～11:30となっている。

(1) 目的

1) 「生きる力」の強化

自ら考えて活動することを信条としており、将来の就労に向けて、社会性を身に付ける観点からも、報告、連絡、相談の徹底や公共交通機関の利用を積極的に推奨し、「生きる力」を強化する。

2) 忍耐力の育成

負荷の高い練習に取り組む中で、自分と向き合い、困難に立ち向かう忍耐力を育成する。学外の会場で、見知らぬ人に囲まれた中で対外試合に臨むことで、適応能力を磨いていく。

3) 努力の大切さ

継続して努力していく中で、結果を残して、自分自身への自信につなげていく。そのプロセスで習得した能力を他の場面で応用できるようにする。



(2) 実施種目・部員数

図表 2-56 甲南高校と甲南養護学校の合同部活動の部員数

(人)

部活動	活動場所	甲南高等学校	甲南養護学校
陸上部	グラウンド	15	9
柔道部	格技場	2	2
卓球部	格技場	8	8
弓道部	弓道場	22	1

□陸上部

短距離、中長距離、投てきなどの種目に分けて、専門性のある顧問が指導している。顧問は甲南高校3人、甲南養護学校3人の合計6人がおり、加えて、外部指導者として、デフリンピックのハンマー投げの選手も招いている。基本的な練習メニューは同じで、伝わらなかった場合のみ個別指導を行う。練習タイムを毎日記録しており、タイムが向上することをモチベーションにして練習に励んでいる。高体連主催の大会にも出場している。

土曜日の練習は近隣の陸上競技場で実施し、卒業生にも積極的に声をかけることで、生涯スポーツのきっかけとなるよう働きかけている。

□柔道部

外部指導者を招いて指導を行っている。地域に柔道場がないため、近隣の高校生や社会人も参加している。指導時には、出来たことはその場で褒め、出来なかったことはその場で説明して、理解してから次の練習に移るよう注意している。柔道を通じて、技術面の向上だけでなく、将来的に社会で生きていくための礼儀や心遣いなどを意識的に教えている。



(3) 運営体制

兼務発令を出し、両校教員が顧問となっている。甲南高校との「合同運営委員会」や「合同職員会議」を通して、スケジュールの共有、顧問同士の綿密な連絡調整を行い、両校の顧問が両校の生徒を指導できる体制を整えている。

(4) 合同部活動の成果

一般校の生徒と教員にとっては障害理解に、養護学校の生徒にとっては社会性の向上に役立つなど、ノーマライゼーションの場となっている。陸上部では、両校が同じスケジュールやメニューで練習している。甲南高校の部員は養護学校の部員の頑張りに刺激を受け、養護学校の部員は甲南高校の部員と同じメニューをこなせることが自信につながるといった相乗効果を生んでいる。高体連主催の大会への参加、陸上競技場での合同練習など、健常者との交流が日常的になっている。

また、卓球部では、甲南高校と養護学校それぞれにキャプテンがいるが、甲南高校のキャプテンが不在の際、養護学校のキャプテンが全体の練習の指示出しをすることもある。

3. 甲南養護学校の放課後活動

甲南養護学校のみの放課後活動として、毎週火、木曜日に約 1 時間、目的に分けて「体力づくり部」として活動している。「競技志向グループ」では、障害者スポーツ大会のサッカー競技への出場を目指しており、「楽しみ志向グループ」では、サッカー、ソフトボール、フライングディスクなどを中心に約 30 人が参加している。雨天時は、ダンスやウェイトトレーニングなどを行っている。

また、体重の維持管理を目的に、陸上部の活動に参加し、グラウンドでウォーキングを行う生徒もいる。

滋賀県立甲南高等養護学校

○所在地：滋賀県立甲賀市甲南町寺庄 427

○開校年：2007 年

○学校種区分：知的障害

○学級実態：高等部

(3) 障害者入所施設のスポーツ環境に関する調査

主な調査結果

入所施設の 8 割がスポーツ・レクリエーション大会に参加

外部のスポーツ・レクリエーション大会に参加している施設は 8 割であった。参加している主な大会は、「全国障害者スポーツ大会やその都道府県予選などの障害者スポーツ競技大会」や「市区町村等が主催する障害のある方のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会」である。知的障害者の施設は、身体障害者の施設よりもスポーツ・レクリエーション大会に参加する割合が高かった。また、7 割の施設において、スポーツ・レクリエーションに関する行事を実施していた。【図表 3-10、3-12、3-13】

身体障害者はふうせんバレー、体操、ボッチャ、知的障害者は散歩、体操、ウォーキングを実施

日中活動サービスにおいて、スポーツ・レクリエーションの機会を提供している施設は 8 割であった。日中活動サービスで行われている種目で実施率が高いのは、「散歩(ぶらぶら歩き)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「ウォーキング」であった。身体障害者が過半数の施設では、「ふうせんバレー」「体操」「ボッチャ」「散歩」、知的障害者が過半数の施設では、「散歩」「体操」「ウォーキング」「フライングディスク(フリスビー)」の実施率が高く、障害種別による違いがみられる。【図表 3-14、3-17、3-18、3-19】

活動場所は施設内の多目的室・ホールや施設周辺の歩道や公園など

スポーツ・レクリエーションの活動場所は、施設内の「多目的室・ホール等(屋内)」や「施設周辺の歩道や公園等」が多い。身体障害者が過半数の施設では、「多目的室・ホール」「訓練室・作業室」など、施設内での活動が中心だが、知的障害者が過半数の施設では、「施設周辺の歩道や公園等」、施設内の「庭や空き地等(屋外)」など、屋外や施設の外での活動も多くなっている。【図表 3-21、3-22】

スポーツ担当者の半数が専門の資格をもち、障害者スポーツ協会公認指導員は 1 割強

スポーツ・レクリエーション活動の担当者の半数は、スポーツの指導等に関する何らかの専門の資格をもっていた。スポーツに関する資格で最も取得者が多かったのは、日本障害者スポーツ協会公認指導員(13.8%)で、日本体育協会公認スポーツ指導者は 1%程度で少なかった。【図表 3-24】

誰もが参加できる種目や、専門性がなくても指導しやすい種目を実施

利用者にスポーツ・レクリエーション活動を提供する際の運営上の工夫については、「障害の種類や程度に関わらず、誰もが参加できる種目を行っている」「経験や専門性がなくても指導しやすい種目を行っている」などが多かった。【図表 3-27】

競技経験者や障害者スポーツ団体関係者がいる施設はスポーツに積極的

事例調査から、競技経験者や障害者スポーツ団体関係者が職員として働いている施設では、日常の活動や施設の行事等に、スポーツ・レクリエーションを積極的に取り入れていることが明らかとなった。これらの施設では、障害者のスポーツ大会や一般のスポーツ大会への参加を通じて、他の施設の障害者や地域の健常者との交流を図っている。

1. 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、全国の障害者入所施設を対象に悉皆調査を行い、入所施設に関する基本情報、スポーツ・レクリエーション活動の提供状況、外部の大会等への参加状況、実施種目、活動場所、指導者、運営上の工夫や課題など、障害者の日常生活の場である入所施設におけるスポーツ・レクリエーション活動に関する情報を整理、把握することで、今後の方策検討における基礎情報とすることを目的として実施した。

1.2 調査対象

全国の障害者入所施設(2,454 施設)を対象とした。

1.3 調査方法

【調査1】質問紙調査

(1) 調査方法

施設入所支援のサービスを提供している全国の障害者入所施設(2,454 施設)に対して、郵送法による質問紙調査を実施した。

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・施設属性(施設の基本情報、施設入所者)
- ・スポーツ・レクリエーションに関する行事の開催
- ・外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加
- ・日中活動におけるスポーツ・レクリエーション(実施状況、実施種目、参加形態)
- ・スポーツ・レクリエーションの活動場所
- ・スポーツ・レクリエーション活動の担当者と資格
- ・運営上の工夫
- ・支援・協力体制
- ・地域社会や施設外の障害者との交流
- ・利用者の余暇や休日における自主的なスポーツ・レクリエーション活動の状況
- ・スポーツ・レクリエーション活動全般に関する課題

(3) 回収結果

回収数(率)は、1,494(60.9%)であった。

定員数及び平均年齢の回答を基に、1,411 施設を分析対象とした。

(4) 調査期間

2013 年 10 月 18 日～2013 年 11 月 26 日

【調査2】事例調査（ヒアリング調査）

(1) 調査方法

地域の障害者入所施設におけるスポーツ・レクリエーション活動の状況を明らかにするため、担当者に対して聞き取り調査を実施し、3件の障害者支援施設の事例をまとめた。

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・施設の基本情報（設立経緯、事業内容・定員、職員数、利用者の状況）
- ・スポーツ・レクリエーション活動の目的と基本方針
- ・スポーツ・レクリエーション活動に関する行事の開催
- ・外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加
- ・日中活動サービスとしてのスポーツ・レクリエーション活動（活動頻度、実施種目、活動形態）
- ・担当者と資格
- ・運営上の工夫
- ・支援・協力体制
- ・地域社会や施設外の障害者との交流
- ・スポーツ・レクリエーション活動の課題

(3) 調査期間

2013年11月～2014年2月

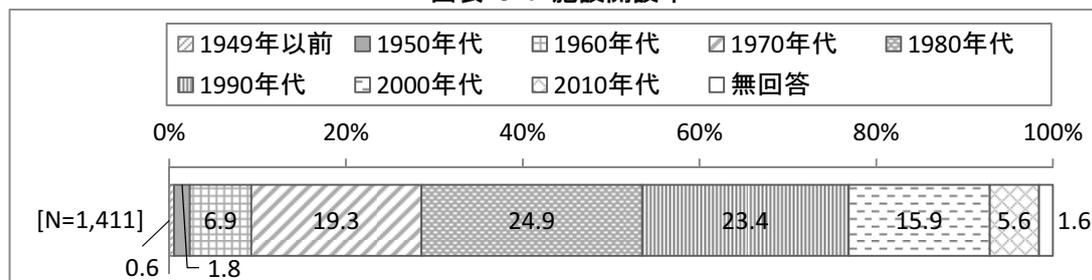
2. 調査結果(質問紙調査)

2.1 施設属性

(1) 施設の基本情報

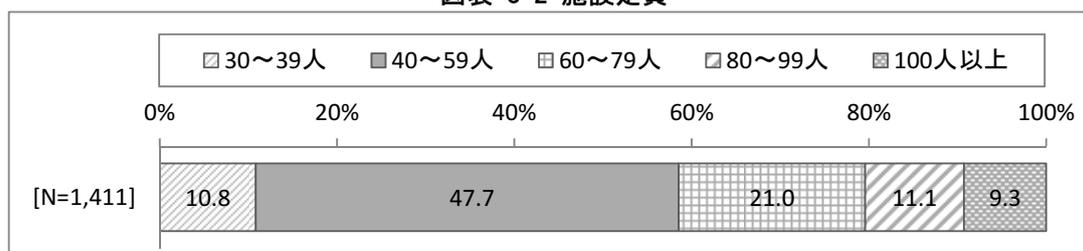
施設開設年は、「1980年代」が24.9%で最も多く、次いで「1990年代」(23.4%)、「1970年代」(19.3%)であった(図表3-1)。

図表 3-1 施設開設年



施設の規模を示す施設定員は、「40～59人」が47.7%で最も多く、次いで「60～79人」が21.0%であった(図表3-2)。

図表 3-2 施設定員



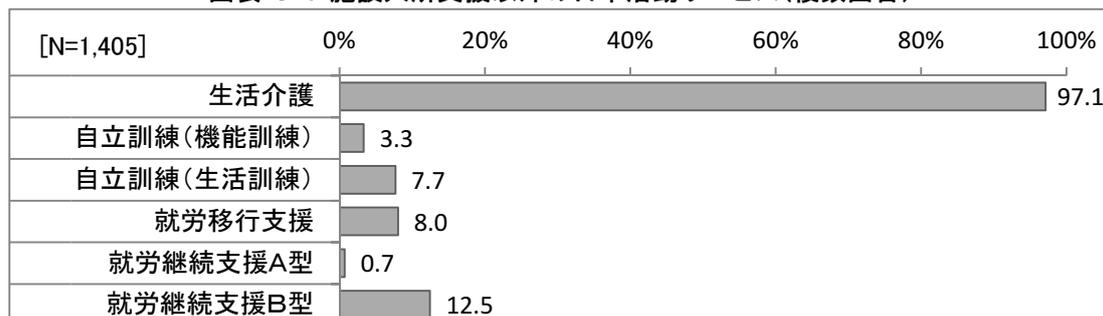
平均職員数は、回答施設全体で40.0人であり、雇用形態別にみると常勤職員数は平均33.6人、非常勤職員数は平均8.7人であった(図表3-3)。

図表 3-3 平均職員数(施設定員別)

		施設定員別					
		全体 N=1,411	30～39人	40～59人	60～79人	80～99人	100人以上
平均職員数	全体	40.0	24.0	33.4	40.2	52.4	77.5
	常勤	33.6	18.8	27.8	34.6	45.5	64.0
	非常勤	8.7	5.9	7.4	9.0	10.1	15.9

施設入所支援以外の日中活動サービスの実施状況について、「生活介護」が97.1%で最も多かった(図表3-4)。

図表 3-4 施設入所支援以外の日中活動サービス(複数回答)



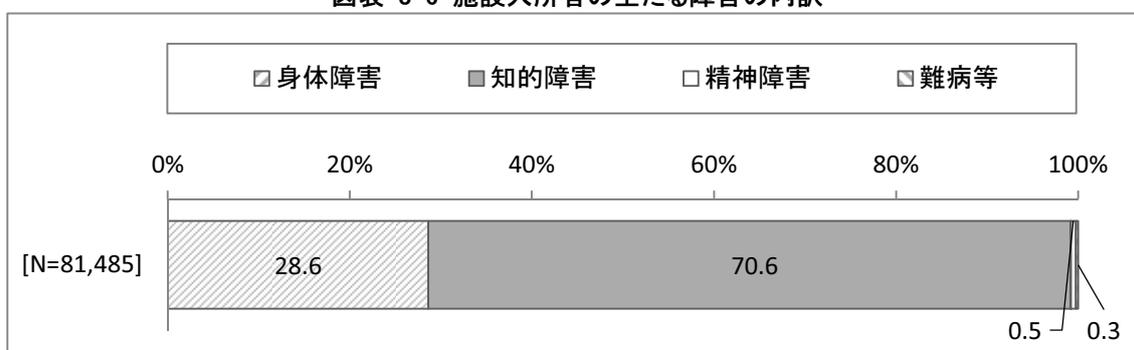
(2) 施設入所者

分析対象の1,411施設における入所者数は全体で81,485人であった(図表3-5)。施設入所者の主たる障害の内訳は、知的障害が70.6%で最も多く、次いで身体障害が28.6%であった(図表3-6)。

図表 3-5 施設入所者数(障害種別・施設定員別)

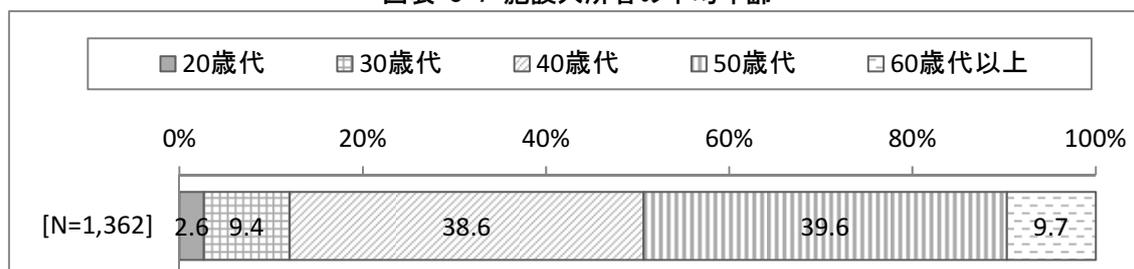
		全体	施設定員別				
		N=1,411	30~39人	40~59人	60~79人	80~99人	100人以上
入所者数 (障害種別)	全体	81,485	4,511	30,900	18,232	12,481	15,361
	身体障害	23,320	1,332	9,178	5,289	4,025	3,496
	知的障害	57,522	3,111	21,477	12,812	8,301	11,821
	精神障害	437	66	166	105	57	43
	難病等	206	2	79	26	98	1

図表 3-6 施設入所者の主たる障害の内訳



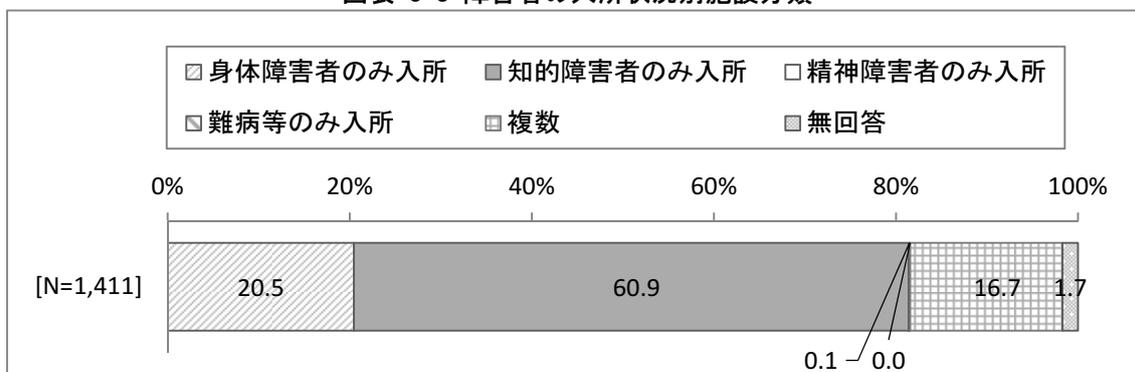
施設入所者の平均年齢は、「20歳代」が2.6%、「30歳代」が9.4%、「40歳代」が38.6%、「50歳代」が39.6%、「60歳代以上」が9.7%であり、全体の8割が中年期の入所者となっている(図表3-7)。なお、分析対象施設における平均年齢は49.3歳であった。

図表 3-7 施設入所者の平均年齢



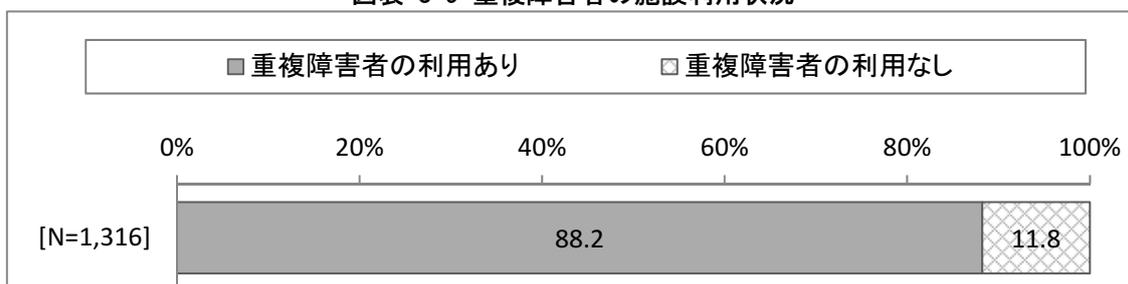
分析対象の1,411施設において、「身体障害者のみ入所」が20.5%、「知的障害者のみ入所」が60.9%であり、全体の約8割が身体障害または知的障害に対応した施設となっている。(図表3-8)。複数の種類の障害に対応している施設は16.7%であるが、その多くが身体障害者と知的障害者の利用である。

図表 3-8 障害者の入所状況別施設分類



重複障害者の施設利用状況について、「重複障害者の利用あり」が88.2%、「重複障害者の利用なし」は11.8%であった(図表3-9)。

図表 3-9 重複障害者の施設利用状況



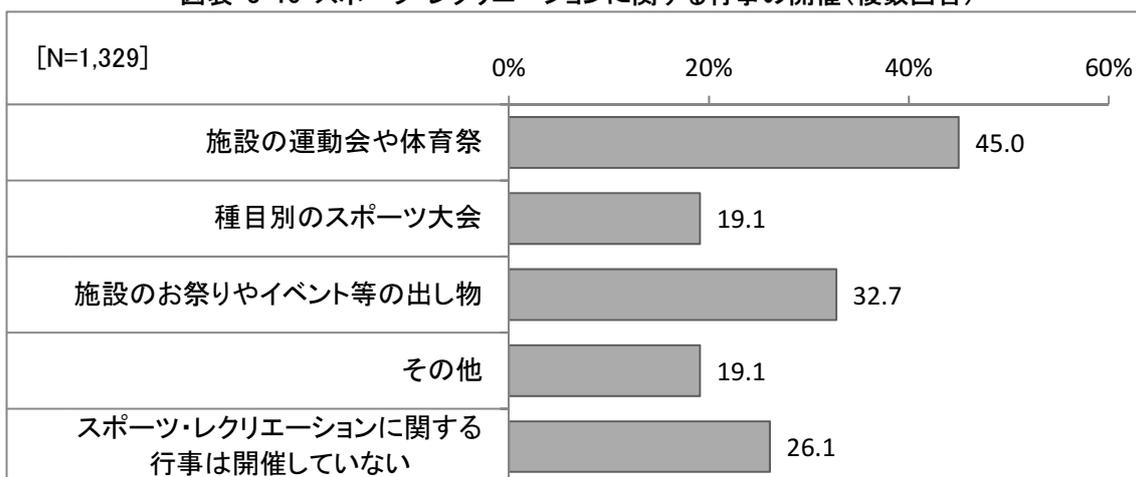
注) 重複障害者の利用状況に関する質問に回答した施設を対象に集計。

2.2 スポーツ・レクリエーションに関する行事の開催

スポーツ・レクリエーションに関する行事は、約 7 割の施設で実施されていた。行事の内容は、「施設の運動会や体育祭」(45.0%)が最も多く、次いで「施設のお祭りやイベント等の出し物」(32.7%)、「種目別のスポーツ大会」(19.1%)であった(図表 3-10)。一方、全体の4分の1の施設でスポーツ・レクリエーションに関する行事は開催していない。

入所者の平均年齢別にみると、平均年齢が 50 歳代未満の施設では、平均年齢が 50 歳代以上の施設に比べて、「種目別のスポーツ大会」「施設のお祭りやイベント等の出し物」の割合が高い(図表 3-11)。

図表 3-10 スポーツ・レクリエーションに関する行事の開催(複数回答)



図表 3-11 スポーツ・レクリエーションに関する行事の開催(平均年齢別)(複数回答)

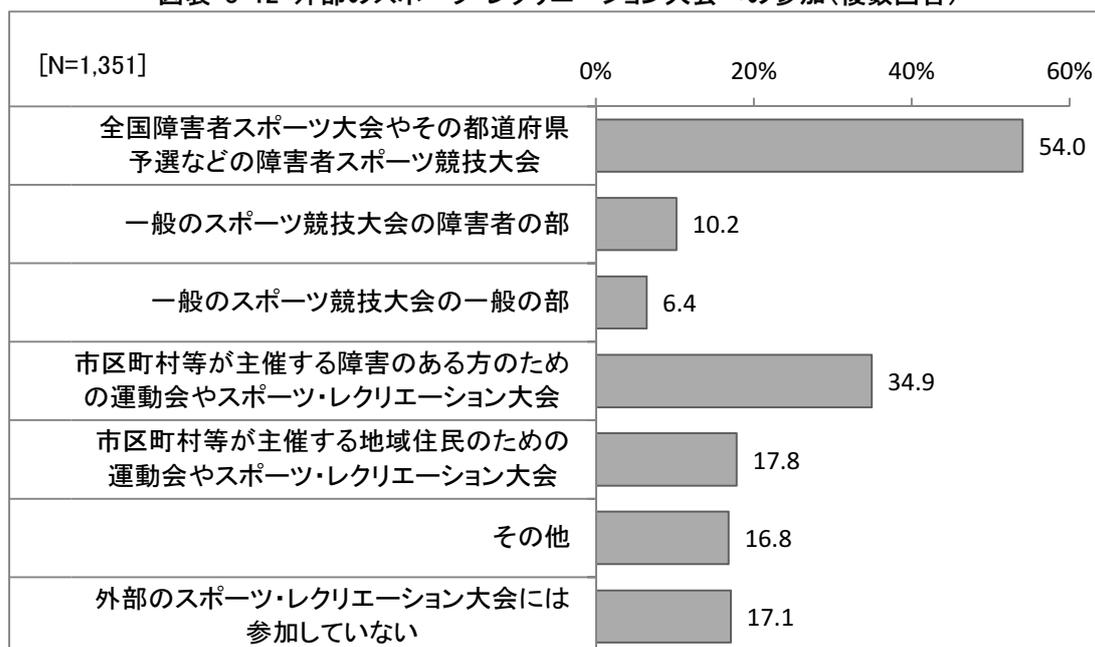
	平均年齢が 50歳代未満 の施設	平均年齢が 50歳代以上 の施設
	N=645	N=636
施設の運動会や体育祭	46.2%	44.3%
種目別のスポーツ大会	21.6%	17.0%
施設のお祭りやイベント等の出し物	35.7%	30.2%
その他	18.3%	19.8%
スポーツ・レクリエーションに関する行事は開催していない	25.9%	25.8%

2.3 外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加

外部のスポーツ・レクリエーション大会には、約8割の施設が参加していた。大会の内容は、「全国障害者スポーツ大会やその都道府県予選などの障害者スポーツ競技大会」(54.0%)が最も多く、次いで「市区町村等が主催する障害のある方のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会」(34.9%)であった(図表 3-12)。「その他」(16.8%)は、障害者施設協議会が主催するスポーツ大会、障害者福祉協会が主催するスポーツ大会などであった。

障害種別にみると、知的障害が過半数の施設の方が、身体障害が過半数の施設に比べて、外部のスポーツ・レクリエーション大会に参加している割合が高い(図表 3-13)。

図表 3-12 外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加(複数回答)



図表 3-13 外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加(障害種別)(複数回答)

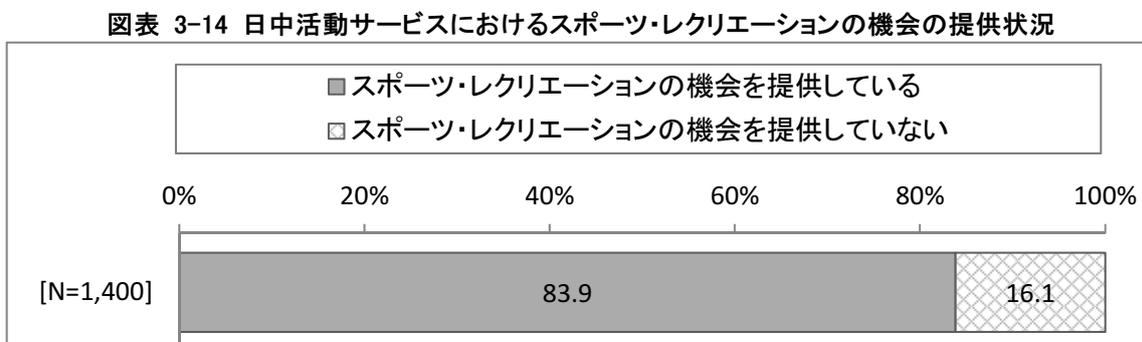
	身体障害が過半数の施設	知的障害が過半数の施設
	N=382	N=943
全国障害者スポーツ大会やその都道府県予選などの障害者スポーツ競技大会	48.2%	56.5%
一般のスポーツ競技大会の障害者の部	9.2%	10.3%
一般のスポーツ競技大会の一般の部	1.6%	8.4%
市区町村等が主催する障害のある方のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会	29.8%	37.3%
市区町村等が主催する地域住民のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会	9.2%	21.2%
その他	15.2%	17.7%
外部のスポーツ・レクリエーション大会には参加していない	25.9%	13.3%

注) 精神障害および難病等が過半数の施設は各2施設であったため、障害種別の集計はしていない。

2.4 日中活動におけるスポーツ・レクリエーション

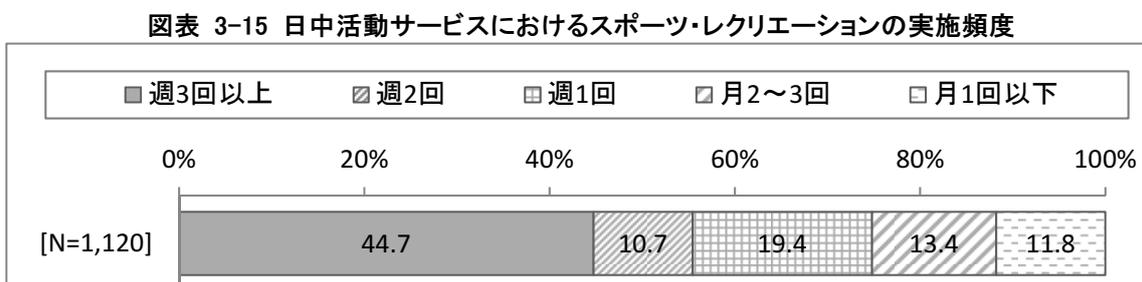
(1) 実施状況

日中活動サービスにおけるスポーツ・レクリエーションの機会の提供状況について、「提供している」は83.9%、「提供していない」は16.1%であった(図表 3-14)。



実施頻度について、週3回以上が44.7%、週2回が10.7%、週1回が19.4%であり、全体の約7割が週1回以上のスポーツ・レクリエーション活動を実施している(図表 3-15)。

障害種別にみると、知的障害が過半数の施設では、51.1%が「週3回以上」と回答している(図表 3-16)。



図表 3-16 日中活動サービスにおける
スポーツ・レクリエーションの実施頻度(障害種別)

実施頻度	身体障害が 過半数の施設	知的障害が 過半数の施設
	N=303	N=799
週3回以上	29.0%	51.1%
週2回	9.6%	11.4%
週1回	26.7%	16.5%
月2~3回	18.5%	11.1%
月1回以下	16.2%	9.9%

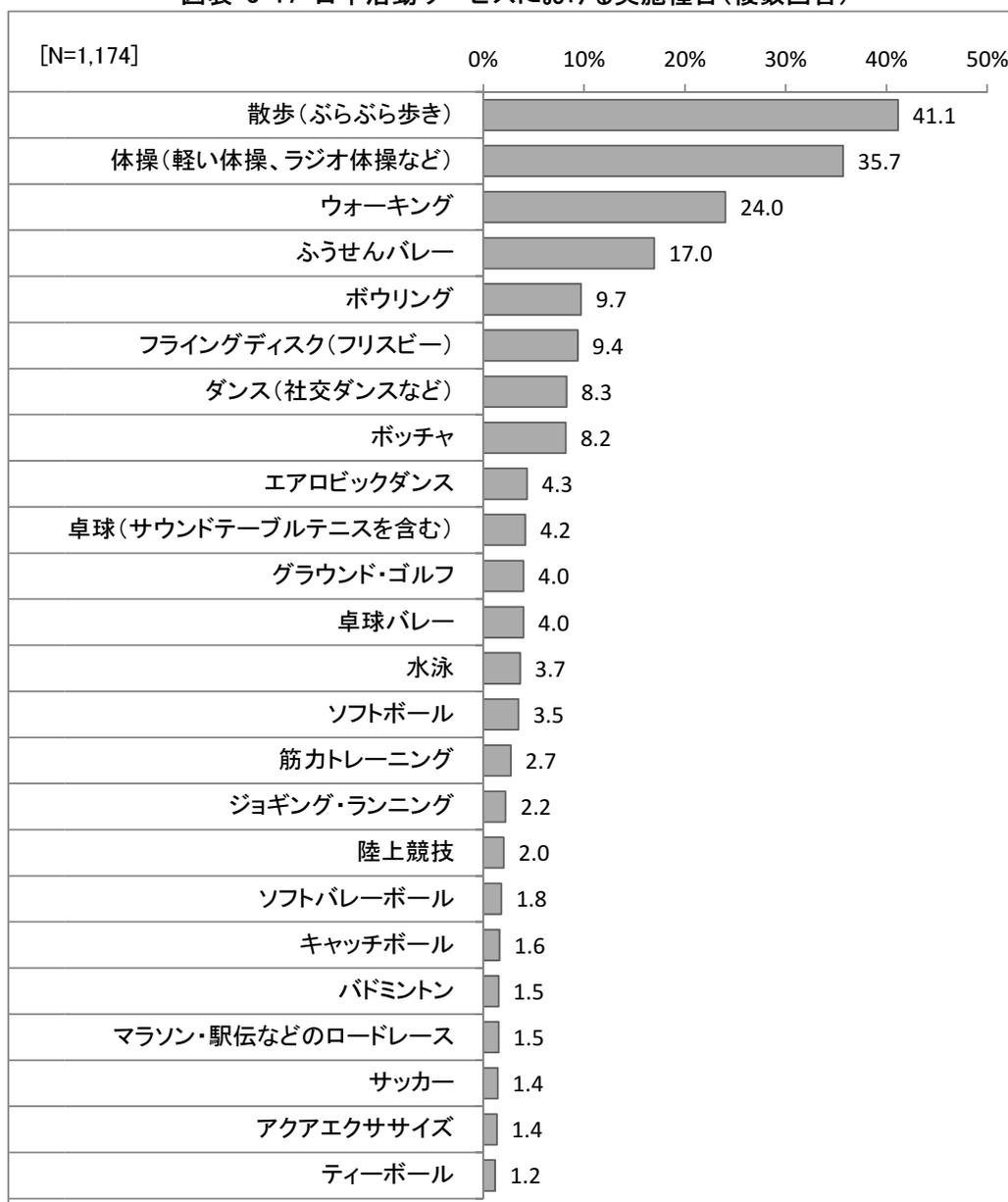
注) 精神障害および難病等が過半数の施設は各2施設であったため、障害種別の集計はしていない。

(2) 実施種目

日中活動サービスにおけるスポーツ・レクリエーション種目については、「散歩(ぶらぶら歩き)」(41.1%)が最も多く、次いで「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」(35.7%)、「ウォーキング」(24.0%)であった(図表 3-17)。

障害種別にみると、身体障害が過半数の施設では、「ふうせんバレー」(38.8%)が最も多く、体操や散歩の他に「ボッチャ」(26.9%)や「ボウリング」(17.8%)が上位に入る(図表 3-18)。知的障害が過半数の施設では、散歩、体操、ウォーキングの実施割合が高く、次に「フライングディスク(フリスビー)」(9.9%)や「ダンス(社交ダンスなど)」(9.6%)が上位種目となっている(図表 3-19)。

図表 3-17 日中活動サービスにおける実施種目(複数回答)



図表 3-18 実施種目(身体障害が過半数の施設)

身体障害が過半数の施設		
順位	種目	N=320
1	ふうせんバレー	38.8%
2	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	27.2%
3	ポッチャ	26.9%
4	散歩(ぶらぶら歩き)	21.6%
5	ボウリング	17.8%
6	卓球バレー	11.3%
7	フライングディスク(フリスビー)	7.5%
8	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	5.6%
9	ダンス(社交ダンスなど)	5.0%
10	陸上競技	3.8%
11	ウォーキング	3.4%
12	グラウンド・ゴルフ	2.8%
13	筋カトレニング	2.5%
14	エアロビックダンス	1.3%
14	ソフトバレーボール	1.3%
14	釣り	1.3%
14	バレーボール	1.3%
18	水泳	0.9%
18	ソフトボール	0.9%
18	ゲートボール	0.9%

図表 3-19 実施種目(知的障害が過半数の施設)

知的障害が過半数の施設		
順位	種目	N=850
1	散歩(ぶらぶら歩き)	49.5%
2	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	38.7%
3	ウォーキング	31.9%
4	フライングディスク(フリスビー)	9.9%
5	ダンス(社交ダンスなど)	9.6%
6	ふうせんバレー	8.2%
7	ボウリング	6.2%
8	エアロビックダンス	5.5%
9	水泳	4.7%
10	ソフトボール	4.6%
11	グラウンド・ゴルフ	4.1%
12	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	3.5%
13	ジョギング・ランニング	3.1%
14	筋カトレニング	2.8%
15	キャッチボール	2.2%
16	サッカー	1.9%
16	ソフトバレーボール	1.9%
18	マラソン・駅伝などのロードレース	1.8%
18	アクアエクササイズ	1.8%
20	バドミントン	1.6%

注) 図表 3-18、図表 3-19 について、精神障害および難病等が過半数の施設は各 2 施設であったため、障害種別の集計はしていない。

(3) 参加形態

上位 15 種目の参加形態について、いずれも任意参加としている施設の割合が高いが、散歩(ぶらぶら歩き)、体操(軽い体操、ラジオ体操など)、ウォーキングについては 2~3 割程度の施設で全員参加としている。一方、水泳、ソフトボール、卓球(サウンドテーブルテニス)、フライングディスク(フリスビー)などは、任意参加(半数未満)の施設の割合が高い(図表 3-20)。

図表 3-20 実施種目と参加形態(複数回答)

順位	実施種目	N=1,174	参加形態			
			全員参加	任意参加 (半数以上)	任意参加 (半数未満)	無回答
1	散歩(ぶらぶら歩き)	41.1%	22.4%	41.4%	35.2%	1.0%
2	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	35.7%	36.0%	40.1%	23.4%	0.5%
3	ウォーキング	24.0%	24.8%	41.5%	33.0%	0.7%
4	ふうせんバレー	17.0%	8.0%	31.7%	58.3%	2.0%
5	ボウリング	9.7%	11.4%	23.7%	62.3%	2.6%
6	フライングディスク(フリスビー)	9.4%	6.4%	23.6%	68.2%	1.8%
7	ダンス(社交ダンスなど)	8.3%	12.4%	39.2%	48.5%	0.0%
8	ポッチャ	8.2%	6.3%	28.1%	64.6%	1.0%
9	エアロビックダンス	4.3%	11.8%	52.9%	31.4%	3.9%
10	卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	4.2%	2.0%	18.4%	77.6%	2.0%
11	グラウンド・ゴルフ	4.0%	8.5%	27.7%	59.6%	4.3%
11	卓球バレー	4.0%	6.4%	23.4%	68.1%	2.1%
13	水泳	3.7%	2.3%	11.6%	86.0%	0.0%
14	ソフトボール	3.5%	7.3%	9.8%	78.0%	4.9%
15	筋カトレニング	2.7%	9.4%	50.0%	40.6%	0.0%

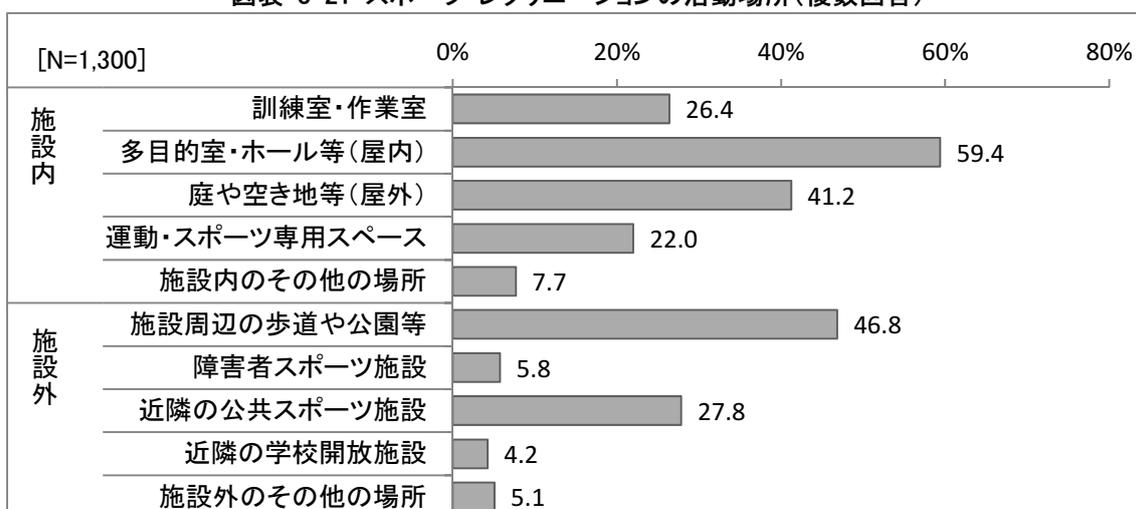
注) 任意参加で実施しているスポーツ・レクリエーション活動に入所者の半数以上が参加していると回答した場合は「任意参加(半数以上)」、半数未満と回答した場合は「任意参加(半数未満)」とした。

2.5 スポーツ・レクリエーションの活動場所

スポーツ・レクリエーションの活動場所について、施設内では「多目的室・ホール等(屋内)」(59.4%)が最も多く、次いで「庭や空き地等(屋外)」(41.2%)、「訓練室・作業室」(26.4%)であった。施設外では、「施設周辺の歩道や公園等」(46.8%)が最も多く、次いで「近隣の公共スポーツ施設」(27.8%)であった(図表 3-21)。

障害種別にみると、身体障害が過半数の施設では、「多目的室・ホール等(屋内)」が 67.5%、次いで「訓練室・作業室」(34.4%)となっており、施設内の特定の場所での活動が多い(図表 3-22)。一方、知的障害が過半数の施設では、施設内の「庭や空き地等(屋外)」(46.5%)の他、「施設周辺の歩道や公園等」(57.3%)や「近隣の公共スポーツ施設」(31.2%)など、施設外で活動する施設の割合も高い。

図表 3-21 スポーツ・レクリエーションの活動場所(複数回答)



図表 3-22 スポーツ・レクリエーションの活動場所(障害種別)(複数回答)

活動場所		身体障害が過半数の施設	知的障害が過半数の施設
		N=366	N=910
施設内	訓練室・作業室	34.4%	23.4%
	多目的室・ホール等(屋内)	67.5%	56.0%
	庭や空き地等(屋外)	28.1%	46.5%
	運動・スポーツ専用スペース	12.6%	25.8%
	施設内のその他の場所	10.1%	6.8%
施設外	施設周辺の歩道や公園等	22.1%	57.3%
	障害者スポーツ施設	7.4%	5.3%
	近隣の公共スポーツ施設	20.2%	31.2%
	近隣の学校開放施設	3.0%	4.8%
	施設外のその他の場所	2.7%	6.0%

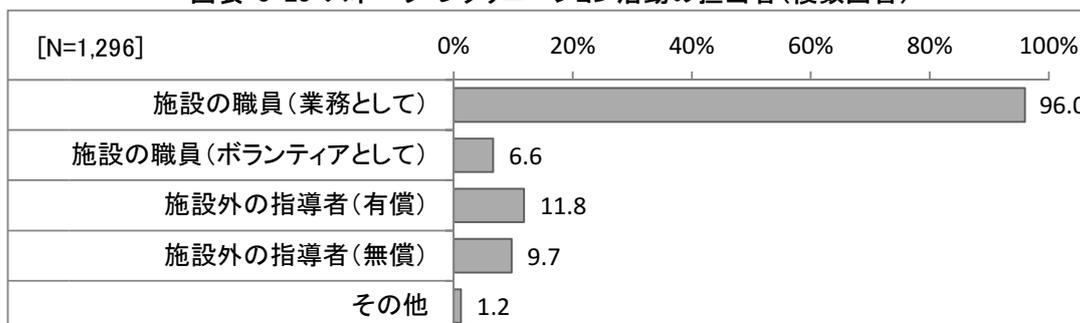
注) 精神障害および難病等が過半数の施設は各 2 施設であったため、障害種別の集計はしていない。

2.6 スポーツ・レクリエーション活動の担当者と資格

(1) 担当者

スポーツ・レクリエーション活動の担当者について、「施設の職員(業務として)」(96.0%)が最も多く、次いで「施設外の指導者(有償)」(11.8%)、「施設外の指導者(無償)」(9.7%)であった(図表 3-23)。

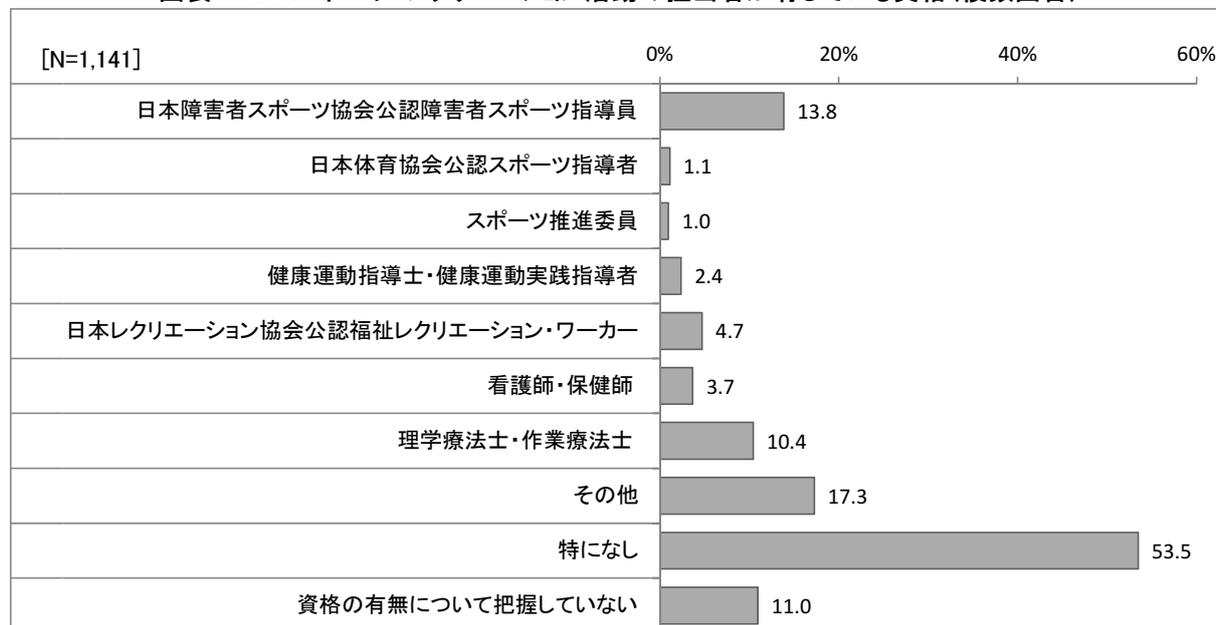
図表 3-23 スポーツ・レクリエーション活動の担当者(複数回答)



(2) 資格

担当者の資格について、「特になし」(53.5%)が最も多く、次いで「日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員」(13.8%)、「理学療法士・作業療法士」(10.4%)であった(図表 3-24)。「その他」(17.3%)は、介護福祉士、保育士、社会福祉士などであった。

図表 3-24 スポーツ・レクリエーション活動の担当者が有している資格(複数回答)



スポーツ関連の有資格者の有無別にスポーツ・レクリエーションに関する行事の開催状況をみると、スポーツ関連の有資格者ありの施設では、有資格者なしの施設に比べて「施設の運動会や体育祭」「種目別のスポーツ大会」「施設のお祭りやイベント等の出し物」の割合が高い(図表 3-25)。

また、外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加についても、スポーツ関連の有資格者ありの施設では、有資格者なしの施設に比べて「全国障害者スポーツ大会やその都道府県予選などの障害者スポーツ競技大会」「一般のスポーツ競技大会の障害者の部」「一般のスポーツ競技大会の一般の部」「市区町村等が主催する障害のある方のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会」において高い割合を示した(図表 3-26)。

図表 3-25 スポーツ・レクリエーションに関する行事の開催
(スポーツ関連の有資格者の有無別)(複数回答)

	スポーツ関連の有資格者あり	スポーツ関連の有資格者なし
	N=251	N=584
施設の運動会や体育祭	55.8%	46.2%
種目別のスポーツ大会	33.1%	20.0%
施設のお祭りやイベント等の出し物	49.4%	32.7%
その他	25.9%	16.3%
スポーツ・レクリエーションに関する行事は開催していない	14.7%	23.8%

注) 担当者について、日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員、日本体育協会公認スポーツ指導者、スポーツ推進委員、健康運動指導士・健康運動実践指導者、日本レクリエーション協会公認福祉レクリエーション・ワーカーのいずれかに回答した場合は「スポーツ関連の有資格者あり」とし、特になしと回答した場合は「スポーツ関連の有資格者なし」とした。

図表 3-26 外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加
(スポーツ関連の有資格者の有無別)(複数回答)

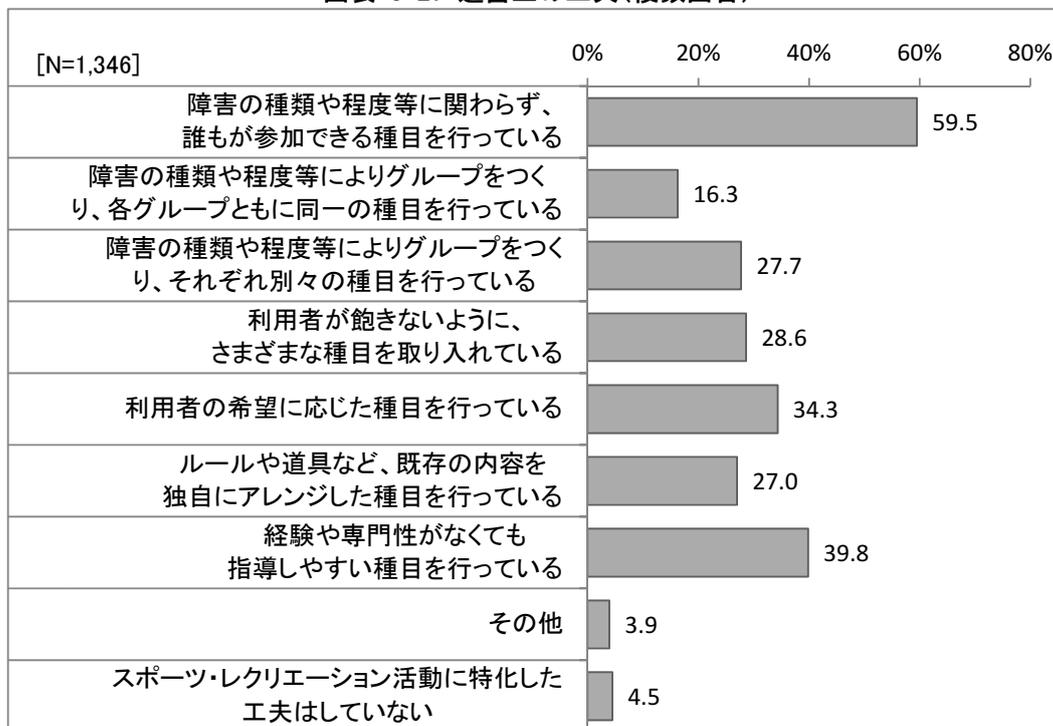
	スポーツ関連の有資格者あり	スポーツ関連の有資格者なし
	N=255	N=592
全国障害者スポーツ大会やその都道府県予選などの障害者スポーツ競技大会	76.1%	57.6%
一般のスポーツ競技大会の障害者の部	23.1%	8.6%
一般のスポーツ競技大会の一般の部	12.2%	5.9%
市区町村等が主催する障害のある方のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会	51.0%	33.4%
市区町村等が主催する地域住民のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会	21.6%	20.8%
その他	14.9%	18.1%
外部のスポーツ・レクリエーション大会には参加していない	4.3%	14.7%

注) 担当者について、日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員、日本体育協会公認スポーツ指導者、スポーツ推進委員、健康運動指導士・健康運動実践指導者、日本レクリエーション協会公認福祉レクリエーション・ワーカーのいずれかに回答した場合は「スポーツ関連の有資格者あり」とし、特になしと回答した場合は「スポーツ関連の有資格者なし」とした。

2.7 運営上の工夫

利用者にスポーツ・レクリエーション活動を提供する際の運営上の工夫について、「障害の種類や程度等に関わらず、誰もが参加できる種目を行っている」(59.5%)が最も多く、次いで「経験や専門性がなくても指導しやすい種目を行っている」(39.8%)、「利用者の希望に応じた種目を行っている」(34.3%)であった(図表 3-27)。その他の項目としては、「音楽の利用」「明るい掛け声」など、楽しい雰囲気づくりに関する回答がみられた。

図表 3-27 運営上の工夫(複数回答)



図表 3-28 運営上の工夫(障害種別)(複数回答)

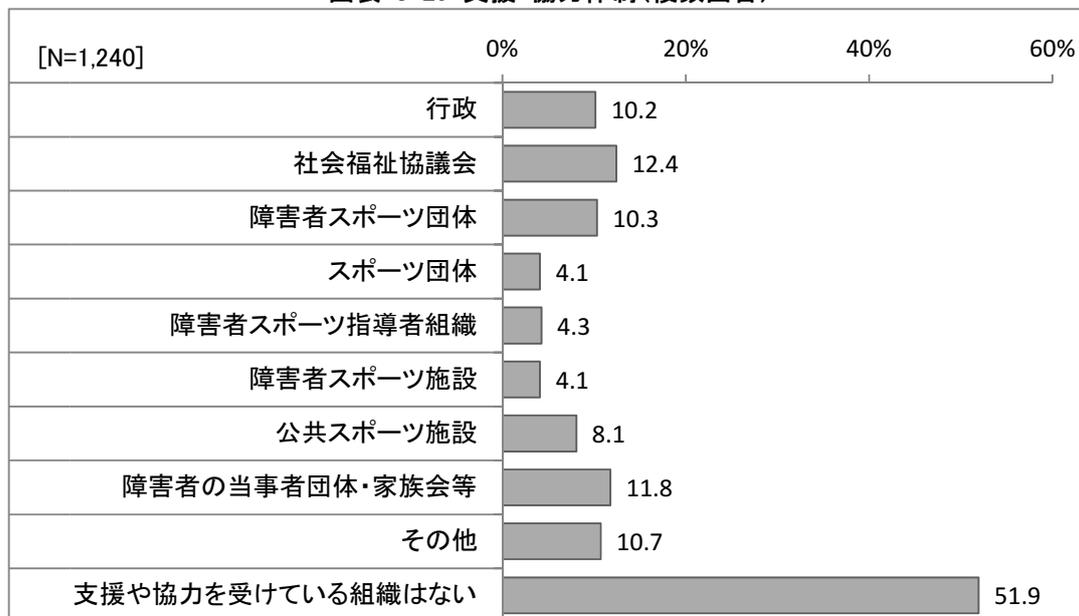
	身体障害が過半数の施設	知的障害が過半数の施設
	N=359	N=893
障害の種類や程度等に関わらず、誰もが参加できる種目を行っている	71.0%	59.8%
障害の種類や程度等によりグループをつくり、各グループともに同一の種目を行っている	12.8%	18.8%
障害の種類や程度等によりグループをつくり、それぞれ別々の種目を行っている	17.0%	34.3%
利用者が飽きないように、さまざまな種目を取り入れている	36.2%	28.0%
利用者の希望に応じた種目を行っている	37.0%	35.8%
ルールや道具など、既存の内容を独自にアレンジした種目を行っている	41.5%	23.4%
経験や専門性がなくても指導しやすい種目を行っている	46.0%	41.2%
その他	5.0%	3.8%
スポーツ・レクリエーション活動に特化した工夫はしていない	2.5%	5.6%

注)精神障害および難病等が過半数の施設は各2施設であったため、障害種別の集計はしていない。

2.8 支援・協力体制

利用者のスポーツ・レクリエーション活動に関する支援・協力体制について、「支援や協力を受けている組織はない」(51.9%)が最も多く、次いで「社会福祉協議会」(12.4%)、「障害者の当事者団体・家族会等」(11.8%)、「障害者スポーツ団体」(10.3%)であった(図表 3-29)。「その他」(10.7%)は、地域の自治会やボランティア団体などであった。

図表 3-29 支援・協力体制(複数回答)



図表 3-30 支援・協力体制(障害種別)(複数回答)

	身体障害が過半数の施設	知的障害が過半数の施設
	N=348	N=868
行政	8.3%	10.9%
社会福祉協議会	14.1%	11.8%
障害者スポーツ団体	12.6%	9.3%
スポーツ団体	3.4%	4.5%
障害者スポーツ指導者組織	4.9%	4.0%
障害者スポーツ施設	6.3%	3.3%
公共スポーツ施設	4.3%	9.6%
障害者の当事者団体・家族会等	8.9%	13.0%
その他	8.3%	11.5%
支援や協力を受けている組織はない	55.2%	50.6%

注) 精神障害および難病等が過半数の施設は各2施設であったため、障害種別の集計はしていない。

スポーツ関連の有資格者の有無別にスポーツ・レクリエーション活動に関する支援・協力体制をみると、スポーツ関連の有資格者ありの施設では、有資格者なしの施設に比べて、「行政」「社会福祉行議会」「障害者スポーツ団体」「スポーツ団体」「障害者スポーツ指導者組織」「障害者スポーツ施設」「公共スポーツ施設」において高い割合を示した。(図表 3-31)

図表 3-31 支援・協力体制
(スポーツ関連の有資格者の有無別)(複数回答)

	スポーツ関連の 有資格者あり	スポーツ関連の 有資格者なし
	N=253	N=584
行政	11.9%	8.9%
社会福祉協議会	15.8%	11.8%
障害者スポーツ団体	22.5%	8.2%
スポーツ団体	11.5%	3.4%
障害者スポーツ指導者組織	13.0%	3.3%
障害者スポーツ施設	13.8%	3.9%
公共スポーツ施設	13.0%	7.5%
障害者の当事者団体・家族会等	13.0%	13.0%
その他	11.1%	11.1%
支援や協力を受けている組織はない	38.7%	52.9%

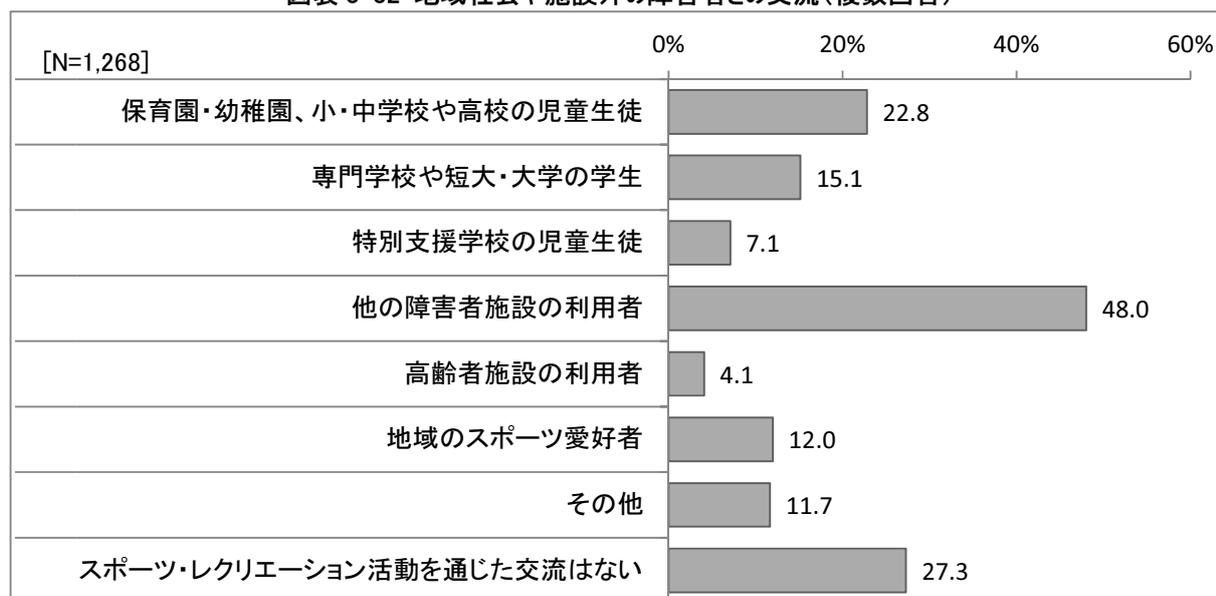
注) 担当者について、日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員、日本体育協会公認スポーツ指導者、スポーツ推進委員、健康運動指導士・健康運動実践指導者、日本レクリエーション協会公認福祉レクリエーション・ワーカーのいずれかに回答した場合は「スポーツ関連の有資格者あり」とし、特になしと回答した場合は「スポーツ関連の有資格者なし」とした。

2.9 地域社会や施設外の障害者との交流

スポーツ・レクリエーション活動を通じた地域社会や施設外の障害者との交流について、「他の障害者施設の利用者」(48.0%)が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動を通じた交流はない」(27.3%)、「保育園・幼稚園、小・中学校や高校の児童生徒」(22.8%)であった(図表 3-32)。「その他」(11.7%)は、地域の自治会やボランティア団体などであった。

障害種別にみると、知的障害が過半数の施設では、「他の障害者施設の利用者」が5割に達しており、外部のスポーツ大会参加による他の施設利用者との交流や同一法人内における交流が行われている(図表 3-33)。

図表 3-32 地域社会や施設外の障害者との交流(複数回答)



図表 3-33 地域や施設外の障害者との交流(障害種別)(複数回答)

	身体障害が 過半数の施設	知的障害が 過半数の施設
	N=360	N=886
保育園・幼稚園、小・中学校や高校の児童生徒	21.9%	23.3%
専門学校や短大・大学の学生	15.6%	14.9%
特別支援学校の児童生徒	6.4%	7.3%
他の障害者施設の利用者	41.9%	50.9%
高齢者施設の利用者	3.9%	4.1%
地域のスポーツ愛好者	9.2%	13.2%
その他	13.1%	11.2%
スポーツ・レクリエーション活動を通じた交流はない	32.2%	24.9%

注) 精神障害および難病等が過半数の施設は各 2 施設であったため、障害種別の集計はしていない。

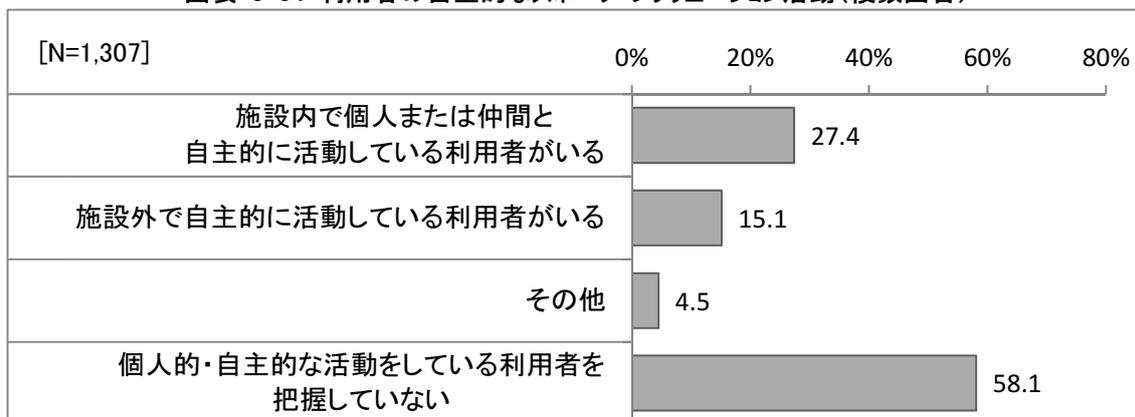
2.10 利用者の余暇や休日における自主的なスポーツ・レクリエーション活動の状況

(1) 利用者の自主的なスポーツ・レクリエーション活動の状況

利用者の余暇や休日における自主的なスポーツ・レクリエーション活動の状況について、「個人的・自主的な活動をしている利用者を把握していない」(58.1%)が最も多く、次いで「施設内で個人または仲間と自主的に活動している利用者がいる」(27.4%)、「施設外で自主的に活動している利用者がいる」(15.1%)であった(図表 3-34)。

障害種別にみると、知的障害が過半数の施設の方が「施設内で個人または仲間と自主的に活動している利用者がいる」割合が高く、身体障害が過半数の施設の方が「施設外で自主的に活動している利用者がいる」割合が高い(図表 3-35)。

図表 3-34 利用者の自主的なスポーツ・レクリエーション活動(複数回答)



図表 3-35 利用者の自主的なスポーツ・レクリエーション活動(障害種別)(複数回答)

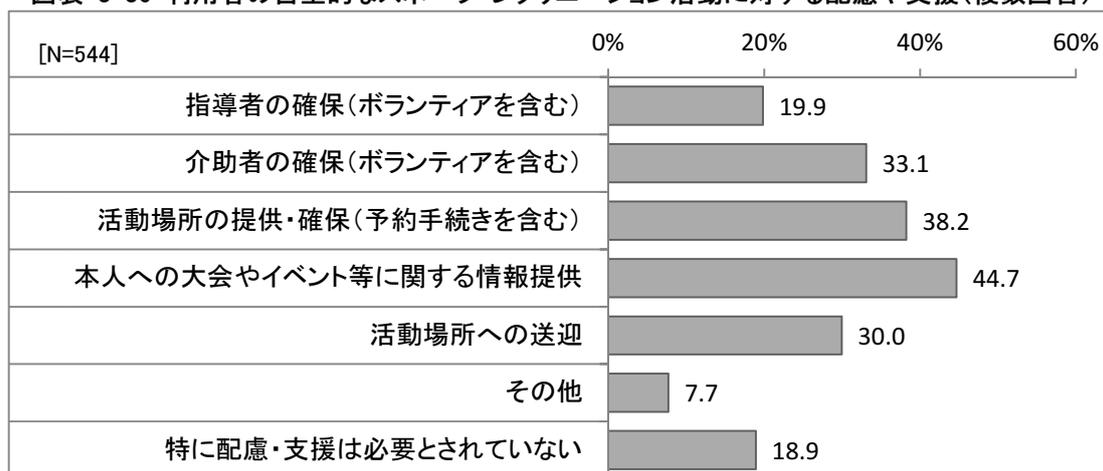
活動状況	身体障害が過半数の施設	知的障害が過半数の施設
	N=379	N=902
施設内で個人または仲間と自主的に活動している利用者がいる	22.4%	29.4%
施設外で自主的に活動している利用者がいる	20.3%	12.4%
その他	3.7%	4.9%
個人的・自主的な活動をしている利用者を把握していない	60.4%	57.5%

注) 精神障害および難病等が過半数の施設は各 2 施設であったため、障害種別の集計はしていない。

(2) 利用者の自主的なスポーツ・レクリエーション活動に対する配慮や支援

利用者の余暇や休日における自主的なスポーツ・レクリエーション活動に対する配慮や支援について、「本人への大会やイベント等に関する情報提供」(44.7%)が最も多く、次いで「活動場所の提供・確保(予約手続きを含む)」(38.2%)、「介助者の確保(ボランティアを含む)」(33.1%)であった(図表 3-36)。

図表 3-36 利用者の自主的なスポーツ・レクリエーション活動に対する配慮や支援(複数回答)



図表 3-37 利用者の自主的なスポーツ・レクリエーション活動に対する配慮や支援(障害種別)(複数回答)

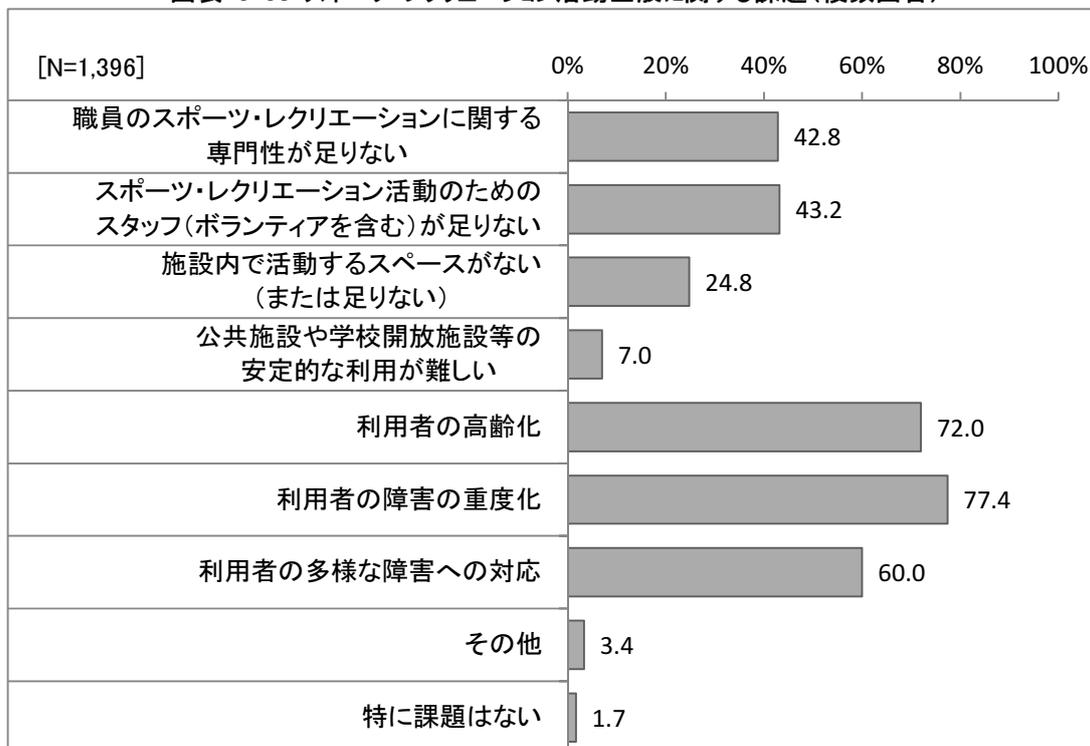
	身体障害が 過半数の施設	知的障害が 過半数の施設
	N=148	N=381
指導者の確保(ボランティアを含む)	16.2%	22.0%
介助者の確保(ボランティアを含む)	35.1%	32.3%
活動場所の提供・確保	37.2%	38.1%
本人への大会やイベント等に関する情報提供	51.4%	41.5%
活動場所への送迎	23.6%	32.8%
その他	6.1%	8.4%
特に配慮・支援は必要とされていない	21.6%	18.4%

注) 精神障害および難病等が過半数の施設は各 2 施設であったため、障害種別の集計はしていない。

2.11 スポーツ・レクリエーション活動全般に関する課題

スポーツ・レクリエーション活動全般に関する課題について、「利用者の障害の重度化」(77.4%)が最も多く、次いで「利用者の高齢化」(72.0%)、「利用者の多様な障害への対応」(60.0%)であった(図表3-38)。また、4割の施設が「職員のスポーツ・レクリエーションに関する専門性が足りない」「スポーツ・レクリエーション活動のためのスタッフ(ボランティアを含む)が足りない」と回答している。

図表 3-38 スポーツ・レクリエーション活動全般に関する課題(複数回答)



図表 3-39 スポーツ・レクリエーション活動全般に関する課題(障害種別)(複数回答)

	身体障害が過半数の施設	知的障害が過半数の施設
	N=405	N=963
職員のスポーツ・レクリエーションに関する専門性が足りない	41.5%	43.7%
スポーツ・レクリエーション活動のためのスタッフ(ボランティアを含む)が足りない	47.4%	41.7%
施設内で活動するスペースがない(または足りない)	26.4%	24.0%
公共施設や学校開放施設等の安定的な利用が難しい	6.4%	7.2%
利用者の高齢化	67.9%	74.8%
利用者の障害の重度化	79.5%	77.4%
利用者の多様な障害への対応	59.3%	60.6%
その他	5.2%	2.6%
特に課題はない	1.7%	1.3%

注) 精神障害および難病等が過半数の施設は各2施設であったため、障害種別の集計はしていない。

3. 調査結果(事例調査)

全国の障害者入所施設におけるスポーツ・レクリエーション活動の状況を明らかにするため、特徴的な施設に事例ヒアリング調査を行った。

図表 3-40 事例調査で対象とした障害者入所施設

所在地	施設名	定員	入所者の障害種別	特徴
静岡県	社会福祉法人 あしたか太陽の丘 障害者支援施設 かぬき学園	40人	身体障害が 過半数	敷地内の体育館を活用し、ボッチャ大会を自主開催 スポーツ大会を通じて他の施設や地域の障害者と積極的に交流 静岡ボッチャ協会と連携・協力
千葉県	社会福祉法人 福葉会 障害者支援施設 富里福葉苑	50人	知的障害が 過半数	自転車、陸上、ソフトボール、フライングディスクなど、さまざまな種目の クラブ活動を展開 障害者スポーツ大会だけではなく、一般のスポーツ大会にも積極的に参加 日本競輪学校、日本競輪選手会千葉支部からの支援・協力
千葉県	社会福祉法人 槇の実会 障害者支援施設 ひかり学園	50人	知的障害が 過半数	年間を通じてさまざまなスポーツ大会に積極的に参加 担当者(元トップアスリート)の競技経験を活かした専門的なスポーツ指導 を実施 近隣の学校や公共スポーツ施設などの支援

社会福祉法人あしたか太陽の丘 障害者支援施設 かめき学園

敷地内の体育館を活用し、ボッチャ大会を自主開催
スポーツ大会を通じて他の施設や地域の障害者との積極的な交流
静岡ボッチャ協会と連携・協力

1. プロフィール

(1) 設立経緯

1977年、静岡県により県東部地区の総合社会福祉拠点として、各種障害者福祉施設の建設が始まる。同年、社会福祉法人あしたか福祉会を設立(現、あしたか太陽の丘)。

1979年、身体障害者更生施設として「かめき学園」を開設し、現在の身体障害を主とする障害者支援施設に至る。個々のニーズに応じて、日常生活での介護から地域生活移行に向けた幅広い支援を行っている。

なお、同法人はかめき学園などの各種障害者福祉施設の他に、研修センター、体育館、グラウンドなどを備えており、広く地域に開放している。

(2) 事業内容・定員

施設入所支援(40人)、生活介護(40人)、短期入所(5人)

(3) 職員数

常勤職員(26人)、非常勤職員(3人)

(4) 利用者の状況

現在の施設入所支援サービスの利用者は41人であり、平均年齢は54.2歳(最年少30歳、最高齢76歳)である。

開設当初より、主たる障害は身体障害であるが、利用者の約3割が療育手帳と身体障害者手帳を保有している重複障害者である。単一障害者の利用申し込みは少なく、知的障害または精神障害との重複障害が多い。

開設時は就職を目指す通過施設としての役割を果たしていたが、10年ほど前から特別支援学校卒業後に直接地域で就労できる体制が整ってきたこともあり、重度者の利用が増えている。平均入所期間は10年程度であり、年間3人前後の入退所がある。

2. スポーツ・レクリエーション活動の実態

(1) 目的と基本方針

スポーツ・レクリエーション活動を通じて、施設利用者の健康維持や生活に潤いを提供するとともに、利用者同士や担当職員とのコミュニケーションを図ることを目的としている。そのため、「参加できない人を作らない」を心がけており、利用者全員に喜ばれるスポーツ・レクリエーションを第一に支援している。

(2) スポーツ・レクリエーション活動に関連する行事の開催

□あしたか杯（かぬき学園ボッチャ大会）

外部の大会に参加できない利用者も含めて全員が競技会の雰囲気を楽しめるようにするため、法人敷地内にある体育館を利用し、ボッチャの大会を自主開催している。

開催にあたっては、静岡ボッチャ協会や静岡ボッチャ大会関係者の協力を得て大会の広報を行っており、近隣の三島市や富士宮市のボッチャクラブ、県内のボッチャチーム、個人など、外部からの参加者を受け入れている。なお、静岡ボッチャ協会からは、広報以外にも審判や用具の貸し出し等の協力も得ている。



あしたか杯

□スポーツ大会

同法人の隣接する障害者支援施設（身体障害者）と合同でスポーツ大会を開催している。実施競技は、玉入れ、ボール送りなどを中心に、利用者の状況に合わせて独自にルールをアレンジしている。参加者の体力を考慮し、午前中は各種競技を行い、午後からはカラオケなどの文化的活動を取り入れている。

□三施設交流会

静岡県東部地区の3施設（かぬき学園、中伊豆リハビリセンター、伊豆リハビリセンター：旧体系の身体障害者更生施設）による交流会を開催している。3施設が交代で当番施設となり、各施設の特色をふまえて交流会を開催している。主な実施競技はボッチャ、ふうせんバレー、輪投げ、オセロ、将棋などであり、利用者の嗜好に合わせてさまざまな種目を取り入れている。

(3) 外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加

□わかふじスポーツ大会（静岡県障害者スポーツ大会）

静岡県障害者スポーツ協会が主催するスポーツ大会である。毎年、希望者を募り参加している。主な出場競技はボッチャ、フライングディスク、ビーンバック投げ、スラローム、200メートル走、ソフトボール等である。



わかふじ大会

□静岡ボッチャ大会

静岡ボッチャ協会主催の大会である。希望者を募り参加している。

□高校野球静岡県予選大会の観戦

毎年、希望者を募り観戦を行っている。例年の行事となり、球場側の配慮から、場所の確保やテント・日よけの用意などの協力を得ている。

(4) 日常生活におけるスポーツ・レクリエーション活動

図表 3-41 日常生活におけるスポーツ・レクリエーション活動(かぬき学園)

活動頻度	週2回(主に火・木の午前中)
参加形態	任意参加(半数以上が参加) <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の参加者は20～30人程度である。 ・ 活動に参加しない利用者は3割程度である。 (他の人と行動するのが得意ではない人、他の活動に参加している人など) ・ 通所の利用者も同じ活動をしている。
実施種目	ボッチャ、フライングディスク、散歩、ベンチサッカーなど <ul style="list-style-type: none"> ・ 大会前にはそれぞれの参加競技の練習を行う。 ・ ボッチャ等に参加できない人も、同じスペースで音楽に合わせてダンスをするなど、その場の雰囲気を感じられるように配慮している。
活動場所	施設内の多目的ホール、敷地内の体育館、敷地内の屋外スペース <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気が良く暖かい時期は敷地内の体育館で活動し、冬場の寒い時期は施設内の多目的ホールで活動している。

(5) 担当者と資格

主に作業療法士1人(障害者スポーツ指導員初級、静岡ボッチャ協会役員)が指導にあたり、その他に職員5～6人がスポーツ・レクリエーション活動全般のサポートをしている。

また、年1回、静岡県障害者スポーツ協会の巡回指導を利用しており、スポーツ・レクリエーション活動の充実と担当者の支援技術向上を図っている。

(6) 運営上の工夫

施設開設当初は就労を目指す施設として、作業中心の機能訓練的要素が強かったが、10年ほど前から障害の重度化が進み、作業に参加できない人に対する支援として、スポーツ・レクリエーション活動を取り入れ始めた。

利用者を寝たきりにしないことを目標に、各自の体力に合わせてできるだけ活動するように働きかけており、開始前には、利用者が自主的に参加しやすいように、明るく前向きな声かけにつとめている。

レクリエーションとして楽しみながら活動する日もあれば、既存のルールのもと試合を行い、競技性を高める日もある。同じ種目でも、用具の工夫、自助具の導入、介助者をつけての競技などの工夫により、全員が参加できるよう配慮し、利用者のスポーツに対する興味・感心、集中力を高めている。大会がない時期は、利用者の希望に応じて種目を決めることもある。

(7) 支援・協力体制

静岡ボッチャ協会や静岡県障害者スポーツ協会からは、用具の貸し出しや広報活動などの協力を得ている。あしたか杯などの大会開催時には、施設で実習を行った学生がボランティアとして参加している。

(8) スポーツ・レクリエーション活動の課題

職員は施設の他の業務で手いっぱいの状況であり、活動のさらなる充実のためにはスポーツ実施に関する外部のサポートを必要としている。利用者の高齢化、重度化が進む中で、スポーツ活動全般が縮小傾向にならないように、スポーツの利点を法人内外にアピールすることが重要であると考えている。

また、施設利用者の生活に張り合いが生まれるように、スポーツを通じて外部の人と交流する機会をいかに増やしていくかを課題としている。

**社会福祉法人あしたか太陽の丘
障害者支援施設 かめき学園**

○所在地：静岡県沼津市宮本 5-2

○設立年：1979 年

○定員：40 人

社会福祉法人福葉会 障害者支援施設 富里福葉苑

自転車、陸上、ソフトボール、フライングディスクなど、さまざまな種目のクラブ活動を展開
障害者スポーツ大会だけではなく、一般のスポーツ大会にも積極的に参加
日本競輪学校、日本競輪選手会千葉支部からの支援・協力

1. プロフィール

(1) 設立経緯

1980年、知的障害者授産施設「富里福葉苑」として開設し、2012年に新体系の障害者支援施設に移行した。施設利用者の社会的自立に向けて、全面性・反復性・漸進性・意識性・個別性を5大原則とし、作業訓練、生活支援、健康支援を実践している。

(2) 事業内容・定員

施設入所支援(50人)、生活介護(67人)、短期入所(4人)

(3) 職員数

常勤職員(29人)、非常勤職員(1人)

(4) 利用者の状況

現在、施設入所支援サービスの利用者は50人であり、短期入所者を含めて合計71人が利用している。入所者の平均年齢は40.1歳(最年少19歳、最高齢83歳)である。

地域移行を目標に生活や就労に関する支援を行っているが、受け入れ企業の数が少ない等の問題から、実際には職を得て自立することが困難な場合が多い。そのため、入所期間が長期に渡る利用者が多く、福祉的就労を通じて施設内での生活を続けている。

2. スポーツ・レクリエーション活動の実態

(1) 目的と基本方針

施設利用者の体力・健康の維持、施設内の閉塞感の解消や情緒の安定を図ることを目的に、日常生活の中で積極的にスポーツを取り入れている。

また、施設として地域社会に知的障害を広く認知してもらうことが重要であると考えており、地域のスポーツ大会等に積極的に参加している。各種大会に参加することにより、大会運営者や他の施設の参加者、ボランティア、地域住民と接する機会を作ることができ、利用者の社会参加につなげている。

(2) 日常生活におけるスポーツ・レクリエーション活動

□クラブ活動

図表 3-42 日常生活におけるクラブ活動(富里福葉苑)

活動頻度	週1回程度(曜日によって活動種目をわけている。)
活動形態	任意参加(選択制)
備考	各自好きなクラブを選択している。 複数のクラブを掛け持ちしている利用者もいる。

図表 3-43 主なクラブ活動(富里福葉苑)

クラブ活動	人数	曜日	主な活動場所
自転車競技部	10人	月	施設内の駐車場空きスペース
陸上部	20人	火・金	施設周辺の道路
ソフトボール部	15人	水	近隣の公園
フライングディスク部	20人	木	近隣の公園
軽スポーツ部	15人	土	近隣の公園

<自転車競技部について>

利用者の体力やバランス感覚を養うことを目的に、施設を開設して間もなく自転車競技部の活動を開始した。当初は補助輪付の自転車を利用することもあったが、現在ではピスト競技からロード競技までの自転車競技全般を行っている。

普段は施設敷地内の駐車場空きスペースにて、専用のローラーを用いて練習を行っている。かつては周辺の道路を走行していた時期もあったが、施設周辺の開発が進んできたため、現在では安全面の配慮から施設内での練習としている。

クラブとして活動を続けていく中で、日本競輪学校や日本競輪選手会千葉支部、自転車競技部がある近隣の高校などとのつながりが生まれ、いまでは用具の寄付や練習場所の提供など、さまざまなかたちで協力を得ている。専用の自転車やウェア、練習用具などは日本競輪学校や競輪選手から譲り受けたものを活用しており、月 1~2 回程度は千葉競輪場のバンクを使った練習も実施している。



自転車競技部 合宿風景

□体育活動(健康支援)

図表 3-44 日常生活における体育活動(健康支援)(富里福葉苑)

活動頻度	週3~4回(月・水・木・土)
活動形態	全員参加
活動内容	マラソンや駅伝など施設の周りを走る。 重度者、高齢者はウォーキングや散歩を実施。
備考	自立、就労の観点から、健康を保つことが重要であると考えており、クラブ活動とは別に体育活動(健康支援)というかたちで体を動かしている。 各大会前などには、クラブ活動の練習を体育活動の時間で補うこともある。

(3) 外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加

開設当初は施設外での活動頻度は少なかったが、利用者の社会参加の機会を作り、地域にも活動を認知してもらえるように、少しずつ地域のスポーツ大会やイベントに参加するようになった。当時の千葉県内には障害者のスポーツ大会は少なく、市内のマラソン大会や駅伝大会などの一般健常者の大会に参加していた。現在では、愛の競輪、手をつなぐスポーツの集い、千葉県ID陸上選手権大会など、施設入所者が参加できる大会数も増え、各クラブにおける活動目標となっている。

□愛の競輪 ぼくたちの千葉記念

富里福葉苑の自転車競技部と日本競輪選手会千葉支部所属の選手による千葉競輪場の記念開催レースである。

レースの前には、出場選手の最終選考会を兼ねて、日本競輪学校や千葉競輪場にて最終合宿を行っている。自転車競技部の日頃の練習の成果を発揮する場となっているだけでなく、千葉競輪場の来場者に対して、知的障害を広く認知してもらう機会にもなっている。2013年で11回目の開催となった。



愛の競輪

□富里市ソフトボール大会

富里市体育協会ソフトボール専門部が主催する一般健常者の大会であり、障害者チームとしての参加は富里福葉苑のみである。春季大会と秋季大会の年2回、約20チームでトーナメント戦を行っている。



富里市ソフトボール大会

□手をつなぐスポーツの集い

千葉県、千葉県手をつなぐ育成会、千葉県社会福祉協議会が主催する知的障害者の運動会であり、3,000人近い参加がある。毎年、富里福葉苑では希望者を募り参加している。

(4) 担当者と資格

基本的に施設の職員が各自の競技経験を活かして指導にあたっている。自転車競技部を担当する職員は、元プロ競輪選手である(競技引退後に職員として雇用)。陸上競技部の担当職員は、日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員の資格を保有している。自転車部が競輪場で練習をする際には、現役の競輪選手から指導を受けることもある。

(5) 地域社会や施設外の障害者との交流

施設の運動会、夏祭り、文化祭、クリスマスなどの年中行事には、地域住民の参加もある。千葉黎明高校のソフトボール部、富里高校の陸上競技部、順天堂大学の陸上競技部などが、大会の運営を手伝うことがある。

近隣の公共スポーツ施設を予約して、他の障害者施設の利用者とソフトボールやサッカーなどの練習試合をすることもある。

(6) スポーツ・レクリエーション活動の課題

今後は、さらに利用者の高齢化が進み、運動負荷の高い活動は実施が難しくなると予想される。状況によっては軽スポーツを活動の中心にしていくなど、個々の状況に応じたきめ細かなサービスの提供を検討している。

施設職員は、通常業務の現状維持で精一杯であり、クラブ活動にこれ以上の時間や労力を割くことは難しい状況にある。知的障害は多様であり、障害に関する知識と理解のある指導スタッフを確保することが課題である。大会運営などについては、保護者の協力も得ているが、保護者自身の高齢化も進んでいるため、家族だけではなく、一般の地域住民やボランティア希望者が継続的に参加できる仕組みづくりが必要であると考えている。

社会福祉法人福葉会
障害者支援施設 富里福葉苑

○所在地：千葉県富里市中沢 975-3

○設立年：1980年

○定員：50人

社会福祉法人榎の実会 障害者支援施設 ひかり学園

年間を通じてさまざまなスポーツ大会に積極的に参加

担当者(元トップアスリート)の競技経験を活かした専門的なスポーツ指導を実施

近隣の学校や公共スポーツ施設などの支援

1. プロフィール

(1) 設立経緯

1992年、知的障害者入所更生施設として開設し、2012年に新体系の障害者支援施設に移行した。「一日一笑！毎日賑やか！」を基本理念とし、利用者も支援者も毎日が健康で安らぎのある充実した暮らしを実践している。また、利用者が多くの分野で持てる能力や潜在能力を發揮できるように、日々の生活の中でスポーツ活動や文化活動などに積極的に取り組んでいる。

(2) 事業内容・定員

施設入所支援(50人)、生活介護(50人)、短期入所(3人)、日中一時支援(10人)

(3) 職員数

常勤職員(45人)、非常勤職員(10人)

(4) 利用者の状況

現在、施設入所支援サービスの利用者は46人であり、平均年齢は41.0歳(最年少18歳、最高齢71歳)である。重複障害者は2人で、それぞれ身体障害、精神障害との重複である。また、主たる障害が知的障害であっても、自閉症、てんかんなどを伴っている利用者もいる。

開設当初から入所している利用者も20人程度おり、施設として徐々に高齢化が進んでいる。法人として、10箇所のケアホームを開設しており、条件が整えば積極的に地域移行を促している(毎年4人程度)。

2. スポーツ・レクリエーション活動の実態

(1) 目的と基本方針

スポーツ・レクリエーションをはじめとする日中活動は、利用者の「心の満足」をテーマに行っている。それぞれの活動では継続練習を原則としており、各種大会に向けた練習を行っている。体力向上、技術向上、記録向上による達成感とともに、大会参加時にはひかり学園代表として参加できることの喜びを感じられるように働きかけている。また、重度障害であっても個人の持つ能力や可能性を伸ばせるように、長期間継続的な支援を行っている。

(2) 日常生活におけるスポーツ・レクリエーション活動

図表 3-45 日常生活におけるスポーツ・レクリエーション活動(ひかり学園)

活動頻度	週2回(火・木の午後14:00~15:00)
参加形態	任意参加(選択制) ・陸上競技とフライングディスクはそれぞれ10人程度が参加している。
実施種目	マラソン(陸上競技)、フライングディスク、散歩、ソフトボールなど ・継続して実施することが重要であると考えており、毎回種目を変更するのではなく、はじめに本人や保護者と話し合い、取り組む種目を決めている。 (本人の意向や体力によって、途中で種目を変更することもある。) ・定期的に隣接している同一法人の障害者支援施設と合同でソフトボールを行っており、ひかり学園からは毎回1~2人が参加している。
活動場所	敷地内の屋外スペース、施設周辺の歩道、町営体育館など ・陸上競技は、主に施設周辺の歩道を利用している。 ・フライングディスクは敷地内の屋外スペースを利用している。 ・雨天の場合は、近隣の町営体育館を予約し、使用することもある。 ・ひかり学園の総合施設長が成田高校の陸上部コーチをしている関係から、陸上競技大会の前には高校のグラウンドで練習を行うこともある。その際、トラックの周回方向など、簡単なルールを設定することで、一般の高校生と一緒に練習を行っている。 高校の生徒や教員に知的障害を認知・理解してもらえる機会にもなっている。

(3) スポーツ・レクリエーション活動に関連する行事の開催

□ひかり体育祭

開設当初から年に1回(10月の第3土曜日)開催している法人全体の体育祭である。

施設近隣にある中村小学校の協力を得て、天候に応じてグラウンドまたは体育館を借りて開催している。毎年、区長の来訪がある他、地元の多古中学校や多古高校の生徒がボランティアとして参加している。



ひかり体育祭

(4) 外部のスポーツ・レクリエーション大会への参加

ひかり学園では、年間を通じてさまざまな外部のスポーツ大会に参加している(図表 3-46)。

四街道ガス灯ロードレースには知的障害者部門があるが、多古町民マラソン大会、富里スイカロードレース、香取小江戸マラソンは一般の部門のみであり、健常者に混じって参加している。千葉県ゆうあいピックや千葉県障害者フライングディスク大会には、ケアホームに移行した利用者も一緒に出場している。各種大会に参加することにより、入所者の達成感を生み出すとともに、地域に対して施設の認知度を高める機会にもなっている。



千葉県ゆうあいピック駅伝

図表 3-46 外部のスポーツ・レクリエーション大会の参加状況(ひかり学園)

2013年	大会名称	備考
1月	多古町町民マラソン大会 千葉県ゆうあいピック駅伝	一般部門に参加
2月	千葉県知的障害者陸上教室	
3月	千葉県ID陸上競技選手権(記録会)	
4月	千葉県障害者スポーツ大会(水泳)	
5月	千葉市ゆうあいピック 千葉県障害者スポーツ大会(陸上)	
6月	富里スイカロードレース	一般部門に参加
8月	全日本障害者フライングディスク大会 全国障害者陸上教室	
9月	千葉県ゆうあいピックソフトボール選手権大会	
10月	千葉県障害者フライングディスク選手権大会 全国障害者スポーツ大会 多古町民体育祭	
11月	四街道ガス灯ロードレース	知的障害者部門に参加
12月	香取小江戸マラソン	一般部門に参加

(5) 担当者と資格

総合施設長は、競歩の元トップアスリートで、日本体育協会公認の陸上競技の上級コーチである。その他の職員にも、インターハイ優勝経験者や国民体育大会に10回出場した者など、陸上競技の元トップアスリートがいる。その他、日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員資格(初級)を持っている職員が2人いる。

陸上競技、フライングディスクともに、毎回1～2人の職員が担当している。散歩の参加者については、重度者が多いため、はじめは1対1の対応が必要となる場合もあるが、1～2年継続することにより、個別対応が必要なくなることが多い。

(6) 支援・協力体制

図表 3-47 スポーツ・レクリエーション活動を支援する主な団体・組織(ひかり学園)

区分	支援・協力機関	内容
障害者 スポーツ団体	千葉県知的障害者陸上競技協会 千葉県障害者フライングディスク連盟 千葉県知的障害者ソフトボール協会	大会開催情報の提供及び指導者や 障害者のための研修の機会の提供
障害者 スポーツ施設	千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンター (旧サン・アビリティーズ)	大会の情報提供及び指導者研修 の運営協力
公共 スポーツ施設	多古町営体育館 横芝光町陸上競技場	活動場所の提供
高校	多古中学校、多古高校 成田高校、佐原高校	ひかり体育祭のボランティア 陸上の練習など
大学	日本大学、東京農業大学の陸上部など	マラソン大会の伴走など

(7) スポーツ・レクリエーション活動の課題

元トップアスリートなど、競技経験が豊富な職員もいるが、職員の異動やシフト制勤務により、専門性の高い職員が常に担当できるとは限らないため、その他の職員についてもスポーツ指導の専門性を高めていきたいと考えている。スポーツ・レクリエーションに関連する研修を積極的に受講していきたいが、その他の業務もあり現状では難しい。

活動場所については、雨天時に使用している町営体育館が、施設から約5km離れているため、車での往復移動で活動時間が削られてしまうという課題がある。

入所者の高齢化に伴い、陸上競技やフライングディスクから散歩に種目を変更する利用者もおり、アクティブな種目から遠ざかってしまう傾向がある。そのため、既存の競技種目のアレンジやレクリエーション種目の導入が必要であると考えている。

社会福祉法人楨の実会 障害者支援施設 ひかり学園

○所在地：千葉県香取郡多古町北中 1309-160

○設立年：1992年

○定員：50人

**(4) スポーツ推進委員による
障害者のスポーツ参加支援に関する調査**

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、全国の都道府県・政令指定都市のスポーツ推進委員協議会による障害者のスポーツ参加支援に関する実態を明らかにすることにより、地域における健常者と障害者が一体となったスポーツ・レクリエーション活動の充実方策に資するデータの把握および分析をすることで、今後の方策検討における基礎情報とすることを目的とする。

1. 2 調査対象

全国の都道府県(47 団体)および政令指定都市(20 団体)のスポーツ推進委員協議会、計 67 団体の代表者を対象とした。

1. 3 調査協力

公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合

1. 4 調査方法および回収結果

【調査 1】質問紙調査

(1) 調査方法

記名式の質問紙調査。回答は、郵送、FAX で受け付けた。

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・障害者のためのスポーツイベントや教室の運営や指導の有無、事例
- ・障害者を受け入れるための研修会の開催の有無、事例
- ・障害者スポーツに取り組んでいる市区町村協議会の把握の有無、自治体名
- ・活動の現場に障害者を受け入れるための課題、および今後希望する支援

(3) 調査期間

2013 年 11 月 1 日～2013 年 12 月 10 日

(4) 回収数・回収率

都道府県スポーツ推進委員協議会(47 団体)

政令指定都市スポーツ推進委員協議会(20 団体) 計 67 団体から回答(回収率 100%)

【調査 2】事例調査(ヒアリング調査)

(1) 調査方法

地域のスポーツ推進委員協議会が、組織的に障害者スポーツに取り組んでいる状況を明らかにするため、東京都スポーツ推進委員協議会の代表者に対してヒアリング調査を実施し、事例をまとめた。

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・東京都スポーツ推進委員協議会の障害者スポーツに関する取り組み状況
- ・東京都内の市区町村スポーツ推進委員協議会の障害者スポーツに関する取り組み状況
- ・活動の現場に障害者を受け入れるための課題、および今後希望する支援

(3) 調査期間

2014年1月

2. 調査結果(質問紙調査)

2. 1 スポーツ推進委員協議会における障害者スポーツに関する取り組みの現状

(1) 都道府県・政令指定都市スポーツ推進委員協議会の現状

全国の都道府県および政令指定都市(以下、政令市)のスポーツ推進委員協議会、計 67 団体の代表者に、組織としての障害者スポーツに関する取り組みを尋ねた。2012 年度および 2013 年度の実績および予定で「障害者のためのスポーツイベントや教室の運営や指導を行っている」と回答したのは都道府県では 5 協議会 (10.6%) と全国の 1 割、政令市も 5 協議会 (25.0%) であった(図表 4-1)。「障害者を受け入れるための研修会の開催」では、都道府県で 11 協議会 (23.4%)、政令市では 5 協議会 (25.0%) で実施していた。「障害者スポーツに取り組んでいる市区町村協議会を把握」しているのは、都道府県で 21 協議会 (44.7%)、政令市では大阪市と福岡市の 2 協議会 (10.0%) のみであった。

図表 4-1 都道府県・政令指定都市のスポーツ推進委員協議会としての取り組み(2012・2013 年度)

取組みの内容等	都道府県 [N=47]		政令指定都市 [N=20]	
	N	%	N	%
① 障害者のためのスポーツイベントや教室の運営・指導の実施	5	10.6	5	25.0
② 障害者を受け入れるための研修会の開催	11	23.4	5	25.0
③ 障害者スポーツに取り組んでいる市区町村協議会の把握	21	44.7	2	10.0

(2) 障害者のためのスポーツイベントや教室の運営・指導の実施事例

「障害者のためのスポーツイベントや教室の運営や指導を行っている」と回答した協議会は、山梨県、長野県、島根県、福岡県、佐賀県および札幌市、横浜市、広島市、福岡市、熊本市である(図表 4-2)。現在取り組んでいるイベントや教室などの関わり方をみると、2 つのタイプがみられる。1 つは県民や市民を対象としたスポーツ・レクリエーションのイベント等で障害者が参加できる環境を整え、スポーツ推進委員協議会が主催団体のひとつとして実行委員会に関わっているものである。山梨県や長野県、島根県、広島市がそれに該当する。

もう 1 つは、障害者および障害者スポーツ関係団体が主催するイベントや研修会で、スポーツ推進委員協議会が協力団体として運営に関わっているもので、福岡県や佐賀県、札幌市、横浜市、福岡市、熊本市がそれに該当する。

図表 4-2 障害者のためのスポーツイベントや教室の実施事例(2012・2013 年度)

都道府県

No	団体名	事業名	主催団体
1	山梨県スポーツ推進委員協議会	いきいき山梨ねんりんピック	いきいき山梨ねんりんピック実行委員会
2	長野県スポーツ推進委員協議会	県民スポーツフェスティバル	県民スポーツフェスティバル実行委員会
		スポーツ天国	スポーツ天国実行委員会
3	島根県スポーツ推進委員協議会	島根県スポーツ・レクリエーション祭	島根県、県教育委員会、県体協、県レク、県スポーツ推進委員協議会、県障害者スポーツ協会、各市町村
4	福岡県スポーツ推進委員協議会	障害者スポーツ指導者全国研修会	(公財)日本障害者スポーツ協会
5	佐賀県スポーツ推進委員協議会	さがりくりんピック	佐賀県障害者スポーツ指導者協議会
		ムツゴロウ杯卓球パレー交流会	佐賀県卓球パレー協会

政令指定都市

No	団体名	事業名	主催団体
1	札幌市スポーツ推進委員会	はまなす全国車いすハーフマラソン大会	(公財)北海道障害者スポーツ振興協会
2	横浜市スポーツ推進委員連絡協議会	横浜市身体障害者運動会	(公財)横浜市身体障害者団体連合会
3	広島市スポーツ推進委員協議会	広島市スポーツ・レクリエーションフェスティバル	広島市スポーツ・レクリエーションフェスティバル実行委員会
4	福岡市スポーツ推進委員協議会	障害者スポーツ指導者全国研修会	(公財)日本障害者スポーツ協会
5	熊本市スポーツ推進委員協議会	わくわくふうせんバレーボール大会	(財)熊本市社会教育振興事業団
		障がい者大運動会	熊本市障がい者大運動会実行委員会

□島根県スポーツ・レクリエーション祭

「島根県スポーツ・レクリエーション祭」は、2013 年度の開催をもって 25 回目を迎えた。島根県スポーツ推進委員協議会は 1989 年(平成元年)から主催団体のひとつとして本事業に関わっている。2013 年度より、主催団体に(公財)島根県障害者スポーツ協会も加わっており、今まで以上に障害者が参加しやすいイベントを目指している。

2013 年度は 32 種あるイベントのうち、レクリエーション・フェスティバルの体験コーナーでボッチャを実施し、テニスでは車椅子の方との交流や障害のある子供たちも参加できる体験プログラムを実施した。

オリエンテーリングでは、チラシに『障害者も健常者もいっしょに競技するトレイル・オリエンテーリング。知的障害者・視覚障害者コースもあります』のメッセージと共に、車椅子に乗った人が競技に参加しているイラストが描かれており、知的障害者にはピンクコース、視覚障害者にはオレンジコースというクラスも明示されている。

グラウンド・ゴルフでは、大会とあわせて障害者へのサポーター養成講習会が開催され、障害種別のサポートのあり方について学んだり、実際に車椅子を使用してグラウンド・ゴルフを楽しむための、舗装路の傾斜や芝生のコンディションへの配慮を体験するなどしている。

島根県の例から、県民や市民を対象とした既存のスポーツ・レクリエーションイベントを、健常者と障害者が共に楽しめるイベントに変えていくための幾つかのヒントがみてとれる。



(3) 障害者を受け入れるための研修会の実施事例

障害者を受け入れるための研修会の開催状況をみると、都道府県では北海道、宮城県、栃木県、東京都、富山県、静岡県、兵庫県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県の 11 協議会(23.4%)、政令市では千葉市、神戸市、北九州市、福岡市、熊本市の 5 協議会(25.0%)で行われていた(図表 4-3)。

内容をみると、都道府県で実施している 11 協議会のうち、東京都、静岡県、高知県、福岡県、熊本県の 5 協議会では、講義と実技の研修がセットで行われていた。政令市も同じく、北九州市、福岡市、熊本市の 3 協議会で講義と実技がセットで実施されている。また、開催会場が県の障害者スポーツセンターで、連携をとりながら開催されている例もいくつかみられた。

講義の内容をみると、複数の分科会のひとつに障害者スポーツをテーマに取り上げたものや、パネリストに障害者スポーツに知見のある人やパラリンピアンが登壇している例と、障害者スポーツに特化して研修を行っている例がみられる。開催要項に、スポーツ基本法に障害者スポーツの推進が明記されたことを受けて実施していると書かれている例もみられた。

実技研修の内容をみると、卓球バレー、フライングディスクがそれぞれ 3 つの協議会で実施されており、その他ふうせんバレー、車椅子バスケットボール、カローリング、フロアホッケー、ボッチャなどが取り上げられている。また「車いすの操作」という実技も実施されていた。

図表 4-3 障害者を受け入れるための研修会の実施事例(2012・2013 年度)

都道府県

No	団体名	研修会名称
1	北海道スポーツ推進委員協議会	北海道スポーツ推進委員研究協議会
2	宮城県スポーツ推進委員協議会	東北地区スポーツ推進委員研修会宮城県大会
3	栃木県スポーツ推進委員協議会	栃木県スポーツ推進委員研修会
4	東京都スポーツ推進委員協議会	課題別研修会
5	富山県スポーツ推進委員協議会	女性委員会企画研修会
6	静岡県スポーツ推進委員連絡協議会	静岡県スポーツ推進委員実技研修会 静岡県スポーツ推進委員研究大会
7	兵庫県スポーツ推進委員会	スポーツ推進フォーラム2013
8	高知県スポーツ推進委員連絡協議会	高知県スポーツ推進委員初任者研修会
9	福岡県スポーツ推進委員協議会	福岡県スポーツ推進委員研修大会
10	佐賀県スポーツ推進委員協議会	佐賀県スポーツ推進委員協議会実技研修会
11	熊本県スポーツ推進委員協議会	熊本県スポーツ推進委員新任研修会

政令指定都市

No	団体名	研修会名称
1	千葉市スポーツ推進委員連絡協議会	広報研修会
2	神戸市スポーツ推進委員協議会	神戸市スポーツ推進委員全体研修会
3	北九州市スポーツ推進委員協議会	北九州地区スポーツ推進委員研修会 北九州市スポーツ推進委員実技研修会
4	福岡市スポーツ推進委員協議会	福岡市スポーツ推進委員後期中央研修会 福岡市西区スポーツ推進委員協議会研修
5	熊本市スポーツ推進委員協議会	熊本市スポーツ推進委員全体研修会

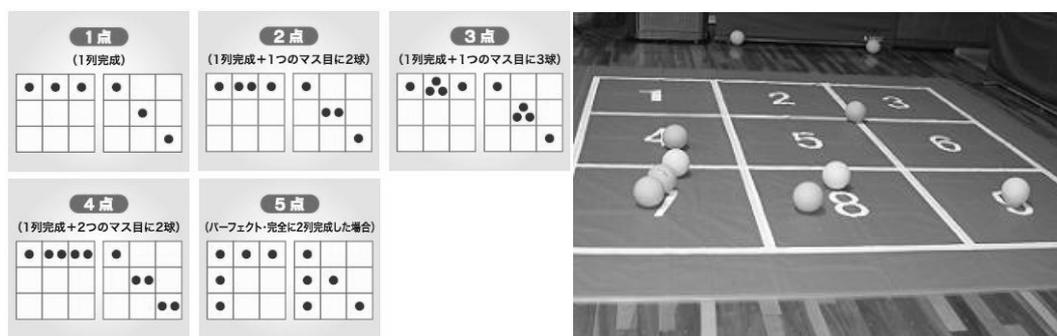
(4) 障害者スポーツに取り組んでいる市区町村協議会の把握

都道府県内・政令市内で障害者スポーツに取り組んでいる市区町村協議会の把握の状況を尋ねた。結果、図表 4-1 に示したとおり、都道府県で把握しているのは半数弱の 21 協議会で、政令市では 1 割にあたる 2 協議会のみであった。

都道府県協議会で最も多く取り組みを把握していたのが、東京都の 38 市区町村協議会、次いで京都府の 10 市町協議会、石川県の 6 市町協議会、青森県と奈良県の 5 市町村協議会であった。政令市の協議会では、大阪市と福岡市で、それぞれ一区の協議会の取り組みを把握していた。

□大阪市生野区スポーツ推進委員協議会考案の「スリーアイズ」

スリーアイズは、1997 年開催の「第 52 回なみはや国体」「第 33 回全国身体障害者スポーツ大会“ふれ愛ピック大阪”」を記念して、障害者と健常者が対等に競技できるバリアフリースポーツとして開発された。わずかなスペースがあれば、幼児から高齢者まで、また車椅子での参加も可能なため障害者と健常者が一緒に参加できるスポーツとして愛好されている。用具は、独自で開発した専用のゴム製ボールとマス目のシートを使用している。ルールは、2 チームに分かれてボール 5 個を交互にマス目に向かって投げ、ボールの配列で得点を決める。2013 年度の市民大会では 70 チーム 285 人、区民大会では 87 チーム 381 人が参加しているスポーツである。



(5) 活動の現場に障害者を受け入れるための課題および希望する支援

都道府県・政令市のスポーツ推進委員協議会に対して、今後、スポーツ推進委員が活動する現場に障害者を受け入れていくための課題について尋ねた。結果、図表 4-4 に示すとおり、都道府県協議会で最も多いのは、スポーツ推進委員が「障害者・障害者スポーツに関する知識や技術がない」で、全体の 3 割にあたる 15 協議会が課題として挙げていた。次いで「場所・施設・設備の整備・バリアフリー」(14.9%)、「行政内の担当部署間の連携」「障害者スポーツに関する資格の取得・指導者育成」がともに 10.6%であった。

政令市協議会では、「障害者スポーツに関わる機会・交流経験がない」が全体の 4 割にあたる 8 協議会で課題として挙げており、次いで「障害者・障害者スポーツに関する知識・技術がない」が 35.0%であった。

図表 4-4 障害者を受け入れていくための課題

都道府県 [N=47]

No	組織としての課題	%
1	障害者・障害者スポーツに関する知識・技術がない	31.9
2	場所・施設・設備の整備・バリアフリー	14.9
3	行政内の担当部署間の連携	10.6
	障害者スポーツに関する資格の取得・指導者育成	10.6
5	障害者スポーツに関わる機会・交流経験がない	8.5
	障害者スポーツ(組織)に関する情報の窓口がない	8.5

政令指定都市 [N=20]

No	組織としての課題	%
1	障害者スポーツに関わる機会・交流経験がない	40.0
2	障害者・障害者スポーツに関する知識・技術がない	35.0

今後、どのような支援を希望するかをまとめたのが図表 4-5 である。都道府県・政令市の協議会ともに、最も希望が多かったのが「研修会の開催・参加促進」に対する支援で、都道府県協議会の4分の1、政令市協議会の3分の1が希望していた。都道府県協議会では、次いで「障害者関連団体との連携」(23.4%)、「障害者が参加できるイベントの企画・開発」(10.6%)などの希望があった。

政令市協議会では、研修会やその他の活動現場への「指導者・講師の派遣」(20.0%)の支援が求められていた。研修会の開催については「上部団体(都道府県スポーツ推進委員協議会)での研究、視察等の支援があると良い」と具体的に書かれたものもあった。

その他、障害者をスポーツ推進委員に登用することで、活動内容を大幅に見直しできるのではないかとの意見もあった。

図表 4-5 障害者を受け入れていくために希望する支援

都道府県 [N=47]

No	組織として今後希望する支援	%
1	研修会の開催・参加促進	25.5
2	障害者関連団体との連携	23.4
3	障害者が参加できるイベントの企画・開催	10.6
4	先進自治体での事例紹介	6.4
	国・自治体・全国スポーツ推進委員連合が指針・目標を提示	6.4

政令指定都市 [N=20]

No	組織として今後希望する支援	%
1	研修会の開催・参加促進	35.0
2	指導者・講師の派遣	20.0

3. 調査結果(事例調査)

障害者スポーツに関する取り組みを積極的に行っている、一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会(以下、東京都スポーツ推進委員協議会)の代表者に対してヒアリング調査を実施した。

3. 1 一般社団法人 東京都スポーツ推進委員協議会

(1) 東京都スポーツ推進委員協議会の取り組み

東京都は、2012年3月に「東京都障害者スポーツ振興計画」を発表しているが、東京都スポーツ推進委員協議会では、計画が発表される以前の2010年から障害者スポーツに対する取り組みの必要性を感じて準備を始め、2011年度からの3年間、障害者スポーツを重点事業に位置付けている。2013年度で3カ年を終了するが、2014年度以降もさらにステップアップした内容で障害者スポーツに取り組む予定である。現在は、東京都オリンピック・パラリンピック準備局との共催で以下の事業を実施している。

1) 課題別研修会

各地区スポーツ推進委員幹部(正副会長や部門長等)を対象とした研修会で、座学では障害者および障害者スポーツに関する基礎知識を学び、実技では地域の活動現場に障害者の参加があった場合の基礎的な支援方法を学ぶために、聴覚障害者・肢体不自由のスポーツ実施者を招いて、支援の方法やボディ・イメージの伝え方などを実践形式で行っている。

2) 地域スポーツ支援研修会

各地区のスポーツ推進委員や行政職員を対象とした研修会で、地区スポーツ推進委員会の障害者スポーツの取り組み状況の発表、障害者スポーツ実践者、障害者スポーツ指導員や福祉施設職員などを招いてのパネルディスカッションを実施し、意見交換会を行っている。

3) 初級障害者スポーツ指導員養成講習会

2013年度からは、スポーツ推進委員を対象とした指導員養成講習会を開催している。現在のスポーツ推進委員の障害者スポーツ指導員資格の取得状況は、図表4-6のとおりである。スポーツ推進委員1,500人に対して取得者は112人(7.5%)で、初級指導員がそのうちの9割以上を占めている。今後も、スポーツ推進委員を対象に資格取得のための講習会が開催されることから、取得者数の増加が見込まれる。

図表 4-6 障害者スポーツ指導者資格取得状況
東京都スポーツ推進委員協議会、2013年12月現在

	初級障害者 スポーツ指導員	中級障害者 スポーツ指導員	上級障害者 スポーツ指導員	その他	計
区部	69人	3人	0人	1人	73人
市町村	35人	2人	2人	0人	39人
計	104人	5人	2人	1人	112人

(2) 東京都内の市区町村スポーツ推進委員協議会の取り組み

東京都内 59 の市区町村協議会の障害者スポーツに関する取り組みの状況をまとめたのが図表 4-7 である。「既に何らかの障害者スポーツに関する取り組みを行っている」のは 33 の市区町協議会で、都内市区町村協議会の半数以上 (55.9%) を占めている。さらに、取り組んでいる協議会のうち約半数の 17 の市区町協議会では主催事業を実施していた。

「今年度実施予定」の協議会を含めると、東京都では、6 割以上 (64.4%) の市区町協議会が障害者スポーツに取り組んでいることがわかる。一方、「無回答」と「未実施・未計画」の協議会を合わせると 2 割 (23.7%) であった。

図 4-7 東京都市区町村スポーツ推進委員協議会
障害者スポーツ取り組みの現状 (2013 年度, N=59)

現状	N	%
既に実施	33	55.9
今年度実施予定	5	8.5
検討中	7	11.9
未実施・未計画	4	6.8
無回答	10	16.9

資料: 東京都スポーツ推進委員協議会

「2013 年度会長会資料 (2013 年 6 月実施アンケート)」より作成

(3) 市区町村スポーツ推進委員協議会の障害者スポーツに関する取り組み事例

障害者スポーツに関する市区町村協議会の取り組みは、以下のとおりである。関わり方、内容、連携先など多様であることがわかる (図表 4-8)。

図表 4-8 障害者スポーツに関する市区町村協議会の取り組み

実施内容	具体的内容
協議会内での体制強化	障害者スポーツ部会、障害者スポーツ委員会の発足
障害者と健常者がともに参加できるイベントの実施	「ふれあい運動会」を主催、区グラウンド・ゴルフ協会と連携し大会運営
障害者を対象にしたイベント・事業の実施	障害者スポーツ (ユニバーサルスポーツ) 体験会 心身障害児・者グラウンド・ゴルフ教室 障害児向け事業 (川遊び、ハイキング等) 障害者対象の運動会「あおぞらスポーツ」
協力事業の実施	特別支援学校への講師派遣 特別支援学級運動会や通所施設合同運動会への運営協力 障害者就労支援センターや心身障害者福祉センターでのスポーツ・レクリエーション指導 精神障害者共同作業所や知的障害者団体でのレクリエーション指導 重度障害者のスポーツ教室や健康福祉課バスレクリエーションへの運営協力 市主催の障害者スポーツ・レクリエーション大会への運営協力
研修会の開催	ポッチャ、車椅子バスケットボール、ふうせんバレーの体験会・研修会 障害者サークルから講師を招いてのサウンドテーブルテニスの実技体験会 障害者スポーツをテーマにした指導者講習会、区体育協会と合同の研修会

(4) 活動の現場に障害者を受け入れるための課題および希望する支援

東京都スポーツ推進委員協議会としては、以下の3つの課題を挙げている。

- 1) 身近な地域でスポーツを楽しめる「場(施設)」があるか
- 2) 障害特性を踏まえて安全にスポーツ指導(支援)ができる「指導者」がいるか
- 3) 場や指導者の情報を伝える「窓口」はあるか

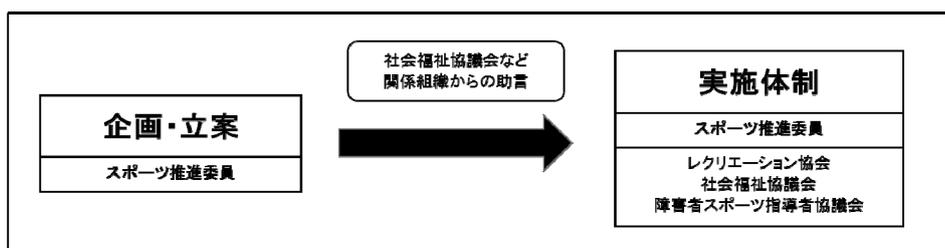
「場」の課題については、障害者も健常者も共にスポーツを楽しめるスポーツ活動の場としての、地域スポーツクラブの受け入れ体制の整備(人材・施設)が重要である。また、スポーツ推進委員は、ソフト面での取り組みはできるがハード面の整備ができないため、行政によるハード面の整備を期待している(障害者対応のトイレ・駐車場の設置等)。

「指導者」については、市区町村職員、スポーツ推進委員、地域スポーツクラブ等を対象に実践的なセミナーを実施し、地域において障害者スポーツを支えるキーパーソンを育成する必要がある。そのために、障害者スポーツ振興において中心的な役割を果たしている(公社)東京都障害者スポーツ協会、(公財)日本障害者スポーツ協会をはじめ、障害者スポーツ関係団体等と連携していくことが望まれる。また、スポーツ推進委員と障害者スポーツ指導員が相互の活動について理解を深め、事業実施の際に連携・協働することが障害者スポーツの振興には必要であると指摘があった。また今後、地域での障害者スポーツ事業の実施体制としては、以下を理想としていた(図表 4-9)。



車椅子バスケットボールの体験会
出典: 府中市スポーツ推進委員会
HP(URL: <http://www.fuchutaisi.com>)

図表 4-9 地域における理想の障害者スポーツの実施体制



東京都スポーツ推進委員協議会

○所在地: 東京都新宿区西新宿 6-12-6-1302

○委員数: 1,500人(男性 898人; 6割、女性 602人; 4割)

2013年12月現在

○市区町村組織: 都内62市区町村のうち59自治体でスポーツ推進委員が委嘱され活動

(5) 障害者スポーツ指導者組織に関する調査

1. 調査概要

1. 1 調査目的

障害者スポーツ指導者組織の現状を把握することによって、地域における健常者と障害者が一体となったスポーツ・レクリエーション活動の充実方策に資するデータの把握および分析を行う。

1. 2 調査対象

日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員を会員とする地域ブロック・都道府県の障害者スポーツ指導者協議会

1. 3 調査方法

事例調査:ヒアリング

1. 4 調査内容

組織概要、指導者の状況、大会・教室等の開催および指導者派遣、人的資源、スポーツ組織との連携、障害者団体との連携など

1. 5 調査期間

2013年10月～2013年11月

2. 調査結果

日本障害者スポーツ協会(以下、日障協)は、我が国の障害者スポーツの振興のため、指導者資格制度「日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度」を設置し、全国で指導者を養成している。2014年1月現在、初級、中級、上級を合わせて21,590人の指導者が登録されている。都道府県では、これらの有資格指導者の人材バンクとして障害者スポーツ指導者協議会が組織され、障害者スポーツの大会や障害者スポーツ施設における教室などで、登録指導者が活動している。

公認指導者を核とした人材バンクは、一部の政令指定都市にもある。このほか、障害者スポーツの指導者組織として、市区町村が独自に養成する障害者スポーツ指導者の団体がある。

本調査では、都道府県の障害者スポーツ指導者協議会を中心に、4事例の特徴的な取り組みについて紹介する。

1. 都道府県障害者スポーツ指導者協議会

日障協公認障害者スポーツ指導員を会員とする指導者組織で、全国47都道府県に設置されている。1986年の北海道に始まり、1990年代後半から多くの都道府県で設置された。

2. 事例調査の対象とした障害者スポーツ指導者協議会

図表 5-1 事例調査の対象とした障害者スポーツ指導者協議会の概要

名称	所在地	概要
福島県障害者スポーツ指導者協議会	福島県 福島市	障がい福祉課と障がい者スポーツ協会との強固な三者連携 広い県域をカバーする3つの支部、専門部に、15競技の競技部を設置 運営補助を行う「スーパーボランティア」の活躍
大分県障害者スポーツ指導者協議会	大分県 別府市	太陽の家を拠点に、さまざまなスポーツが楽しめる機会を提供 大分国際車いすマラソンをはじめ、障害者スポーツのメディア露出が多い地域性 中級指導員講習会を県独自に開催し、多様な人材に取得を呼びかけ
福岡障害者スポーツ指導者協議会	福岡県 福岡市	福岡県と2つの政令市(福岡市、北九州市)がひとつの組織として活動 指導者の資質向上を図りながら、各センターを拠点に大会、教室、サークル活動を支援 スポーツ指導以外の障害者支援にボランティア組織を活用
日本障害者スポーツ指導者協議会 九州ブロック	福岡県 福岡市	行政、県協会、指導者協議会の三者が一堂に会する連絡会を開催 ブロックで各県の指導者協議会をサポート

福島県障害者スポーツ指導者協議会

障がい福祉課と障がい者スポーツ協会との強固な三者連携
広い県域をカバーする3つの支部、専門部に、15競技の競技部を設置
運営補助を行う「スーパーボランティア」の活躍

1. 設立経緯

1995年開催の全国身体障害者スポーツ大会の準備室を兼ねて、1992年に福島県身体障害者スポーツ協会が任意団体として設立された(1995年より法人化)。当時、福島県内では、障害者スポーツの競技者・愛好者はいるものの、指導者が不足していたことから、障害者スポーツ指導者の育成を図るために、協会内の内部組織として、1994年に身体障害者スポーツ指導者協議会が設置された。翌年からは、知的障害者も含めた福島県障がい者スポーツ協会として活動している。

2. 指導者の登録状況

図表 5-2 福島県障害者スポーツ指導員数

資格名	人数	資格名	人数
初級障害者スポーツ指導員	219	スポーツコーチ	1
中級障害者スポーツ指導員	35	スポーツ医	1
上級障害者スポーツ指導員	5	スポーツトレーナー	2

2014年1月31日現在

福島県と福島県障がい者スポーツ協会(以下、県協会)は、地域生活支援事業「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」の補助金を活用し、初級の公認指導員の養成研修会を開催している。福島県には、公認資格を取得できる認定校として指定されている大学や専門学校がないため、東北6県と仙台市の障害者スポーツ指導者協議会で組織される東北ブロック協議会の協力のもと、仙台市内の認定校で資格を取得した学生を対象に、県の指導者協議会の活動を紹介し、登録を呼びかけている。

更新料の負担がネックになり、資格を更新しない指導員がいるのは全国共通の課題である。福島県では、有資格者の指導にかかる交通費を負担したり、情報提供の一部を資格更新者に限定するなど、非更新者との差別化を行うことで、資格更新率の向上に努めている。

3. 組織体制

福島県の指導者協議会では、広い県域をカバーするため、3つの支部で活動している。既存の体育施設を利用し、各地域の中心部を拠点に障害者スポーツの振興を図っている。

会津・県南支部:(拠点)会津若松市ふれあい体育館、下郷町町民体育館など

県中・いわき支部:(拠点)郡山市障害者福祉センター、いわきサンアビリティーズなど

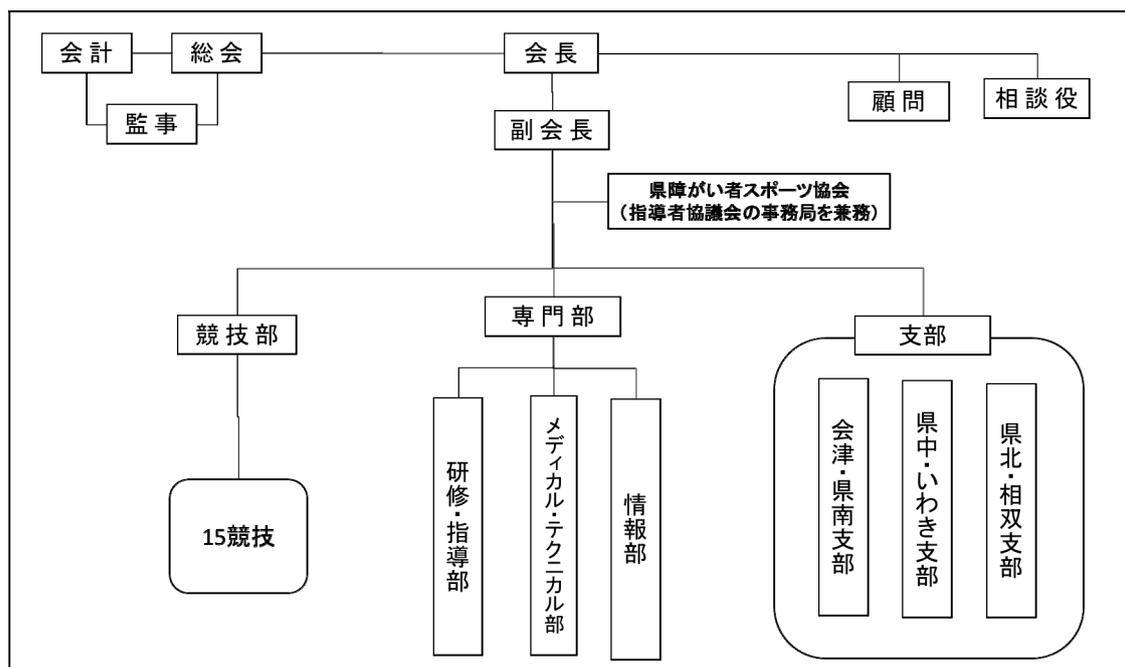
県北・相双支部:(拠点)福島市内の体育館や相馬市総合福祉センターなど

各支部が拠点施設を中心にスポーツ教室や大会などを展開している。

また、指導員の研修、メディカル・テクニカル部門、国内外の情報収集や会員への情報提供などを担当する「専門部」と、全国障害者スポーツ大会の競技種目にスキーを加えた 15 競技をカバーする「競技部」を設置し、それぞれに部長、副部長、事務担当者がついて組織的に活動できる体制を整えている。

現場で実務にも携わる指導者が指導者協議会の会長に就いている点も、福島県の特徴といえる。

図表 5-3 福島県障害者スポーツ指導者協議会の組織図



4. 予算

2013 年度の予算は約 120 万円。収入は主に福島県スポーツ振興基金助成金が約 70 万円、日障協からの還付金(日障協公認障害者スポーツ指導員の登録料の一部)が約 30 万円、県協会からの活動助成金が 20 万円となる。2002 年に県協会が福島県体育協会に加盟し、これを受けて県協会と指導者協議会が福島県スポーツ振興基金を使用できるように要綱を策定したため、基金を活用して事業展開している。

5. 関連組織との連携状況

1) 行政・県協会との連携

1995 年の全国身体障害者スポーツ大会に行政、県協会、指導者協議会の三者体制で取り組んだことで、大会終了後も、障害者のスポーツ振興において、三者が協力しながら行っている。県協会の事務局が県庁内にあり、県協会職員が指導者協議会の事務局を兼務している。現場の要望について、行政担当者と頻繁に情報交換を行うなかで、障害者が安全で楽しく活動できる環境づくりに一緒になって努めている。

2) 市民マラソン大会との連携

「郡山シティーマラソン」と「鶴ヶ城ハーフマラソン」では、指導者協議会が運営委員として参画している。いずれのマラソンでも、競技用車いす部門のほかに、競技用車いすを使えない重度障害者の参加に配慮した生活用車いすの部門を設けているのが特徴である。

3) スペシャルオリンピックス日本・福島との連携

スペシャルオリンピックス日本・福島(以下、SON 福島)の指導者を兼ねている会員がおり、県協会の練習会と SON 福島のプログラムを同日に同じ施設で開催することもある。障害者が楽しくスポーツに取り組めることを最優先に考え、可能な範囲で協力している。

4) 総合型地域スポーツクラブとの連携

「福島県スポーツ推進基本計画～ふくしまスポーツ元気創造プラン～」(2013)の中で、障害者を含めたすべての住民が参加できる総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)の創設・育成・定着をうたっており、障害者が総合型クラブと一緒に活動することを推進している。障害者受け入れのために、クラブマネージャーや指導者が障害者スポーツ指導員の資格を取得し、障害者の受け入れを進めている総合型クラブもある。

6. 独自の取り組み

特定の種目の指導は難しいが、できる範囲で協力したいとの要望を会員から受けて、2013 年から大会の運営補助(受付、案内、手話、介助など)を中心に行う「スーパーボランティア」を設置、現在約 20 人が活動している。

7. 問題点・課題

東日本大震災の影響で、相双支部の事務負担軽減と再生へ向け、県内の 5 支部を 3 支部に再編したため、各支部が広いエリアをカバーしなくなってきた。また、障害者福祉施設の体育館などが子供たちに開放され、指定管理者の経営方針によっては、障害者福祉センターも一般開放されており、障害者が利用できる施設がより限られる傾向にある。また、改修された体育館で、車椅子バスケットボールの利用が敬遠される事例もあることから、障害者がスポーツをする場の確保が課題となっている。

福島県障害者スポーツ指導者協議会

- 所在地：福島県福島市杉妻町 2-16
福島県保健福祉部障がい福祉課 兼
(公財) 福島県障がい者スポーツ協会内
- 設立年：1994 年 10 月
- 会費：1,000 円
- 会員数：259 人

大分県障害者スポーツ指導者協議会

太陽の家を拠点に、さまざまなスポーツが楽しめる機会を提供
大分国際車いすマラソンをはじめ、障害者スポーツのメディア露出が多い地域性
中級指導員講習会を県独自に開催し、多様な人材に取得を呼びかけ

1. 設立経緯

大分県障がい者スポーツ大会の運営、および 1981 年から開催している大分国際車いすマラソン大会の運営支援を目的として、大分県内の障害者スポーツ指導者が協力して、1992 年に発足した。

事務局を社会福祉法人太陽の家に置く。太陽の家は障害者の就労および生活施設であり、現在、太陽の家と企業の共同出資会社 8 社をはじめ、協力企業や作業所などで多くの障害者が働いている。2013 年 8 月 1 日現在、太陽の家の在籍者は 1,394 人で、そのうち障害者は、730 人(52.4%)となっている。在籍者の内訳は、就労移行支援施設や障害者入所施設などの施設利用者が 413 人、就労継続支援 A 型、作業所、共同出資会社などの雇用労働者が 981 人である。多くの障害者が就労後や休日にさまざまなスポーツを楽しみ、国内外の大会に参加している。陸上競技(車いすマラソンを含む)、車椅子バスケットボール、テニス、サッカーをはじめ、重度障害者を中心としたツインバスケットボール、ローリングバレーボール、ボッチャ、卓球バレー、フライングディスクなどの軽スポーツにも取り組んでいる。

2. 指導者の登録状況

図表 5-4 大分県障害者スポーツ指導員数

資格名	人数	資格名	人数
初級障害者スポーツ指導員	476	スポーツコーチ	1
中級障害者スポーツ指導員	111	スポーツ医	5
上級障害者スポーツ指導員	17	スポーツトレーナー	0

2014年1月31日現在

1) メディアの活用

公認初級指導員の養成講習会は、地元新聞に広告記事を出して募集している。大分国際車いすマラソンをはじめ、障害者スポーツについてのメディア露出が多い地域性もあり、養成講習会の受講者は他の都道府県に比べて多い。一方で、2000 年に指導者協議会の自主開催となってから 2013 年までの 14 年間の平均受講者は約 75 人だが、ここ数年の受講者は 40～50 人と減少傾向にあり、対策を検討している。

2) 前・後期制の導入

公認中級指導員の養成講習会は 8 日間を要する。指導者協議会では、一人でも多くの希望者が受講できるよう、土日開催としている。また、前期の 4 日間にスポーツ関連のカリキュラム、後期 4 日間に医療福祉関連のカリキュラムを集約させ、日本体育協会公認スポーツ指導者が後期のみを受講で資格が取れるよう配慮している。こうした工夫もあってか、県内の中級障害者スポーツ指

導員のおよそ3割は日本体育協会公認の指導者資格保有者である。

3) 初級から中級へのスムーズな移行

初級講習会を6～7月、中級講習会を7月末から開催することで、初級指導員が中級指導員受講条件となる2年間を経過したタイミングで、すぐに中級指導員を目指せるようスケジュールを組んでいる。結果、初級指導員取得後、最短の2年で中級指導員を目指す受講者が多い。

4) 中級講義のオープン化

中級講習会の一部講義をオープン化して、指導員のステップアップ講習会に活用している。その際、県外の指導員による講義を盛り込み、他県の障害者スポーツの指導方法や情報に触れる機会を提供している。

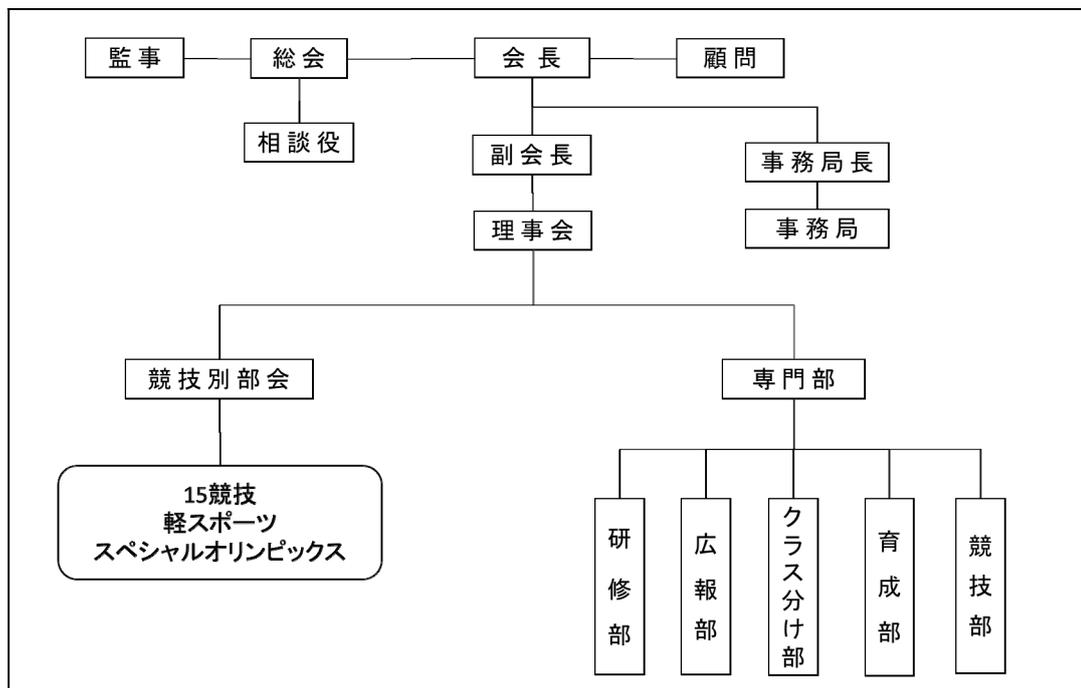
5) 一般の競技団体への働きかけ

障害者スポーツ大会の運営には、一般の各競技団体の協力が不可欠である。まずは、障害者スポーツについて理解してもらうために、競技団体の理事長などに説明し、中級指導員の資格取得を働きかけている。

3. 組織体制

大分県の指導者協議会は、「専門部」と「競技別部会」とに分かれて組織的に活動している。専門部の中に競技部、育成部、クラス分け部、広報部、研修部があり、それぞれに配置されている部会長と副部会長は上級指導員資格の取得を推奨している。また、競技別部会の中に15競技、軽スポーツ、スペシャルオリンピックスの17部会があり、各部会は、部会長、副部会長を中心に活動を展開している。17部会の副部会長以上には中級指導員資格の取得を推奨している。

図表 5-5 大分県障害者スポーツ指導者協議会の組織図



4. 予算

2013年度の予算は約350万円。収入には主に会費収入40万円(一人当たり1,000円)と、日障協からの還付金(日障協公認障害者スポーツ指導員の登録料の一部)40万円(一人当たり九州ブロックから700円)、事業収入(主にユニフォーム等)10万円などがある。

講習会の費用は1日3,000円+事務手数料1,000円で設定している。初級講習会(3日間)は、 $3 \times 3,000 \text{円} + 1,000 \text{円} = 10,000 \text{円}$ 、中級講習会(前期4日間、後期4日間)は、 $(4 \times 3,000 \text{円} + 1,000 \text{円}) \times 2 = 26,000 \text{円}$ となる。他地域と比較すると初級講習会の受講料は高いが、代わりに、資格保有者の活躍の場をより多く提供するようにしている。

5. 関係組織との連携状況

1) 太陽の家との連携

指導者講習会の実技の現場として、太陽の家を利用している。一般的な初級指導員の養成講習会では3種目程度の実技体験を行うが、太陽の家では、フライングディスク、ボッチャ、卓球バレー、ローリングバレー、陸上競技、重度障害者向けスポーツなど、6種目の実技体験を行う。太陽の家利用者の選手にプレーを披露してもらいながら、障害者との触れ合いを重視したプログラムを組んでいる。

2) スペシャルオリンピックス日本・大分との連携

スペシャルオリンピックス日本・大分(以下、SON 大分)からは、知的障害や発達障害に関するノウハウの提供、指導者協議会からは大会運営のボランティアの派遣などを行い、相互に連携している。初級講習会では、SON 大分のナショナルコーチを講師として招いている。

3) 指導者の専門性の向上

指導者協議会は、障害者スポーツの競技団体と連携して、会員の競技別資格取得を促進している。日本障害者フライングディスク連盟の指導者資格から大分県の卓球バレーやボッチャの資格まで、多くの会員が何らかの競技の指導者資格を取り、専門性を高めている。一方で、特定の競技を専門としない指導員は、大分国際車いすマラソンの支援やアダプテッドスポーツ全般の指導現場で活動している。

4) 人的資源の活用

県内の公認指導者は、指導者協議会への会員登録とは別に、大分県障がい者体育協会(以下、県協会)の人材バンクにも登録されている。特別支援学校、身体障害者福祉協会、総合型クラブなどから県協会に指導者の派遣依頼があると、指導者協議会が競技の専門性や経験などを考慮して適した人材を紹介している。2005 年より、県協会の職員、大分県障害福祉課の障害者スポーツ担当職員は、障害者スポーツ指導員資格をほぼ全員が取得している。

6. 問題点・課題

競技別部会の体制が整うにつれて、特定の競技団体の運営や指導だけに関わる指導者が増えつつある。全競技をオールマイティーに指導できる指導者の集まりが指導者協議会というコンセプトに無理が生じてきている。障害が多様になり、求められるニーズが変化してきていることから、新しい指導者協議会の役割が求められている。また、障害者スポーツ指導員は、専門的な知識や指導経験を身につけ、関連団体との連携を取りながら活動するのが望ましい。指導者協議会の本来の役割は、会員の資質向上であり、研修会の内容を充実させて開催し、その使命を果たすことが必要であると考えている。

大分県障害者スポーツ指導者協議会

○所在地：大分県別府市内籠 1393 - 2

社会福祉法人太陽の家

○設立年：1992 年 10 月

○会 費：1,000 円

○会員数：約 400 人

福岡障害者スポーツ指導者協議会

福岡県と2つの政令市(福岡市、北九州市)がひとつの組織として活動
指導者の資質向上を図りながら、各センターを拠点に大会、教室、サークル活動を支援
スポーツ指導以外の障害者支援にボランティア組織を活用

1. 設立経緯

福祉行政では、政令指定都市(以下、政令市)が県と同様の役割を担うケースが多く、全国障害者スポーツ大会でも、県と政令市がそれぞれ選手を選出・派遣している。福岡県内には、2つの政令市があり、障害者スポーツ行政は県(政令市以外の地域)、福岡市、北九州市に分かれているが、県全体の障害者スポーツを一体で推進するため、ひとつの組織として1993年に発足した。

2014年4月から、日本障害者スポーツ指導者協議会福岡支部より福岡障害者スポーツ指導者協議会に名称を変更する。

2. 指導者の登録状況

図表 5-6 福岡障害者スポーツ指導者協議会 障害者スポーツ指導員数

資格名	人数	資格名	人数
初級障害者スポーツ指導員	1,211	スポーツコーチ	5
中級障害者スポーツ指導員	108	スポーツ医	7
上級障害者スポーツ指導員	62	スポーツトレーナー	3

2014年1月31日現在

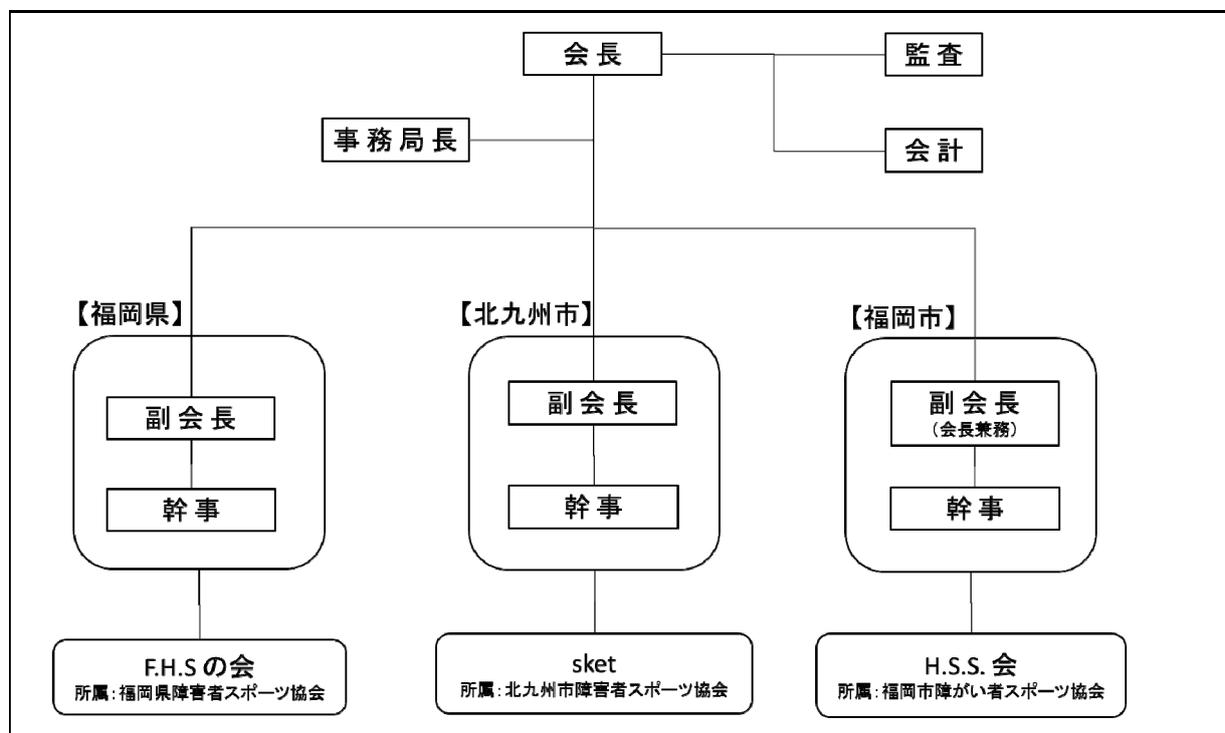
初級指導員の約半数は認定校における資格取得者である。競技に特化した専門的指導を行うことを考えている指導員の中には、日本体育協会公認の競技別資格を取得し、上級指導員の資格を取得した者もいる。

指導者の活動場所を各地域で提供できるようにと、福岡県、福岡市、北九州市でそれぞれ指導者を育成している。初級指導員講習会も、福岡県8月、福岡市10月、北九州市2月と時期をずらして、年3回開催し、希望者への門戸を広げている。

公認指導員資格保有者の中でも、障害についての基本的な知識や指導のスキルにばらつきがある。指導者協議会の事務局がある福岡市立障がい者スポーツセンターでは、指導者の資質向上のための基礎研修を毎年開催している。2日間の研修で、障害別の特徴、サポート方法、注意事項等を学び、実技のノウハウを身に付けることを目的としている。福岡市立障がい者スポーツセンターを会場とした活動に参加する指導員については、たとえ大会補助のボランティアであっても、基礎研修への参加者を中心に活用している。

3. 組織体制

図表 5-7 福岡障害者スポーツ指導者協議会の組織図



4. 予算

2013年度の予算は90万円。収入は主に会費収入約90万円(一人当たり九州ブロックから700円)となる。

指導謝金は、派遣依頼者が支払う。

5. 関係組織との連携状況

1) スポーツ推進委員

福岡市立障がい者スポーツセンターの指導者派遣事業として、公民館へのスポーツ指導に行く際に、福岡市スポーツ推進委員協議会と連携している。また、スポーツ推進委員が福岡市立障がい者スポーツセンターの運営協議会の委員になっており、地域の障害者からの問い合わせには、指導者協議会を含めて、連携しながら対応している。

6. 独自の取り組み

1) ボランティア組織の活用

初級指導員講習会を受講した者は、指導者協議会に登録して、会員として障害者スポーツの指導に関わることができるようになるが、2年目以降に更新料を払わずに更新をしない者もいる。登録を更新しない者の中には、障害者のスポーツ指導ではなく、地域で障害者の支援を行いたいと考えている高齢者も多い。こうしたニーズにこたえる形で、各地域にボランティア団体を組織し、指導

者協議会と連携しながら、地域での活動をしている。

図表 5-8 福岡県内の障害者スポーツボランティア団体

団体名	活動拠点	活動地域
F.H.S.の会	福岡県クローバープラザ	福岡県全域
H.S.S.会	ふくふくプラザ	福岡市
	福岡市立障がい者スポーツセンター	
sket	北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」	北九州市

上記のボランティア組織と同様に、飯塚市、春日市を拠点とした数十人規模の団体もあり、各地域で障害者スポーツ協会と障害者スポーツ指導者が中心となり、地域のニーズに対応した活動を行っている。

福岡障害者スポーツ指導者協議会

- 所在地：福岡県福岡市南区清水 1-17-15
福岡市立障がい者スポーツセンター内
- 設立年：1993年2月
- 会費：無料
- 会員数：1,381人

障害者スポーツ指導者協議会 九州ブロック

行政、県協会、指導者協議会の三者が一堂に会する連絡会を開催
ブロックで各県の指導者協議会をサポート

1. 設立経緯

日障協の要請を受けて、九州地区の障害者スポーツに携わっている主な指導者が中心となり、1990年に設立された。各県において、障害者スポーツを担う人物を幹事に任命して、順次、県の指導者協議会を立ち上げた。各県の障害者スポーツ協会と連携しながら活動を行っている。

図表 5-9 九州ブロックの県障害者スポーツ指導者協議会(設立年順)

設立年	名称
1992	大分県障害者スポーツ指導者協議会
1992	沖縄県障害者スポーツ指導者協議会
1993	福岡障害者スポーツ指導者協議会
1994	熊本障害者スポーツ指導者協議会
1996	長崎県障害者スポーツ指導者協議会
1999	鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会
2000	佐賀県障害者スポーツ指導者協議会
2003	宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会

注) 名称は設立時ではなく、現在の名称

2. 主な活動

年1回の総会(毎年2月に開催)と年2回の幹事会・研修会(毎年7月と2月に開催)があり、各県の指導者協議会の代表者が集まり、組織の運営等について協議する。日障協と県とのパイプ役も担っており、情報伝達、指導者派遣、各大会等への支援が主な活動である。

3. 予算

収入は、主に日障協からの還付金(日障協公認障害者スポーツ指導員の登録料の一部)および助成金(ブロック研修費30万円、地域特別研修費30万円、事務局支援費9万円、運営委員活動費6万円)となる。還付金については、日障協への毎年の登録料(一人当たり3,500円)のうちの1,000円が九州ブロックへの還付金(約340万円)となる。各県の指導者協議会にそこから7割を還元するので、九州ブロックの事業費予算としては、約100万円を運営費に充てることになる。

図表 5-10 指導員登録料の流れ(九州ブロックの場合)



4. 独自の取り組み

行政が障害者スポーツの実態を把握していない地域や、県の障害者スポーツ協会と指導者協議会の連携が十分でない地域があったために、指導者協議会が中心となり、行政、県協会、指導者協議会、競技団体が一堂に会する「九州地区障害者スポーツ連絡会」を開催している。幹事会の開催に合わせて、年 1 回、四者間における課題や今後の方向性等を主な議題としている。当初は、指導者協議会主導で開催していたが、現在では行政主導で開催できるように模索している。

障害者スポーツ指導者協議会 九州ブロック

○所在地：福岡県福岡市南区清水 1-17-15

福岡市立障がい者スポーツセンター内

○設立年：1990 年 11 月

**(6) 民間スポーツクラブにおける
障害者の参加状況に関する調査**

1. 調査概要

1. 1 調査目的

民間スポーツクラブにおける障害者の受入状況を把握することによって、地域における健常者と障害者が一体となったスポーツ・レクリエーション活動の充実方策に資する事例の把握を行う。

1. 2 調査対象

民間スポーツクラブ統轄団体である以下の団体を対象とした。

- ・一般社団法人日本フィットネス産業協会
- ・一般社団法人日本スイミングクラブ協会
- ・公益社団法人日本テニス事業協会

また、統轄団体への調査から、障害者の受け入れの先進事例として、岡崎竜城スイミングクラブを調査の対象とした。

1. 3 調査方法

ヒアリング調査

1. 4 調査内容

障害者の受入状況、障害者のプログラム参加状況、受入に関するこれまでの取り組み、スポーツ基本法で障害者のスポーツについて明記されてからの対応など

1. 5 調査期間

2013年10月～2013年12月

2. 調査結果

日本スイミングクラブ協会加盟クラブの 2 割弱で、障害者向けのプログラムを提供

1. 民間スポーツクラブにおける障害者の受入状況

フィットネスクラブ、スイミングクラブ、テニスクラブそれぞれの統轄団体は、個々の民間スポーツクラブにおける障害者の受け入れ状況に関して把握していない。軽い障害であれば、入会時に本人が申告しなければクラブ側は確認できないため、障害者の参加について正確な実態を把握するのは困難である。スポーツ基本法の施行を受けて、今後、各地の民間スポーツクラブで障害者の受け入れが進めば、障害者の参加に関する事例情報やノウハウが統轄団体に集まることが期待できる。

なお、公益社団法人日本テニス事業協会では、2012 年から、「有明の森スポーツフェスタ」において、健常者と障害者が一緒に参加できるプログラムを展開している。テニスをはじめ、さまざまなスポーツを体験できるイベントのなかで、「プロ選手によるテニス教室」「ソフトテニス体験教室」に加えて、「車いすテニス体験教室」「知的障がい者テニス教室」を開催している。民間テニスクラブにおける障害者の受け入れの事例としては、健常者と障害者がダブルスを組むクラブ内のテニス大会を 20 年以上続けているクラブがある。なかには、指導者と個人契約を結んで、テニスのレッスンを受けている障害者もいる。

2. 日本スイミングクラブ協会の取り組み

一般社団法人日本スイミングクラブ協会では、加盟クラブが提供するプログラムを定期的集計している。2013 年 12 月現在、1,060 の加盟クラブのうち、およそ 200 クラブで障害者を対象にしたプログラムが実施されている(図表 6-1)。障害者向けのプログラムがなくても、軽度の知的障害者を中心に、指導のないフリーコースなどで受け入れているクラブもあり、実際にはさらに多くのスイミングクラブで障害者が活動していると見込まれる。

図表 6-1 障害者向けプログラムを開催している日本スイミングクラブ協会登録クラブ数

(N=1,060)

対応カテゴリ	クラブ数	割合
障害者(身体・知的の区別なし)	108	10.2%
知的障害者	80	7.5%
身体障害者	6	0.6%
合計	194	18.3%

協会では、2010 年より知的障害者水泳研修会を全国各地で開催し、指導者の育成や受け入れクラブの増加に努めるほか、2011 年度からは「JSCA 全国知的障害者水泳競技大会」を開催するなど、障害者水泳の普及活動に積極的に取り組んでいる。

岡崎竜城スイミングクラブ

障害者水泳に 30 年以上取り組んでいる老舗クラブ

1. 障害者の参加経緯

1973 年の設立当初から、理事長自らが医師と相談しながら、自閉症の子供を約 20 人指導していた。翌年、この様子が掲載された新聞記事を読んだ重複障害児（視覚・知的障害）の保護者が訪ねて来たのをきっかけに、視覚障害児や知的障害児への指導も開始した。1978 年より、プログラムの一環として、障害者水泳教室を開講し、本格的に障害児・者の受け入れを始めた。健康づくりや社会参加を目指した水泳教室を行い、大会にも積極的に参加している。

2. 障害者の参加状況

会員数は約 1,500 人で、そのうち障害児・者は約 250 人である。障害者の約 8 割が知的障害、約 2 割が肢体不自由である。クラブは 3 校（本校・南校・碧南校）あり、本校と碧南校で障害者を対象にしたリハビリ教室を開催している。障害種別に関係なく、「障害者」という大きな枠の中で、発達障害、知的障害、肢体不自由など一緒に指導を行っている。車椅子利用者などもあるため、指導者の対応は多岐に渡るが、障害者教室を開講した 1978 年以降、障害種別や障害の程度に関係なく受け入れる方針を続けているため、他のスイミングクラブでは泳ぐことが叶わなかった重度障害児も参加している。

障害児の入会後一定期間は、指導者が子供の状態を把握できていないため、安全確保の観点から、子供の特性に詳しい保護者と一緒にプールに入ってもらっている。最近では、1 人での参加を希望する子供については、卒業後の社会性を育てる意味でも、保護者の送迎なしでの参加を認めている。



◆主なプログラム

本校では、月曜日の 19:00～20:00 にリハビリコースを開講している。以前は、日中の時間帯のコースであったが、卒業後の勤労者も通えるようにと、夜の時間帯のコースに変更した。この変更により、社会人の参加に加えて、保護者の同伴が必要な子供たちも保護者の日中勤務終了後に一緒に参加できるようになった。

泳力別に 4 コースに分け、各コースを 1 人のコーチが担当する。リハビリコース用に 4 レーン、指導者や付添いが不要な障害者用に残りの 2 レーンを開放している（図表 6-2）。

「泳げない方のコース」では、顔付けできない子供もいるので、背泳から始め、徐々に、顔付け、バタ足と指導していく。重度障害児を含めて、3～5 人が保護者同伴で参加している。コーチがひとりの子供に付きっきりになるケースもあるが、指導補助として多くの保護者が一緒に教室に参加しているため、コーチだけでは目の届かない部分をサポートしてもらえる。

「25m泳げる方のコース」では、自由形と背泳で50m泳げるようにと、途中で足をついても気にせず、往復することを意識して指導している。パニック障害児を含めて、15～20人が参加しており、心配な保護者には同伴してもらうが、1人での参加を基本としている。

「4種目の練習をするコース」では、背泳、平泳ぎ、バタフライ、自由形の4種目を完全に泳ぐことを目標に、飛び込みや繰り返し泳ぐ練習をしている。内容は健常者と変わらず、競技志向の子供が約10人参加している。大会出場に向けて、タイムを読むようにと、スタートのタイミングなど工夫しながら指導している。



「大会に出るコース」は、全国大会やパラリンピックを目標にする子供など7人が参加している。

図表 6-2 岡崎竜城スイミングクラブのリハビリコース(月曜日)のプログラム

コース名	内容
泳げない方のコース	25m泳げない等の初歩の段階の子供が、顔つけや浮き、バタ足から習得し、自由形と背泳で25m泳げることが目標
25m泳げる方のコース	自由形と背泳で50m泳げて、平泳ぎのキックやバサロキックができるようになることが目標
4種目の練習をするコース	競技に出たい人や出ている人が100mを泳げるようにすることが目標。飛び込み練習や25mを何本も泳ぐ等、内容は健常者の選手の練習に近い
大会に出るコース	世界記録や日本記録保持者もいるため、世界大会や日本選手権等への出場レベルに対応することが目標

月曜日のリハビリコース以外にも、火、木曜日(15:00～16:00)に「泳げない方から4種目の泳法の練習」、土曜日(12:00～13:00)に「中学生以下で25m以上泳げるようにするコース」、土曜日(13:00～14:00)に「中学生以下が付き添いの方と一緒に泳げるようにするコース」など多様なコースを様々な時間帯で開講している。

3. 指導者の状況

日本体育協会公認資格をクラブの指導者全員が保有しており、そのうち 1 人が日本障害者スポーツ協会公認資格「スポーツコーチ」、4 人が「初級障害者スポーツ指導員」を保有している。メイン担当者は 4 人で、約 15 人のスタッフがサポートできる体制を敷いている。



4. 障害者施設への支援

岡崎市委託事業として、毎週火曜日 12:30～14:00 の 2 コマの時間帯で、岡崎市福祉事業団が管理運営する「福祉の村」の施設から子供たちを受け入れている(図表 6-3)。

図表 6-3 岡崎竜城スイミングクラブに通う「福祉の村」参加施設

施設名	参加人数(人)
『めばえの家』(児童発達支援事業)	50～60
『若葉学園』(児童発達支援センター)	30～40
『そだちの家』(生活介護事業)	約60
『のぞみの家』(生活介護事業) (就労継続支援事業B型)	約60

5. その他

水泳指導には、「数を数える」「順番を待つ」といった要素を取り入れ、社会で健常者と一緒に生活できる訓練も行っている。クラブの文化として障害者と一緒に泳ぐことが根付いているため、健常者のクラスとの入替時においても、トラブルや苦情などはほとんど発生せず、子供たちは抵抗なく水泳教室に参加している。

岡崎竜城スイミングクラブ

- 所在地：愛知県岡崎市日名南町 19 番地 14 (本校)
- 設立年：1973 年
- 会員数：約 1,500 人 (そのうち約 250 人が障害者)
- スタッフ数：約 80 人 (アシスタント含む)

Ⅲ. まとめと考察

まとめと考察

1. 障害児・者のスポーツ実施の現状

厚生労働省「身体障害児・者実態調査」(2006)によると、身体障害児・者のスポーツ教室・大会等への参加率は 7.9%である。また、内閣府「障害者施策総合調査」(2008)では、スポーツ・文化芸術活動の参加者(40.5%)に、陸上競技、水泳、車いすテニスなど 11 種目の実施状況を尋ねている。これらは、障害者の生活の実態に関する調査の一部としてスポーツを取り上げたもので、障害者のスポーツ実施状況を詳細に把握するための全国調査はこれまで行われてこなかった。本調査では、文部科学省と笹川スポーツ財団が実施している全国調査の結果との比較ができる質問項目を設けて、7 歳以上の障害児・者を対象に、スポーツ実施状況やニーズ等を明らかにした。

文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(2013)によると、成人の過去 1 年間のスポーツ実施率は、週 1 日以上が 47.5%、週 3 日以上が 24.4%であるのに対し、障害のある成人のスポーツ実施率は、週 1 日以上が 18.2%、週 3 日以上が 8.5%となっており、障害者の定期的スポーツ実施率は健常者の半分以下である。週 1 日以上の実施者の割合を障害種別にみると、最も多い聴覚障害者の 22.5%から、最も少ない車椅子を必要とする肢体不自由者の 12.0%までさまざまである。

成人が過去 1 年間に実施した種目を障害種別にみると、どの障害でも、ウォーキング、散歩(ぶらぶら歩き)、体操(軽い体操・ラジオ体操など)の実施率が高く、笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2013)と同じ種目が上位に挙げられている。健康志向の高まりから、一人で気軽にできるウォーキングや散歩の実施者が増えている状況は、健常者、障害者を問わず共通していると考えられる。また、水泳は、未成年、成人を問わず、多くの障害種別で実施率が高い。7~19 歳では、知的障害、発達障害、聴覚障害で実施者が最も多い種目である。民間スポーツクラブに関する調査で示したように、スイミングクラブは、他の民間クラブに比べて障害者の受け入れが進んでおり、こうした状況が障害児・者個人のデータからも裏付けられた。

スポーツ・レクリエーションを実施する目的は「健康の維持・増進のため」が最も多く、過去の文部科学省や笹川スポーツ財団の調査と同様の傾向であった。他方で、スポーツ・レクリエーションへの取り組み(満足度)は笹川スポーツ財団調査と比べて、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」の割合が低く、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」の割合が大幅に高いなど、満足度・関心が低い結果となっている。今後は、障害児・者のニーズを踏まえて、スポーツへの関心を高めていくことが重要であると考えられる。

スポーツ・レクリエーションを実施する上で障壁となっているものは、「特になし」の回答を除くと、「体力がない」「金銭的な余裕がない」「時間がない」が上位に挙げられている。文部科学省調査の「運動・スポーツを行わない理由」の結果を参考にみると、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がない」が最も多く、以下「年をとったから」「体が弱いから」の順となっており、障害者は健常者に比べて、体力の不足と経済的要因がスポーツの実施に強く影響することが示唆された。

2. 特別支援学校を地域の障害者のスポーツの拠点としていく可能性

障害児の教育・生活の場である特別支援学校におけるスポーツの実態に関して、調査結果から示された主な課題は以下のとおりである。

1) スポーツを通じた地域との交流

運動会や体育祭、運動部活動・クラブ活動、夏休みのプール、スポーツ大会への参加などの活動に比べて、スポーツを通じた近隣住民や他校との交流の割合は低い

2) 運動部活動・クラブ活動の設置率

運動部活動・クラブ活動がある学校は、中学部で 37.2%、高等部で 58.6%となっており、ほぼすべての中学校・高校に運動部活動がある一般校と比べて設置率は低い。また、活動頻度については、事例調査で示したような週 2～3 日の活動の学校のほか、週1日以下の学校もあるなど、ほぼ毎日活動している一般校と比べて少ない。体調や体力の面で健常者と同じようにスポーツができない障害児・者がいることを考慮しても、特別支援学校の運動部活動・クラブ活動は低調である。

3) 卒業生の運動部活動・クラブ活動への参加

特別支援学校を卒業した障害者は、日常的にスポーツに参加する場がなく、スポーツから離れてしまうのが課題といわれている。約 3 割の学校の運動部活動・クラブ活動において、卒業生が練習に参加しているという今回の調査結果は、特別支援学校が卒業生である障害者のスポーツの場としても重要な役割を担う可能性を示している。

4) 運動部活動・クラブ活動の指導者：外部指導者の活用

運動部活動・クラブ活動の指導者とサポートスタッフを、教職員以外の人材に頼る割合が低い。幼児児童生徒のスポーツ活動を充実させるために重要な取り組みとして、「外部人材(ボランティアスタッフを含む)の確保・充実」を挙げた学校が 38.1%で、最も多かった「用具や器具の充実」(69.2%)と比べて少ない。過半数が「教員がスポーツを指導できる時間の確保」を重要と認識していることから、外部人材の活用を促進することが考えられる。

5) 学校体育施設開放状況

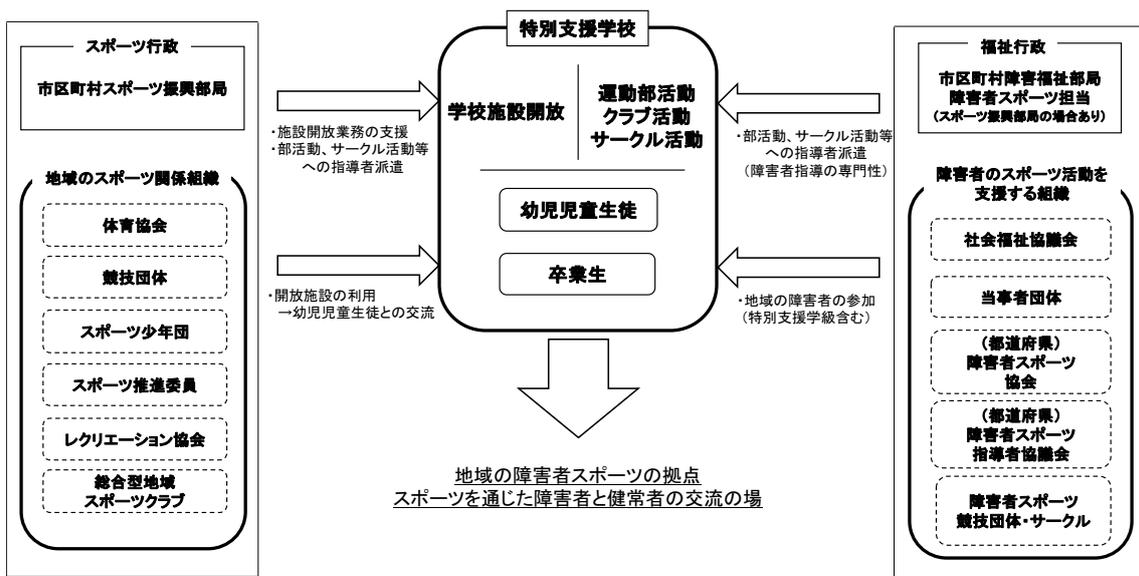
体育施設については、体育館とグラウンドが 8 割以上の学校で設置されている。これらの施設の自校の幼児児童生徒以外への開放状況は、体育館が 57.5%、グラウンドが 54.3%である。特別支援学校は多くが都道府県立であることから、都道府県立の高等学校等と比較すると、体育館が 37.9%、グラウンドが 45.1%となっており、いずれも特別支援学校の方が開放率が高い。しかし、体育館で 9 割以上、グラウンドで 8 割以上が開放されている公立小学校と比べれば、開放率は高いとはいえない。また、開放している学校でも、複数の団体が平日と休日を毎週定期的に利用している例は多くない。その理由としては、1) 障害児の教育の場という特殊性から、学校側が施設開放に積極的でない、2) 体育施設が狭い・必要な設備がないなどの理由で、できるスポーツに限られる、3) 施設の設計上、一般開放に適さない学校がある、などが挙げられる。

これらの実態と課題を踏まえて、地域スポーツ関係組織と学校、地域の福祉関係組織や障害当事者・保護者などが協力して、学校側の負担を増やすことなく、地域の実情に応じて、特別支援学校の体育施設開放を進めて、地域の障害者のスポーツの場の拡充を図る取り組みを提案したい。

単なる場所貸しではなく、「学校開放を通じた、障害者のスポーツ活動の充実と、地域の障害理解の促進」を理念に掲げるのである。健常者の団体は、当該特別支援学校の幼児児童生徒との交流イベントや、年に数回の学校運動部活動の指導のサポートなど、無理なく続けられる範囲で障害者の活動を支える。こうした活動によって、在校生と卒業生、そして地域の障害者のスポーツの機会が充実し、地域の障害者スポーツの拠点として、またスポーツを通じて障害者と健常者が日常的に交流する場として発展することが理想である。その先には、特別支援学校を核にした、障害者と健常者がともにスポーツを楽しむ総合型地域スポーツクラブ等のビジョンが描けるのではないだろうか。

特別支援学校の学校開放とスポーツ団体の先駆的な関わりとして、神奈川県川崎市の NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF の事例がある。SELF は 2013 年度から、県立高津養護学校の地域ネットワーク推進会議に参画している。SELF では、市内の小中学校 4 校の学校施設有効活用事業を受託している。クラブでは障害者向けのプログラムも実施しており、これらの実績を踏まえて、同校の施設開放の促進に向けて積極的な提案を行っている。

図表 7-1 スポーツ組織と障害者スポーツ組織の連携による特別支援学校のスポーツ活動支援



3. スポーツを通じて障害者入所施設を地域に開かれた場所に

障害者自立支援法による地域移行の流れを受けて、障害者の入所施設の定員は削減傾向にある。それでも、知的障害者、身体障害者を中心に、10 万人以上の障害者が全国の入所施設で生活している。入所者の高齢化や障害の重度化という課題に直面している入所施設におけるスポーツ活動については、以下の課題を挙げることができる。

1) 施設外の指導者の活用状況

スポーツ・レクリエーション活動は、職員のみで対応している施設が多く、外部の指導者を活用している施設は少ない。外部の人材を有償で登用している施設は 1 割程度である。

2) 支援・協力体制

入所者にスポーツ・レクリエーションを提供する上で、外部組織から支援や協力を受けていない施設が全体の約半数を占めている。外部組織から支援や協力を受けている施設では、支援・協力を受ける先は、「社会福祉協議会」「障害者の当事者団体・家族会等」「障害者スポーツ団体」「行政」などがそれぞれ 1 割程度となっている。

3) 職員の専門性とスタッフの不足

スポーツ・レクリエーション活動全般の課題として、入所者の障害の重度化や高齢化などに加えて回答が多かったのが、「職員のスポーツ・レクリエーションに関する専門性が足りない」と「スポーツ・レクリエーション活動のためのスタッフ(ボランティアを含む)が足りない」で、いずれも 4 割強の施設が課題として挙げている。施設職員に専門性が不足しており、スポーツ・レクリエーション活動のための人材も足りないと認識しながら、1)と2)に示したとおり、外部人材を活用せず、関係機関からの支援・協力も得ていない施設が多いことが明らかとなった。

4) スポーツを通じた地域との交流

スポーツ・レクリエーション活動を通じた地域社会や施設外の障害者との交流については、4 分の 1 の施設で交流がなく、地域のスポーツ愛好者との交流が 1 割程度と低い。

上記の課題へのアプローチとして、スポーツ関係組織と障害者スポーツ関係組織の連携のもと、障害者入所施設が、スポーツを通じて、施設外の障害者や地域に対して開かれた空間になるための取り組みを提案する。

地域のスポーツ・障害者スポーツ関係者が施設のプログラムの一部をサポートし、施設職員の負担を抑えながら、入所者および地域の障害者のスポーツ活動の充実を図る。また、これらにより入所者がスポーツ・レクリエーションに親しみ、地域のスポーツイベントに参加することで、地域の健常者と交流し、施設に対する理解、ひいては地域の障害理解の促進に寄与することが期待できる。実際、一般の市民マラソン大会やウォーキング大会に継続的に参加し、施設や入所者の障害について、地域住民の理解を深めた施設がある。外出が難しい身体障害者の場合、入所施設に地域の健常者を招いてスポーツ交流を図るのもひとつの手段である。

入所施設の敷地内にスポーツ専用スペースがあれば、スポーツ関係組織との交流促進につながる可能性がある。調査によると、入所施設の敷地内に運動・スポーツ専用スペースが整備されている施設が 22.0%あり、これらの施設を、入所者が使わない時に地域のスポーツ関係者に開放でき

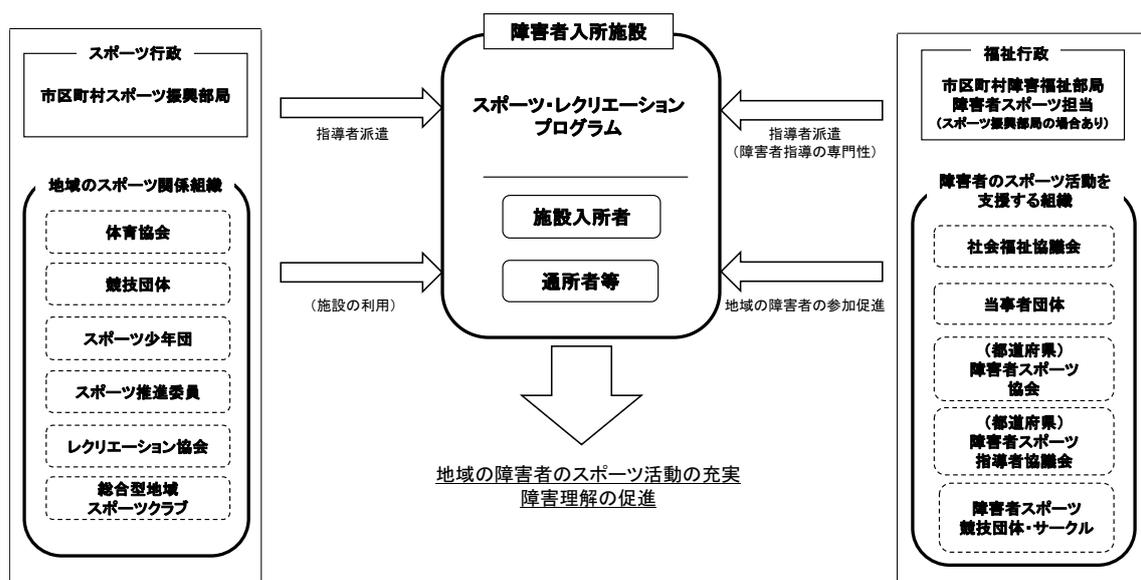
れば、新たなスポーツ施設が確保される。事例で紹介したように、小規模な体育館を保有している入所施設もある。例えば、徳島県の鳴門市総合型地域スポーツクラブ NICE では、施設のスペースで地域住民と入所者のためのフィットネスプログラムを定期的で開催している。

入所施設のプログラムの充実については、参加者の「楽しみ」としてのスポーツ・レクリエーションの視点が重要である。障害者入所施設における日常的なスポーツ活動は、生活介護のプログラムとして提供されるのが一般的である。ゆえに、スポーツとしての楽しさよりも、健康の保持増進や機能維持のための「身体運動」の側面が重視されがちである。こうしたプログラムを単調で退屈と感じた入所者が、スポーツ・レクリエーション活動を嫌いになってしまうことは避けねばならない。施設入所者の中には、自らの意志ではスポーツに参加できない重度の障害者がいることにも配慮が必要である。また、自発的にスポーツを選択できる入所者のスポーツ・レクリエーションについては、可能な限り、本人の希望や意志、選択が尊重されるべきである。そのためにも、施設の職員とスポーツ関係組織および障害者スポーツ関係組織が連携し、高いスキルのある指導者を確保する必要がある。楽しみを重視した指導という点では、(公財)日本レクリエーション協会の福祉レクリエーションワーカーの活躍も期待できる。

地域移行によって、入所施設を出て、グループホームやケアホームに移った障害者は、入所施設で提供されていた日常的なスポーツ活動の場を失い、スポーツが全くできなくなる恐れがある。入所施設と地域のスポーツ関係組織・障害者スポーツ関係組織が連携して、引き続き彼らのスポーツの場が確保されるような運営体制とプログラムを行うことが求められる。

日本レクリエーション協会が文部科学省の委託を受けて実施している実践研究事業では、障害のある人とない人の、スポーツ・レクリエーション活動を通じた交流が全国で展開している。こうしたプログラムが発展すれば、施設の入所者と地域の障害者が、身近な地域で健常者とともにスポーツを楽しめる場が広がることになるだろう。

図表 7-2 スポーツ組織と障害者スポーツ組織の連携による障害者入所施設のスポーツ活動支援



上記の提案は、

- ・障害者が日常的にスポーツを楽しめる環境を創出すること
 - ・障害者と健常者がスポーツを通じて積極的に交流すること
- の2点に主眼をおいて組み立てた。

障害者スポーツ組織の体制が十分とはいえない現状では、スポーツ組織と障害者スポーツ組織の連携において、スポーツ組織からの働きかけが重要になる。スポーツ基本法を受けて、障害者のスポーツ支援への意識が高まっているスポーツ推進委員に対する期待は大きい。まずは、都道府県の障害者スポーツ協会や障害者スポーツ指導者協議会との情報交換がスタートになると思われる。総合型地域スポーツクラブの育成と同様、連携の核になる組織や人材は地域によってさまざまであろうが、当初はできる部分から「小さく生んで」、小規模でも持続できる身の丈にあった取り組みを進めるべきであろう。将来の発展を見据えて、可能な限り多くの関係組織を巻き込み、スポーツと障害者スポーツに関わる人々を有機的に結び付けるネットワークをつくることが期待される。

2014年度より、国の障害者スポーツ行政が厚生労働省から文部科学省に移管される。地方自治体においても、今後その影響が波及していくと予想されるため、都道府県や市区町村には、スポーツ組織と障害者スポーツ組織の連携を促す施策を期待したい。スポーツ推進委員や総合型クラブの事業に障害者スポーツ関係組織が参画したり、障害者スポーツ協会のイベントをスポーツ推進委員が支援することなどが考えられる。

なお、本調査の対象とした特別支援学校と障害者入所施設は、いずれも知的障害者の割合が大きく、調査結果の全体傾向にその影響が表れているため、データの解釈には注意が必要である。今後は、今年度の障害者個人を対象とした調査の結果も踏まえ、健常者と障害者がともにスポーツを楽しむ社会のあり方について、個々の障害種別に詳細に検討する必要があると考えられる。

IV. 参考文献・付録

参考文献

- 石川久(2013). 図解福祉行政はやわかり. 学陽書房.
- (特非)大分県障害者スポーツ指導者協議会育成部(2013). 障害児のスポーツ活動の日常化と支援方法にかかる調査研究報告書(平成 24 年度障害者総合福祉推進事業・厚生労働省).
- (特非)大分県障害者スポーツ指導者協議会育成部(2013). みんなでチャレンジ! 学校や地域でできる障害児のためのスポーツ活動の手引き(平成 24 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業).
- 厚生労働省(2013). 障害福祉サービス、障害児給付費等の利用状況について.
- 後藤淳子(2013). 東京都における車いすテニスレッスンの普及に関する研究. 早稲田大学大学院修士論文.
- (公財) 笹川スポーツ財団(2012). 子どものスポーツライフ・データ 2012-4~9 歳のスポーツライフに関する調査報告書.
- (公財) 笹川スポーツ財団(2014). スポーツ白書 2014.
- (公財) 笹川スポーツ財団(2012). スポーツライフ・データ 2012.
- (公財) 笹川スポーツ財団(2012). 青少年のスポーツライフ・データ 2012-10 代のスポーツライフに関する調査報告書.
- 清水論(2013). 現代スポーツ評論 29 障害者スポーツをどのように考えるか. 創文企画.
- 第 52 回全国スポーツ推進委員研究協議会東京都実行委員会(2012). 第 52 回全国スポーツ推進委員研究協議会報告書.
- (公社) 全国スポーツ推進委員連合(2013). 平成 25 年度スポーツ推進委員の組織等に関する調査.
- 全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会(2008). 障害のある子どもの放課後活動促進に関する調査研究報告書(文部科学省委託事業総合的な放課後対策推進のための調査研究(平成 19 年度 全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会事業)).
- 全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会(2008). 障害児が参加する放課後子どもプラン実践事例(文部科学省委託事業(平成 19 年度)障害のある子どもの放課後活動促進に関する調査研究).
- (社) 全国体育指導委員連合(1999). 平成 10 年度全国体育指導委員実態調査報告書.
- 総務省(2013). 人口推計(各年 10 月 1 日現在人口).
- 東京都社会福祉協議会(2013). 障害者総合支援法とは.
- (一社) 東京都スポーツ推進委員協議会(2013). 2013 年度会長会資料
- 内閣府(2013). 障害者白書平成 25 年版. 印刷通販.
- (公財) 日本障害者スポーツ協会(2011). 障害者スポーツの歴史と現状.
- (公財) 日本障害者スポーツ協会(2012). 障害者スポーツの歴史と現状.
- 藤田紀昭(2013). 障害者スポーツの環境と可能性. 創文企画.
- 文部科学省(2008). 体育・スポーツ施設現況調査.
- 文部科学省(2013). 体力・スポーツに関する世論調査.
- 文部科学省(2013). 特別支援教育資料第 1 部集計編.
- 山崎昌廣(2009). 学校におけるアダプテッド・スポーツ教育の実施状況に関する調査研究. 文部科学省科学研究費補助金貴本研究(B)研究成果報告書(平成 18 年度~平成 20 年度).

障害児・者のスポーツライフに関する調査（インターネット調査）

日常に関する調査

アンケートにご協力いただき誠にありがとうございます。

はじめにお読みください。

- ・ アンケートの回答には、ブラウザのJavaScriptの設定を有効にする必要があります。
 - ・ 推奨環境 (OS・ブラウザ)
 - ・ Windows XP以降
 - Internet Explorer 8以降
 - Firefox 3.0以降
 - ・ Macintosh OS X以降
 - Safari 5.0以降
- ※ 上記以外の(OS・ブラウザ)では、正常に動作しない場合がございます。あらかじめご了承ください。
- 下記のみどりのラインの中に「開始」ボタンが表示されない場合は、JavaScriptがOFFになっているか、推奨環境ブラウザではありません。
- お手数ですが、[参考ページ](#)をご覧ください。
JavaScriptを設定後/ブラウザタイプ確認後に、ページの更新(F5キー)をお願い致します。

開始

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★印の付いた質問は必須回答項目となっておりますので、必ずお答えください。

★S0-1.
あなたのお性別をお答えください。(1つ選択)

- 男性
 女性

★S0-2.
あなたの年齢をお答えください。(数値記入)
※半角数字でご記入ください。

歳

★S1.
あなたのお住まい(都道府県)をお答えください。(1つ選択)

▼▼▼選択して下さい▼▼▼

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★S2.
あなた、あるいはあなたが同居するご家族で障害のある方はいますか。(複数選択可)

- あなたご自身
- 配偶者
- 父親
- 母親
- 兄弟
- 姉妹
- お子様(第1子)
- お子様(第2子以降)
- 上記の中で障害のある方はいない

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

以下の項目は、障害のある方それぞれについて、お答えください。
兄弟、姉妹、第2子以降で障害のあるお子様が複数いる場合は、
年齢が一番上の方にご記入ください。

★S3.
ご家族で障害のある方の年齢と誕生日をお答えください。(それぞれ数値記入)
※半角数字でご記入ください。

目次に回答→	年齢		誕生日	
	歳	月	日	日
あなたご自身	●●	歳	□	□
配偶者	□	歳	□	□
父親	□	歳	□	□
母親	□	歳	□	□
兄弟	□	歳	□	□
姉妹	□	歳	□	□
お子様(第1子)	□	歳	□	□
お子様(第2子以降)	□	歳	□	□

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★G1.
ご家族で障害のある方の性別をお答えください。(それぞれ1つずつ選択)

目次に回答→	男性	女性
お子様(第1子)	○	○
お子様(第2子以降)	○	○

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★Q2.
ご家族で障害のある方の障害の種類をお答えください。(それぞれ複数選択可)

ここに回答→	車椅子も必要とするも （日常生活で 肢体不自由 車椅子も必要としなご）	肢体不自由 （日常生活で 車椅子も必要としなご）	視覚障害	聴覚障害	機能障害 音声・言語・そしゃく	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他
あなたご自身	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
配偶者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
父親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
母親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
兄弟	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
姉妹	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お子様(第1子)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お子様(第2子以降)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

次へ >>
Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

予備調査のご協力ありがとうございます。
これは本調査に移ります。
今回の調査は、
「障害児・者のスポーツライフに関する調査」になります。
引き続きご協力お願いします。宜しくお願いいたします。

次へ >>
Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

*** TSC Q10250 *** には以下の文言が順に表示されます

No.	
1	あなたご自身
2	配偶者
3	父親
4	母親
5	兄弟
6	姉妹
7	お子様(第1子)
8	お子様(第2子以降)

日常に関する調査

障害のある *** TSC Q10250 *** についてお伺いします。

★Q1- *** ANS Q10200 ***。
 障害のある *** TSC Q10250 *** は、障害者手帳をお持ちですか。(複数選択可)

カテゴリ	*** TSC Q10250 ***
身体障害者手帳 1級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 2級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 3級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 4級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 5級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 6級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 7級	<input type="checkbox"/>
療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛の手帳) マルA(A(数重発・重発))	<input type="checkbox"/>
療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛の手帳) B・C(中度・軽度)	<input type="checkbox"/>
療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛の手帳) その他	<input type="checkbox"/>
精神障害者保健福祉手帳 1級	<input type="checkbox"/>
精神障害者保健福祉手帳 2級	<input type="checkbox"/>
精神障害者保健福祉手帳 3級	<input type="checkbox"/>
障害者手帳は持っていません	<input type="checkbox"/>

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★Q1- *** ANS Q10260 ***。
 障害のある *** TSC Q10250 *** は、何歳から障害がありますか。
 複数の障害がある方は、最初に障害が発生した年齢をお答えください。(数値記入)
 ※半角数字でご記入ください。

選択して下さい

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★Q5- *** ANS Q10360 ***.

障害のある *** TSC Q10350 *** は、障害福祉サービスを利用していますか。(複数選択可)

※【カッコ内】はサービスの例となります。

- 就労を助けるサービス
【在宅介護、重度障害介護、同行相談、行動訓練等】
- 通所福祉・作業所等の日中活動サービス
【生活介護、自立訓練(技能訓練)、自立訓練(生活訓練)、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、地域活動支援センター、児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス】
- 住まいのサービス
【共同生活介護(ケアホーム)、共同生活援助(グループホーム)】
- 一時的な宿泊サービス
【短期入所】
- 施設・自宅への入所
【障害者支援施設、ケア(療養)介護を含む)、指定福祉型障害児入所施設、指定医療型障害児入所施設】
- 生活や就労に関する相談支援サービス
【自立相談支援、地域相談支援(地域移行支援、地域定着支援)、障害児相談支援、障害者就業・生活支援センター】
- 利用していない

★Q6- *** ANS Q10360 ***.

障害のある *** TSC Q10350 *** は、この1年間で、以下のような外出を伴う余暇活動を行いましたか。(複数選択可)

- 観光旅行
- 映画館での映画鑑賞
- 音楽ホールなどでの音楽鑑賞
- スタジアムなどでのスポーツ観戦
- 劇場などでの演芸・演劇・舞踊鑑賞
- 美術館・博物館などの鑑賞
- 動物園・水族館などの見物
- 遊園地などのレジャー施設
- カラオケ
- 上記の活動がすべてでない

次へ >>

Copyright © 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★G7～★★ANS GI0260★★★

障害のある ★★★TSD:01(25)★★★は、過去1年の期間ごとの上りなスポーツ・レクリエーションを行いましたか。(複数選択可)
※学校の部活動や休みの時間の活動は含めますが、学校の授業や学校行事のキャンプやマラソン大会などは含めません。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> アイススケート | <input type="checkbox"/> 体操(軽い体操、ラジオ体操など) |
| <input type="checkbox"/> アクアエクササイズ(水中歩行・運動など) | <input type="checkbox"/> 卓球(サウンドテーブルテニスを含む) |
| <input type="checkbox"/> ウォーキング | <input type="checkbox"/> 卓球バレー |
| <input type="checkbox"/> エアロビックダンス | <input type="checkbox"/> ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど) |
| <input type="checkbox"/> 海水浴 | <input type="checkbox"/> つな弓撻 |
| <input type="checkbox"/> 空手 | <input type="checkbox"/> 釣り |
| <input type="checkbox"/> キャッチボール | <input type="checkbox"/> ティーボール |
| <input type="checkbox"/> キャンプ | <input type="checkbox"/> テニス(硬式テニス) |
| <input type="checkbox"/> 筋力トレーニング | <input type="checkbox"/> 登山 |
| <input type="checkbox"/> グラウンドゴルフ | <input type="checkbox"/> フックボール |
| <input type="checkbox"/> グランドソフトボール | <input type="checkbox"/> なわとび |
| <input type="checkbox"/> 車いすテニス | <input type="checkbox"/> ハイキング |
| <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール | <input type="checkbox"/> バスケットボール |
| <input type="checkbox"/> ゲートボール | <input type="checkbox"/> バドミントン |
| <input type="checkbox"/> ゴールボール | <input type="checkbox"/> バレーボール |
| <input type="checkbox"/> ゴルフ(コース) | <input type="checkbox"/> ハンドサッカー |
| <input type="checkbox"/> ゴルフ(練習場) | <input type="checkbox"/> ふろせんバレー |
| <input type="checkbox"/> サイクリング | <input type="checkbox"/> フットサル |
| <input type="checkbox"/> ヲッカー | <input type="checkbox"/> フットベースボール(キックベースボール) |
| <input type="checkbox"/> 散歩(ふらふら歩き) | <input type="checkbox"/> フライングディスク(フリスビー) |
| <input type="checkbox"/> シットティングバレーボール | <input type="checkbox"/> フロアバレーボール |
| <input type="checkbox"/> 柔道 | <input type="checkbox"/> ボウリング |
| <input type="checkbox"/> 乗馬 | <input type="checkbox"/> ボッチャ |
| <input type="checkbox"/> ジョギング・ランニング | <input type="checkbox"/> マラソン、駅伝などのロードレース |
| <input type="checkbox"/> 水泳 | <input type="checkbox"/> 野球 |
| <input type="checkbox"/> スキー | <input type="checkbox"/> ヨーガ |
| <input type="checkbox"/> スノーバダイビング | <input type="checkbox"/> ラグビー |
| <input type="checkbox"/> スノーボード | <input type="checkbox"/> 陸上競技 |
| <input type="checkbox"/> ソフトテニス(軟式テニス) | <input type="checkbox"/> その他(<input type="text"/>) |
| <input type="checkbox"/> ソフトバレーボール | <input type="checkbox"/> その他(<input type="text"/>) |
| <input type="checkbox"/> ソフトボール | <input type="checkbox"/> その他(<input type="text"/>) |
| <input type="checkbox"/> 太極拳 | <input type="checkbox"/> この1年間にスポーツ・レクリエーションは行わなかった |

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★QB-***ANS Q10290***.

Q7でお答えいただいたスポーツ・レクリエーション種目について、以下の項目にお答えください。
複数の種目をお答えになった方は、実施回数が多いものをつまみ選んでお答えください。

※指導者とは、その種目を実施する際に教えてくれる人を指します。

※頻度は、「年」を選んだ場合「1～365」回、「月」を選んだ場合「1～31」回、「週」を選んだ場合「1～7」回の範囲でお答えください。

ヨコへ回答→	頻度		指導者(※)の有無
アイススケート	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
アクアエクササイズ(水中歩行・運動など)	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ウォーキング	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
エアロビックダンス	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
海水浴	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
空手	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
キャッチボール	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
キャンプ	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
筋力トレーニング	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
グラウンドゴルフ	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ヨコへ回答→	頻度		指導者(※)の有無
グランドソフトボール	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
車いすテニス	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
車椅子バスケットボール	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ゲートボール	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ゴールボール	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ゴルフ(コース)	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ゴルフ(練習場)	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
サイクリング	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ワッカー	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ヨコへ回答→	頻度		指導者(※)の有無
シッティングバレーボール	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
柔道	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
乗馬	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ジョギング・ランニング	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
水泳	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
スキー	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
スクーバダイビング	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
スノーボード	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ソフトテニス(軟式テニス)	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼
ソフトバレーボール	▼▼▼▼	<input type="text"/> 回	▼▼▼▼

ヨコ 回答→	頻度		指導者(※)の有無
ソフトボール	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
太極拳	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
体操(軽い体操、ラジオ体操など)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
卓球(サウンドテーブルテニスを含む)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
卓球バレー	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
つなろりぎ	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
釣り	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ティーボール	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
テニス(硬式テニス)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ヨコ 回答→	頻度		指導者(※)の有無
登山	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ドッジボール	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
なわとび	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ハイキング	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
バスケットボール	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
バドミントン	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
バレーボール	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ハンドサッカー	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ふうせんバレー	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
フットサル	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ヨコ 回答→	頻度		指導者(※)の有無
フットベースボール(キックベースボール)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
フライングディスク(frisbee)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
フロアバレーボール	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ボウリング	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ポッチャ	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
マラソン、駅伝などのロードレース	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
野球	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ヨーガ	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ラグビー	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
陸上競技	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
ヨコ 回答→	頻度		指導者(※)の有無
その他(*** ANS Q1 0781 ***)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
その他(*** ANS Q1 0782 ***)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼
その他(*** ANS Q1 0783 ***)	▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回	▼▼▼

次へ>>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★Q10-***ANS Q1 0260 ***.
障害のある *** TSC Q1 0250 *** がスポーツ・レクリエーションを行った日数を全部合わせると、
1年間に何日くらいになりますか。(1つ選択)

- 週に3日以上(年151日以上)
- 週に1～2日(年51～150日)
- 月に1～3日(年12日～50日)
- 3か月1日～2日(年4日～11日)
- 年に1～3日
- 分からない

★Q10-***ANS Q1 0260 ***.
障害のある *** TSC Q1 0250 *** がスポーツ・レクリエーションを行う主な目的はどのようなものですか。(1つ選択)

- 健康の維持・増進のため
- 気分転換・ストレス解消のため
- 楽しみのため
- 友人や家族との交流のため
- 健常者との交流のため
- 体型維持・改善のため
- リハビリテーションの一環として
- 目標や記録への挑戦のため
- その他⇒具体的に()

★Q11-***ANS Q1 0260 ***.
障害のある *** TSC Q1 0250 *** は、スポーツ・レクリエーションをどなたで行っていますか。(複数選択可)

- ひとり
- 家族
- 友人
- 職場の同僚や福祉・医療施設、学校の仲間
- スポーツクラブやサークルなどの仲間
- 福祉・医療施設の職員
- 学校の教職員
- ボランティア・介助者
- その他⇒具体的に()

★Q12-***ANS Q1 0260 ***.
障害のある *** TSC Q1 0250 *** は、障害のない人と一緒にスポーツ・レクリエーションを行っていますか。(1つ選択)
※ただし、指導者・介助者は除きます。

- はい
- いいえ

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★Q13-***ANS Q1 Q260***.

障害のある ***TSC Q1 Q250*** の、現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組みについて、最も近いものを選んでください。(1つ選択)

- スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している
- スポーツ・レクリエーションを行っているが、もっと行きたい
- スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない
- 特にスポーツ・レクリエーションに関心はない

★Q14-***ANS Q1 Q260***.

障害のある ***TSC Q1 Q250*** の、スポーツ・レクリエーションの実施において障壁となっているものは何ですか。(複数選択可)
※スポーツ・レクリエーションを実施している場合はその課題、実施していない場合はその理由としてあてはまるものをお答えください。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 交通手段・移動手段がよい | <input type="checkbox"/> 時間がよい |
| <input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションをできる場所がよい | <input type="checkbox"/> 体力がよい |
| <input type="checkbox"/> 施設がバリアフリーでよい | <input type="checkbox"/> 医者に止められている |
| <input type="checkbox"/> 施設に利用を断られる | <input type="checkbox"/> 障害に合わせたスポーツ・レクリエーションがよい |
| <input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない | <input type="checkbox"/> やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがよい |
| <input type="checkbox"/> どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない | <input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションが苦手である |
| <input type="checkbox"/> 指導者がよい | <input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションでケガをするのではないかと心配である |
| <input type="checkbox"/> 介助者がよい | <input type="checkbox"/> 人の目が気いびる |
| <input type="checkbox"/> 仲間がよい | <input type="checkbox"/> 一緒にスポーツ・レクリエーションをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である |
| <input type="checkbox"/> 家族の負担が大きい | <input type="checkbox"/> その他⇒具体的に(<input type="text"/>) |
| <input type="checkbox"/> 金銭的な余裕がよい | <input type="checkbox"/> 特がよい |

次 < >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

日常に関する調査

★Q15-***ANS Q1 Q20***
障害のある *** TSC Q1 Q250 ***は、現在行っているスポーツ・レクリエーションも含めて、
今面白いと思うスポーツ・レクリエーションがありますか。(複数選択可)

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> アイススケート | <input type="checkbox"/> 体操(軽い体操、ラジオ体操など) |
| <input type="checkbox"/> アクアエクササイズ(水中歩行・運動など) | <input type="checkbox"/> 卓球(サウンドテーブルテニスを含む) |
| <input type="checkbox"/> ウォーキング | <input type="checkbox"/> 卓球パレー |
| <input type="checkbox"/> エアロビックダンス | <input type="checkbox"/> ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど) |
| <input type="checkbox"/> 海水浴 | <input type="checkbox"/> つな引き |
| <input type="checkbox"/> 空手 | <input type="checkbox"/> 釣り |
| <input type="checkbox"/> キャッチボール | <input type="checkbox"/> ティーボール |
| <input type="checkbox"/> キャンプ | <input type="checkbox"/> テニス(硬式テニス) |
| <input type="checkbox"/> 筋力トレーニング | <input type="checkbox"/> 登山 |
| <input type="checkbox"/> グラウンド・ゴルフ | <input type="checkbox"/> ドッジボール |
| <input type="checkbox"/> グランドソフトボール | <input type="checkbox"/> なわとび |
| <input type="checkbox"/> 車いすテニス | <input type="checkbox"/> ハイキング |
| <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール | <input type="checkbox"/> バスケットボール |
| <input type="checkbox"/> ゲートボール | <input type="checkbox"/> バドミントン |
| <input type="checkbox"/> ゴールボール | <input type="checkbox"/> バレーボール |
| <input type="checkbox"/> ゴルフ(コース) | <input type="checkbox"/> ハンドサッカー |
| <input type="checkbox"/> ゴルフ(練習場) | <input type="checkbox"/> ふうせんパレー |
| <input type="checkbox"/> サイクリング | <input type="checkbox"/> フットサル |
| <input type="checkbox"/> サッカー | <input type="checkbox"/> フットベースボール(キックベースボール) |
| <input type="checkbox"/> 散歩(ぶらぶら歩き) | <input type="checkbox"/> フライングディスク(frisbee) |
| <input type="checkbox"/> シッティングバレーボール | <input type="checkbox"/> フロアバレーボール |
| <input type="checkbox"/> 柔道 | <input type="checkbox"/> ボウリング |
| <input type="checkbox"/> 乗馬 | <input type="checkbox"/> ボッチャ |
| <input type="checkbox"/> ジョギング・ランニング | <input type="checkbox"/> マラソン、駅伝などのロードレース |
| <input type="checkbox"/> 水泳 | <input type="checkbox"/> 野球 |
| <input type="checkbox"/> スキー | <input type="checkbox"/> ヨーガ |
| <input type="checkbox"/> スクーバダイビング | <input type="checkbox"/> ラグビー |
| <input type="checkbox"/> スノーボード | <input type="checkbox"/> 陸上競技 |
| <input type="checkbox"/> ソフトテニス(軟式テニス) | <input type="checkbox"/> その他(<input type="text"/>) |
| <input type="checkbox"/> ソフトバレーボール | <input type="checkbox"/> その他(<input type="text"/>) |
| <input type="checkbox"/> ソフトボール | <input type="checkbox"/> その他(<input type="text"/>) |
| <input type="checkbox"/> 太極拳 | <input type="checkbox"/> 特になし |

次へ >>

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

ご回答ありがとうございました。

アンケートにご回答いただき誠にありがとうございました。

最後にこの画面を閉じてアンケートを終了してください。

今後ともよろしくお願ひいたします。

アンケートに関するお問合せは D-STYLE WEBまでお願いします。
D-STYLE WEB は、株式会社マッシュが運営しています。
個人情報は保護されます

Copyright© 2014 marsh Co.,Ltd. ALL Rights Reserved.

特別支援学校のスポーツ環境に関する調査

調査票は、以下の学校種区分ごとに配布した。

(A 票) 単置校(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱)

(B 票) 併置校(知的障害と肢体不自由)

(C 票) 併置校(その他の併置校)

特別支援学校のスポーツ環境に関する調査（A票）

本調査は、文部科学省「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業」にかかる調査の一環として、病気や障害のある幼児児童生徒のスポーツの場としての特別支援学校の実態把握を目的としています。回答は統計的に処理され、回答者や施設名が公表されることはありません。調査結果は文部科学省のホームページ等を通じて公表されるとともに、わが国の障害者のスポーツ施策の充実のための基礎資料として活用されます。調査の性質上、学校の教育活動外の状況もお伺いしますので、把握している範囲でご回答いただければと存じます。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2013年9月
笹川スポーツ財団

【返送方法】郵送、電子メール、またはFAXのいずれかでご返送ください。

- ① 郵送：同封の返信用封筒（受取人払い）にてお送りください。
- ② 電子メール：sports@nrc.co.jp
- ③ FAX：03-6667-3475

※笹川スポーツ財団ホームページより、調査票をエクセルファイル形式でダウンロードできます。

<http://www.ssf.or.jp>

調査票の発送・回収・データ入力については、笹川スポーツ財団の委託先である株式会社日本リサーチセンターが担当しております。調査について不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社日本リサーチセンター 調査部 担当：萩原
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1
TEL：0120-030-551（平日 10:00～17:00）

ご回答期限：2013年10月31日(木)

問1 貴校とご回答者についてお書きください。

学校名			
回答者名		職名	
電話番号		E-Mail	

問2 幼児児童生徒数についてお答えください。（2013年5月1日現在）

幼児児童生徒総数： 人 注）本校は分校・分教室をきめずにお答えください。

重度・重複障害者の在籍（あてはまる選択肢の口をチェックを入れてください。）

1 いる 2 いない

部別 幼児児童生徒数 内訳

幼稚園	小学部	中学部	高等部
人	人	人	人

- 問3 貴校では、通常の体育の授業以外の活動（教育課程外を含む）において、幼児児童生徒がスポーツをする機会としてどのようなものがありますか。昨年度と今年度の実績・予定から、あてはまるものをお選びください。（あてはまるものすべてに☑）

<p>【校内での活動】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 運動部活動やクラブ活動（通年の活動。下の選択肢2を除く）</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 同じ敷地内の障害のない中高生の運動部活動への参加（通年参加。不定期の活動は除く）</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 学校の運動会・体育祭やマラソン大会など</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 夏休み等のプール指導（学校またはPTA等の主催）</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会に向けた期間限定の練習会 （部活動は除く）</p> <p>6 <input type="checkbox"/> その他（具体的に _____ ）</p>
<p>【校外での活動（学校が関わる活動。個人の自主的参加は除く）】</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 移動教室や遠足、修学旅行等でのスポーツ</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 公共のプールや障害者スポーツセンターなど、施設に出かけて行うスポーツ（部活動は除く）</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会への参加（部活動は除く）</p> <p>10 <input type="checkbox"/> その他（具体的に _____ ）</p>
<p>【地域での活動等】</p> <p>11 <input type="checkbox"/> 近隣住民とのスポーツを通じた交流</p> <p>12 <input type="checkbox"/> 近隣や同じ敷地内の障害のない幼小中高生とのスポーツを通じた交流</p> <p>13 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校・学級とのスポーツを通じた交流（部活動は除く）</p> <p>14 <input type="checkbox"/> その他（具体的に _____ ）</p>

<問3で「1. 運動部活動やクラブ活動」と回答した学校におたずねします。
運動部・クラブがない場合は、次ページにお進みください。>

問4 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

	小学部	中学部	高等部
運動部・クラブの有無と延部員・クラブ員数	1 <input type="checkbox"/> あり 一延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 一延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 一延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし
重復・重複障害者の参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
実施種目 下記【種目一覧】 からあてはまる 種目を選んで 右の番号に☑ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
指導者 サポートスタッフ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 教職員 2 <input type="checkbox"/> 他校の教職員・選抜教職員 3 <input type="checkbox"/> 児童生徒(卒業生含む)の保護者	4 <input type="checkbox"/> 卒業生 5 <input type="checkbox"/> その他 ()	
活動時間 (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 放課後(朝始業前含む) 2 <input type="checkbox"/> 休日(土日祝日)	3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間(夏休み等) 4 <input type="checkbox"/> その他 ()	
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり	2 <input type="checkbox"/> なし	

【種目一覧】

1 アーチェリー	14 卓球バレー
2 グラウンド・ゴルフ	15 テニス
3 グランドソフトボール	16 ドッジボール
4 車椅子バスケットボール	17 バスケットボール
5 剣道	18 バドミントン
6 ゴールボール	19 バレーボール(ソフトバレーボール含む)
7 サウンドテーブルテニス	20 ハンドサッカー
8 サッカー(ブラインドサッカー含む)	21 フットベースボール(キックベースボール)
9 シッティングバレーボール	22 フライングディスク
10 柔道	23 フロアバレーボール
11 水泳	24 ポッチャ
12 ソフトボール	25 野球(ティーボール含む)
13 卓球	26 陸上競技

<問3で選択肢3～14のいずれか1つ以上を選んだ学校におたずねします。それ以外の学校は、問6へお進みください。>

問5 体育の授業や部活動・クラブ活動以外で、幼児児童生徒が行っているスポーツを【種目一覧】から選び、あてはまるものにチェックをつけてください。（あてはまるものすべてに☑）

【種目一覧】

1 <input type="checkbox"/> アーチェリー	23 <input type="checkbox"/> ダンス（ヒップホップ、フォークダンスなど）
2 <input type="checkbox"/> ウォーキング	24 <input type="checkbox"/> テニス
3 <input type="checkbox"/> オリエンテーリング	25 <input type="checkbox"/> ドッジボール
4 <input type="checkbox"/> 筋カトレニング	26 <input type="checkbox"/> トランポリン
5 <input type="checkbox"/> グラウンド・ゴルフ	27 <input type="checkbox"/> なわとび
6 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール	28 <input type="checkbox"/> ハイキング・登山
7 <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール	29 <input type="checkbox"/> バスケットボール
8 <input type="checkbox"/> 剣道	30 <input type="checkbox"/> バドミントン
9 <input type="checkbox"/> ゴールボール	31 <input type="checkbox"/> パラバレー
10 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス	32 <input type="checkbox"/> バレーボール（ソフトバレーボール含む）
11 <input type="checkbox"/> サッカー（ブラインドサッカー含む）	33 <input type="checkbox"/> ハンドサッカー
12 <input type="checkbox"/> シットイングバレーボール	34 <input type="checkbox"/> ふうせんバレーボール
13 <input type="checkbox"/> 柔道	35 <input type="checkbox"/> フットベースボール（キックベースボール）
14 <input type="checkbox"/> 乗馬	36 <input type="checkbox"/> フライングディスク
15 <input type="checkbox"/> ジョギング・ランニング	37 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール
16 <input type="checkbox"/> 水泳（水中歩行含む）	38 <input type="checkbox"/> ボッチャ
17 <input type="checkbox"/> スキー・スノーボード	39 <input type="checkbox"/> 野球（ティーボール含む）
18 <input type="checkbox"/> ソフトボール	40 <input type="checkbox"/> 陸上競技
19 <input type="checkbox"/> スポーツ吹矢	41 <input type="checkbox"/> その他（ ）
20 <input type="checkbox"/> 体操（軽い体操、ラジオ体操など）	42 <input type="checkbox"/> その他（ ）
21 <input type="checkbox"/> 卓球	43 <input type="checkbox"/> その他（ ）
22 <input type="checkbox"/> 卓球バレー	44 <input type="checkbox"/> その他（ ）

<すべての学校におたずねします。>

問6 貴校の教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わりについて、わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに☑）

1 <input type="checkbox"/> 日本障害者スポーツ協会公認指導員の資格をもった教職員がいる（いた）
2 <input type="checkbox"/> 教職員が都道府県の障害者スポーツ大会や種目別のブロック大会・県大会などの運営に関わっている（いた）
3 <input type="checkbox"/> 教職員が全国障害者スポーツ大会やジャパンパラ大会、種目別全日本選手権などの全国大会の運営に関わっている（いた）
4 <input type="checkbox"/> 教職員が障害者スポーツの競技団体の運営に関わっている（いた）
5 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒や卒業生がパラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックス、種目別世界選手権やアジア大会などの国際大会に出場したことがある
6 <input type="checkbox"/> 1～5にあてはまる事例を把握していない

<問7～問8は本校と分校の方におたずねします。
分教室の方は次ページの問9にお進みください。>

問7 貴校の運動・スポーツ活動のための施設の状況についてお答えください。

施設名	貴校にある施設 (複数回答)	自校の幼児児童生徒以外への開放状況
1 体育館	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
2 グラウンド	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
3 プール(屋外)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
4 プール(屋内)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
5 プレイルーム(多目的室)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
6 テニスコート	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
7 その他()	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
8 その他()	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
9 運動・スポーツ活動のための施設はない	<input type="checkbox"/>	

<自校の幼児児童生徒以外に運動・スポーツ施設を開放している本校・分校の方におたずねします。それ以外の学校は次ページの問9にお進みください。>

問8 問7で回答した学校開放施設で行われている活動について、あてはまるものをお選びください。(あてはまるものすべてに☑)

- | |
|--|
| <p>1 <input type="checkbox"/> 卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 卒業生以外の地域の障害者を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 地域の健常者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 障害者と健常者が共に活動することを目的とした地域スポーツクラブ等の定期的な活動</p> <p>5 <input type="checkbox"/> その他の定期的な活動()</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 定期的な活動には開放されていない</p> |
|--|

問3 貴校では、通常の体育の授業以外の活動（教育課程外を含む）において、幼児児童生徒がスポーツをする機会としてどのようなものがありますか。昨年度と今年度の実績・予定から、あてはまるものをお選びください。（あてはまるものすべてに☑）

<p>【校内での活動】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 運動部活動やクラブ活動（通年の活動。下の選択肢2を除く）</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 同じ敷地内の障害のない中高生の運動部活動への参加（通年参加。不定期の活動は除く）</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 学校の運動会・体育祭やマラソン大会など</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 夏休み等のプール指導（学校またはPTA等の主催）</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会に向けた期間限定の練習会 (部活動は除く)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> その他（具体的に)</p>
<p>【校外での活動（学校が関わる活動。個人の自主的参加は除く）】</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 移動教室や遠足、修学旅行等でのスポーツ</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 公共のプールや障害者スポーツセンターなど、施設に出かけて行うスポーツ（部活動は除く）</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会への参加（部活動は除く）</p> <p>10 <input type="checkbox"/> その他（具体的に)</p>
<p>【地域での活動等】</p> <p>11 <input type="checkbox"/> 近隣住民とのスポーツを通じた交流</p> <p>12 <input type="checkbox"/> 近隣や同じ敷地内の障害のない幼小中高生とのスポーツを通じた交流</p> <p>13 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校・学級とのスポーツを通じた交流（部活動は除く）</p> <p>14 <input type="checkbox"/> その他（具体的に)</p>

<問3で「1. 運動部活動やクラブ活動」と回答した学校におたずねします。

運動部・クラブがない場合は、5ページにお進みください。>

※複数の障害種別が合同で活動している部がある場合は、下記にまとめてご記入ください。

障害種別に活動されている場合は、下記と次の4ページ(問4 a~b)を使って種別ごとに
ご記入ください。

問4 a 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

	小学部	中学部	高等部
障害種別	1 <input type="checkbox"/> 知的障害		2 <input type="checkbox"/> 肢体不自由
運動部・クラブの有無と延部員・クラブ員数	1 <input type="checkbox"/> あり —延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり —延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり —延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし
重度・重複障害者の参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
実施種目 下記【種目一覧】 からあてはまる 種目を選んで 右の番号に○ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
指導者 サポートスタッフ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 教職員		4 <input type="checkbox"/> 卒業生
	2 <input type="checkbox"/> 他校の教職員・退職教職員		5 <input type="checkbox"/> その他 ()
	3 <input type="checkbox"/> 児童生徒(卒業生含む)の保護者		
活動時間 (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 放課後(朝始業前含む)		3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間(夏休み等)
	2 <input type="checkbox"/> 休日(土日祝日)		4 <input type="checkbox"/> その他 ()
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり		2 <input type="checkbox"/> なし

【種目一覧】

1 アーチェリー	14 卓球/バレー
2 グラウンド・ゴルフ	15 テニス
3 グラウンドソフトボール	16 ドッジボール
4 車椅子バスケットボール	17 バスケットボール
5 剣道	18 バドミントン
6 ゴールボール	19 バレーボール(ソフトバレーボール含む)
7 サウンドテーブルテニス	20 ハンドサッカー
8 サッカー(ブラインドサッカー含む)	21 フットベースボール(キックベースボール)
9 シッティングバレーボール	22 フライングディスク
10 柔道	23 フロアバレーボール
11 水泳	24 ポッチャ
12 ソフトボール	25 野球(ティーボール含む)
13 卓球	26 陸上競技

※障害種別に活動されている場合、3～4ページ（問4 a～b）を使って種別ごとにご記入ください。
回答が前ページで済んでいる場合は、5ページにお進みください。

問4 b 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

	小学部	中学部	高等部
障害種別	1 <input type="checkbox"/> 知的障害		2 <input type="checkbox"/> 肢体不自由
運動部・クラブの有無と延部員・クラブ員数	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし
重度・重複障害者の参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
実施種目 下記【種目一覧】 からあてはまる 種目を選んで 右の番号に☑ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
指導者 サポートスタッフ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 教職員 2 <input type="checkbox"/> 他校の教職員・退職教職員 3 <input type="checkbox"/> 児童生徒(卒業生含む)の保護者	4 <input type="checkbox"/> 卒業生 5 <input type="checkbox"/> その他 ()	
活動時間 (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 放課後(朝始業前含む) 2 <input type="checkbox"/> 休日(土日祝日)	3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間(夏休み等) 4 <input type="checkbox"/> その他 ()	
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり	2 <input type="checkbox"/> なし	

【種目一覧】

1 アーチェリー	14 卓球バレー
2 グラウンド・ゴルフ	15 テニス
3 グランドソフトボール	16 ドッジボール
4 車椅子バスケットボール	17 バスケットボール
5 剣道	18 バドミントン
6 ゴールボール	19 バレーボール(ソフトバレーボール含む)
7 サウンドテーブルテニス	20 ハンドサッカー
8 サッカー(ブラインドサッカー含む)	21 フットベースボール(キックベースボール)
9 シットイングバレーボール	22 フライングディスク
10 柔道	23 フロアバレーボール
11 水泳	24 ボッチャ
12 ソフトボール	25 野球(ティーボール含む)
13 卓球	26 陸上競技

<問3で選択肢3～14のいずれか1つ以上を選んだ学校におたずねします。>

それ以外の学校は、問6へお進みください。>

問5 体育の授業や部活動・クラブ活動以外で、幼児児童生徒が行っているスポーツを【種目一覧】から選び、あてはまるものにチェックをつけてください。(あてはまるものすべてに☑)

【種目一覧】

1 <input type="checkbox"/> アーチェリー	23 <input type="checkbox"/> ダンス (ヒップホップ、フォークダンスなど)
2 <input type="checkbox"/> ウォーキング	24 <input type="checkbox"/> テニス
3 <input type="checkbox"/> オリエンテーリング	25 <input type="checkbox"/> ドッジボール
4 <input type="checkbox"/> 筋カトレニング	26 <input type="checkbox"/> トランポリン
5 <input type="checkbox"/> グラウンド・ゴルフ	27 <input type="checkbox"/> なわとび
6 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール	28 <input type="checkbox"/> ハイキング・登山
7 <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール	29 <input type="checkbox"/> バスケットボール
8 <input type="checkbox"/> 剣道	30 <input type="checkbox"/> バドミントン
9 <input type="checkbox"/> ゴールボール	31 <input type="checkbox"/> パラバレーン
10 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス	32 <input type="checkbox"/> バレーボール (ソフトバレーボール含む)
11 <input type="checkbox"/> サッカー (ブラインドサッカー含む)	33 <input type="checkbox"/> ハンドサッカー
12 <input type="checkbox"/> シットイングバレーボール	34 <input type="checkbox"/> ふうせんバレーボール
13 <input type="checkbox"/> 柔道	35 <input type="checkbox"/> フットベースボール (キックベースボール)
14 <input type="checkbox"/> 乗馬	36 <input type="checkbox"/> フライングディスク
15 <input type="checkbox"/> ジョギング・ランニング	37 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール
16 <input type="checkbox"/> 水泳 (水中歩行含む)	38 <input type="checkbox"/> ポッチャ
17 <input type="checkbox"/> スキー・スノーボード	39 <input type="checkbox"/> 野球 (ティーボール含む)
18 <input type="checkbox"/> ソフトボール	40 <input type="checkbox"/> 陸上競技
19 <input type="checkbox"/> スポーツ吹矢	41 <input type="checkbox"/> その他 ()
20 <input type="checkbox"/> 体探 (軽い体探、ラジオ体探など)	42 <input type="checkbox"/> その他 ()
21 <input type="checkbox"/> 卓球	43 <input type="checkbox"/> その他 ()
22 <input type="checkbox"/> 卓球バレー	44 <input type="checkbox"/> その他 ()

<すべての学校におたずねします。>

問6 貴校の教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わりについて、わかる範囲でお答えください。(あてはまるものすべてに☑)

1 <input type="checkbox"/> 日本障害者スポーツ協会公認指導員の資格をもった教職員がいる (いた)
2 <input type="checkbox"/> 教職員が都道府県の障害者スポーツ大会や種目別のブロック大会・県大会などの運営に関わっている (いた)
3 <input type="checkbox"/> 教職員が全国障害者スポーツ大会やジャパンパラ大会、種目別全日本選手権などの全国大会の運営に関わっている (いた)
4 <input type="checkbox"/> 教職員が障害者スポーツの競技団体の運営に関わっている (いた)
5 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒や卒業生がパラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックス、種目別世界選手権やアジア大会などの国際大会に出場したことがある
6 <input type="checkbox"/> 1～5にあてはまる事例を把握していない

＜問7～問8は本校と分校の方におたずねします。
分教室の方は次ページの問9にお進みください。＞

問7 貴校の運動・スポーツ活動のための施設の状況についてお答えください。

施設名	貴校にある施設 (複数回答)	自校の幼児児童生徒以外への開放状況
1 体育館	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
2 グラウンド	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
3 プール(屋外)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
4 プール(屋内)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
5 プレイルーム(多目的室)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
6 テニスコート	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
7 その他()	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
8 その他()	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
9 運動・スポーツ活動のための施設はない	<input type="checkbox"/>	

＜自校の幼児児童生徒以外に運動・スポーツ施設を開放している本校・分校の方におたずねします。それ以外の学校は次ページの問9にお進みください。＞

問8 問7で回答した学校開放施設で行われている活動について、あてはまるものをお選びください。(あてはまるものすべてに☑)

- | |
|--|
| <p>1 <input type="checkbox"/> 卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 卒業生以外の地域の障害者を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 地域の健常者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 障害者と健常者が共に活動することを目的とした地域スポーツクラブ等の定期的な活動</p> <p>5 <input type="checkbox"/> その他の定期的な活動()</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 定期的な活動には開放されていない</p> |
|--|

問3 貴校では、通常の体育の授業以外の活動（教育課程外を含む）において、幼児児童生徒がスポーツをする機会としてどのようなものがありますか。昨年度と今年度の実績・予定から、あてはまるものをお選びください。（あてはまるものすべてに☑）

<p>【校内での活動】</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 運動部活動やクラブ活動（通年の活動。下の選択肢2を除く）</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 同じ敷地内の障害のない中高生の運動部活動への参加（通年参加。不定期の活動は除く）</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 学校の運動会・体育祭やマラソン大会など</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 夏休み等のプール指導（学校またはPTA等の主催）</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会に向けた期間限定の練習会 (部活動は除く)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> その他（具体的に)</p>
<p>【校外での活動（学校が関わる活動。個人の自主的参加は除く）】</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 移動教室や遠足、修学旅行等でのスポーツ</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 公共のプールや障害者スポーツセンターなど、施設に出かけて行うスポーツ（部活動は除く）</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会への参加（部活動は除く）</p> <p>10 <input type="checkbox"/> その他（具体的に)</p>
<p>【地域での活動等】</p> <p>11 <input type="checkbox"/> 近隣住民とのスポーツを通じた交流</p> <p>12 <input type="checkbox"/> 近隣や同じ敷地内の障害のない幼小中高生とのスポーツを通じた交流</p> <p>13 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校・学級とのスポーツを通じた交流（部活動は除く）</p> <p>14 <input type="checkbox"/> その他（具体的に)</p>

<問3で「1. 運動部活動やクラブ活動」と回答した学校におたずねします。

運動部・クラブがない場合は、8ページにお進みください。>

※複数の障害種別が合同で活動している部がある場合は、下記にまとめてご記入ください。

障害種別に活動されている場合は、下記と4～7ページ(問4a～e)を使って種別ごとに
ご記入ください。

問4 a 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

	小学部	中学部	高等部
障害種別 (複数回答可)	1 <input type="checkbox"/> 視覚障害 2 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 3 <input type="checkbox"/> 知的障害 4 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 5 <input type="checkbox"/> 病弱		
運動部・クラブ の有無と延部員・ クラブ員数	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし
重度・重複障害者の 参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
実施種目 下記【種目一覧】 からあてはまる 種目を選んで 右の番号に☑ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
指導者 サポートスタッフ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 教職員 4 <input type="checkbox"/> 卒業生 2 <input type="checkbox"/> 他校の教職員・退職教職員 5 <input type="checkbox"/> その他 () 3 <input type="checkbox"/> 児童生徒(卒業生含む)の保護者		
活動時間 (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 放課後(朝始業前含む) 3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間(夏休み等) 2 <input type="checkbox"/> 休日(土日祝日) 4 <input type="checkbox"/> その他 ()		
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし		

【種目一覧】

1 アーチェリー	14 卓球バレー
2 グラウンド・ゴルフ	15 テニス
3 グラウンドソフトボール	16 ドッジボール
4 車椅子バスケットボール	17 バスケットボール
5 剣道	18 バドミントン
6 ゴールボール	19 バレーボール(ソフトバレーボール含む)
7 サウンドテーブルテニス	20 ハンドサッカー
8 サッカー(ブラインドサッカー含む)	21 フットベースボール(キックベースボール)
9 シットイングバレーボール	22 フライングディスク
10 柔道	23 フロアバレーボール
11 水泳	24 ボッチャ
12 ソフトボール	25 野球(ティーボール含む)
13 卓球	26 陸上競技

※障害種別に活動されている場合、3～7ページ（問4 a～e）を使って種別ごとにご記入ください。
 回答が前ページで済んでいる場合は、8ページにお進みください。

問4 b 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

	小学部	中学部	高等部
障害種別 (複数回答可)	1 <input type="checkbox"/> 視覚障害 2 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 3 <input type="checkbox"/> 知的障害 4 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 5 <input type="checkbox"/> 病弱		
運動部・クラブ の有無と延部員・ クラブ員数	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし
重度・重複障害者の 参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
実施種目 下記【種目一覧】 からあてはまる 種目を選んで 右の番号に☑ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
指導者 サポートスタッフ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 教職員 4 <input type="checkbox"/> 卒業生 2 <input type="checkbox"/> 他校の教職員・退職教職員 5 <input type="checkbox"/> その他 () 3 <input type="checkbox"/> 児童生徒(卒業生含む)の保護者		
活動時間 (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 放課後(朝始業前含む) 3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間(夏休み等) 2 <input type="checkbox"/> 休日(土日祝日) 4 <input type="checkbox"/> その他 ()		
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし		

【種目一覧】

1 アーチェリー	14 卓球バレー
2 グラウンド・ゴルフ	15 テニス
3 グラウンドソフトボール	16 ドッジボール
4 車椅子バスケットボール	17 バスケットボール
5 剣道	18 バドミントン
6 ゴールボール	19 バレーボール(ソフトバレーボール含む)
7 サウンドテーブルテニス	20 ハンドサッカー
8 サッカー(ブラインドサッカー含む)	21 フットベースボール(キックベースボール)
9 シットイングバレーボール	22 フライングディスク
10 柔道	23 フロアバレーボール
11 水泳	24 ボッチャ
12 ソフトボール	25 野球(ティーボール含む)
13 卓球	26 陸上競技

※障害種別に活動されている場合、3～7ページ（問4 a～e）を使って種別ごとにご記入ください。
 回答が前ページで済んでいる場合は、8ページにお進みください。

問4 c 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

	小学部	中学部	高等部
障害種別 (複数回答可)	1 <input type="checkbox"/> 視覚障害 2 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 3 <input type="checkbox"/> 知的障害 4 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 5 <input type="checkbox"/> 病弱		
運動部・クラブ の有無と延部員・ クラブ員数	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし
重度・重複障害者の 参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
実施種目 下記【種目一覧】 からあてはまる 種目を選んで 右の番号に☑ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
指導者 サポートスタッフ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 教職員 4 <input type="checkbox"/> 卒業生 2 <input type="checkbox"/> 他校の教職員・退職教職員 5 <input type="checkbox"/> その他 () 3 <input type="checkbox"/> 児童生徒 (卒業生含む) の保護者		
活動時間 (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 放課後 (朝始業前含む) 3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間 (夏休み等) 2 <input type="checkbox"/> 休日 (土日祝日) 4 <input type="checkbox"/> その他 ()		
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし		

【種目一覧】

1 アーチERY	14 卓球バレー
2 グラウンド・ゴルフ	15 テニス
3 グランドソフトボール	16 ドッジボール
4 車椅子バスケットボール	17 バスケットボール
5 剣道	18 バドミントン
6 ゴールボール	19 バレーボール (ソフトバレーボール含む)
7 サウンドテーブルテニス	20 ハンドサッカー
8 サッカー (ブラインドサッカー含む)	21 フットベースボール (キックベースボール)
9 シットティングバレーボール	22 フライングディスク
10 柔道	23 フロアバレーボール
11 水泳	24 ポッチャ
12 ソフトボール	25 野球 (ティーボール含む)
13 卓球	26 陸上競技

※障害種別に活動されている場合、3～7ページ（問4 a～e）を使って種別ごとにご記入ください。
 回答が前ページで済んでいる場合は、8ページにお進みください。

問4 d 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

	小学部	中学部	高等部
障害種別 (複数回答可)	1 <input type="checkbox"/> 視覚障害 2 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 3 <input type="checkbox"/> 知的障害 4 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 5 <input type="checkbox"/> 病弱		
運動部・クラブ の有無と延部員・ クラブ員数	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり →延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし
重度・重複障害者の 参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
実施種目 下記【種目一覧】 からあてはまる 種目を選んで 右の番号に☑ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
指導者 サポートスタッフ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 教職員 4 <input type="checkbox"/> 卒業生 2 <input type="checkbox"/> 他校の教職員・退職教職員 5 <input type="checkbox"/> その他 () 3 <input type="checkbox"/> 児童生徒 (卒業生含む) の保護者		
活動時間 (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 放課後 (朝始業前含む) 3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間 (夏休み等) 2 <input type="checkbox"/> 休日 (土日祝日) 4 <input type="checkbox"/> その他 ()		
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし		

【種目一覧】

1 アーチERY	14 卓球バレー
2 グラウンド・ゴルフ	15 テニス
3 グランドソフトボール	16 ドッジボール
4 車椅子バスケットボール	17 バスケットボール
5 剣道	18 バドミントン
6 ゴールボール	19 バレーボール (ソフトバレーボール含む)
7 サウンドテーブルテニス	20 ハンドサッカー
8 サッカー (ブラインドサッカー含む)	21 フットベースボール (キックベースボール)
9 シットティングバレーボール	22 フライングディスク
10 柔道	23 フロアバレーボール
11 水泳	24 ボッチャ
12 ソフトボール	25 野球 (ティーボール含む)
13 卓球	26 陸上競技

※障害種別に活動されている場合、3～7ページ（問4 a～e）を使って種別ごとにご記入ください。
回答が前ページで済んでいる場合は、8ページにお進みください。

問4 e 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

	小学部	中学部	高等部
障害種別 (複数回答可)	1 <input type="checkbox"/> 視覚障害 2 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 3 <input type="checkbox"/> 知的障害 4 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 5 <input type="checkbox"/> 病弱		
運動部・クラブ の有無と延部員・ クラブ員数	1 <input type="checkbox"/> あり —延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり —延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり —延人数 () 人 2 <input type="checkbox"/> なし
重度・重複障害者の 参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
実施種目 下記【種目一覧】 からあてはまる 種目を選んで 右の番号に☑ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()	1 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 19 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 20 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 22 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 23 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 16 <input type="checkbox"/> 25 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 17 <input type="checkbox"/> 26 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 27 その他 () 28 その他 ()
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし
指導者 サポートスタッフ (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 教職員 4 <input type="checkbox"/> 卒業生 2 <input type="checkbox"/> 他校の教職員・退職教職員 5 <input type="checkbox"/> その他 () 3 <input type="checkbox"/> 児童生徒(卒業生含む)の保護者		
活動時間 (複数回答)	1 <input type="checkbox"/> 放課後(朝始業前含む) 3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間(夏休み等) 2 <input type="checkbox"/> 休日(土日祝日) 4 <input type="checkbox"/> その他 ()		
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし		

【種目一覧】

1 アーチェリー	14 卓球バレー
2 グラウンド・ゴルフ	15 テニス
3 グランドソフトボール	16 ドッジボール
4 車椅子バスケットボール	17 バスケットボール
5 剣道	18 バドミントン
6 ゴールボール	19 バレーボール(ソフトバレーボール含む)
7 サウンドテーブルテニス	20 ハンドサッカー
8 サッカー(ブラインドサッカー含む)	21 フットベースボール(キックベースボール)
9 シットティングバレーボール	22 フライングディスク
10 柔道	23 フロアバレーボール
11 水泳	24 ポッチャ
12 ソフトボール	25 野球(ティーボール含む)
13 卓球	26 陸上競技

<問3で選択肢3～14のいずれか1つ以上を選んだ学校におたずねします。>

それ以外の学校は、問6へお進みください。>

問5 体育の授業や部活動・クラブ活動以外で、幼児児童生徒が行っているスポーツを【種目一覧】から選び、あてはまるものにチェックをつけてください。（あてはまるものすべてに☑）

【種目一覧】

- | | |
|---|---|
| 1 <input type="checkbox"/> アーチェリー | 23 <input type="checkbox"/> ダンス（ヒップホップ、フォークダンスなど） |
| 2 <input type="checkbox"/> ウォーキング | 24 <input type="checkbox"/> テニス |
| 3 <input type="checkbox"/> オリエンテーリング | 25 <input type="checkbox"/> ドッジボール |
| 4 <input type="checkbox"/> 筋力トレーニング | 26 <input type="checkbox"/> トランポリン |
| 5 <input type="checkbox"/> グラウンド・ゴルフ | 27 <input type="checkbox"/> なわとび |
| 6 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール | 28 <input type="checkbox"/> ハイキング・登山 |
| 7 <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール | 29 <input type="checkbox"/> バスケットボール |
| 8 <input type="checkbox"/> 剣道 | 30 <input type="checkbox"/> バドミントン |
| 9 <input type="checkbox"/> ゴールボール | 31 <input type="checkbox"/> パラバレーン |
| 10 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス | 32 <input type="checkbox"/> バレーボール（ソフトバレーボール含む） |
| 11 <input type="checkbox"/> サッカー（ブラインドサッカー含む） | 33 <input type="checkbox"/> ハンドサッカー |
| 12 <input type="checkbox"/> シッティングバレーボール | 34 <input type="checkbox"/> ふうせんバレーボール |
| 13 <input type="checkbox"/> 柔道 | 35 <input type="checkbox"/> フットベースボール（キックベースボール） |
| 14 <input type="checkbox"/> 乗馬 | 36 <input type="checkbox"/> フライングディスク |
| 15 <input type="checkbox"/> ジョギング・ランニング | 37 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール |
| 16 <input type="checkbox"/> 水泳（水中歩行含む） | 38 <input type="checkbox"/> ポッチャ |
| 17 <input type="checkbox"/> スキー・スノーボード | 39 <input type="checkbox"/> 野球（ティールボール含む） |
| 18 <input type="checkbox"/> ソフトボール | 40 <input type="checkbox"/> 陸上競技 |
| 19 <input type="checkbox"/> スポーツ吹矢 | 41 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| 20 <input type="checkbox"/> 体操（軽い体操、ラジオ体操など） | 42 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| 21 <input type="checkbox"/> 卓球 | 43 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| 22 <input type="checkbox"/> 卓球バレー | 44 <input type="checkbox"/> その他（ ） |

<すべての学校におたずねします。>

問6 貴校の教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わりについて、わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに☑）

- | |
|--|
| 1 <input type="checkbox"/> 日本障害者スポーツ協会公認指導員の資格をもった教職員がいる（いた） |
| 2 <input type="checkbox"/> 教職員が都道府県の障害者スポーツ大会や種目別のブロック大会・県大会などの運営に関わっている（いた） |
| 3 <input type="checkbox"/> 教職員が全国障害者スポーツ大会やジャパンパラ大会、種目別全日本選手権などの全国大会の運営に関わっている（いた） |
| 4 <input type="checkbox"/> 教職員が障害者スポーツの競技団体の運営に関わっている（いた） |
| 5 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒や卒業生がパラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックス、種目別世界選手権やアジア大会などの国際大会に出場したことがある |
| 6 <input type="checkbox"/> 1～5にあてはまる事例を把握していない |

<問7～問8は本校と分校の方におたずねします。
分教室の方は次ページの問9にお進みください。>

問7 貴校の運動・スポーツ活動のための施設の状況についてお答えください。

施設名	貴校にある施設 (複数回答)	自校の幼児児童生徒以外への開放状況
1 体育館	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
2 グラウンド	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
3 プール(屋外)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
4 プール(屋内)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
5 プレイルーム(多目的室)	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
6 テニスコート	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
7 その他()	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
8 その他()	<input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/> 開放している 2 <input type="checkbox"/> 開放していない
9 運動・スポーツ活動のための施設はない	<input type="checkbox"/>	

<自校の幼児児童生徒以外に運動・スポーツ施設を開放している本校・分校の方におたずねします。それ以外の学校は次ページの問9にお進みください。>

問8 問7で回答した学校開放施設で行われている活動について、あてはまるものをお選びください。(あてはまるものすべてに✓)

1 <input type="checkbox"/> 卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動
2 <input type="checkbox"/> 卒業生以外の地域の障害者を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動
3 <input type="checkbox"/> 地域の健常者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動
4 <input type="checkbox"/> 障害者と健常者が共に活動することを目的とした地域スポーツクラブ等の定期的な活動
5 <input type="checkbox"/> その他の定期的な活動()
6 <input type="checkbox"/> 定期的な活動には開放されていない

障害者入所施設におけるスポーツ・レクリエーション環境に関する調査

障害者入所施設におけるスポーツ・レクリエーション環境に関する調査

本調査は、文部科学省「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業」にかかる調査の一部であり、障害者入所施設におけるスポーツ・レクリエーション環境についてお伺いするものです。調査結果は、文部科学省のホームページ等を通じて公開されるとともに、文部科学省による障害者のスポーツ・レクリエーション施策の充実のための基礎資料として活用されます。調査の結果は統計処理され、回答者や施設名が公表されることはありません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2013年10月

公益財団法人 笹川スポーツ財団

【返送方法】郵送または電子メールのいずれかでご返送ください。

① 郵送：同封の返信用封筒（受取人払い）にてお送りください。

② 電子メール：shisetsu@nrc.co.jp

※笹川スポーツ財団ホームページより、調査票をエクセルファイル形式でダウンロードできます。・
<http://www.ssf.or.jp>

調査票の発送・回収・データ入力については、笹川スポーツ財団の委託先である株式会社日本リサーチセンターが担当しております。調査について不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社日本リサーチセンター 調査部 担当：萩原

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1

TEL：0120-030-551（平日 10:00～17:00）

ご回答期限：2013年11月5日（火）

問1 ご回答者についてお答えください。

回答者名		職名	
電話番号		E-Mail	

問2 貴施設についてお答えください。

施設名			
開設年	西暦（ ）年（ ）月	定員	（ ）人
職員実人数	常勤（ ）人	非常勤	（ ）人
指定されている 日中活動サービス (複数回答可)	1 <input type="checkbox"/> 生活介護 2 <input type="checkbox"/> 自立訓練（機能訓練） 3 <input type="checkbox"/> 自立訓練（生活訓練）	4 <input type="checkbox"/> 就労移行支援 5 <input type="checkbox"/> 就労継続支援A型 6 <input type="checkbox"/> 就労継続支援B型	

問3 貴施設の利用者数（障害種別・障害程度区分別）についてお答えください。（2013年10月1日現在）

※重複障害の場合、主たる障害1つに分類して記入してください。

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	その他 (非該当、認定中)
身体障害	人	人	人	人	人	人	人
知的障害	人	人	人	人	人	人	人
精神障害	人	人	人	人	人	人	人
難病等	人	人	人	人	人	人	人
重複障害の方の利用	1 <input type="checkbox"/> あり（ ）人		2 <input type="checkbox"/> なし		貴施設利用者の平均年齢	（ ）歳	

問4 貴施設では、スポーツ・レクリエーションに関する行事を開催していますか。(回はいくつでも)
 ※選択肢1～3について、種目を右の別表1から番号でお答えください。

1	<input type="checkbox"/> 施設の運動会や体育祭
	↳ 主な実施種目番号 () () ()
2	<input type="checkbox"/> ジョギング大会や卓球大会等の種目別のスポーツ大会
	↳ 主な実施種目番号 () () ()
3	<input type="checkbox"/> 施設のお祭りやイベント等の出し物としてのスポーツ・レクリエーション
	↳ 主な実施種目番号 () () ()
4	<input type="checkbox"/> その他(具体的に:)
5	<input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションに関する行事は開催していない

問5 貴施設では、外部のスポーツ・レクリエーション大会に参加していますか。(回はいくつでも)
 ※選択肢1～5について、種目を右の別表1から番号でお答えください。

1	<input type="checkbox"/> 全国障害者スポーツ大会やその都道府県予選などの障害者スポーツ競技大会
	↳ 主な参加種目番号 () () ()
2	<input type="checkbox"/> 一般のスポーツ競技大会の障害者の部
	↳ 主な参加種目番号 () () ()
3	<input type="checkbox"/> 一般のスポーツ競技大会の一般の部
	↳ 主な参加種目番号 () () ()
4	<input type="checkbox"/> 市区町村等が主催する障害のある方のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会 <small>(選択肢1を除く)</small>
	↳ 主な参加種目番号 () () ()
5	<input type="checkbox"/> 市区町村等が主催する地域住民のための運動会やスポーツ・レクリエーション大会
	↳ 主な参加種目番号 () () ()
6	<input type="checkbox"/> その他(具体的に:)
7	<input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションに関する行事は開催していない

問6 貴施設では、利用者に日中活動サービスとしてスポーツ・レクリエーションの機会を提供していますか。(回はいくつでも)
 ※提供している場合は、月または週の回数をご記入ください。

1	<input type="checkbox"/> はい → □ 月 □ 週 () 回
2	<input type="checkbox"/> いいえ(提供していない) ⇒ 問8へ(問4～問6まですべて「していない」の場合は問14へ)

<問6で、選択肢1を選んだ施設におたずねします。>

問7 日中活動サービスとして提供するスポーツ・レクリエーション活動では、どのような種目を実施していますか。
 ※右の別表1から実施頻度順に番号でお答えください。また、各種目の実施形態についてお答えください。

1	番目に多い種目番号 ()
	↳ 1 <input type="checkbox"/> 全員参加※ 2 <input type="checkbox"/> 任意参加(半数以上が参加) 3 <input type="checkbox"/> 任意参加(半数未満が参加)
2	番目に多い種目番号 ()
	↳ 1 <input type="checkbox"/> 全員参加※ 2 <input type="checkbox"/> 任意参加(半数以上が参加) 3 <input type="checkbox"/> 任意参加(半数未満が参加)
3	番目に多い種目番号 ()
	↳ 1 <input type="checkbox"/> 全員参加※ 2 <input type="checkbox"/> 任意参加(半数以上が参加) 3 <input type="checkbox"/> 任意参加(半数未満が参加)

※障害の程度や体調不良等で参加できない利用者を除く

別表1「スポーツ・レクリエーション種目一覧」（左ページの問4、5、7の回答にご利用ください）

(五十音順)	※回答欄ではありません
<あ>	<た>
1 アイススケート	32 太極拳
2 アクアエクササイズ (水中歩行・運動など)	33 体操 (軽い体操、ラジオ体操など)
3 ウォーキング	34 卓球 (サウンドテーブルテニスを含む)
4 エアロビックダンス	35 卓球パレー
<か>	36 ダンス (社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)
5 海水浴	37 つな引き
6 空手	38 釣り
7 キャッチボール	39 ティーボール
8 キャンプ	40 テニス (硬式テニス)
9 筋力トレーニング	41 登山
10 グラウンド・ゴルフ	42 ドッジボール
11 グランドソフトボール	<な>
12 車いすテニス	43 なわとび
13 車いすバスケットボール	<は>
14 ゲートボール	44 ハイキング
15 ゴールボール	45 バスケットボール
16 ゴルフ (コース)	46 バドミントン
17 ゴルフ (練習場)	47 バレーボール
<さ>	48 ハンドサッカー
18 サイクリング	49 ふうせんバレー
19 サッカー	50 フットサル
20 散歩 (ぶらぶら歩き)	51 フットベースボール (キックベースボール)
21 シットティングバレーボール	52 フライングディスク (フリスビー)
22 柔道	53 フロアバレーボール
23 乗馬	54 ボウリング
24 ジョギング・ランニング	55 ポッチャ
25 水泳	<ま>
26 スキー	56 マラソン・駅伝などのロードレース
27 スクーバダイビング	<や>
28 スノーボード	57 野球
29 ソフトテニス (軟式テニス)	58 ヨーガ
30 ソフトバレーボール	<ら>
31 ソフトボール	59 ラグビー
	60 陸上競技
	<その他>
	61 その他1 ()
	62 その他2 ()
	63 その他3 ()
	64 その他4 ()

<スポーツ・レクリエーション行事開催、大会参加、日中活動としての機会提供のいずれかを行っている施設におたずねします。まったく行っていない場合（問4～6まですべて「していない」）は、6ページの問14へ>

問8 貴施設では、スポーツ・レクリエーション活動をどのような場所以で行っていますか。

（☑はいくつでも）

<p><施設内></p> <p>1 <input type="checkbox"/> 訓練室・作業室</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 施設内の多目的室・ホール等（屋内）</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 施設内の庭や空き地等（屋外）</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 施設内の運動・スポーツ専用スペース（具体的に： _____）</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 施設内のその他の場所（具体的に： _____）</p> <p><施設外></p> <p>6 <input type="checkbox"/> 施設周辺の歩道や公園等</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 障害者スポーツ施設</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 近隣の公共スポーツ施設（選択肢7を除く）</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 近隣の学校開放施設</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 施設外のその他の場所（具体的に： _____）</p>	
---	--

問9 貴施設では、スポーツ・レクリエーション活動の指導をどなたが担当されていますか。

（☑はいくつでも）

※また、その方の資格等について下の別表2から番号でお答えください。

1 <input type="checkbox"/> 施設の職員（業務として）	→資格等（ _____ ）（ _____ ）
2 <input type="checkbox"/> 施設の職員（ボランティアとして）	→資格等（ _____ ）（ _____ ）
3 <input type="checkbox"/> 施設外の指導者（有償）（具体的に： _____）	→資格等（ _____ ）（ _____ ）
4 <input type="checkbox"/> 施設外の指導者（無償）（具体的に： _____）	→資格等（ _____ ）（ _____ ）
5 <input type="checkbox"/> その他（具体的に： _____）	→資格等（ _____ ）（ _____ ）

別表2「資格等一覧」

1	日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員
2	日本体育協会公認スポーツ指導者
3	スポーツ推進委員
4	健康運動指導士・健康運動実践指導者
5	日本レクリエーション協会公認福祉レクリエーション・ワーカー
6	看護師・保健師
7	理学療法士・作業療法士
8	その他1（ _____ ）
9	その他2（ _____ ）
10	特になし
11	資格の有無について把握していない

問10 貴施設では、スポーツ・レクリエーション活動の効果として何を期待していますか。ご自由にお書きください。

＜スポーツ・レクリエーション行事開催、大会参加、日中活動としての機会提供のいずれかを行っている施設におたずねします。まったく行っていない場合（問4～6まですべて「していない」）は、6ページの問14へ＞

問11 貴施設では、利用者のスポーツ・レクリエーション活動を提供する際に、運営上どのような工夫をしていますか。（☑はいくつでも）

- 1 障害の種類や程度等に関わらず、誰もが参加できる種目を行っている
- 2 障害の種類や程度等によりグループをつくり、各グループともに同一の種目を行っている
- 3 障害の種類や程度等によりグループをつくり、それぞれ別々の種目を行っている
- 4 利用者が飽きないように、さまざまな種目を取り入れている
- 5 利用者の希望に応じた種目を行っている
- 6 ルールや道具など、既存の内容を独自にアレンジした種目を行っている
- 7 経験や専門性がなくても指導しやすい種目を行っている
- 8 その他（具体的に： _____）
- 9 スポーツ・レクリエーション活動に特化した工夫はしていない

問12 貴施設では、利用者のスポーツ・レクリエーション活動を提供する際に、支援や協力を受けている組織はありますか。（☑はいくつでも）

- 1 行政
- 2 社会福祉協議会
- 3 障害者スポーツ団体
- 4 スポーツ団体（選択肢3を除く）
- 5 障害者スポーツ指導者組織
- 6 障害者スポーツ施設
- 7 公共スポーツ施設（選択肢6を除く）
- 8 障害者の当事者団体・家族会等
- 9 その他（具体的に： _____）
- 10 支援や協力を受けている組織はない

問13 貴施設では、スポーツ・レクリエーション活動を通じた地域の方や施設外の障害のある方との交流はありますか。（☑はいくつでも）

- 1 保育園・幼稚園、小・中学校や高校の児童生徒
- 2 専門学校や短大・大学の学生
- 3 特別支援学校の児童生徒
- 4 他の障害者施設の利用者
- 5 高齢者施設の利用者
- 6 地域のスポーツ愛好者
- 7 その他（具体的に： _____）
- 8 1～7に示す人とのスポーツ・レクリエーション活動を通じた交流はない

<すべての施設におたずねします。>

問14 貴施設の利用者の余暇や休日における個人的・自主的なスポーツ・レクリエーション活動の状況について、わかる範囲でお答えください。(☑はいくつでも)

- 1 施設内で個人または仲間と自主的に活動している利用者がある
- 2 施設外で自主的に活動している利用者がある
- 3 その他(具体的に: _____)
- 4 個人的・自主的な活動をしている利用者を把握していない →問16へ

<問14で、選択肢1～3のいずれかを選んだ施設におたずねします。>

問15 利用者の余暇や休日における個人的・自主的なスポーツ・レクリエーション活動に関して、貴施設ではどのような配慮・支援をしていますか。(☑はいくつでも)

- 1 指導者の確保(ボランティアを含む)
- 2 介助者の確保(ボランティアを含む)
- 3 活動場所の提供・確保(予約手続きを含む)
- 4 本人への大会やイベント等に関する情報提供
- 5 活動場所への送迎
- 6 その他(具体的に: _____)
- 7 特に配慮・支援は必要とされていない

<すべての施設におたずねします>

問16 貴施設における利用者のスポーツ・レクリエーション活動全般に関する課題についてお答えください。(☑はいくつでも)

- 1 職員のスポーツ・レクリエーションに関する専門性が足りない
- 2 スポーツ・レクリエーション活動のためのスタッフ(ボランティアを含む)が足りない
- 3 施設内で活動するスペースがない(または足りない)
- 4 公共施設や学校開放施設等の安定的な利用が難しい
- 5 利用者の高齢化
- 6 利用者の障害の重度化
- 7 利用者の多様な障害への対応
- 8 その他(具体的に: _____)
- 9 特に課題はない

問17 障害のある方のスポーツ・レクリエーションについて、ご意見があれば自由にお書きください。

～以上でアンケートは終了です。ありがとうございました。～

スポーツ推進委員による障害者のスポーツ参加支援に関する調査

FAX 送信先【03-5545-3305】 To. 笹川スポーツ財団 研究調査グループ 工藤 宛

平成 25 年度文部科学省委託調査

スポーツ推進委員による障害者のスポーツ参加支援に関する調査

都道府県のスポーツ推進委員協議会の組織としてご回答ください。ご返送方法は、協力依頼文の別紙をご覧ください。

ご回答期限：2013年12月10日(火)

問1. 貴会とご回答者様のプロフィールをご記入ください。

都道府県名		団体正式名称	
回答者名		回答者肩書	
電話番号		E-mail	

問2. 貴会では、主催に限らず共催・後援等も含めて『障害者のための』スポーツイベントや教室の運営や指導を行っていますか。昨年度(平成 24 年度)および今年度(平成 25 年度)の実績または予定から、お知らせください。

(○はひとつ)

1. 行っている	2. 行っていない →	問3へお進みください
----------	-------------	------------

【「問2」で「1. 行っている」と答えた方にお尋ねします。】

問2-1. 貴会が運営や指導を行っている、スポーツイベントや教室の『事業名・主催団体・関わり年度・主な参加者の障害種別』をお書きください(主なもの2つまで)。※併せて、事業のチラシや要項をお送りください。

【事業1】:

事業名	
事業の主催団体名	
事業に関わり始めた年度	
主な参加者の障害種別(○はいくつでも)	1. 肢体不自由 2. 視覚障害 3. 聴覚障害 4. 知的障害 5. 発達障害 6. 精神障害 7. その他 ()

【事業2】:

事業名	
事業の主催団体名	
事業に関わり始めた年度	
主な参加者の障害種別(○はいくつでも)	1. 肢体不自由 2. 視覚障害 3. 聴覚障害 4. 知的障害 5. 発達障害 6. 精神障害 7. その他 ()

【全員の方にお尋ねします。】

問3. 貴会では、スポーツ現場で『障害者を受入れるため』の知識や技術の修得を目的とした、研修会を開催していますか。研修会のプログラムの一部として導入した場合も含まれます。昨年度(平成 24 年度)および今年度(平成 25 年度)の実績または予定から、お知らせください。(〇はひとつ)

1. <u>開催している</u>	2. 開催していない → 問4へお進みください
------------------	---



【「問3」で「1. 開催している」と答えた方にお尋ねします。】

問3-1. 開催している研修会の『名称』をお知らせください(主なもの2つまで)。

※併せて、事業のチラシや要項をお送りください。

【研修会名称1】:

【研修会名称2】:

【全員の方にお尋ねします。貴会の市区町村組織の取組についてお答えください。】

問4. 都道府県内で、障害者スポーツに取り組んでいる、市区町村のスポーツ推進委員協議会(委員会等)を把握していますか。(〇はひとつ)。「把握している」場合は、市区町村名をお知らせください。

1. 把握している → 市区町村名 :	[
2. 把握していない	

問5. 貴会として、今後、スポーツ推進委員が活動する現場に、障害者を受入れていくためには、「何が課題」であるとお考えですか。また、「どのような組織」に、「どのような支援」を希望されますか。ご意見をお書きください。

～以上でアンケートは終了です。ありがとうございました。～

FAX 送信先【03-5545-3305】 To. 笹川スポーツ財団 研究調査グループ 工藤 宛

平成 25 年度文部科学省委託調査

スポーツ推進委員による障害者のスポーツ参加支援に関する調査

政令指定都市のスポーツ推進委員会の組織としてご回答ください。ご返送方法は、協力依頼文の別紙をご覧ください。

ご回答期限:2013年12月10日(火)

問1. 貴会とご回答者様のプロフィールをご記入ください。

都市名		団体正式名称	
回答者名		回答者肩書	
電話番号		E-mail	

問2. 貴会では、主催に限らず共催・後援等も含めて『障害者のため』のスポーツイベントや教室の運営や指導を行っていますか。昨年度(平成 24 年度)および今年度(平成 25 年度)の実績または予定から、お知らせください。

(○はひとつ)

1. 行っている	2. 行っていない	→ 問3へお進みください
----------	-----------	--------------

【問2で「1. 行っている」と答えた方にお尋ねします。】

問2-1. 貴会が運営や指導を行っている、スポーツイベントや教室の『事業名・主催団体・関わり年度・主な参加者の障害種別』をお書きください(主なもの2つまで)。※併せて、事業のチラシや要項をお送りください。

【事業1】:

事業名	
事業の主催団体名	
事業に関わり始めた年度	
主な参加者の障害種別(○はいくつでも)	1. 肢体不自由 2. 視覚障害 3. 聴覚障害 4. 知的障害 5. 発達障害 6. 精神障害 7. その他 ()

【事業2】:

事業名	
事業の主催団体名	
事業に関わり始めた年度	
主な参加者の障害種別(○はいくつでも)	1. 肢体不自由 2. 視覚障害 3. 聴覚障害 4. 知的障害 5. 発達障害 6. 精神障害 7. その他 ()

【全員の方にお尋ねします。】

問3. 貴会では、スポーツ現場で『障害者を受入れるため』の知識や技術の修得を目的とした、**研修会**を開催していますか。研修会のプログラムの一部として導入した場合も含まれます。昨年度(平成 24 年度)および今年度(平成 25 年度)の実績または予定から、お知らせください。(〇はひとつ)

1. 開催している	2. 開催していない →	問4へお進みください
-----------	--------------	------------

↓

【「問3」で「1. 開催している」と答えた方にお尋ねします。】

問3-1. 開催している研修会の『名称』をお知らせください(主なもの2つまで)。

※併せて、事業のチラシや要項をお送りください。

【研修会名称1】:

【研修会名称2】:

【全員の方にお尋ねします。貴自治体内の各区事業の取組についてお答えください。】

問4. 自治体内で、障害者スポーツに取り組んでいる、区のスポーツ推進委員協議会(委員会等)を把握していますか。(〇はひとつ)。「把握している」場合は、区の名称をお知らせください。

1. 把握している → 市区町村名:	[]
2. 把握していない	

問5. 貴会として、今後、スポーツ推進委員が活動する現場に、障害者を受入れていくためには、「何が課題」であるとお考えですか。また、「どのような組織」に、「どのような支援」を希望されますか。ご意見をお書きください。

～以上でアンケートは終了です。ありがとうございました。～

○著作権者 文部科学省 スポーツ・青少年局 スポーツ振興課

(問合せ先) 〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2

TEL 03-5253-4111 (代表)

○発行元 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-6011 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL 03-5545-3301